

目次

2021年度 合宿の部 春合宿	- 4 -
【爺ヶ岳】21.5.3(二橋)	- 4 -
【仙丈ヶ岳(地藏尾根)】21.5.3(原田)	- 6 -
2021年度 合宿の部 夏合宿	- 7 -
【劔岳】21.7.22(河合)	- 7 -
【八ツ峰上部】21.7.24(中川)	- 8 -
【八つ峰6峰Cフェース剣稜会ルート】21.7.24(浅田)	- 9 -
【源次郎尾根 I 峰上部 成城大ルート】21.7.24(中村さ)	- 10 -
【劔岳 源次郎尾根】21.7.24(古賀)	- 11 -
2021年度 合宿の部 冬合宿	- 11 -
【仙丈ヶ岳・地藏尾根】21.12.28(白井)	- 12 -
【薬師岳(鳳凰山)】21.12.29(河合)	- 13 -
2021年度 個人山行の部	- 14 -
【鳳来】21.4.3 (中村さ)	- 14 -
【木曾駒ヶ岳】21.4.3(二橋)	- 14 -
【御在所岳～鎌ヶ岳】21.4.10 (上田)	- 15 -
【宇連山】21.4.11(浅田)	- 16 -
【岩岳山・竜馬ヶ岳】21.4.24(遠山)	- 17 -
【小川山】21.4.24(中川)	- 17 -
【屋久島 宮之浦川】21.4.29(山形)	- 20 -
【亀淵川東尾根】21.5.8(河合)	- 21 -
【読図講習会】21.5.30(河合)	- 22 -
【白馬～唐松岳】21.7.17(遠山)	- 23 -
【恵那山】21.7.24(原田)	- 24 -
【愛知川水系神崎川】21.7.31(白井)	- 25 -
【宝劔岳】21.8.21(浅田)	- 25 -
【トラン・縦走(折立～上高地)】21.9.19(中川)	- 26 -
【稲子岳南壁左カンテ】21.10.4 (浅田)	- 27 -
【御在所前尾根】21.10.9(二橋)	- 29 -
【子供ボルダリング教室】21.10.10 (浅田)	- 30 -
【聖岳登山道整備】21.10.16(河合)	- 31 -
【第11回 OB合宿 立山連峰】21.10.17 (上田)	- 32 -
【筑波山】21.10.27 (浅田)	- 35 -
【接阻峡温泉～七ツ峰】21.11.13(河合)	- 35 -
【赤城山、上州武尊山、浅間山】21.11.13(上田)	- 36 -
【IZU TRAIL journey 後半試走】21.11.15(古賀)	- 38 -
【鬼ヶ牙】21.11.20 (浅田)	- 39 -
【瑞浪:恵那 笠置山】21.11.27(小野)	- 40 -
【寸又三山 沢口山】21.11.28(原田)	- 41 -
【鳳来 ハイカラ岩】21.12.12(中村さ)	- 42 -
【雪上訓練:千畳敷】21.12.12(上田)	- 42 -
【仙丈ヶ岳・地藏尾根】21.12.28(白井)	- 44 -
【薬師岳(鳳凰山)】21.12.29(河合)	- 45 -
【藤原岳】22.1. 8(浅田)	- 46 -
【城山クライミング】21.12.30(山形)	- 47 -
【竜ヶ岳】日時 22.1.16(記S)	- 48 -
【善五郎の滝】22.1.23(夏目)	- 48 -
【富士見台高原】22.1.23(遠山)	- 49 -
【鈴鹿、釈迦ヶ岳】22.1.29(梅田)	- 50 -
【御池岳】22.1.30(白井)	- 51 -

【高嶺山】22.2.13(浅田)	- 52 -
【蛇峠山】22.2.20(河合)	- 52 -
【南沢山】2022.2.27(遠山)	- 53 -
【南沢山】22.2.28(梅田(原田))	- 53 -
【銚子ヶ口】22.2.26(A)	- 54 -
【明神山】22.3.6(河合)	- 55 -
【赤岳鉱泉アイスクャンディー】22.3.9(梅田)	- 55 -
【総会】22.3.12(浅田)	- 56 -
【立岩】22.3.13(梅田)	- 56 -
【岩古谷山～鹿島山】22.3.21(河合)	- 57 -
【蓼科山】22.3.16(梅田)	- 58 -
【OSJ新城32k】22.3.27(梅田)	- 58 -
【役員一覧表】.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
2022年度 合宿の部 春合宿	- 59 -
【黒部 丸山東壁】22.5.2(中村さ)	- 59 -
【毛勝三山】22.5.3(白井良岳)	- 60 -
2022年度 合宿の部 夏合宿	- 62 -
【湯俣川～弥助沢～鷲羽岳】22.8.10(白井)	- 62 -
2022年度 合宿の部 冬合宿	- 65 -
【越百山(長野県)】22.12.30(樋口).....	- 65 -
2021年度 個人山行の部	- 66 -
【前黒法師岳】22.4.2(梅田)	- 66 -
【明神山】22.4.12(浅田)	- 66 -
【霞沢岳西尾根】22.4.16(白井)	- 67 -
【田原アルプス】22.5.8(浅田)	- 68 -
【下石の滝】22.5.14(山形)	- 68 -
【湯谷富士】22.5.15(井澤)	- 69 -
【蕎麦粒山】22.5.29(梅田)	- 70 -
【鳥取大山】22.5.25(上田)	- 71 -
【瑞牆山】22.5.28(小寺)	- 73 -
【草津白根山、皇海山、那須連山】22.5.28(上田)	- 74 -
【空木岳尾根】22.6.4(二橋)	- 76 -
【黒姫山、飯綱山】22.6.11(梅田)	- 77 -
【新入会員歓迎会兼親睦会】22.6.12(浅田)	- 78 -
【湯谷富士】22.6.19(河合)	- 79 -
【大峰 川迫川水系 弥山川】22.6.19(山形)	- 80 -
【塩見岳】22.07.09(西村)	- 81 -
【清水谷左俣】2022.7.3(二橋)	- 82 -
【白山】22.7.9(河合)	- 83 -
【富士山】22.7.9(中村さ)	- 84 -
【甲斐駒ヶ岳】22.7.2(梅田)	- 85 -
【仙丈ヶ岳】22.7.3(小寺)	- 85 -
【石谷川沢登り】22.7.18(白井)	- 86 -
【富士見台高原】22.7.26(浅田)	- 87 -
【立山三山】22.7.31(浅田)	- 87 -
【笠ヶ岳】22.7.30(梅田)	- 88 -
【富士山】22.8.20(梅田)	- 90 -
【御嶽山】22.8.19(山口義)	- 91 -
【四阿山】22.8.20(河合)	- 92 -
【鍵掛沢】22.8.28(河合)	- 92 -
【御嶽山】22.9.17(澤田石)	- 93 -

【岩倉川樽ヶ沢】22.9.17(白井)	- 94 -
【明神山】22.9.26(浅田)	- 95 -
【御在所ヴァイフェラータ】22.9.11(遠山)	- 95 -
【塩見岳】2022.10.1(日浦)	- 96 -
【三つ峠】22.10.8(白井)	- 99 -
【北岳バットレス】22.9.30(中川)	- 99 -
【八ヶ岳:行者小屋】(上田)	- 101 -
【八幡平・森吉山・八甲田山】(上田)	- 102 -
【親子ボルダリング教室】22.10.16(浅田)	- 105 -
【明星山 フリースピリッツ】22.11.20(中村)	- 105 -
【筑波山】22.10.20(河合)	- 106 -
【研修会「東部地区」】22.10.21(河合)	- 106 -
【棚山きのご鍋山行】22.10.30(上田)	- 107 -
【恵那山】22.11.3(澤田石).....	- 108 -
【立岩】22.11.5(浅田)	- 109 -
【天狗石山】22.11.6(梅田)	- 109 -
【研修会「西部地区」】22.11.18(河合)	- 110 -
【雨乞岳】22.11.27(吉中)	- 111 -
【豊川山岳会創立60周年】22.12.3(遠山)	- 111 -
【城山クライミング】22.12.10(山形)	- 114 -
【名張 第一岩壁】22.12.11(小野)	- 114 -
【竜ヶ岳(山梨県)】22.12.11(小寺).....	- 115 -
【鳳来 鬼岩】22.12.11(中村さ)	- 115 -
【雪上訓練】22.12.18(浅田)	- 116 -
【クリスマスの本宮山】22.12.25(浅田)	- 117 -
【瑞浪】22.12.25(二橋)	- 117 -
【中千丈沢のアイスクライミング】22.12.29(白井)	- 118 -
【東海自然歩道】23.1.1(中田)	- 119 -
【渡名喜島・南岸岩壁】23.1.3(比嘉)	- 121 -
【醤油樽の滝】23.1.7(中田)	- 124 -
【硫黄岳(長野県)】23.1.7(山口岳).....	- 124 -
【伊吹山】23.1.21(遠山)	- 125 -
【藤原岳】23.1.22(木村)	- 126 -
【厳冬期竜ヶ岳蛇谷】23.1.29(比嘉)	- 126 -
【北横岳】23.1.29(横山)	- 128 -
【南沢山、横川山】23.2.4(二橋)	- 129 -
【银杏峰】23.2.9(澤田石)	- 129 -
【大川入山】23.2.11(廣田)	- 130 -
【千両山～富士見台】23.2.11(日浦)	- 130 -
【銚子ヶ口】23.2.12(樋口)	- 131 -
【読図講習会①雨山ダム】23.2.12(木村)	- 132 -
【八ヶ岳縦走】23.2.15(廣田)	- 133 -
【読図講習会②額堂山周回】23.2.18(二橋)	- 134 -
【ナビゲーション講習・検定】23.2.25(河合)	- 135 -
【御在所岳】23.2.26(浅田)	- 135 -
【小秀山】23.3.4(河合)	- 136 -
【2022年度 豊川山岳会総会】23.3.12(河合).....	- 138 -
【御在所岳前尾根】23.3.25(中田)	- 138 -
役員一覧	- 144 -

【 山路 35 号の発刊にあたり 】

2023 年 月 吉日
豊川山岳会代表
上田 歳彦

2021 年度 合宿の部 春合宿

【爺ヶ岳】21.5.3(二橋)

【2021 年 5 月 3 日～4 日】

【メンバー】河合、遠山、岩瀬(蒲郡山の会)、二橋

2年ぶりの春山合宿。数々の伝説をもつレジエント岩瀬氏(蒲郡山の会)、をゲストに迎え、当初 5/1 涸沢ベースで北穂高岳、涸沢岳、奥穂高岳の周回 2 泊 3 日を計画していた。

しかし、悪天の為日程、コース変更を余儀なくされ、この時点で、日帰りか 1 泊 2 日に範囲は狭まった。

せっかくのGW、北アルプスが諦めきれないので山行記録を探し、天気予報をチェック。多くの天気予報は 5/3 は好転するものの強風は残り、5/4 は晴天、5/5 は雨。となると 5/3 入山し一泊二日、風の様子をみて行けるところまでが現実的。ということで、行先は柏原新道登山口から爺ヶ岳、鹿島槍へのピストン(5/3 爺ヶ岳冷池テント場、5/4 にアタックで計画。

5/2 夕方、新城に集合し一路目的地へ向かう。

早い時間に出発できるのはありがたい。道中、岩瀬氏の1ヶ月前の山行記録(爺東尾根～爺～鹿島槍～赤岩尾根 18 時間行動)を拝聴する。

ほぼ初心者の私には、コースの難易度等想像しきれない部分も多いが、すごいことだけは分かる。山行にご一緒させていただけるのはとても光栄だが、さらに緊張する。途中仮眠をとり登山口へ。6:00 柏原新道登山口で登山届を提出、相談所の方が丁寧に山頂付近の天気の様子を教えてくれた。

予報は、天気は好転のはずだったが、山頂方面はどんよりした厚い雲に覆われており、冷たい風は登山口をも吹きつけていて、山の様子は容易に想像できた。

暫くは樹林帯の中を歩くがあつという間に雪がつき、夏道から南尾根に入るあたりでアイゼンをつける。

1 週間前の山行記録の様子では、2000 メートル付近までは夏道と雪の道ミックスで、それ以上は雪道、全行程ツボ足でいけたらしい。尾根や稜線の写真も土が出ている部分が多かったが、この一週間でだいぶ積もっていた。

尾根に上がると、風はさらに強くなっていき、パラパラと音がし始める。雪が降ってきたのか、木の枝についた雪が落ちてきているのか、よくわからないが空を見上げてもどんよりしたままだ。林を抜けるあたりで冬用のハードシェルを身に付けた。

林の中を抜けたあたりでさらに風は強くなってきた。

鹿島槍ピストンだといっていたパーティーが何組か下山してきた。強風の為ジャンクションピークで撤退してきたそう。樹林帯のあたりがテント適地だと教えてくれた。

樹林帯とはいっても若干頼りない樹林帯だったのと、尾根上だけあって 15M弱の風は吹いている。経験豊富な先輩方の判断で、経験の為、行けるところまで様子を見に行こうとなった。頼りない樹林帯を抜けると、15~20Mの風が吹き付けてきた。頼りなく感じた樹林帯も、だいぶ風を防いでくれているんだとありがたく感じた。

歩行中、風に足をとられて(私だけ)何回かよろけた。耐風姿勢を習ったが、突風なので準備ができない。先輩方は、そんなときもあわてず耐風姿勢。風を予想している様だった。あとで聞くと、上空の音を聞くと突風が来るのが分かるらしい。でもその技術、身に着けるのだだいぶ難しいと思います。

岩が露出しはじめ、アイゼンも効きにくくなったため、2,400m付近で撤退。2,350Mの付近の樹林帯に戻り、13:30 本日の行動終了。テント設営開始。

強風の中、尾根上でのテント設営は(私は)初めてだった。固定はとても強固に行った。

初めて「竹ペグ」なるものも使用し、しかも 50cm以上掘って固定。竹ペグも直接テントの紐を結びつけるのではなく、お手製で捨て紐(?)が付けられていた。翌朝凍って掘り出せなくなることもあるらしく(←今回は無事回収、残置なし)その場合に切り落としてしまうらしい。

お手製の風よけ付きトイレも建設され、ふだん山の中でご機嫌な呑み助さんの、真の実力を知った。※残念ながらトイレの写真を撮り忘れしました。

気温は 0°C程だったので、テントの中は、とても快適。バーナーを炊いて温まるといつも通りの宴会がスタート。

今回はレジェンド岩瀬氏の山行やトレーニングお話も聞け、20Mの強風の音もテントのバタつきも心地よいBGMになり、和気あいあいと宴は進む。

扇沢も近く、スマホの電波も入ったので、酔っぱらう前に翌日の天候をチェック。

明け方まではこの強風が続くようなので、4:30起床、6時出発で爺ヶ岳アタックを計画。

LINEもつながり、各パーティーの実況中継のコメントが多数アップされていた。

GWにこんなにも冬山を満喫しているのは私たちのパーティだけだった。雪が少ない南アルプスチームからはうらやましそうなコメントも届いていた。

夕飯は(私が)大好きなカレー。最近では生米持参でお米を炊いているが、難しい火の調整は先輩にお願いする、他力本願な食当。

食事も早々にすませ、宴もたけなわなところで 7時就寝。こんな早く眠れるかなあと、皆様口々に心配されていたが、シュラフに入って 5分もたたず眠りに落ちて行った(←私以外の先輩方)。

翌朝、まだ風はつよいが快晴となっていた。新雪は 70cm程降ったようでテントは周囲に造った風よけが分からないほど埋もれていた。

朝食はアルファ米とみそ汁、魚の佃煮で簡単にすませ、予定通り 6:00 出発。

若干弱まった風と、快晴の天気、そしてデポして軽くなった荷物に背中を押され、快適に標高を上げる。

昨日は全く見えなかった、北アルプスの山々が見え始める。左に剣が見え始め静かにテンションがあがる。

南峰到着そして稜線歩きを楽しみ中峰へ。

8:00 中峰到着。360°の見事な大パノラマが私たちを迎えてくれた。

正面には鹿島槍が悠然と座り、その西側には剣の北方稜線から続く黒部の山々、南は槍ヶ岳、針の木。雪をまとった山々は優美で言葉を失うほどでした。



剣をバックに爺ヶ岳山頂。

鹿島槍をバックに爺ヶ岳山頂。鹿島槍。剣。剣から黒部の山々。針ノ木。北アルプス南部。

山頂で、うっとり感動に浸り写真撮影を済ませた後は、下山開始。この北アルプスの眺望とお別れしなければいけない寂しい気持ちで下り、テン場へ。

くつろいだ後、撤収開始。昨日埋めた竹ペグをスコップとピッケルで掘り起こし、テントを片付け、一晩私たちを守ってくれたシェルターはみるみるう

ちに跡形もなくなった。

撤収は本当に早かったが、(先輩方によれば)かつてないほど頑丈に設営したため、皆様の額からは大粒の汗が、輝いていた←今回の山行で、ここが一番つかれたらしい。

残念ながらこの時すでに風はなく、気温も上がり、春山の強い日差しがジリジリと私たちを照り付け始めていた。再び下山開始。

昨日通ったコースの樹林帯の雪はだいぶ溶けていたが、アイゼンを脱げる状態にはなく、ということで、お決まりの木の根地獄。転びながら下る。

下山途中、種池山荘から針ノ木へと続く稜線に巨大な雪庇がみえた。実際には4~5Mの高さらしく、あるタイミングで崩れるらしい。怖さを感じながらも、その絶妙なバランスで持ちこたえている姿はとても魅力的だった。

登山口付近から続いた夏道の雪もだいぶ溶けており、ようやくアイゼンが脱げた。

昨日は風の音に気をとられて、まったくその存在を気づかなかった扇沢を見ながら登山口へ戻った。今回も天気にも翻弄された山行でした。

振り返ってみれば、北アルプスの大パノラマと同じくらい、計画の立て方、初日の悪天候での行動は記憶に残っており、強風の中での行動や、テント設営、レイヤリングのタイミングなど、内容盛りだくさんでした。こんな悪天候の中、頼れる皆様のおかげで楽しくご一緒させて頂き、経験、ご指導を頂き感謝の気持ちでいっぱいです。

今回もいろいろ経験出来た山行でしたが、一番心に残った場面は下山後に見た写真！！

急登尾根を、こんな軽やかにステップを(°Д°)。言葉がでません。もっと練習しようと思います。一ヶ月400キロは無理ですが(^;)。

—記・二橋—

【仙丈ヶ岳(地蔵尾根)】21.5.3(原田)

【2021年5月3日~4日】

【メンバー】古賀、夏目、原田

南アルプスの女王、仙丈ヶ岳に地蔵尾根(松峰ルート)から1泊2日の残雪期テント泊で行ってきました。

5月3日早朝4時に新城市を出発し7時前に柏木登山口の駐車場到着。全部で10台停めれるか停めれないか程の駐車場でギリギリ停めました。

往復約25キロの長〜い林道と長〜い登山道のルートで戸台と比べるとマイナーなルートですが思ったより入山者がいました。

7時5分登山開始。

長距離と雪山テント泊の重い荷物。山の中での

テント泊が初めてな私…不安と期待でいっぱいでした。

最初は長い林道歩き。丁寧に道標が設置されています。

林道と登山道の交差を何回か繰り返します。登山道と林道が並走しており帰りは林道で帰ろうと皆で誓う。

古賀さんとお揃いのザック。所々キレイに中央アルプスが見えました。11時半頃松峰小屋到着。

最初の計画予定ではここで1泊の予定でしたが時間に余裕があるのと事前に河合さんからできたから1日目に仙丈小屋まで上がった方がいいとアドバイスを頂いていたので仙丈小屋を目指す予定に変更。

途中でのんびりまったり座っている休憩中のカモシカに遭遇。岩場だったので夏目さんはカモシカに気づかず通過。カモシカは夏目さんに気づきガン見(笑)夏目さんに『左下にカモシカ座るとるよ』と伝えると夏目さんビックリ！サービス精神旺盛なのか？鈍感力がすごいのか？なかなか逃げずカメラ目線をしてくれたり癒しの時間。

古賀さんは少し下でアイゼンつけてくから先に行ってて〜という事でカモシカに会えず…

地蔵岳を越え、途中で2~3組下山してくる方から情報収集。仙丈小屋はほぼ満室、丸山谷の頭にもテントありと聞き、丸山谷の頭の少し下の標高2400m付近にちょうどテントが張れそうな場所があったので15時頃テント設営。

雪山の先輩2人が素晴らしい整地をしてくれたためすごく快適にテントで過ごせました。

雪山でのテントの設営の仕方、過ごし方、あると便利なもの、経験談などいろいろ勉強させて頂きました。

夕食は夏目シェフ特製の豚キムチ丼ですごくおいしかったです。

そしてなんと古賀さんがサプライズでデザートを用意してくれていました。杏仁豆腐に新鮮なリンゴとバナナをカットし豪華なデザートでこちらもおいしくいただきました。杏仁豆腐だけで1キロ！プラスリンゴ2個にバナナでさらにテントも担いで頂いたのでかなり重いザックで頭が下がります。

ディナーの写真撮り忘れしました(泣)

夕食を食べ終えた時点で18時。お酒を飲まない3人組なので早々就寝。

今まで下界のテントで寝るのも寝られなくてテント泊はなんとなく苦手で避けてきましたが今回は眠れて自分のいびきで目が覚めたりしました(笑)

夜中の1時半起床。軽い朝食をとり2時半行動開始。樹林帯を抜ける頃に空が明るくなり始め稜線に出ると空が赤くなりキレイな景色に感動しました。

仙丈小屋付近から強風になり山頂直下は増々強風で5時13分頂上到着。

仙丈小屋が下に見える



強風でしたが快晴で360度の大自然。うっすらと富士山も見えました。左後ろにうっすら富士山と北岳。日本のワンツースリー富士山、北岳、間ノ岳。

朝日の絶景と感動を短い時間で堪能し山頂は貸し切りでしたが寒過ぎるので古賀さんの『撤退！！』を合図に下山開始。

樹林帯に入る前に後ろを振り返ると雄大な仙丈ヶ岳と長い稜線が見えました。

登りは暗かったので黙々と登っていましたが明るくなってあの長～い道のりを見ていたら心が折れていたかもしれません…知らぬが仏とはまさにこの事だと実感しました。

7時頃テント場に到着。小休憩とテント回収し8時登山口に向けて下山開始。キレイな中央アルプス。

9時半前に松峰小屋まで下り、また長～い林道を歩き12時50分駐車場到着。

途中で駒ヶ岳名物ソースカツ丼を食べました。明治亭さんに寄りたかったのですがかなり並んでいたの近く東右衛門さんへ。こちらのソースカツ丼は肉厚で柔らかくておいしかったです。腹を満ちし帰路に着きました。

私自身初めてのテント泊、長距離の雪山でしたが古賀さん、夏目さんのおかげで楽しい2日間でした。もちろん楽しい事だけでなく雪に埋もれた岩にアイゼンを引っかけて転げ落ちそうになって雪山の厳しさ怖さを学んだり重いザックの長距離で苦しい事もありましたが先輩方にいろいろ教えていただき充実した山行でした。ありがとうございました。

一記・原田一

2021年度 合宿の部 夏合宿

【劔岳】21.7.22(河合)

【2021年7月22日～25日】

【メンバー】浅田、古賀、河合、白井、二橋、中川、中村さ

浅田さんの「劔岳は臈峰VI峰Cフェース・件了解ルート」を登りたい。という一言で、今回の計画はスタートした。

今年は、東京オリンピックが1年遅れて開催されるため、7月22日、23日が祝日となり4連休の取得が可能となったため、日程は、7月22日～25日で決定した。

立岩での練習も事前に行い、私は、なまった体を岩に馴染ませた。

それぞれの思いを胸に、先発隊は、21日夜出発。後発隊は22日夜出発。

22日、劔沢まで入山、テント設営。

23日、劔沢～八ツ峰上部～本峰～劔沢。(約15時間)(先発隊:河合、二橋、中川、中村さ)

24日、劔沢～源次郎尾根～本峰～劔沢。(約8時間半)(古賀、河合)

24日、劔沢～劔稜会ルート～劔沢。(約14時間半)(浅田、中川)

24日、劔沢～成城大ルート～劔沢。(約14時間半)(白井、中村さ)

25日、劔沢～室堂～豊川



梅雨明け後の安定した気候となり、4日間すべて晴天に恵まれたが、新型コロナのため、比較的登山者は少なく感じた。

豊川山岳会のメンバー7人が揃って、劔沢での合宿は楽しい。劔岳の景色を見ているだけでも普段の生活から解放された気持ちになる。

それぞれのルートについては、後日、ブログにアップしていただきます。

一記・河合一

【八ツ峰上部】21.7.24(中川)

【2021年7月23日】

【メンバー】L 河合、中村さ、二橋、中川

【天気】晴

【行程】

7/23(金)

0300 剣沢テント場→剣沢→長次郎谷→ 0630
八ツ峰V・VIのコル→ 1230 八ツ峰の頭→北方稜
線→ 1430 劔本峰→ 1800 剣沢テント場

【登攀装備】

各組ごと(河合・中村組、二橋・中川組)カム #
0.3、#0.5、#0.75、#1、ダブルロープ 50m、ヌン
チャク4本・スリング4本・カラビナ3枚

【序】

浅田さんの「劔岳に行こう！」をきっかけに集ま
ったメンバー(先発隊)で景色が楽しめるバリエー
ションルートを縦走することとなった。

クライミング経験があればルート自体はそんなに
難しくはないが長時間行動が予想されるので、い
かにスムーズにルートファインディングやロープワ
ークが出来るかが成功の鍵となる。

さてさて景色を楽しみながらの楽しい縦走とな
ったのか？

【本文】

山の朝は早い。01:30 頃に起床し、二橋シェフと
河合シェフに準備をして頂いた朝食を食べて出
発。

しばらく夏道を歩いた後アイゼンを着けて劔沢
の雪渓を下る。快適に「下った」後は当然「登り」が
やってくる。

二橋さんが軽快にステップを刻んで登っていく。
テント場を出てから3時間ほどでV・VIのコル基部
に到着。アイゼンを外し、ザレてイヤらしい急斜面
を取付きポイントを目指して詰めていく。

V・VIのコル雪渓にて河合・中村パーティーと二
橋・中川パーティーに分かれロープを結び登攀の
準備をする。

先行パーティーが見えなくなる頃を見計らって
中村リードで登り始める。八ツ峰上半縦走の始まり
である。

二橋さんは棚山ジャンダルムと立岩のトレーニン
グ効果で快調に登る。日差しは強いが快適なクラ
イミングである。

中間支点や終了点は特に無いので適当にスリ
ングやカムを使って登った。

下調べ通り、峰を登るとピークには懸垂支点が

あり、懸垂で降りる。そしてまた登り、懸垂・・・の繰
り返しである。特に難しいところはない。

行動中はぐるっと360度の絶景で飽きることが無
い。そして去年登ったチンネ左稜線がよく見える。
八ツ峰縦走は良いルートだ。

私は河合さんとバリエーションルートやアルパイ
ンルート山行をするのは初めてである。

河合さんのロープワークが異常に早い。というか
先読み行動で準備をするのが早いのである。

私はそんな河合さんの圧を受けながらもいつも
通りの手順でマイペースのロープワークだったが、
最終的に一日の行動時間が長くなってしまった事
を考えると、序盤から河合さんのようにスピーディ
ーな行動が必要だったと思った。

そうこうしているうちに気が付けば八ツ峰の頭に
到着した。

最後は池ノ谷ガリーに向かって懸垂。池ノ谷ガ
リーを歩いている人の事を考え、落石には細心の注
意を払い懸垂をした。

目的の八ツ峰上半縦走は楽しく快適に終えたが、
実はここから始まる北方稜線が核心だと個人的に
は思っていた。(昨年マジで辛かったので)

メンバー全員緊張感を持って劔ピークを目指
す。

途中で雪渓から滴る水で喉を潤した。

何度か上り下りを繰り返し静かな劔本峰に到着。
記念撮影をして劔沢テント場へ向けて下山開
始。

長時間行動で徐々に疲労の色を隠すことが出
来なくなってきていた。私は食料も底をつき、水も
途中で補充した雪渓の水が僅かに残っているだけ
である。

なんだかんだ言っても最後は根性(笑)。

カニの横ばいなどが出てくるが北方稜線に比べ
れば簡単なものである。

みんな黙々と歩を進める。何度も登ったり下った
り・・・登りが異常にシンドイ・・・なんか去年も同じよ
うな苦行だったような・・・

朦朧とした状態で劔山荘に到着。コーラを流し
込み、ちょっと復活。

劔山荘で少し休憩をして、リスタートするとほど
なくして劔沢の我が家が見えた。

テント場では後発隊のメンバーが出迎えてくれ
た。

時計を見れば間もなく18時。12時間行動の予
定だったが約15時間と3時間オーバーのお腹イッ
パイ山行となった。

白井シェフの夕飯でお腹を満たして身も心も大
満足で眠りについた。

(明日の劔稜会ルートが楽しみである。)

↓いざ出発(03:00)

- ↓長次郎谷雪渓
- ↓V・VIのコル基部でアイゼンを外す
- ↓八ツ峰 上半 取付き
- ↓上からV・VIのコルを眺める(登っているのは二橋さん)
- ↓八ツ峰 上半 尾根に出て気持ちよさそうな中村さん
- ↓チンネ左稜線をバックに懸垂下降をする河合さん
- ↓後立山方面を眺めながら懸垂下降をする二橋さん
- ↓八ツ峰 上半縦終盤 手足が浮腫んでも笑顔の河合さん
- ↓左に見えるのが北方稜線 我々は正面壁を右上する
- ↓河合さんの圧を受けながらマイペースでロープをたたむ中川
- ↓北方稜線の出だし。なかなかイヤらしい。
- ↓北方稜線途中のオアシス。雪渓から滴り落ちる水を水筒に補充
- ↓北方稜線は岩場だけではなく、こんな感じのザレたところもある。イヤらしい。
- ↓剣ピーク！



- ↓たぶん カニの横ばい
- ↓本峰からの下山道 このあたりはみんな無言(笑)
- ↓剣山荘から剣沢テント場の途中の雪渓
- ↓剣沢テント場から左回りでぐるっと一周

【危険箇所】

V・VIのコル基部から取付きまではザレていて落石注意。北方稜線全般。

【追記】

八ツ峰上部は、前から気になっていたところ、今回八ツ峰の声があがり素早く賛成。当初は下部もという声も上がったが、時間がかかるので今回は上部のみとした。(下部は、ルートもわかりづらいと思

うし、下部と上部の連続は我々にはまだ先の話だった。)

天候にも恵まれ、さえちゃんや中川さんがリードをしてくれるので、付いていだけで気が楽である。また、周り 360 度景色が良く、チンネの全貌がこんなに良く見えるとは、思わなかった。

全体的には、時間がかかったが、4 人のパーティーなので致し方無いところがある。幾度の懸垂や落石にも注意しながらの道のりであった。

私は、体調がいまいちで、手足のむくみが 1 週間前から出ており、血液検査の結果、カリウム不足といわれた。手のむくみは、懸垂時の手袋がなかなか入らず、笑いが出てきた。

剣岳のバリエーションルートは、心に残る充実した山行となった。

—記・河合—

【八ツ峰 6 峰 C フェース 剣稜会ルート】21.7.24(浅田)

【7 月 24 日】

【メンバー】浅田、中川

(コースタイム)

BC 発 3 時→取り付き 7 時半～8 時 15 分→終了点 11 時 45 分

第一懸垂下降点 12 時半→第二懸垂下降点 13 時→BC17 時 40 分

昨年古希を迎え若い頃登った剣岳の岩場を、再度登ってみたいくなり会の仲間に声を掛けた。

最終的に 7 名の仲間と剣岳へ行き、目標の C フェース 剣稜会ルートを登って来た。

BC を 3 時に出発しまだ暗い中、剣沢を下っていく。40 分程下った所でアイゼンを付けさらに下って行く。源次郎尾根取り付きで河合、古賀、白井、中村と別れて長次郎出合いから取り付きへ向かい、雪渓をひたすら登る。

出合いから 2 時間半程で取り付きに着くが、4 パーティーが待っていた。取り付きは雪洞の中のように残雪が覆い被さっていた。

45 分程待って中川トップで取り付く。最初の 3 手が核心で苦勞していたが、その後はスムーズにザイルを延ばし確保点へ。

ここでも 3 パーティーが一緒となり順番待ちとなる。2P 目は浅田がリードで快適に 40m 登る。途中のランニングビレーは、古いハーケンを使っていく。誰が何時打ったのか想いを寄せる。2P の終了点でも順番待ちである。

3P 目は中川リードでザイルを延ばす。

4P 目の核心は浅田リードでリッジを超えて中川

を迎える。お決まりのポーズで写真を撮る。

最終 5P 目は中川リードで終了点へ。最終ピッチ
フォローで登りながら 37 年前が蘇ってきた。

中川と握手をして暫し達成感に浸る。



下降は 25m の懸垂と 50m の懸垂で雪渓へ降り
る。後は長い長次郎雪渓の下りと、剣沢を登り BC
へ疲労困憊で着く

— 記・浅田 —

【源次郎尾根 I 峰上部 成城大ルート】21.7.24(中
村さ)

【2021 年 7 月 24 日】

【メンバー】L 白井 中村さ

剣合宿 3 日目に白井さんと成城大ルートへ行っ
てきた。

白井さんは過去に派生ルートの名古屋大ルート
を登っているし、アルパインの経験豊富なので心
強い。

1 時間ほど源次郎尾根を歩いていると取付き付
近に到着

先行パーティーがいたが、取付きがわからない
みたいで順番を譲ってくれた。なにせ白井さんは
過去に登っているので取付きもわかっている。

記憶が戻ってこないらしくキョロキョロ

奇数ピッチ: 白井さん 偶数ピッチ: 中村

草付きも楽しい



核心の 4P 目はキレイなフェイス。リードをさせて
頂き感謝です



なんとかなりました

源次郎尾根を下り、剣沢へ帰りました。

— 記・中村 —

(追記) 白井

5 年前に名古屋大ルート

(<https://toyokawa-ac.jp/climbing/9683>) を山形
君と登って以来のリベンジマッチとなった今年の成
城大ルート。

今回はトゥエルブクライマーの冴ちゃんがいるの
で鼻からアブミなど持ってこなかった。

まあ、V 級+だから要らないよね〜。でも本チャン
である高度感のなか残置ハーケンを頼りにリード
するにはやはりイレブン台をサクッとこなす実力が
欲しいですね。

誰も先に居ないルートをルーファイしながら登る
緊張感。

冴ちゃんの核心の 4ピッチ目を、ルートを間違え
ることなく安定感のあるクライミングは天晴でした。

内心ちょっと悔しいと言うか、羨ましいというかり
ードしなかったのが後悔。

しかし、今回は見事登り切った冴ちゃんに素直
に拍手。

あと剣岳の残った課題は残雪期の剣尾根か！

最後に今回成城大ルートに登った以外で会の
多くの仲間と剣で遊べたことがとても楽しかった。

やはり大勢で登る剣岳もいいですね。

— 記・白井 —

【剣岳 源次郎尾根】21.7.24(古賀)

【2021年7月24日】

【メンバー】L 河合、古賀

<工程>

3:10 劔沢 BC ➡ 劔沢雪渓 ➡ 4:25 源次郎尾根 取付 ➡ 6:30 I 峰 ➡ 7:20 II 峰 ➡ 8:25 劔岳 P ➡ 9:33 前劔 ➡ 10:40 劔山荘 ➡ 11:22 劔沢 BC

行動時間:8時間12分

累積標高:1,165M

行動距離:5.9km

<山行の感想>

劔岳の源次郎尾根は初級バリエーションルートと紹介されているがII峰からの45M懸垂下降を除けばザイルを出さずに登れます。

晴天の穏やかな天候だったこともあり眺望は素晴らしく、右手の八つ峰に挑んでいるクライマーの雄姿も眺めながらの登山でした。

いつか調整したい！

渋滞を覚悟していましたが4人と2人の2パーティーしかおらず先行していた若者4人も河合リーダーの勢いに押され優先させて頂けたこともあり5時間程で山頂に着きました。

山頂は多くの登山客で賑わっていましたが交代で写真のみ撮りそそくさと下山しました。

下りでも河合リーダーの威厳で先行者が道を譲って頂け3時間程でBCに戻れました。改めて河合さんの偉大さに気づかされました。

劔沢キャンプ場に早々に戻れたので他の2パーティーに戻るまでのんびり過ごせました。

<7月24日(土)>

2:30 起床

3:10 劔沢 BC を出発 劔沢雪渓を下る

4:25 源次郎尾根 取付

・アイゼンを外し登り始める

・登り始めてすぐ核心部が！！

・別ルート登攀チームの白井さんに手助け頂く

・河合リーダーが続く

・古賀が続く

6:30 I 峰・目の前にII峰が立ちほだかる

・振り返ってI峰を望む

・右手には八つ峰

・目を凝らすと尾根沿いにクライマー達が姿が！

・左手には劔沢

7:20 II 峰・河合リーダーから懸垂下降(上部より)

・続いて古賀が懸垂(下部より)

・第二核心部の雪渓渡り

・余裕の河合リーダー(山が似合う)

・振り返ると懸垂下降したII峰がそびえる

・青空にそびえる劔岳ピークを目指す

・ピーク直下からII峰を望む

8:25 劔岳 P



・さっさと下る

9:33 前劔

10:40 劔山荘

11:22 劔沢 BC

・今回のルート

・久しぶりの山行は最高の天気、ルート、仲間に恵まれました！

・ありがとうございました。

—記・古賀—

【追記】

2013年8月に、河合、網野、白木の3人で源次郎尾根に登って以来、8年ぶりの源次郎尾根！久しぶりで、1峰、登りの2か所ぐらいあった、しょっぱいところは殆ど忘れていた。

今回は、前日に劔沢～八つ峰上部～本峰～劔沢を歩いており、お腹が満腹のところ、体を作り上げて臨んでいる古賀さんと二人で行くことになり、足を引っ張らないように気合を入れる。

登りでは、動かない体を無理に動かし、呼吸がみだれると周りの自然に目をやり、素晴らしさに見とれてしまう。

今回、入山しているパーティーも少なく、待ち時間なしで登ることができたのも、ストレスがなかった。天候も安定していて、素晴らしい体験ができました。

一緒に行った仲間に感謝し、劔岳を後にした。

—記・河合—

2021年度 合宿の部 冬合宿

【仙丈ヶ岳・地蔵尾根】21.12.28(白井)

【2021年12月28日～30日】

【メンバー】L.白井、樋口

今年の登り収めに仙丈ヶ岳へ登るルートの地蔵尾根へ行ってきました。

一度登ってみたいコースであり、ちょうど年末の雪上訓練より参加して入会してくれた樋口君と登る事となった。

彼はまだまだ雪山の経験も浅いが、若く体力もありそうで今後が楽しみな好青年？である。

28日は仕事納めで、20時に新城市の我が家に集合して出発する。

今年の年末は順調に寒波が訪れいて、昨年より積雪があると予想された。

また年越し寒波も予報されていて、できたら30日に登頂して下山するつもりで前夜泊の一泊二日で日程を組む。

29日

柏木登山口 7:10-松峰山荘付近 12:50-2200m
テント場 14:00

前泊した道の駅より移動して柏木の登山口に6時半頃到着。

すでに車が4台止まっていて、ラッセルは無いと確信。天気は上場で晴れている、がその分寒い。-7度ほどであった。

身支度をして出発。林道を何度か跨いでのぼる、とても歩きやすい。

途中の林道から中央アルプスが一望できる場所があり絶景を堪能できた。

その後も林道を歩くこともあるが、おおむね緩やかな登山道を登る。標識もしっかりしていて迷う事もない。

少し風が出てくると寒く、脱いでいたオーバージャケットを着て登る。

林道終点より傾斜がきつくなるが、すでにトレースは出来ているのでさほど苦労はしない。久しぶりのザックの重みをかみしめながら、一步一步進める。

途中には唐松林の間から甲斐駒岳や鋸岳の尾根、仙丈ヶ岳を望むことができた。やはり甲斐駒ヶ岳は壮言でカッコいいですね。

仙丈ヶ岳をゆったりとした落ち着きのある女帝といったところか。

やはり静かな銀世界の雪山を登るのはいいですね。

柏木の駐車場

孝行猿

林道に合流(樋口君)

中央アルプスの絶景が見渡せた

唐松林に行く(白井)

お昼を過ぎ地蔵岳の急な登山道を登っていると、比較的若い男女が下ってきた。

聞くと「登頂は出来たが風が強くて、初めてダウンを着て登りました。」と言った返事。

予想はしていたが相当風が強いらしい。

松峰山荘が尾根付近は風が抜けるのか雪が飛ばされて凍り付いていた。

自分達は風が強まることを予想して、比較的風当たりが少ない地蔵岳手前の2200m付近にテントを張ることにした。

テントを張り、水作りなどをしていると、3人PTとソロの方が降りてきた。

どちらとも風が強くて撤退してきたそうだ。外はいつの間にか雪が時折舞っていた。

鍋を作り酒飲んで気持ちよく19時ごろ就寝する。天気が良ければ3時ごろ起床してアタックしようと考えていた。

しかし、夜中にゴウゴウと強風が吹きすさぶ。幸いそれを予想してテントを建てたので、テント場は問題ないが、こりゃ明日は駄目だなと思いつつ眠りに再びついた。

テント場の整地

30日

テント場 8:00-丸山谷ノ頭過ぎ 9:30-テント場
10:30 撤収して下山 11:10-柏木登山口 15:15

昨晚の強風のせいですっかり寝坊してしまい6時過ぎに目が覚める。それでも、もう少し登る事にして準備して8時ごろ出発する。

天気はガズガズで視界は悪い、思ったより風が無い。

出発して樋口君が行動食をテントに忘れてきたことに気が付く。

昨日のトレースはとどこころ消えていた。1時間半ほど歩き丸山谷ノ頭を過ぎた辺りで撤退とする。

その後、「たぶん無理でしょうけど行ってみますと。」中年3人組PTが登って行った。

彼らは松峰山荘に泊まり本日登ってきたそうだ。彼らを見送り下山する。テントを撤収して山を下りる。

テント場より出発



急登を登る樋口

下山途中の林道、時折日差しが刺す。柏木集落に到着。

時折雲間から光が刺すが、ほとんど小雪交じりの下山であった。

今回は女帝のおひざ元にも及ばなかったですが、また3月頃登りに来たいと思いました。

すっかりこの登りやすい尾根が気に入りました。帰りに高遠の「桜の湯」(JAF割引で450円)により帰宅。登頂は出来ませんでしたが楽しい雪山を堪能できました。

一記・白井一

【薬師岳(鳳凰山)】21.12.29(河合)

【2021年12月29日～30日】

【メンバー】上田、遠山、河合、他2名

【概要】

昨年の冬は、遠山さんと二人で越百山へ1泊2日。今年は、上田さん、岩瀬さん(今年の春合宿も一緒に行くことができました。)、徳島山岳連盟会長の原さん(私が若い時に国体で一緒だった徳島県青年女子の監督)と一緒に山行することができ、5名で冬合宿を楽しむことができた。

原さんは、年末の大雪が心配で、愛知入りしたのは25日の夜。翌日の26日は、岩瀬さんと愛知県の寧比曾岳に登られたとか。その後は、ゆっくり過ごされ、29日朝、夜叉神峠で合流。

29日は、夜叉神峠～南御室小屋まで。30日は朝7時30分出発し、薬師岳に向かうも、樹林から稜線に出たとたんに強風で、砂や氷の粒が顔に当たり心が折れ「砂払」少し手前で記念写真を撮って帰った。

(タイムテーブル)

29日 夜叉神峠登山口 6:25～夜叉神峠 8:00

～杖立峠 10:00～苺平 12:20～南御室小屋 12:50

30日 南御室小屋 7:30～砂払岳 9:15～南御室小屋 10:40～苺平 11:30～杖立峠 12:30～夜叉神峠 13:30～夜叉神峠登山口 14:00

(山行内容)

28日

仕事終わりで20時30分、河合家に集合し夜叉神峠へ向かう。岩瀬さんと原さんはすでに山梨県入りし、ビジネスホテルで宴会。私たちも新城IC～白根ICまで高速で行くため夜叉神峠まで約3時間程度で到着。夜は冷え込むが一酔して就寝。

29日

5時起床し、朝食を食べ、ゆっくり身支度をしていると、岩瀬さんと原さんが見えて合流。警察の方が入山の状況を確認されていて登山届を提出。午後は風が強いとアドバイスをいただく。

暗闇の中夜叉神峠登山口から出発
段々明るくなってきた。

朝の1ピッチ目は早めに小休止。体調を確認し夜叉神峠へ向かう。少しずつ雪もでてきた。



天気も良く、南アルプスが一望できる。天気の良い時は、ここでテントを張って宴会をするのも気持ちがよさそう

北岳

杖立峠に向かう途中に富士山もはっきり見えた。朝方、上空にはレンズ雲も見えたため上空は強風が吹いているようだ。気温は-9度。段々、雪深くなってきた。

苺平で最後の休憩。南御室小屋は閉鎖されていた。前は、営業していたが、コロナの影響だろ

うか？

我が家のダンロップ V6 テント。雪がサラサラで中々固まらなかった。

今回の最大の目的の親睦会。久しぶりに昔の国体の話しやらなんやら…。楽しいひと時でした。夜7時頃就寝。

30日

朝、5時起床。夜は強風で上空がうなっていたが、日の出頃はテント場は風が収まっていた。少しゆっくりして、明るくなるのを待ち、7時30分出発し薬師岳に向かう。

樹林帯の中は、風が少ない。

単独の方がラッセルをしてくれた。その後を進む。樹林の中は雪は結構、積もっていた。

砂払で記念撮影。眼鏡なしでは氷の粒(砂)が目に入り、痛くてまいました。



強風に心が折れ、本日の最高到達点とし、下山を決める。テント場に戻ってきて一安心。

帰りは、夜叉神峠駐車場まで下るのみである。今年の冬合宿は、岩瀬さんと原さんが加わっていただき、久しぶりに会えた喜びも重なり、テント内の宴会で目的を果たせた気がした。また一緒に行きましょう。

—記・河合—

2021年度 個人山行の部

【鳳来】21.4.3 (中村さ)

【2021年4月3日】

【メンバー】中村さ、他2名

鳳来でクライミングをしてきました。

あんこ ○

クライミングショー ×

クライミングショー ◎

バーニス ×

クライミングショーにトライをし始め3日目、ついにその日がきました。この日、ハイカラ岩に1番乗り

で到着したにもかかわらずヌンチャクがかかっていた…。ラッキー☆

2トライ目、やけくそに繰り返した2,3手が止まってしまいそのままRP。次の課題は皆さまのおススメのバーニスにしようと思います。



ヌンチャクをお借りしトライさせてもらいましたが、さすがに13aになると何かと厳しく、終了点まで抜けることができませんでした。次回がんばです。

—記・中村さ—

【木曾駒ヶ岳】21.4.3(二橋)

【2021年4月3日】

【メンバー】浅田、河合、遠山、二橋、夏目、原田

久しぶりの雪山は木曾駒ヶ岳へ。私にとっては今シーズン初の雪山。

天気予報はくもりのち晴れ、山頂の気温 0~4℃、風速10M。レイヤリングはずいぶん迷った。

新城を予定通り朝5:00出発、菅の台は登山者と観光客で混みあっているが、始発8:15の臨時バスに乗り乗車出来た。ロープウェイに乗り継ぎ、ガスの中を通り抜け千畳敷へ。見事な青空、雲海、そして南アルプスの景色が私たちを迎えてくれた。

千畳敷はまだ込み合っていたが、カールに目をやるとすでに幾つものパーティが極楽平、サギダル尾根、乗越浄土と大きく3方向に向かっていった。

雪に色とりどりのウェアが散らばっていて、カラフルで綺麗だ。あまりの快晴にテンションが上がるが、デブリをみて冷静になる。身支度を整え、9:30出発。

木曾駒へのルートにはすでに沢山の登山者が登っていた。左側からデブリがあるが、雪はしまっていて歩きやすい。トレースもついてステップもしっかりしている。

直登の練習がしたかったので、ありがたいトレースを外れて、ポンコツなキックステップを繰り返すが、息が上がるばかりで進まず、トレースを使って登ってくる人に追いつかれる。相変わらず残念な歩行

技術だ。乗越浄土までは風もなく、余計に汗がにじんだ。もっと薄着にすればよかった。

乗越浄土にでると風も吹き始め、そこからは快適なハイキング。

みんなで山談義に花を咲かせながら、和気あいあいと中岳まで。木曾駒ヶ岳、本峰が顔を出す。本峰までもあつという間に、到着。



360°の大パノラマを楽しみ、次に登りたい山のルートを確認した後、南アルプスの景色を楽しみながらゆっくりランチ。まったりしていると、若い原田さんが活動を始めた。彼女は先週新城のトレランで32kmを完走し、今日はリハビリ登山だと言っていたのにとっても元気だ。南アルプスを背景に、ジャンプ写真をとろうとなった。すかさず浅田さんが参戦。

遠山さんの写真テクも素晴らしく、本番1テイクで奇跡の一枚。



これはもはやジャンプではなく、浮遊。恐るべし。

山頂でのひと時を満喫して下山を始めた。

ここからの下山もジャンプコンビは元気。滑落停止の練習をしながら下っている。若さが溢れている。

中岳からはスノーボーダーが滑降して行くのがみえた。滑り降りてから乗越への登り返も恐ろしく早い、彼も若さが溢れている。私は宝剣に登って

いる人たちをうらやましく眺めながら乗越浄土へ。

いよいよ乗越からの下山。乗越からのすでに緩くなったステップを恐々慎重に降りていると、先頭を歩く浅田さんがいきなりシリセードを始めた。原田さんもそれに続き、凄い勢いで滑り降りていく。私は意地でも歩いて降りようかと思ったが、本気で置いていかれたので、恨めしく思いながら続く。

時間も早かったので千畳敷への登り返しのあたりで雪崩の埋没体験、ビーコン操作方法の講習を受ける。

埋没体験は初めてで、雪は想像以上に重くて、講習にもかかわらず恐怖心で手が震え呼吸が出来なくなるかと思った。

ビーコンも機械の操作方法は簡単だが、雪崩の救助のために効率よく動けるようにするためには日頃から訓練が必要だと思った。

いざ雪崩に巻き込まれたとき、冷静に行動できるか自信はまだないが、雪山に入るときは必ず今日教わったことを思い出そうと思う。

14:00 千畳敷駅に到着。

ロープウェイ乗車までカフェでお茶を飲み、心地よい疲労感と満足感に包まれて、山を下った。

途中でニホンカモシカの子供が見送ってくれた。

木曾駒から豊川への道中は、桜や桃の花が見頃。一日で雪も花も楽しめ、大満足の木曾駒雪見ハイキングでした。

—記・二橋—

【御在所岳～鎌ヶ岳】21.4.10（上田）

【2021年4月10日】

【メンバー】上田、河合、日浦、Kさん（上田の友人）

週末がいいお天気ということで、急きょ呼びかけて鈴鹿 御在所岳から鎌ヶ岳の周遊コースに行ってきた。

6:30に音羽に集合し、東名—伊勢湾岸道—四日市ジャンクションから新名神、菰野ICで降りて鈴鹿スカイラインの477号線に合流し、御在所岳の中道登山口まで1時間20分で到着。新名神の接続でとても便利になった。

駐車場はいっぱいで少し上の路肩に停めて中道へ。一点の雲もない快晴、少し冷えたがさわやかで絶好の天気の中、8:00に花崗岩の中の急登を高度を稼ぎます。

徐々に展望が開け、ロープウェイも間近に見えます。

負ばれ岩、下の岩が倒れそうな気がする(*_*; 離れて見るとサイコロに乗ったような地蔵岩。河

合君が「これはね、ダイダラボッチがポイと載せたんだよ(^)/」

キレットは花崗岩の20m階段状の下り。鎖も使いながら注意して下る。風雨の時は特に注意。急登を登ると富士見岩、大展望で観光客も足を運んでくる。

少し霞んではいるが、伊勢平野、伊勢湾だけで無く、知多半島、三河湾、渥美半島まで見える。北に目を移すと右から御嶽山、北アルプス、左に白山が雪をかぶっている。あー登りたい！南の鎌ヶ岳のとんがりもいい眺め。

遠く白山を望む。ロープウェー頂上駅～スキー場とのんびり歩き、いつもの混雑ほどでは無い御在所岳山頂に10:18に着き、少し早いがお昼とする。絶好のお天気でそれぞれのお昼と河合君のコーヒーでくつろぐ。

ここからは上田以外は初めての領域ということで、武平峠をめざす。遊歩道から花崗岩の急な下りに変わり、477号線を下に見ながら樹林の中を下っていく。

877mの武平峠を11:19に通過。

アカヤシオが早くも咲いていた。今年はいろんな花が早い。山桜も少し残っていた。

痩せた尾根を徐々に高度をあげると、1040m付近から北面の三ツ口谷への下降点を確認できたが、浮石が多く歩きにくそう。左側がガレた登り。

登りきると鎌ヶ岳の頂上(12:13着)、再び絶好の展望。2つの急登を登り切った満足感でみんな笑顔(^)/



振り返ると御在所とその左に雨乞岳。

南を見るとアップダウンの鎌尾根から入道ヶ岳、仙ヶ岳に続く道。雲母峰。

頂上の三角点のすぐ北東から長石尾根の急下降。所々、赤テープを確認しながら正しいルートを探る。急で少し歩きにくい緊張感を楽しむ。900m付近からは左の三ツ口谷へ下ることにする。

赤テープ伝いに時々不明瞭な道を右岸、左岸と渡り、谷の左岸830m付近で「この先崩壊」の看板。25000 図の破線通り行こうとして間違えた。間違え

た点からそのまま下降することはやめて、先ほどの看板まで登り返し、三ツ口谷の本流に向けて下降し、事なきを得た。

あとは穏やかな谷沿いの下りで、477号線に上がって車に戻った。14:34着。急登、急降下でしたがいいトレーニングになりました。Kさんも初めての鈴鹿で満足げでした。

足元の春の花もとてもきれいでした。

どっかりと帯状高気圧に覆われ最高の天気で鈴鹿を楽しめました。

コロナ感染が収束せず、職場環境や家族の状況などから山に足が向かわない会員もいる中で、自分は県内、近県の山にポチポチ足を運んでいる。

感染拡大の第4波の中にありますが、必要な検査が広く行われワクチン接種もいきわたるなど、もう少し安心して登れる日を願うばかりです。

—記・上田—

【宇連山】21.4.11(浅田)

【2021年4月11日】

【メンバー】浅田、二橋、遠山、Hさん、Mさん

入会希望者のHさんのお試し山行で。県民の森から宇連山へ行きました。モリトピアを9時少し過ぎに出発し、国体尾根の取り付けへ向かう。

驚いた事にジャクナゲがもう咲いていた。

国体尾根の急登を少し汗ばみながら登り、約1時間で南西尾根に出る。左手に鳳来寺山を見ながら南西尾根を進む。所々にピンクのツツジが綺麗に咲いている。

途中2回の休憩を取りながら、744mの11時半に通過し、この先の宇連山の分岐まで頑張る。ここで遠山さんは棚山～鳳来寺山～湯谷のルートへ行くのでお別れである。

ここから20分程で宇連山山頂へ着く。途中アカヤシオが咲いていて驚いた。



ゲストのお二人とも元気に山頂へ着き、ランチタイムとする。鳳来湖を挟んで明神山、その奥に残雪の南アルプスが霞んで見えた。1時間程ランチとおしゃべりを楽しみ下山する。

744m を過ぎ南西尾根から亀石の滝へのルートをとって、14時半亀石の滝へ降りる。

そこから大津谷林道をモミジの新緑に癒されながらモリトピアへ降りた。

ゲストのお二人も楽しんでくれたようである

—記・浅田—

【岩岳山・竜馬ヶ岳】21.4.24(遠山)

【2021年4月24日】

【メンバー】河合、二橋、原田、日浦、遠山

春山合宿のトレーニングを兼ねてアカヤシオを見に岩岳山へ行ってきました。

岩岳山周回に竜馬ヶ岳ピストンを加えたルートですが他のメンバーは初めてとの事。

朝6時に河合さん宅に集合。

新東名の浜松浜北ICを降りて約1時間40分ほどで駐車場に到着。

駐車場には既に多くの車があり、この時期アカヤシオを求めて登山者が来ています。

早速、身支度を整えて8時登山開始。

まずは林道を1時間ほどかけて歩きます。少し揺れる丸木橋を渡ります。

ここから急登が始まりますがオリエンテーリング大会で足を5針縫う怪我して前日に抜糸したとは思えない軽快な足取りで河合さんが先頭を登っていきます。

急登が続きますが風も適度にあり、歩いている時には丁度いい気温です。

順調に高度を上げていくと遠くに見える尾根の稜線上にピンク色の花々が見えています。

アカヤシオです。かなりの数が咲いているようで期待が膨らみます。1時間ほどかけて尾根に乗り上げて荷小屋峠に到着。ここから尾根筋に沿って岩岳山に向けて急登を登ります。

途中にはミツバツツジが咲いています。

暫く急登を登って行くとピンク色の花々が咲いたアカヤシオが見えてきました。少し散りかけてはいますがとてもキレイです。

尾根に登りあげて岩岳山と竜馬ヶ岳分岐を左に折れてちょっとコーヒータイム。

ここから小さなアップダウンを繰り返し深南部前衛らしい落ち葉の樹林帯を歩きます。

二橋さんと原田さんはボッカでいつもより荷物を多く持っているとのこと。途中から河合さんがピッチを上げ快調に歩いて行きます。竜馬ヶ岳に到着。

ここで昼食タイムですが、落ち葉でフカフカな道が気に入ったようで原田さんはトレランに最適だと走り出します。日浦さんも誘われてランニング、元気な二人です(笑)

昼食タイムを終えて分岐まで戻ります。

分岐から岩岳山へ歩きますが、この間がアカヤシオの群生地です。

尾根上は細く岩も露出していますが両側にはキレイなアカヤシオが咲き乱れています。

アカヤシオはたくさんの花が咲く年(表年)と咲かない年(裏年)があると言われており、今年は当たり年の表年です。

尾根からの眺望とアカヤシオを眺めながら岩岳山へ到着。



小さなアップダウンと急な下りを暫く歩いて林道途中に合流して駐車場に到着。

歩行時間:7時間50分

歩行距離:16.7km

累積標高:1460m

深南部前衛の山らしい雰囲気とアカヤシオにメンバーも満足した山行になりました。来年もまたアカヤシオを見に来たいと思います。

—記・遠山—

【小川山】21.4.24(中川)

【日時】2021年4月24日(土)~4月25日(日)

【メンバー】白井、小野、S、中川

【天気】24晴、25曇

4/23(金)
豊川-美し森

4/24(土)~4/25(日)
廻り目平キャンプ場ベース・クライミング

【クライミング成果】

烏帽子岩左稜線(5.4~5.8):白井・小野、S・中川、笠間のピンキー(10c):S

ガマスラブ周辺のスラブ(5.8~5.10)くらいのルート:白井、中川

ごめんねエッチちゃん(10b):白井、中川

ガマルートの1ピッチ目(5.8):白井、中川

クレイジージャム(10d):白井、小野、S

小川山レイバック(5.9+):小野、S、中川

【登攀装備】

烏帽子岩左稜線:カム#0.3~#4、シングルロープ60m

【序】

会で毎年恒例となっているGW前の小川山クライミングに参加してきました。

個人的には有名どころのショートルートとマルチを一本登れたらいいなと思っての参加でした。

【本文】

来週から始まるGWはキャンプ場がクローズとなるようなので激混みになるのではないかと心配していましたが、以外にも閑散としていました。

クライミングをするには最高の状況なので充実の二日間にすべく岩場へ向かいました。

↓烏帽子岩左稜線に向かう。

初日は烏帽子岩左稜線。トポでは18ピッチの長いマルチルートです。最後のチムニーというワイドクラックが核心のようです。

ザイルオーダーは白井・小野組、S・中川組となりました。Sさんとは初めて一緒に登るのでお互い様子を見ながらといった感じで登り始めました。

Sさんはきっと心配していただろうなあ。このおっさんに命預けて大丈夫か?と。

↓烏帽子岩左稜線 取付き

4月なので寒さが心配されましたが、ほどよく暖かく(陽が当たらない場所で風に吹かれると寒い)、カラッと乾燥しており快適なコンディションでした。稜線に出るまではウォーミングアップという感じで順調に高度を上げていく。ところどころ歩きのピッチもあり景色を楽しみながらのクライミング。

中盤にはハンドサイズクラックのピッチがあり、下が切れ落ちていて高度感が堪らない。

↓珍しくマルチルートを登る小野隊長

その後は両側が切れ落ちているリッジがあったり、懸垂下降があったりバリエーションに富んだ楽しいルートである。

↓気持ちの良いクライミング!

↓リッジも余裕のSさん

↓最終ピッチのワイドクラック

そして最後のチムニーというワイドクラックの取付きに辿り着くと先行の白井・小野組は登り終わるところだった。

↓水を得た魚のようにワイドを登る小野隊長

↓華麗にワイドを登るSさん

↓ワイドに挟まり藻掻く中川

最後のピッチは予定通りSさんにリードをして頂き、私はフォローでついて行く。

序盤はそこそこ登れたのだが中盤でテンション掛かり一向に上がれない。

上からSさん達が応援してくれる。アドバイスとしてはチキンウイングを極めて、腰をあげて、足か腰を極めて、チキンウイング・・・の繰り返し。ということらしい。

なるほどなるほど、まずはチキンウイングと。肘が下がっているらしく極まらず、ズルズルと下がる。何度やっても一向に上がる気配が無い。

もがけばもがくほど体力を奪われていく。まずい、まずいぞ。(略)

ハーフマラソンくらいの体力を使っただけでようやくトップアウト出来た。みなさんお待たせしました。すみませんでした。Sさん、パートナーありがとうございました。

テント場までの下山路で小野さんからワイドクラックの登り方のコツを教えて頂いた。

なるほどなるほど。あとはおっさんの体はその通りに動けばヨイだけだ(笑)がんばれオレ。

最後のワイドは泣けてきたが、全体的には長く、景色も良く、バリエーションに富んだ素晴らしいルートだと思いました。

終了点も整備されておりオススメです。(最後のワイドは登らずにエスケープするルートもあります)ほどよい時間となったのでテント場に戻って夕飯です。

今夜のメインは小野シェフの作るボルシチ、俗に言う「オノシチ」という有名料理です。

以前作った時とはボルシチの素が違うらしく味が決まらなかったみたいですが、ウインナーを入れたら美味しい「オノシチ」に仕上がりました。

寒い夜にはピッタリの温かい「オノシチ」は冷えた体に染みこみました。ごちそうさまでした。

↓小野隊長の作るボルシチ。通称「オノシチ」。

小川山といえば焚き火。現地で合流した杉原さんが準備してくれていた焚き火の窯に白井さん

が火を入れて綺麗な炎を作っていく。

寒い夜に焚き火の熱が心地良い。最高だ。

オノシチで満腹になり、焚き火で気持ちよくなって眠りにつきました。

↓焚き火最高！

二日目の午前は二手に分かれてショートルート。午後からはクレイジージャムと小川山レイバックのある親指岩で合流することとなった。

小野・S組は笠間のピンキーへ、白井・中川組はガマスラブエリアへと向かった。

↓ガマスラブエリア

Sさんは笠間のピンキーをMOS。さすがです。私は白井さんとガマスラブ周辺で何本か登りました。私の持っているトポには記載のないルート(5.8くらい?)をリードで登りました。

その隣の 5.10a くらいのルートを白井さんが OS し、続く私もリードで取付いたものの核心でテンション。残念でした。

その後は少し上に移動して「ごめんねエッチャン 10b」へ。白井さん曰くお買い得の 10b ということで OS トライ。

結果的には一ピン目にかかる前にフォール(笑)。2 ピン目あたりでももたつきテンション。そのあとはノーテンでトップアウトしましたが、せっかくのお買い得 10b が・・・残念でした。

もちろん白井さんはサラッと登ってしまいました。

親指岩へ行く前にもう一本やる時間がありそうなので、マルチのガマルートの 1 ピッチ目をやることに。

カムを差しながらレイバックで登り始めるも 2 本目のカムを差した後にフォール。一度落ちると腰が引けて連続フォール(笑)。

グダグダになりつつ 1 ピッチ目の終了点へ。

せっくなのでレイバックの練習したらと白井さんに時間を頂けたのでトプロープでカムを差しつつ疑似リードで練習。トプロープではフォールせずに登ることができました。

リードで落ち着いて登れるメンタルを鍛えねば。

ちょうど良い時間となったので親指岩へ移動。

私自身小川山は 4 回目ですが親指岩は初めてでした。

クレイジージャム 10d は長く美しいクラックラインです。その裏の小川山レイバック 5.9+も美しいクラックラインです。

クレジャムには杉原さんと渡辺さんのパーティーが。その裏の小川山レイバックでは小野さん、Sさん、平野さんが登っていた。

↓美しいクラックラインのクレイジージャム

私にはクレジャムはととてもじゃないが登れそうがない。小川山レイバックに移動し小野さん達が登る

のを見ていた。ただクラックを無視してステミング祭りをしてた(笑)

そうこうしていたら上の方から白井さんの声がした。クレイジージャムを登ったようだ。

↓小川山レイバックをステミングで登る小野隊長



小川山レイバックのステミング祭りが終わり、私はトプロープで取りつかせてもらった。幸運にもクラックを使った登り方を見ることなく取り付けたので実力が試される。といってもトプロープだが。

「出だしはシンハンドでその後は快適なハンドサイズ、棚で休憩してその後もハンドサイズ。体の右側は壁に擦り付けるのでガチャ類は左側に移した方がイイよ」と S さんにアドバイスをもらってから離陸。

私の経験したクラックルートの中では間違いなく一番長かった。Sさんにアドバイス付でビレイしてもらった。

棚まで順調にいけた。と思ったら棚に手が掛かったところで両足が切れて危うくフォールか?と思ったら、ハンドジャムが効いていたので何とか落ちずに済んだ。

後半もハンドジャムとフットジャムをコツコツと極めて無事トップアウト Sさんビレイとアドバイスありがとうございました。

次に来たときはリードで登りたいと思いました。ほどよい時間となったので小川山を後にしてカラファテナナズ店に立ち寄って帰路に就きました。個人的にはマルチも登れ、有名な小川山レイバックもトプロープでしたがノーテンで登れたのでとても満足のいく二日間でした。

次はセレクションに登りたいなあ。どなたかいかがですか？

—記・中川—

【追記】 白井

小川山へクライミングに訪れたのは 1 年以上振りとなった。

GW 直前は寒さもなんとかしのげるほどで、日中

は日差しがあればそこそこ暖かく、乾燥していて快適なクライミングができます。

今年は3月の暖かさもあってか例年よりだいぶ早くキャンプ場はオープンしてました。

そして、3年前に塩川君と登った烏帽子岩左稜線に再び登りました。改めて変化に富んだラインと稜線に行くことで展望も最高で三ツ星ルートであると再認識しました。

2日目に登った「クレイジージャム」7~8年ぶりに触った様な気がします。

コロナ渦のせいもあって体重も増えてトップロープであっても核心である最初のシンハンドには苦勞させられました。

しかし、これほどの綺麗なクラックのラインはなかなかありませんね日本には。

いつかまたリードできると言い思いました。

改めて小川山の良さを再認識した二日間でした。今年はまだ訪れてクライミングを楽しめたらいいです。

—記・白井—

【屋久島 宮之浦川】21.4.29(山形)

【2021年4月29日~5月2日】

【メンバー】山形、木村、鈴木(豊橋山岳会)

今年のゴールデンウィークは屋久島に行ってきました。その記録を書きます。

メンバーはいわゆる沢をやる時のいつメンです。

東三河が誇る宴会酒豪大魔王;木村さんとヘビーフェイス猪突猛進;大知、魔王には及ばないが酒好き;山形の3名です。

屋久島案は以前から私が提案していたが大知の仕事の休みが分かるのが25日のため、行くことが確定したのがギリギリのタイミングでした。メンバーとタイミングが合えば勢いに任せて行くべきと大慌てで用意をしました。時勢的な事もあり航空券は直前でも確保することが出来ました。

私は5年ぶり2度目の屋久島でセントレアから鹿児島空港までは飛行機、そこからフェリーで29日に屋久島入りしました。

素泊まり民宿も行き当たりばったりで下船後に電話しまくり確保しました。

宿を確保した後はガス缶や行動食を買い出しました。ちなみに飛行機、フェリー含め飲みっぱなしです。

当初は最初に本富岳の屋久島フリーウェイを考えていたが天候の兼ね合いもあり話し合いのすえ、30日から入渓することにしました。ところがどっこい、早朝発のタクシーの予約が取れません。ならばと到着初日の29日から入山することに。せっか

く暖かい布団で寝れると思ったのに…。景気づけに行く予定だった居酒屋、若大将にも行けず。

タクシーに乗車して宮之浦林道入り口近くに降りてもらおう。酒も入ったままなのでこの日はヘッドンを付けて潜水橋まで。クソ長い林道歩きで疲れながら23時頃に入渓点の潜水橋に到着する。テントを立ててウイスキーを少しだけ飲みすぐに就寝した。

翌30日は6時過ぎより入渓した。この日は天気が良いので出来る限り長く行動したい。

花崗岩のためラバーシューズが良く効く。

屋久島の沢は相変わらず水の透明度が素晴らしく、そして美味い。しかし今年のゴールデンウィークは寒い。入渓してしばらくは巨岩帯のアップダウンで体が暖まった。ナベカケ谷の出会いを過ぎて8:30に突如としてズドンと現れたのがマンベ一測。素晴らしい景観である。

程なくして第一巨岩を迎える。第三巨石は左を人工を使い突破する。残置ハーケンのみでは心許ないのでカムを使った。

第三巨石を越えると左から白糸の滝が流れる。宮之浦川は全体を通して色々なタイプの滝を見ることが出来る。

F13はトポ通りに左岸巻きでスムーズに進み11時頃にハイライトのボス、竜王滝と対面する。こんな滝はなかなか見ることが出来ない。素晴らしい、美しい、カッコいい。一本とりながら記念撮影タイムとする。

問題はここからでした。必死だったので残念ながら登攀中の写真はありません…。

最近の記録では竜王の滝は右岸チムニー巻きがポピュラーなので我々も右岸巻きとする。取り付きのルンゼは間違い無さそう。

前方にCSが見え、そのままどりゃ~とロープを出して突っ込んでしまいました。ここを真っ直ぐに突っ込むと間違い。

まずは大知リードで1ピッチ目だが明らかに悪そう。試行錯誤しながらロープを伸ばしていた。懸垂用スリングの残置もあり、このルートではないかとも思い始めるが中間支点を回収するために山形がフォローで登る。

この先さらにロープを伸ばすか懸垂するか迷ったがとりあえず上部を試してみることにした。2ピッチ目は山形のリード、上部に出るとルンゼが広がっており何とか行けそうな感じに見えた。いったん懸垂して降りて下で待機していた木村さんとあーだこーだと議論、結果先に進むことにした。

文章にすると短くなってしまいが先のルートの状況やどのケースで撤退判断するか実に濃い協議をした。ルンゼから右側の尾根に乗り、クソ悪い草付きでロープを出しながら高度を稼ぐ。まだまだ竜王

滝の最上段の高さには届かないうちに岩壁にぶち当たってしまった。ここでジ・エンド。ここも無理矢理突っ込んで良かったがリスクだったため撤退判断とした。

5 時間ぐらい格闘したが残念ながら今日は竜王滝手前まで。竜王滝手前に幕営適地を見つけていたのでそこまで戻ることとする。懸垂で降りながら改めて取り付けを確認したがこれは事前情報がないと明らかに見過ごす。日程に余裕をもたせていたこともありさらに突っ込まずに撤退判断で正解だったと思う。

気を取り直し翌日の 5/1 は竜王の滝の大巻きから仕切り直し。昨日、最後に場所を確認していたところからスタート。1,2 ピッチともに山形がリード、あぁ体感グレード的にも絶対こっちだわーって感じてした。

3 ピッチ目は大知のリード、抜け口は人がやっと 1 人通れるような穴なので荷揚げしながら高度を稼いだ。ロープを外して尾根に出てみるとまぁ歩きやすい。昨日とは全然違う。この巻きを通じて改めてルーフアイの難しさを再認識させられました。良い勉強になりました。

結果、3 時間程度で巻くことが出来て懸垂なしで沢床に復帰することが出来ました。

程なくして漏斗の滝へ。これまた抜群に美しい。この滝も登れないので支流より巻く。こちらの巻きは簡単です。

今日は午後から天気崩れる予報、本来なら昨日のうちに上部ゴルジュ手前までは行っておきたかったが仕方がない。予報通りに雨に降られながら進む。寒気も降りてきているため寒かった。

雨に降られながらの遡行。そして最後の核心の上部ゴルジュへの高巻きに入った。雨も上がり良い感じである。巻きを終え、沢床に復帰してから幕営する予定だったがこの寒さで沢に戻るのは嫌だということと沢に戻る。

翌朝 5/2 の気温は平年より 5℃は低下していたはずでかなり寒い。ここで泊まる判断は正しかったと思う。泣きながら濡れた沢装備に着替え、遡行を再開する。上部ゴルジュの巻きも懸垂なしに上手く処理することが出来た。降りた先は美しい源頭の雰囲気が漂っている。

源頭部、最後は猛烈な藪漕ぎとなるが無事に安全地帯へと抜けることが出来た。カラッと快晴ではなかったのが悔やまれるがこればかりはお天道様次第なので仕方がない。三人で喜びを分かち合い沢装備を解除する。

イラっとくる藪漕ぎ。最後に未踏であった宮之浦岳のピークを踏み爆速で下山した。



百名山ゲット

力量の揃ったパーティーだったからこそあーだこーだ言いながら遡行できた。宮之浦川は百名谷の一つでもあり場面場面での的確な判断を要求される等、スケールの大きさ含めて一級の沢であった。

屋久島は飯美味しい、人が優しい、自然が豊か等良いところを挙げればキリがない。今度は岩登りメインで再訪したい。非常に充実したゴールデンウィークにすることが出来た。

—記・山形—

【亀淵川東尾根】21.5.8(河合)

【2021年5月8日】

【メンバー】白井、二橋、河合、他1名

本来ならば、毛勝山に行っていたはずだが、私の都合で毛勝山は断念し、急遽、歩いたことのない「亀淵川東尾根」に行ってみた。

朝、7時、河合宅集合。途中でS君をピックアップし、4人で川合駅まで行く。川合駅で身支度をして、登山口の亀淵川東尾根まで国道を歩く。国道を一路に歩く。

登山口には国土交通省の大きな看板。三遠南信のトンネル工事の図。今回のルート(ヤマレコ)(図をクリックすると拡大します)ヤママップはこんな感じ(図をクリックすると拡大します)

ヤマレコもヤママップも優れたソフトだと思っています。今のところ、どっちの方がいいとは言えないぐらい両方の会社とも頑張っています。

道迷い遭難で思うのですが、このソフトのことをすべての人が知っていれば・・・と思います、例えば、家族に「道に迷った。」と電話があった場合、家族が、「今すぐ地図アプリをダウンロードして現

在位置を把握して！そして、警察に電話して！」と助言をすれば、最悪の事態を避けることができるかもしれません。また、道に迷った本人に、「警察に電話して！」という。

警察に電話すれば、警察が、『今すぐ地図アプリをダウンロードして現在位置を把握して！』そこには、座標軸があるからその座標軸があなたの現在位置です。動かないで。という形で最悪のケースは防ぐことができるかもしれません。

(ヤマレコは、画面左下に座標軸が現れますが、ヤママップは見れない？のかな？どうだろう？)

(今回の山行はヤママップを使いました。無料だと月に2回、地図のダウンロードができます。それ以上は有料になります。)

(ヤマレコは、2個所の地図のダウンロードが可能です。それ以上の地図のダウンロードはできません。しかし、保存してある地図を削除すれば、地図をダウンロードすることができます。)

登山口。まったく道がない。地図を頼りに行くことにする。ガチな藪漕ぎ。

鬱蒼としている。急な斜面で、ふくらはぎがパンパンに、そして、私は、左のふくらはぎに違和感を感じた。(こむら返りのひどい感じかな？)違和感は、最初の10分で起きた。



岩稜にでたら、快適。またもや、藪漕ぎ。

白井君が、地図を印刷してくれたので、みんなで、読図をしながら歩く。等高線の広い、狭い、で、斜面の傾斜を熱く語る。私。

何故か途中にハチの巣が……。今は古くて何も入っていない。

この後、二橋さんに「キネシオテープ」をもらい、ふくらはぎに張った。どうも、「キネシオテープ」だけでは心もとないので、テーピングも張ってみた。歩くしかないので、頑張ってみることにする。

山の途中には、ホソバシヤクナゲが丁度、見ごろ。

天候は良い。

こんな岩稜も……。危ないところではない。

夕立岩手前の名もないピークで早いけど、昼とす

る。中々進まない。私の用事があるため、自宅に午後5時までには帰宅しないといけないので、ちょっとヤキモキ。

途中でシメジっぽいキノコがあった。食べれるかどうか私は分からない。キノコは種類が多くてよくわからない。

途中で岩場の脇を慎重にトラバース。

699.8mピークの三角点。三等三角点だった。

699.8mピークと705mピークの間ピークに大きな岩が出てきた。ここは、左に大きく迂回する。この迂回する木々にも赤テープが木に巻いてある。こんなマイナーなルートに赤テープ。感心する。

大きく左に迂回する

三瀬からの道と合流し、いよいよ急登に差し掛かる。梯子交じりの急登。

いよいよ、帰宅の時間が迫ってきた。オレンジ岩へのルートと鬼岩を通るルートのどちらにしようか、ヤママップで時間を計算。どちらも似たようなものだったので、歩いたことのない、オレンジ岩を通るルートを選んだ。ちなみに、ヤママップではコースタイムが出ているが、ヤマレコでは出ていなかった。

ホソバシヤクナゲが途中で咲いていた。

オレンジ岩で見上げる私。オレンジ岩からの下りやっとな、乳岩峽に到着。

駐車場は入場規制があるため、一台も車は停まっていない。結構、コースが長かったが、初めて通る道は、楽しい。明神山からの下りは、オレンジ岩経由もおススメ。

—記・河合—

【読図講習会】21.5.30(河合)

【2021年5月30日】

【メンバー】河合

令和3年度の読図講習会(愛知県山岳連盟主催)は、新型コロナウイルス感染症対策のため初のWeb講習会を5月18日(火)、25日(火)で開催し、30日(日)には、人数制限を行った上で、野外での実技講習会を開催しました。

Web講習会は私にとって初の試みであり、相手の反応を見ることができない状況で、約1時話すことは、ハードルの高いものでした。一方、受講生の方は自宅で学べる手軽さもあり、今後は、技術論だけに特化するならばWeb講習会がスタンダードな手法として活用されると思いました。

30日(日)は大高緑地公園で「コンパスの使い方」の実技講習を行いました。



参加者の方 12 名

受講生の方の表情が手応えとして感じることは、Web 講習にはないので、実技の大切さを改めて感じることができました。毎年なのですが、受講生の皆さんはとても熱心に講習を受講されます。私も朝からポスト設置を行い、受講生の方の一助になればと毎年違ったカリキュラムを考えています。

実技講習は、今年で 10 年目になりますが今年も色々な発見がありました。コンパスの使い方だけでなく、道の上を歩き、道の分岐を確認し進行方向を確認すればよいのですが、それでは面白くありません。山の中にポストを設置し、コンパスでポストを探す方法は、受講生の方も気づいたことが多くあったように感じました。

今後も初心者の方には、基本の大切さを伝えていこうと思っています。

—記・河合—

【白馬～唐松岳】21.7.17(遠山)

【2021 年 7 月 日 17～18 日】

【メンバー】浅田、河合、遠山

浅田さん提案で白馬～唐松岳縦走に河合さんと自分が加わり 3 名で縦走してきました。

猿倉から大雪渓を超えて天狗の大下りと不帰キレットと不帰嶮(かえらずのけん)を通り唐松岳まで縦走するルートです。

—山行データ—

(1 日目)

山行時間 :10 時間

山行距離 :10.7km

累積標高(+):2,073m

累積標高(一): 565m

(2 日目)

山行時間 :8 時間 20 分

山行距離 : 9.8km

累積標高(+): 650m

累積標高(一):1,538m

今回の山行テーマは 3 つ

花、②白馬大雪渓、③不帰嶮

16 日(金)

20:00 市役所集合。20:30 河合邸に合流して 0:30 八方尾根駐車場に到着。

翌日 4 時に起床、快晴です。駐車場から猿倉までタクシーでの移動を計画。駐車場にいたタクシーに声を掛けるも朝の時間帯は既に予約で一杯との事。

1 時間以上待ち時間が発生するので計画を変更して猿倉駐車場まで車で移動。すぐに満車になると聞いていましたが何とか猿倉に駐車出来ました。

八方尾根から猿倉にタクシー移動される場合は予約をオススメします。身支度を整えて猿倉山荘で登山届を提出。登山者で賑わっています。

ここから林道を歩き大雪渓まで歩行を開始、空は雲 1 つ無い快晴です。

1 時間ほど林道を歩くと白馬大雪渓が見えて来ました。

浅田さんと自分は軽アイゼンを装着、河合さんはツボ足です。雪渓の状態はツボ足でも登れますが軽アイゼンが有った方が滑らずに楽に登ることが出来ます。

大雪渓の左上から時々ガラガラと崩れ落ちる小石に気をつけながら雪渓を歩いていきます。後ろを振り返ると雪渓上には登山者の列が繋がっており、かなりの数の登山者がいることがわかります。やはり白馬大雪渓は人気コースです。

小雪渓を超えたあたりから高山植物の花が出てきました。

浅田さんと河合さんは花の名前を言っていますが自分にはさっぱり判りません。

階段状の歩道を歩いて荷揚げヘリコプターが何度も行き来をしている白馬岳頂上宿舎に到着、ここで全員カレーライスで腹ごしらえ。

食事を終えてピークハントには興味なしとの意見で一致している浅田さんと河合さんに従い、白馬岳山頂はパス、杓子岳を目指します。

稜線上の花を眺めながら杓子岳を目指します。

快晴の中、景色はいいのですが風もほとんど無く暑い！杓子岳も当然ピークハントに興味のないお二人はパスを選択。

その後の白馬鑓ヶ岳もピークまでわずか標高 20 mほどの所を通りますがパス。ここまでピークハントに興味が無いのもスゴイ。

白馬鑓ヶ岳から 40 分ほど歩き小さな雪渓をトラバースして天狗山荘に 15 時 40 分に到着。テント

設営後は外で夕焼けを眺めながらビールで乾杯、食事を終えて暗くなってきたので 18 時にテントに入り、朝 3 時にタイマーセット。

翌朝、3 時に起床、身支度を整えて 4 時 20 分出発。暫くするとキレイな朝焼けが見えてきました。

天狗の頭を超えて天狗の大下りへ到着、ここから標高 250m ほどザレた足場の悪い場所を不帰キレットのコルまで下り I 峰を超えて、目の前に核心部でもある II 峰北方が見えてきました。

II 峰の岩場を 3 点支持で登ります。

足元はしっかりしていますので高度感はそれほど有りません。

岩場を左手から回り込むようにして裏側に出ると唐松岳が見えてきました。

ここから岩場を少し登りあげると II 峰北峰となります。II 峰北峰からは危険箇所も無く II 峰南方を通り唐松岳へと歩きます。

ここから 1 時間ほどで唐松岳山頂に登頂。

後方には来週、浅田さんや河合さん達が登る剣岳が見えています。



山頂からリフト乗り場まで約 2 時間 40 分、長い下りが始まります。

登山者で混み合う長い下りを歩いてリフトを乗り継いで八方尾根駐車場に到着しました。

今回の山行テーマでもある①花、②白馬大雪渓、③不帰嶮の目的を達成。

長時間歩行ではありましたが天候にも恵まれて不帰嶮も通ることが出来ました。

次は扇沢まで繋げたいと思います。

— 記・遠山 —

【恵那山】21.7.24(原田)

【2021 年 7 月 24 日】

【メンバー】原田

世の中 4 連休で会の多くのメンバーは剣岳へ。剣岳へ行きたかったですが普通の土日休みだったため、歩荷トレーニングで水を 6 リットル担ぎ恵

那山へ行ってきました。

初めての恵那山。いろいろルートがある中、どのルートから登ろうか悩んで距離とアップダウンがあつて唯一展望がいいルートの神坂峠からにしました。

深夜に出発し、午前 3 時に神坂峠の登山者用駐車場に到着。この時点ですでに満車に近くなるとか停められました。

少し仮眠して 5 時に出発を予定してましたが起きたら 5 時…おバカ！！と心の中で呟き急いで朝ごはんを準備をする。支度の最後に日焼け止めを塗ろうとしてまたやらかした。日焼け止めとボディークリームを間違えて持ってくる始末…おバカ！！とまた心の中で呟き 5 時半過ぎに登山開始。駐車場から登山口はすぐなのでありがたい。

朝はまだ青空があり、6 時前にはプチ雲海も。

20 分程登ると千両山に到着。道標の字が何も見えず、心の目で千両山を確認。

この後ガスガスになり展望はほとんどありませんでした。鳥越峠。

アップダウンを繰り返し 7 時頃大判山に到着。

大判山からは急登が続き水が重くてこんきい事こんきい事…

ガスの中の森は神秘的で素敵でした。

9 時に前宮ルートと神坂峠ルートの分岐に到着。ここからは緩やかな登りでした。分岐から 15 分程歩き恵那山最高地点へ。脇道にひっそり佇んでいる看板。気づいて良かった。

恵那山の山頂が最高点だと思ってたので山頂と最高点が別の場所だと知りました。

避難小屋の横を歩く。

9 時半に恵那山一等三角点と展望台のある恵那山山頂へ到着。



展望台へ登って見たけど真っ白～。

展望台からはっきり見えたのは山頂の看板の

み。

軽く腹ごしらえして 20 分程休憩し下山開始。来た道に戻ります。帰り道の方が景色が少し見えました。

道を挟んで左右の景観が全く違い、片方は荒々しい崖崩れ？でもう片方は森で不思議でした。

登ってきた道を振り返る。13 時前に下山。

距離 15 キロ、行動時間約 7 時間半で良いトレーニングができました。

— 記・原田 —

【愛知川水系神崎川】21.7.31(白井)

【2021 年 7 月 31 日】

【メンバー】L.白井、梅田(旧姓原田)

以前より行って見たかった、鈴鹿の沢の神崎川へ沢登りに行ってきました。

ネットで調べても記録は多く、人気が伺えます。本会でも高橋君が何度も訪れており、記録を参考にさせてもらいました。

神崎川の本流より赤坂谷、ツメカリ谷、白滝谷、下谷尻谷など遡行できる支流がそそいでおり、今後トライしていきたいと思っているので、今回は概要をつかむ目的として神崎川の本流を遡行してきました。

当初は中アの中御所谷を会のメンバー 5 人で登る予定でしたが、いろいろ問題が発生したため、梅田さんと二人でここを登る事となりました。

R421 沿いの退避所 9:00—仙香谷入渓地点 10:00—白滝谷 12:10—天狗滝 12:30(ここより引き返す)—仙香谷入渓地点 15:00—駐車場 15:50

日帰りでのんびり水遊び程度と言う気持ちかあって気が緩んでいた為か、梅田さんと車で現地へ向かう途中にヘルメットや沢靴などを忘れていた事に気づき、

急遽家へ取りに戻り 1 時間のロス。

入渓地点の R421 の道路わきに退避場はギリギリ最後の一台止めれました。

神崎橋の付近の河原には家族連れの川遊びの方々で大賑わい。

猛暑の中、本流左岸林道を日陰を探しながら小一時間歩き「仙香谷」の看板のある所を有降りて入渓。神崎橋付近には川遊びで訪れた車で一杯林道を歩くココを下る取水口堰堤を越えて泳ぐ泳ぐ凄く綺麗なゴルジュが見えてきた

S 字ゴルジュも楽しい



浮かぶ

最終的に下谷尻谷を過ぎた奥にある天狗滝まで行って引き返してきました。

水量は比較的少ない方でしょうか？

思った以上に河原歩き長く、ずっとゴルジュ地形ではないで確かに初心者さんを連れて行く泳ぐ沢体験には持ってこいな沢ですね。

途中雷が鳴りだして小雨が降り出したので、ちょっと躊躇しましたが、様子見ながら河原を歩き上流へ。

結局下山するころには天気も回復しました。泳ぐ箇所が多いので、普段なら寒くなるかと思いますが、地形が河原もあり明るく、本流とあって水温も高めなのか、全然寒くありませんでした。

梅田さんも沢装備も充実させ、ちっとも寒くなかった模様。途中からは暑いと言って上のスウェットを脱ぐ始末。

夏の暑い時期には最高の沢でした。

ヒルも見なかったし良かったです。

最後の天狗滝降りも楽しい。

帰りの取水口の堰堤はちゃんとハシゴが付いていて登れます

【宝剣岳】21.8.21(浅田)

【2021 年 8 月 11 日】

【メンバー】L 浅田、鈴木

(コースタイム)

豊川 5:00 ➡ 千畳敷 9:50 ➡ 乗越浄土 10:55 ➡ 宝剣岳 11:25 ➡ 極楽平 12:20 ➡ 千畳敷 13:10 ➡ 豊川 18:25

鈴木さんと宝剣岳への計画をしたのは 3 年前の夏でした。諸事情有っての延期、延期となっており今年も 8 月初めに計画をしたが悪天候で中止となった。お盆休みに入った晴れる 1 日を狙っての登山でした。前日の大雨バスが不通となっていて当

然ロープウェーも運休が続いていた。11日の朝5時の時点でロープウェー運航の情報を得て豊川を出発した。

菅の台へ8時頃着いたが駐車場は満車で少し上の駐車場へ止める。

予想はしていたがバス待ちの乗客で長蛇の列。それでもバス待ち1時間、ロープウェー待ち30分で千畳敷に着く。

天気は上々でカール上部に宝剣岳がどっしりと聳えている。南アルプスの向こうに富士山も顔を覗かせている。

高山植物の咲き乱れるカールの中をゆっくり登って行く。鈴木さんは1年振りのアルプスで夏山を堪能している。

和合山リッジ手前で小休止をする。ここから宝剣岳東壁中央稜が見える。半世紀前に初めて攀じたアルプスでのクライミングルートで核心のオケラクラックが見える。そんなこと事を話しながら乗越浄土へ着く。

今回は木曾駒へは行かず宝剣岳へ向かう。安全の為ヘルメットを着けて山頂向かう。鎖場を慎重に登り山頂へ。鈴木さんは山頂の岩峰に立ちたい様子でしたが私が止める。すこし下部で写真を撮り極楽平へ向かう。



三ノ沢岳の分岐までは岩場の下降が続く。鎖場も数か所あり気が抜けない。

三ノ沢岳分岐で小休止をして極楽平より千畳敷へ降りる。

まだロープウェーの整理券はでておらず30分程待ちでシラビ平へ。帰りにこぶしの湯で汗を流し豊川へ。飯田山本よりR153はなくR151で帰豊した。3年越しの山登りで鈴木さんも満足していた。

一記・浅田一

【トレラン・縦走(折立～上高地)】21.9.19(中川)

【日時】2021年9月19日(日)～20(月)

【メンバー】L 中川、古賀

【天気】晴

【行程】

(計画)

1000 折立→1400 太郎平 1800→2200 黒部五郎小屋→0530 槍ヶ岳山荘→0900 横尾山荘→1400 上高地

(結果)

0700 折立→0930 太郎平→1500 黒部五郎小屋 2200→0630 槍ヶ岳山荘→1000 横尾山荘→1300 上高地

移動距離:約 53km

行動時間:約 23 時間(8 時間+15 時間)

【序】

2020年9月19日からの四日間で完了するはずだった「馬場島～上高地縦走」が未完のままだったので宿題を片付けるべく今年の終了地点「折立」へ向かった。

今回の山行の課題は

- ①上高地まで辿り着くこと
- ②短時間睡眠のテント泊
- ③長時間のナイトハイク

の3点である。

未完だった 2020 の記録はコチラ→[◆ 剣岳から薬師岳へ縦走トレイル ◆](#)

【本文】

前日までの台風の影響もあつてか早朝は曇天だったが折立に着いたら快晴となった。

ひとまず太郎平まではアプローチなので焦らず体を慣らしながら登った。

当初の予定では太郎平で仮眠をしてからナイトハイクとするつもりだったが、予定より大幅に早く太郎平に到着したため仮眠地点を先に送る事にした。

ジョギングを織り交ぜつつ北ノ俣岳、赤木岳を越えていく。振り返れば「劔」、前方にはこれから向かう「槍」が見えて気分は最高である。

15時頃に黒部五郎小屋に到着しテントを張って仮眠を取ることにした。

黒部五郎小屋のテント場に居たのは7時間。テント場の人たちとお喋りをしたり、食事をしたり、テントの設営や撤収の時間を引くと睡眠可能時間は4時間程度。

ところがまさかのタイミングで地震(17時20分頃)に襲われた。地響きを伴う振動で飛び起きた。その後も何度か揺れがあり、まともに睡眠がとれずに21時に起床。

怪我などの被害が無かったのは幸いであった。(下山後に調べると高山市で最大震度4の大きな地震で、槍ヶ岳周辺や涸沢では落石により登山道

が一部崩落したようである)

当初の目的である「短時間睡眠のテント泊」は地震というハプニングにより 200%達成出来た。

22 時に黒部五郎小屋のテント場を出発し上高地を目指す。夜は昼に比べ照り付ける日差しもなく無く快適である。

山の朝は早いので早朝 3 時に出発というのはザラにあったが、さすがに日付をまたぐ前の 22 時出発というのは初めてだった。

道迷いには十分に注意が必要である。走るのはやめた方がよい。

ほぼ満月のタイミングだったので明るいナイトハイクになるかと期待していたが、夜は曇天でヘッドランの明かりだけが頼りとなった。

分岐点でルートを確認しつつ三俣蓮華、双六、縦沢岳と越えて行く。尾根で風に吹かれると一気に体が冷える。

徐々に空が白んできた頃に西鎌尾根の終盤に差し掛かった。所々ザレており滑落の危険を感じた。

槍ヶ岳山荘に着くと多くの人で賑わっていた。核心を越えた私たちはコーラで乾杯をし、カップラーメンで空腹を満たした。

槍ヶ岳山荘から上高地までは危険箇所はなく重力に任せて下るのみである。西鎌尾根までとは違い人が多いので人に注意をしながら駆け下りた。黒部五郎を出発してから 12 時間を超える頃にハンガーノックとなり危なかったが、横尾山荘でうどんを食べて復活した。

徳沢、明神、小梨平の賑わいを横目にゴールの上高地に到着。古賀さんと熱い握手を交わし河童橋で記念撮影。

長い旅も終了した。

風呂で汗を流し、レストランで美味しい飯を食べ、帰りのバスで熟睡。宿題は無事に片付けることが出来、大変満足の山行となった。

古賀さん、ありがとうございました。

今回の 3 つの課題はどうだったかというところ

①上高地まで辿り着くこと・・・○(ほぼ予定通りの行動時間)

②短時間睡眠のテント泊・・・○(地震のおかげで実質約 2.5 時間の睡眠時間だったと思う)

③長時間のナイトハイク・・・○

すべてクリア出来た。特に短時間睡眠とナイトハイクはとてよい経験となった。

ただ夜通しハイクはリスクが高いので通常の登山では「早出早着」の登山計画を基本とすべき。

時間に余裕を持った登山計画を立てるのが基本だと改めて感じる良い山行となった。

↓振り返れば「劔」を指す古賀さん ↓ 槍を目指して駆ける中川

↓気持ちよく駆ける古賀さん

↓気持ちよく駆ける古賀さん

↓秋色に色付着始めた黒部五郎のカール

↓黒部五郎小屋を出発(22 時)

↓闇の双六

↓明るくなりつつある西鎌尾根

↓槍ヶ岳の前で記念撮影



↓槍ヶ岳から一気に駆け下りる古賀さん

↓河童橋で記念撮影

↓ルートログ

【ナイトウォークの有効性について】

寒がりの私には夜歩いて昼間の温かい時間に睡眠をとる計画は有効だと感じた。

加えてシングルウォールのテントは夜露でびしょ濡れになるが、昼間ならびしょ濡れにならない。

さらに言えば昼間ならテントを張る必要すらないかもしれない。

次回縦走の機会があれば昼間に寝て、夜歩く計画を試してみる価値はあると思った。

「暗闇の危険性」と「景色が楽しめない」という点からすると同行してくれるパートナーはかなり限られる(笑)

—記・中川—

【稲子岳南壁左カンテ】21.10.4 (浅田)

【2021 年 10 月 2 日～3 日】

【メンバー】白井、遠山、二橋、浅田

7 月に行った剣岳で八ッ峰六峰 C フェースで、アルペンクライムデビューする予定であった二橋が、体調不良でテントキーパーで終わったので、どこかでデビューさせようと場所を考えていた。2～3 候補があったが以前山形、白木が登った稲子岳南壁左カンテに決めて、立岩やクライミングジムでトレーニング進めた。途中で遠山も加わり 8 月に計画したが、天候不順と緊急事態宣言等の理由で延びていた。9 月末で緊急事態宣言が解除となったので計画を実行した。結果は天候にも恵まれて快適なクライミングが出来た。

10/2

コースタイム 豊川 10時→みどり池駐車場 15時半→しらびそ小屋 17時

豊川を10時に出発し新東名で清水 JC から中部横断自動車道経由で中央道長坂 IC で降りみどり池駐車場へ。

身支度をしてしらびそ小屋へ向けて林道を進む。1時間程で登山道となり傾斜も強くなる。1時間半ほどでしらびそ小屋に着き、テント泊の手続きをして幕営する。

夕食は二橋シェフの料理で満腹となる。

10/3

コースタイム しらびそ小屋出発 6時半→取り付き登攀開始 8時→終了点 10時 15分→しらびそ小屋 11時半～12時→稲子湯 13時 40分～14時半→豊川 18時半

5時起床で朝食を済まし、6時半取り付きへ向かう。

中山峠への登山道を30分程進み、赤テープの目印から右の林の中へ、赤テープを辿り進み苔むした急登を喘ぎながら登り取り付きは着く。

白井、遠山 PT と浅田、二橋 PT に分かれ、早速登攀具を付けて登り出す。

1P目 15m 遠山トップで15m程上あるアンカー目掛けて登り出す。フォロー白井で続く。我々も二橋トップで浅田フォローで登る。

2P目 30m 先行 PT は白井トップで遠山フォローでザイルを伸ばす。

我々は浅田トップでカムと立木でビレーを取りながらアンカーへ。二橋も順調に登ってくる。

3P目 30m 先行 PT は遠山トップでチムニー下のアンカーへ。白井フォローで登る。

我々は浅田トップで登るアンカー手前がざれていて落石に気を遣う。二橋も慎重に登ってくる。

4P目 20m 先行 PT は白井トップでチムニーを登り遠山フォローでテラスへ。

我々は浅田トップでハンガーボルトに導かれてチムニーを登り、二橋を迎える。

ここは左のワイドクラックを登るルートもあるようだ。

背後に天狗岳や硫黄岳の爆裂火口を眺めてのクライマックスへ。



5P目 40m 先行 PT は遠山トップでルートファインディングに苦勞しながら終了点へ。

フォローで白井が続く。

我々は浅田トップで出だしの20mはコンテで行けそう。ここからルートは左と右に分かれているようだが、我々は直登ルートを取り高度感がでる。二橋も気分よく登ってくる。

先行 PT はここで終了としたが、我々はおまけと言われている5m程のワイドクラックを登る。

6P目 10m 最後のピッチは二橋がトップで登り、遠山がミドル、浅田がラストで登り登攀終了。



展望抜群で天気も最高、木々の紅葉も始まり、登り終えた達成感に至りながら暫し休憩し、稲子岳の稜線を赤テープ頼りに中山峠への登山道へ降りる。

私の予定より30分早く11時半にテント場へ着く。テントを撤収してゆっくりと駐車場へ。帰りに稲子湯旅館で汗を流し帰豊した。稲子湯旅館はひなびた温泉宿で再訪したいと思った。

—記・浅田—

(追記)

”最初のトップは遠山さんからね”と白井さんのお言葉。

1 ピッチ目は 15mほどの短いルートですが緊張しながら登りました。

2 ピッチ目で白井さんをビレイ確保していると後ろから”楽しすぎる～”との二橋さんの声、本当に嬉しそうです。5 ピッチ目のトップではルートを右に取り、少し苦戦しながらも何とか抜けきることが出来ました。不安定な石に注意しながらルートファインディングや支点構築・ロープワークなどの難しさを再認識。

初めてのアルパインルートでしたが大変勉強になりました。

浅田さん、白井さんありがとうございました。

—記・遠山—

(追記)

予想してたより残置のハーケンが豊富。各ビレイ点はハンガーがバッチリ打ってあり安心。途中のランニングもハンガーが要所、要所にありました。

正直なところランニングのアンカーは過剰気味。クラックが豊富なので充分ナチュプロで支点取れます。

ロープは結果シングルで充分でした。

久し振りに始めていく岩場でのんびり晴天の秋空の下、気持ちいいクライミングが出来て最高でした。

しらびそ小屋のワンコに会えなくて残念でした。

—記・白井—

(追記)

浅田さんのお気遣いで、夏山合宿クライミングのリベンジに行ってきました。

八ヶ岳稲子岳、おまけを含め、6 ピッチのルートです。

1 ピッチめ。同じくアルパインデビューの遠山さんが、リードをするのを指をくわえて見ていたら、浅田さんから「二橋さんもしますか？」と、ありがたいお言葉。

考えるより先に「はい」と返事をしてしまいました。多少浮いた石はあるものの、安定した岩はフリクションもよくきき登りやすい。ロープへの干渉を極力減らすように支点を作り、アンカー構築。後続パーティーの方にカッコいいと言ってもらい、ご機嫌で浅田さんをビレイ

2、3、4、5 ピッチめは浅田さんのリードをビレイ。立岩と違って、リードの姿を確認できないので、ロープの動きを目と指先で感じとり、ロープ出し。浅田さんの的確なアドバイスで無事に登攀。

おまけの 6 ピッチめ、再びリード。

短いルートでしたが、高度感とカッコいい岩峰のおかげで、とても登っている気分になる。このピッ

チは 3 人で。

無事全ピッチを完登。

クラックやカンテ、チムニーの登り方など教わった基本動作を本番で実践したり、先輩方からムーヴやロープワークのアドバイスを頂いたり、とても楽しくて有意義な登攀になりました。

緊急事態宣言も解除になり、台風一過、気持ち良い秋空の下、眼下に広がる八ヶ岳の紅葉を見ながらのクライミング。最高のコンディションとロケーションで登ることができました。

浅田さんはじめ一緒させていただいた先輩方、いつもトレーニングで面倒みてくださる先輩方、本当に感謝感謝です。これからも宜しくお願いします。

—記・二橋—

【御在所前尾根】21.10.9(二橋)

【2021 年 10 月 9 日】

【メンバー】中川、遠山、二橋

10 月 9 日(土)快晴

前週の稲子岳の後、登りたい衝動が抑えきれなくなり、渋滞を覚悟で御在所前尾根へ。今回も快晴の中、本日のメンバーは 3 名。中川先輩のご指導のもと、前尾根デビューの遠山さん、前尾根 3 ヶ月ぶり 2 回目の二橋。

早朝豊川を出発し駐車場まで。駐車場は少し空いていたが続々と車がやってくる。やはり今日はいぶ混み合いそうだ。

装備チェックをして、出発。

休憩場所の藤内小屋をすぎると、前方に向かうパーティーがいくつも見えていた。

取り付きまで約 1 時間、初めてロープを背負ってのアプローチで滝のように汗が流れ出ていた。

P7、既に 15 人ほど待機しており既に渋滞中。だいたい分かりそうなので、残念ながら巻道を進む。

P6、

リードしてみますか？というお言葉を素直に受け取る。中川先輩にアドバイスを頂き、装備とルート確認。支点を作る場所を確認するが、下からは見えずあらかじめ登攀開始。

脚をおき、手を添え、クラックに爪先を差し込み、身体を引き上げる作業を繰り返す。視界が開け、景色を楽しみながら、登っていく。

傾斜のきついスラブの岩は、一步一手を置くのもとても緊張する。

ちびっ子の私には、とても厳しい段差を、なんとかよじ登り、アンカーを作る。フォローでボディビレイに切り替えて 2 ピッチ目は遠山さんのリード。するりと登っていく遠山さんと中川さんを真似て登っ

てみるが、なかなか岩に重心が移らない。再び岩に張り付き、よじ登ってピッチ終了。

P5、

下部をフリーで登り、リード

登るのは難しくないが、ナチュラルプロテンション、カムを使っての支点作りが課題。効き具合を何度も確認し、ロープをかける。なんとか、終了点まで辿り着き、アンカーを構築、フォローをビレイして終了。

このピッチ、私にとっての核心はここからだった。終了点から、P4 へ向かう途中の岩場は 2M 近く空いているように見える(本当は 1M 弱)岩の切れ間が渡れず、飛びます詐欺を繰り返す。どうしても足が前にでない。見るに見かねた中川先輩が、お助けロープを渡してくれた(涙)。



P4、

ここから渋滞が始まっていた。休憩しながら、前パーティーのルートを見て確認する。2つのパーティーが右左のコースを登っていたが、私達は右ルートを選択。取り付きへ移動。1ピッチ目をそのままリード、2ピッチ目を遠山さんがリード。初見ルートなのに、とても落ち着いて安定している。ここもカムを多く使う。渋滞のおかげで、急がなくてもよかったので、何度も確認しながらセットした。

P3、

1ピッチ目はクラックを頼りに登る。

2ピッチ目、3ヶ月前にチムニーで作った両肘のすり傷を見ながら、リベンジを誓うも、ルートを間違えたようで一番左のルートで高度感と恐怖を味わいリベンジならず。

3ピッチ目、大トリは中川先輩のリード、終了点は難しいアンカーをさらりと作って、ビレイをしてくれた。



体力気力ともに限界のため、今回 P2 ヤグラは見送り。

達成感に浸るよりも、ただただ、ホッとしてランチ。下山開始。

登山道に合流するまで悪路が続く。

登りは体力、下りは技術とよく言われるが、私は本当に下りが下手だ。先輩方の技術と体幹は、本当に惚れ惚れする。お待たせして申し訳ないが、かっこよく歩くことは諦めて、クライムダウンしながら慎重に歩く。

ようやく登山道へ、藤内壁出合いも順調に下り、藤内小屋へ。ご褒美のコーラを頂き、駐車場へ戻る。

秋晴れの空の下、快適なクライミングを楽しみました。リードもさせて頂いたおかげで課題も沢山見つけたので、これからのトレーニングがさらに楽しみになりました。

正直、怖さを感じることもありましたが、多分私よりも、後ろで見守ってくださったお二人の方が、怖かったことと思います。挑戦させてくださって、なによりご一緒させて頂いてありがとうございました。とても楽しい山行でした。頼れる男前の先輩お二人に、感謝です。

—記・二橋—

【子供ボルダリング教室】21.10.10 (浅田)

【2021年10月10日】

【メンバー】河合、高橋、白井、古賀、坂本、中村さ、中川、山形、塩川、鈴木さ、河野、小寺、二橋、井澤、吉中、浅田

昨年はコロナ禍の中、開催を見送りましたが、今年は緊急事態宣言が解除されたので、感染予防対策を取りながら開催しました。45名の元気な子供達が参加されて、ボルダリングを楽しんでくれました。中には10回もトライするタフな子供もいました。

ひょっとするとこの中からオリンピック選手がでるかも。



片付け終了後、会員全員で記念撮影



—記・浅田—

【聖岳登山道整備】21.10.16(河合)

【2021年10月16日～17日】

【メンバー】古賀、遠山、二橋、坂本、河合

(登山道整備の経緯)

昨年の10月30日～11月1日で聖岳に登った。その時に、登山道が荒れていて、100名山でこれは寂しい思い、登山道の整備をしようと思った。

勝手にはできないと思い、まずは、環境省へメールをしたら、OK。林野庁にメールを入れることをアドバイスしていただき、林野庁にメール。回答は、「管理者不在」であった。

それから、地元の飯田市と林野庁の協定を結び整備まで、一年を費やすことになった。また、飯田市の方のアドバイスで、地元の「(一社)南信州山岳文化伝統の会」の方からも登山道整備について打診があることを伝えられ、連絡を取り合い、今回、地元の方と一緒に登山道整備を行うこととなった。

(概要)

10月15日(金)

20時30分、河合家集合、遠山郷道の駅に向かう。途中、天龍村へ抜ける418号線で通行止めでUターンして151号線で遠山郷道の駅に到着。12

時に就寝。

10月16日(土)

7時、芝沢ゲート集合。「(一社)南信州山岳文化伝統の会」のHさん、Sさん、Yさんと合流。ゲートをオープンし、車で便が島へ向かう。途中、弁天岩の橋から約30m行ったところで高さ1mぐらいの岩が道を塞いでいたため、ここから歩くことになった。(この崩落はつい最近のことらしい。)さらに、易老渡の駐車場から約200m行ったところで、巨木のブナが道を塞いでいた。(この崩落もつい最近のことらしい。)

便が島で少し休憩をして、西沢渡に向かう。平地でもSさんとYさんのペースが速い。西沢渡からの登りも、二人のペースについていくのが大変で、ガチなトレーニングになった。

整備をする倒木は、2,100m～薊畑までが多く、そこまでは必死になって登って行った。本日は雨が少し降る天気予報だったのでなんとか今日中に作業を終わらせたいと思って皆必死である。

倒木が出てくると、Sさんと私でチェーンソーで倒木を切る。私は、巨木を切る腕がないのでSさんにお任せする。



Sさん

切った木は皆で片づけをする。何とか全員で力を合わせ、薊畑までの作業を16時に終わることができた。薊畑で集合写真を撮り、雨も降らず作業ができ、皆笑顔である。



薊畑へ到着。

聖平小屋の冬期避難小屋は私たちの貸し切り状態で、他の方は誰もいなかった。早速、水汲みチームと食事チームに分かれて、宴会が始まる。少し落ち着いたところで、交流会が始まり、お互いの会の親交をした。

10月17日(日)

夜は、雨が降ったものの朝は止んでいた。7時50分、避難小屋を出発し、下山を開始。下山は、赤テープを付けながら進む。途中の倒木が整備され綺麗になった場所を通過すると、達成感が湧いてくる。

見逃していた倒木があると、Sさんがチェーンソーで整備。私たちは倒木の片づけをした。

伐採後、豊川山岳会全員で木を移動。せーの！こんぐらいの木なんか。おーーーー！



なんぼのものじゃい！

下山途中で、「(一社)南信州山岳文化伝統の会」のHさんとOさんと合流し一緒に下山。途中、道迷いをしそうな場所に緑色のロープを張ったり、赤テープを付けたりした。

西沢渡～薊畑には途中に顕著な平が現れる。Sさんに教えていただいた話によると、江戸時代の

1718年に直下型の遠山地震が発生し、その時の地震で地滑りがあった。その土(岩)が止まった場所が平らになっている。約300年前の地震だからその時は、植物は生えていないので、巨木は約300年ぐらいだろう。という話であった。

Sさんに樹木について説明していただいた。右側の「トウヒ」は、裏が白く扁平なので、一本の小さな枝を取って、指先で転がしても転がりにくく、左側の「イラモミ」は裏も緑で転がるそうです。どちらも「トウヒ属」だそうです。山と高原地図では、この尾根上に「トウヒの大木の根元」と記載されているものは実は、「トウヒ」ではなく「イラモミ」ではないだろうか？と言われていました。

植物にも地形にも詳しい方でした。

西沢渡に着くと、昔、営林署の宿舎が河の近くにあったという平らな場所を案内していただいた。この場所で、すでに「面平」で実施している、登山レンタルキャンプ場を設置すること。すでに簣の子の上にテントが数張り設置されていた。

話を聞くと、ここの場所は、聖岳に登る起点にされ、初心者の方は2日目は聖平小屋で宿泊されることも計画、ガイドもつくらしい。活動的な内容であった。

西沢渡から便が島への途中でクマがいた。すぐに逃げて行ったが、大人の熊ではないかとSさん。ちょっとびっくりしたが、昨日の夜の親交会では、Sさんはクマを100回以上みているらしい、1回は、こちらに向かってきて、すれ違い遠くに逃げて行ったらしい。その時は、「もう駄目だと思った」らしい。

易老渡の駐車場からは、Hさんが弁天岩の橋の車を停めた場所まで、送っていただき、私は易老渡の駐車場で待っている豊川山岳会の会員を迎えに行った。

帰りは、「(一社)南信州山岳文化伝統の会」の事務所がある、旧木沢小学校へ寄りコーヒーをご馳走になる。その後は、かぐらの湯で汗を流し、平岡駅の龍泉閣で晩御飯を食べて帰った。

「(一社)南信州山岳文化伝統の会」の皆様ありがとうございました。

—記・河合—

【第11回 OB 合宿 立山連峰】21.10.17 (上田)

【2021年10月2日～3日】

【メンバー】上田歳彦、鈴木幸子、小寺和代、日浦裕子、Wakさん(埼玉)、Wat君(千葉)、Ko君(新潟)、N君(東京)、D君(宮城)(上田の大学の友人)、Iさん、Kさん(上田の友人)

昨年の立山連峰のOB合宿が悪天のため中止で、そのリベンジで今年も立山を計画しました。コ

ロナの緊急事態宣言がぎりぎり解除され悩ましい選択でしたが、予定通り実施することとしました。大学の同級生と先輩5名に加え、気象予報士の先輩Iさんとそのご友人、会員3名と11人の賑やかな山行となりました。

10月1日(金)

大型で非常に強い台風16号が関東南岸に接近する中で、関東から扇沢に車乗合で移動するOB4名は、風雨の中三鷹駅に14時集合。宵の口までに順調に信濃大町に着いたとのこと。愛知組6名は19時半に豊川を出発、夜半1時前に立山駅の駐車場にテント泊。一時雨が降ったが登山期間中は晴れの予報のため気持ちは軽くすぐに眠りについた。

10月2日(土)

室堂～雷鳥沢より奥大日岳往復 行動時間:登り2:45 下り2:10

朝5時半起床で6時半には立山駅の改札へ。オンラインでの予約はできなかったが、7:50発の切符を取得できた。新潟・小千谷を未明に出発したKo君も合流し、先ずは立山ケーブルカー7分で立山駅(475m)から美女平(977m)へ。

立山高原バスにスムーズに乗り換え、称名滝を眺め紅葉の弥陀ヶ原や左手の大日岳～奥大日岳の雪に削られた山容、右遠方にどっしりと横たわる薬師岳の眺めを楽しみながらのバス旅。雲やガスも切れてみなさん、お休みすることなく景色を楽しんでいた。

私も大抵は剣岳をめざす緊張感での高原バスで、こんなにのんびりした気持ちで景色を眺めたのは久しぶりの気がした。9:10に室堂ターミナルに到着、15分後には扇沢組も到着し、11名が揃い一安心。9:40にターミナルを出発し、池巡りをし草紅葉やナナカマドの紅葉と立山連峰の雄大な景色を楽しみながら雷鳥沢をめざす。

今日の宿の雷鳥沢ヒュッテで不要な荷物を置かせてもらい、10:50に奥大日岳に向けて出発。

雷鳥沢キャンプ場(2277m)の中を抜け橋を渡り左へ、ゆるやかな斜面を左上し最後登りきると尾根上の新室堂乗越(2385m)へ。

尾根通しに室堂乗越(2360m)まで来るといよいよ剣岳がピラミダルの姿を現す。ここからは登山道は急峻な剣岳側(北面)を避け左側を巻くようにつけられている。Wakさんはリハビリ明けということで2511mカガミタン乗越手前までとし、10人で頂上をめざす。

晴天の中の賑やかな一服は至福のひとつです
右のピークの奥が奥大日岳

途中A4サイズのソーラーパネル4枚をザックに

つけたお兄さんを発見。たくさんバッテリーが必要な機器をお持ちだとか。幸子さんが、それだけ充電機あったら私を負ぶってくれるロボットも持つてのかな？

いつものじゃれ合い(三味線引き)が楽しい(^)/私を負ぶってくださ～い(*^-*)時間切れなら14時にはバックしようと思っていたが、13:35に奥大日岳(2606m)に到着。

みんなで集合写真、楽しそう(^)/。



ガスがかかっていた剣岳も全景、顔を見せてくれた。西面の奥大日からは三角形の峻険な姿が素晴らしい。かつて雪と岩を求めて何度も剣岳をめざしたが、こちらから眺めるのは初めてで新鮮だった。

弥陀ヶ原から室堂、立山連峰の雄大な景色と紅葉を見ながら来たルートを慎重に下る。

また、チングルマの草紅葉と綿毛の群落など、とてもきれいだった。

尾根から雷鳥沢へ下っていくと空が暗くなり終にばらばら霰が降り出し強くなってきた。降りはいないだろうとタカをくくっていたが、下山後天気図を見たら、上空5700mの-12～-15℃というこの時期としては強い寒気が本州・北陸まで南下して大気が不安定になっていた。

カップを着て20分程降られる中を全員無事に雷鳥沢ヒュッテに到着できた。(16:11着)

カップを着たらKo君とオソロ！今年新調したとのこと、気が合うねえ(*^-*)

3階の6人位は入る個室に、3人x3部屋と2人x1部屋に分かれてゆったりと入る。6人位は入れる内湯と3人位は入れる外湯が男女それぞれあって、山でお風呂とはありがたいということで、空を見計らって頂いた。内湯はぬるめで、かけ流しの外湯の方が適温で良かった。

17時半からは一斉に食堂での夕食。間隔を空けて着席し、思い思いの飲み物でいつもより静かに食事とおしゃべりを楽しんだ。その後部屋で小宴会、楽しく交流できて良かった。(20時に就寝) Kさん撮影の冬の星座。空が暗くかなりの等級まで写っている。ありがとうございます！

10月3日(日)

雷鳥沢より大走沢～真砂岳～立山三山～一ノ越～室堂 行動時間:登り大汝山まで 3:40 下り 3:10

朝5時起床、今日も素晴らしい天気。6時に朝食をしっかりと頂き、6:50に出発。雷鳥沢キャンプ場の橋を渡り右へ大走沢方面へ。なだらかな登山道から、真砂岳から左に下っている尾根の取付きをめざす。途中、草紅葉に降りた霜や霜柱に秋の早朝の気配を楽しみながらの登行。

さほど岩がゴロゴロではなく歩きやすく、確実に高度を稼いでいく。傾斜が少しゆるく正面に花崗岩の砂礫の真砂岳を望むと左には別山、右には立山三山、振り返ると昨日登った奥大日岳が美しい。好天ののどかな登行を続け、真砂岳手前で頂上経路ルート組と右にトラバースして頂上パス組にそれぞれ別れて楽しく進む。

(9:12)真砂岳の南側のコルで合流し、岩が切り立つ富士ノ折立への稜線を登る。2999mの頂上に登りきると北にはどっしりと同じ2999mの劔岳、その右には白馬岳から針ノ木岳に伸びる後立山連峰が個性的な山並を連ねている。

更に南方遙か槍穂高連峰、笠ヶ岳など、北アルプスの主な高峰が一望できる。久々の3000mの稜線は賑やかで、大汝山(10:29着 休憩所は9月末で閉鎖)へ。Iさんは100名山96座目でみんなでお祝い(*^-*)



続いて雄山へと岩の稜線を辿る。

リハビリ中のWakさんが今日は別行動で一ノ越経路で雄山まで登って来て落ち合うことができた。確実にご自身のペースを守った登りをされて安心しました。雄山神社と社務所とトイレも開いており、賑やかである。

雄山からは一ノ越山荘を直下に見ながら急な岩の道を慎重に下る。唯一立山に登ったのがキリマンジャロ山行のトレーニングで、1996年の10月の3連休に立山から薬師～槍ヶ岳～燕岳まで単独で歩いた。この時は一ノ越から駆け上り駆け下ったが、

25年後の今はゆっくりと嘸みしめながら下る。

登りが終わって皆さん明るく話をしながらも慎重に下っている。日浦さんは今回は珍しくシングルストックを使って快適そうに登行をしていた。

下りでは安心感があるようだった。一ノ越まで迎ってくれば一安心。大休止(12:33～12:55)で、胸を突くような雄山を振り返った。皆さん雷鳥やーい!と、ひたすら探したが残念ながらまたの機会(;ω;)。でも代わりにホシガラスがきれいな艶やかな羽根を見せてくれた。

途中、日本最古の山小屋「室堂小屋」を訪れた。立山信仰の歴史など興味深かった。

室堂ターミナルに戻り(13:47)、今日のはのんびりと室堂散策としたD君も合流し、みんな集合写真(-)☆



ここで東京組とはお別れ。再会を誓ってバス、トローリーバスへと乗り込み登山口をめざした。

富山組は立山駅から約10分の雄山神社に立ち寄り、苔むした境内の静けさを味わった。

- ◆10/2 奥大日岳往復
- ◆10/3 立山三山周回

<お天気の状況>

登山前日(10/1)、初日(10/2)、2日目(10/3)の天気図から天気状況を記します。

◇10/1

大型で非常に強い台風16号が関東南東岸に最接近し、関東や東北地方南部の沿岸部を中心に強い風雨に見舞われた。その中14時に果敢にも東京組4名はJR三鷹駅に集合、Wat号で無事に信濃大町に着くことができ良かったです。

◇10/2

台風16号から変わった低気圧は三陸沖に進んだが本州付近は等圧線縦じまの冬型とはならず、立山も天気が回復して晴れ間が覗いた。しかし上空5700m(500hPa)のこの時期としては強い-12～-15℃(上の赤線が-15℃ 下が-12℃)という寒気が北陸地方に南下し、大気が不安定となり、奥大日岳からヒュッテに帰着する直前に霰に見舞われた。(10/2 21時の500hPa天気図)

◇10/3

帯状高気圧に広く覆われ安定した晴天となった。2日間とも素晴らしい秋晴れに恵まれ、紅葉の立山連峰を堪能することができた。

<感想:上田>

昨年はコロナが少し落ち着いた10月の計画だったが雨天で中止。今年は新型コロナの第5次感染拡大で実施が危ぶまれたがギリギリのタイミングで緊急事態宣言が解除され実施することとした。コロナ禍でみなさん大なり小なりトレーニング不足のため、室堂の小屋泊りのゆったりコースの設定となった。初日の歩きの調子をみて、自主的に別行動となったお二人も思い思いのペースで楽しまれた様子で何よりでした。普段ならパーティを分けることはめったにしない自分ですが、今回は天気にも恵まれたため、安全にトレースできて本当に良かった(#^.^#) また山で会いましょう!

—記・上田—

【筑波山】21.10.27 (浅田)

【2021年10月23日】

【メンバー】西村、浅田

深田久弥の日本百名山の話が山岳会で出だしたのは6~7年程前からでした。その時私はまだ30数座の登頂でした。ただアルプスは水晶岳を除いて全て登っていた。特に百名山を意識した事はなくガムシャラに登っていた。だから同じ山も季節を変え、ルートを変え何回も登った。特に聖岳は10回以上。剣岳も数回登った。前置きはこのくらいにして本題に入ります。

緊急時事態宣言が解除されて。千葉在住の長女夫婦が新居のマンションへ招待してくれたので夫婦で行って来た。23日の土曜日に以前から懸案であった筑波山に西村さんに案内してもらった。東京駅で待ち合わせをしてつくばエクスプレス、バスと乗り継いで筑波神社の登山口へ。

筑波神社にお参りをして白雲橋コースを登り出す。昨日降った雨の影響で登山道はぬかるむ所や岩が濡れていて滑りやすくなっていた。20分程登ると迎場コースの分岐となる。

我々は白雲橋コースを進む。大きな杉の木が所々にあり陽の光を遮っていて夏でも涼しそうである。想像以上に急な登山道を休憩を取りながら1時間程で弁慶茶屋跡に着く。

母の胎内くぐりを過ぎると登山者の渋滞が始まる。この時点ではこの渋滞の原因は下山する登山者とのすれ違いと思っていた。

ロープウェイの下を通り、通常であれば20分程の所に1.5時間も掛かってやっと女体山の山頂に

着く。そこでこの渋滞の原因が山頂での写真撮影だと分かり複雑な気持ちとなった。

男体山へ行く途中のベンチで遅い昼食を取る。ケーブルカーの駅周辺はハイカーで賑やかだ。

男体山山頂は祠がひっそりと建っていて、我々以外に5名程の登山者がいるだけでした。



下りは御幸ヶ原コースをゆっくり下る。最初は階段が暫く続き、その後滑りやすい岩場となる。時々ケーブルカーの線路の横を下る。

二人とも転ばないようにゆっくりと下り2時間程でバス停に着く。山頂付近の渋滞は予想外であったが、久しぶりに西村さんと楽しい山行でした。

—記・浅田—

【接阻峡温泉~七ツ峰】21.11.13(河合)

【2021年11月13日】

【メンバー】遠山、河合

前に、接阻峡温泉~七ツ峰~天狗石山(今回は、山頂踏まず)~奥大井湖上駅まで歩く計画をしたが、天候が悪く中止となった。今回は、そのリベンジのため計画した。

12日(金)

21時、河合家集合し、長島公園の駐車場23時到着。星空がとてもきれい。23時40分頃就寝。

13日(土)

4時30分起床。支度をして、5時15分駐車場出発。

ヘッドライトを付けて歩き出す。

接阻峡温泉からの登山口

序盤の道のり。明るくなってきた。

落ち葉の上は、歩くのに気持ちがいいが、さすが、深南部、視界はあまりない。

一つ目の鉄塔を通過

二つ目の鉄塔で休憩。結構なペースで進んで

いるので、少しゆとり・・・。

鉄塔から大無間山方面の南側を望む

分岐から七ツ峰への道は、落ち葉の上を気持ちよく進む。

爽快にあるく遠山さん



七ツ峰山頂で記念撮影

山頂から唯一富士山が大きくきれいに見える。他は、木の枝が邪魔をしてきれいに見れない。七ツ峰からの下り。向こうに見えるのは、天狗石山。

ここから、私の両足のふくらはぎの下の筋に異変が・・・。痛みが走り、我慢ができないため、休憩して、テーピングで筋を補強。両足の為、泣きそうになるが、歩くことしか方法がない。登りは、痛みが激しく、足を地面に対して、横に置きながら進む。下りは、我慢できる痛さでよかったが・・・。ここからが長い。

途中の益田山を通過。

あまりにも痛いので、遠山さんのストックを借りて、4足歩行。益田山から下った1268mの分岐。

やっとの思いで、天狗石山との分岐に到着。天狗石山は行く気もなく、すぐに下山。奥大井川湖上駅を目指す。

分岐からの下りで、愛知県山岳連盟の事務をしてくださっている、Sさんたち約15名とすれ違う。Sさんも私を見てわかってくれたようで、一言二言会話をします。

奥大井湖上駅に到着すると、そこは人の多い観光地。コロナはどっかに行ってしまった雰囲気、人、人、人であった。

電車は行ってしまったばかりで、次の電車まで1時間弱の余裕があり付近を散策。(歩いて長島

公園駐車場へ行くこともできるが、電車に乗ることも今回の目標の一つ)

昭和レトロを感じる車内は横揺れあり、騒音ありでこれもまた楽しい。

切符は、手書き。どんな客にも対応可能。

接阻峡温泉駅到着。たった一駅でしたが、楽しい思い出でした。

深南部は、静かで私にピッタリ。キラキラは全くないですが、人を気にせず楽しめます。

—記・河合—

(追記)

今回の企画は観光山行です。

- 1、秋の紅葉
- 2、秘境駅で有名な奥大井湖上駅
- 3、スイス山岳鉄道で使われているアプト式列車に乗る
- 4、接阻峡温泉でヌルヌルの温泉に入る

山行ルートは深南部前衛の里山らしくとても静かです。

一方、奥大井湖上駅は人で溢れて、おしゃれなカフェまでありました。

レトロでガタゴトと揺れる小さな列車に揺られて、いつもとは違う雰囲気を楽しみました。

いつもは地味な深南部、少しはキラキラ感が出たでしょうか？

—記・遠山—

【赤城山、上州武尊山、浅間山】21.11.13(上田)

【年月日】2021年11月13日～15日

【メンバー】上田歳彦(赤城山のみ他3名)

新型コロナ感染が小康状態となり、積雪期を前に未踏の百名山の中で北関東・東信州の6座の内、好天が予想されたため3座に登りに出かけることとした。

11月12日(金)

20:30に自宅を出て新東名、圏央道、関越道経由で渋川ICで降りて、赤城山南麓の道の駅ふじみに午前1時過ぎに到着。走行は402km。

横浜からの息子夫婦は既に到着し仮眠を取っていた。テントを張ってそそくさと寝袋に潜り込む。

11月13日(土)

6:30に起床。快晴の中でテントを撤収し、息子夫婦と合流し支度をして私の車に同乗し、赤城公園ビジターセンターに向けて出発。

8時前に駐車場に着くと新潟・小千谷から朝移動してきたK君と合流。支度をして大沼東岸の歩

道を黒檜山(赤城山最高峰)の登山口へ。

20分余りで登山口に到着し、樹林の中の急登をゆっくりと登る。振り返ると大沼が静かに水をたたえて美しい。登山3回目というお嫁さんは岩の道をゆっくりと登ります。

9:56に黒檜山に到着。真っ青な空の下、みんなパチリ！笑顔がとてもいいです(^_-)☆



遠くには富士山、南アルプス、中央アルプス、明後日登る浅間山がすっきりと見渡せた。上越国境の山々は冬型のため少し雲に覆われている。

黒檜山を後に気持ちの良い縦走路を駒ヶ岳に向かう。駒ヶ岳に11:16に到着。鍋でラーメンを作り、みんなで温まる。中国の方らしいグループも逆コースを大勢登って楽しんでいる。

ここからは鉄の階段などを大沼を眺めながらの急降下。ビジターセンターに12:46に到着し、展示を少し見てK君とはここで解散。またオンライン飲み会などやりましょう！

息子夫婦とは道の駅ふじみで、産直品のお買い物やスナックなどを楽しんで、ここで解散とした。今年からスタートした息子夫婦は友人との高尾山へのトレッキングなどに行ったとのこと。これからも登山など二人で楽しみを持ってくればと思う。

道の駅ふじみからの夕景の赤城山私は車で少し仮眠し次の上州武尊山の麓、道の駅川場田園プラザへ移動。テント泊として、手持ちの食料で夕飯を作り一杯やって寝袋へ。上弦から少し太った月がきれいだった。

11月14日(日)

5:30に起床。少し雲が出ていて冷え込みはさほどではない。支度をして武尊山の南西面の川場スキー場をめざす。スキー場手前の高手新道登山口(標高1130m)を6:47出発。

ややピークを過ぎた紅葉の静かな森の道を早めのペースでひたすらたどる。黄金に色づいた唐松や白樺が美しい登山道。川場スキー場のリフトが尾根に上がってきて、雪の季節を待っている。

西峰(1871m 9:16)まで登ると剣ヶ峰山(2020m)が立派に見える。下りでは雪が少し溶け残っている。

剣ヶ峰山に10:00に到着。武尊山までの縦走路が見渡せいい感じ。下りが雪で凍っていきそうなので、単独でもあるので念のためアイゼンを着ける。途中、雪も消えたためアイゼンを外し、本峰への最後の登り。頂上に11:13到着。前後して登ってきた葛飾・亀有在住の若者に手伝ってもらい、百名山89座登頂のお祝い(^)/



前日K君にもらった新潟限定のカレーラーメンで温まる。

武尊山からの剣ヶ峰山 アップダウンの山稜が美しい展望は思いのまま、谷川岳から巻機山、至仏山が近く印象的だった。

谷川岳の東面、左からマチガ沢、一ノ倉沢、幽ノ沢、至仏山

巻機山東を見ると日光白根山、皇海山、南に赤城山がしっかり望めた。

赤城山1時間程の大休止の後、来た道に戻る。アップダウンを繰り返して剣ヶ峰山で最後の展望を楽しむ。

落葉したダケカンバが美しい

なだらかで美しい笹原の道 南には赤城山気持ち良く歩きやすい樹林の道を下り、登山口に15:26着。往復16Kmの静かな登山道をのんびり楽しむことができた。

今日は小諸の素泊まりゲストハウス青雲館を予約したので、そちらに向かう。古民家を利用した青雲館、内湯もあるが車で数分にある「あぐりの湯こもろ」のタダ券を頂きお風呂をゆっくり楽しむ。部屋は6畳の間で、暖房と暖かい布団で熟睡できた。

11月15日(月)

5時に起床し、宿を出て浅間山の南東面、天狗温泉をめざす。浅間山荘前の駐車場に停め、6:37に出発。現在はレベル1 前掛山をめざす鳥居をめぐり火山性の赤茶けた蛇堀川沿いに辿ると一の鳥

居、不動滝、二の鳥居と過ぎ、右側に牙山(ぎっぱやま)を見ながら美しい疎林の道を上がると火山館(浅間神社)に 8:21 に到着。休憩の後すぐに黒斑山(くろふやま)への道を分ける湯ノ平分岐。ここはすごく気分のいい所。

次に第3外輪山への分岐、賽の河原。

前掛山を望む

黒斑山

前掛山の北斜面を斜めに登っていく疎林から第2外輪 前掛山への上りは木々もなくなり火山景観の中を左斜めに登っていく。日陰に入ると風が冷たいがほどなく避難壕が2棟ある外輪山の一角に着き、本峰と前掛山の雄大な火山地形が広がる。本峰からはゆっくりと噴煙も上がっていた。

前掛山から噴煙を上げる浅間山

四阿山

外輪の緩やかな尾根をたどり 10:07 に前掛山(2524m)に到着。前後して登った広島から来た若者や、地元佐久の女子パーティと写真を取り合いながら90座登頂をお祝いし大休止。



頂上からは絶景で、八ヶ岳の向うの冠雪した南アルプス北部の山々や北アルプスの山並を楽しんだ。

遠景は北アルプス

遠景は中央アルプス 手前は牙山

北面の山々 左から四阿山、草津白根山

関東山地の向こうに富士山

佐久盆地

中景は妙義山第3外輪山のJバンド一周も魅力的だが、またの楽しみにして同ルート为天狗温泉

まで戻った。13:14着。

第3外輪山のJバンド 左へ迎ると黒斑山
浅間山荘

小諸からの浅間山(右)帰りは小諸から主にR142沿いに立科町から岡谷市に抜けて中央道に入って帰宅した。3日間の走行距離は920km。

◆山に出向けるありがたさ

ここ4年間ほどは家族の健康の関係で山に向かう機会が減っていた中で、コロナ禍の追い打ち。その中でようやく秋になって感染が小康状態になって好天の中で上州と信州の百名山を楽しむことができました。

今回で区切りの90座となり、残りは北から、十勝岳、羊蹄山、八甲田山、八幡平、那須岳、皇海山、草津白根山、水晶岳、伯耆大山、霧島山。乗りかかった舟なので何回かの遠出をしてできればここ3年位で登りたいと思うが、いくつかの気になる山はより魅力的なルートや季節に計画したいとも思います。

家族や実家、町内の用事など週末の自由時間は限られていますが、山に出向けるのはありがたいことです。またもう少しトレーニングをしてクラブのメンバーとの雪や沢の山行にも参加できたらと思います。

◆山行期間中の天気状況

11/13 11/14 11/15 の地上天気図では北日本は冬型であるものの、今回の対象の山では移動性高気圧に覆われ好天に恵まれました。11/23からの寒波の前の秋山を楽しむことができました。

—記・上田—

【IZU TRAIL journey 後半試走】21.11.15(古賀)

【2021年11月13日】

【メンバー】L 古賀、坂本、M氏(古賀友人)

<工程と時間>

5:00 豊川P集合 車で修善寺駅へ

7:15 修善寺駅

8:15 修善寺駅から東海バス始発「河津駅行」に乗車

9:05 天城峠バス停 下車

9:10 天城峠口よりトレイル開始(伊豆山稜線歩道)

11:35 猫越岳

12:20 仁科峠

12:50 風早峠

13:20 魂ノ山

14:30 南無妙峠

14:10 土肥峠

15:55 伽藍山
 16:30 達磨山
 16:55 戸田峠
 17:20 高原レストハウス
 18:45 修善寺虹の郷 トレイル終了(タクシーで修善寺駅へ)
 19:10 修善寺駅 P

< 装備の注意事項 >

- ※水場無し(達磨山高原レストハウスにトイレ&自販機あり)
- ※秋以降は時期や天候によっては防寒対策が必要
- ※ヘッドライトは必需品

< 山行の感想と情報 >

2021年12月12日(日)IZU TRAIL journey 70k 初エントリーしその試走が目的で、レース後半の絶景コースを選びました。

噂には聞いていたがこれほどの絶景とは想像していませんでした。

風も無く程よく気温が低かったこの日は発汗も少なく水分補給も抑えられ絶好のトレラン日和でした。

実際にレースにエントリーしているのは筆者(古賀)と友人のM氏だが、会トレラン部の坂本さんが参戦してくれる事になりました。

最も辛くなる後半部のコースイメージもつかめ、間違いなくナイトトレイルの経験も増やせ、いいトレーニングになりました。

- 猫越山以降の眺望が最高
- 伊豆山稜線歩道は岩場も無く安全
- 秋から冬にかけては随所でモフモフランニングが楽しめる
- 修善寺駅周辺はコインパーキングが多々あり
- 修善寺からのバスは本数が少ないため 8:15 始発乗車必須
- 紅葉時期の修善寺周辺は大渋滞になるらしい

(タクシー情報)

来年も是非この時期に計画したいと思います。
 いい汗かいた後の温泉、更には焼き肉&ビールは天国でした。(私はノンアルコールですが・・・)

< 11月13日(土) >

- 7:15 修善寺駅最寄りのコインPに駐車
- ・修善寺駅に最も近いパーキングに停められた(ラッキー1)
 - ・東海バス「河津駅行」に乗車
 - ・バスは満員状態でした

- ・天城峠で下車
- ・トレッキングの起点なのかバスの乗客はここで全員降りました
- ・いきなりの急登 走れません
- ・ゆるくなったら走り出す
- ・ところどころ色付き始めています
- ・モフモフロード
- ・絶好の天気(ラッキー2)



仁科峠 絶景です

- ・大会当日はここが最後のエイド
- ・この絶景(ラッキー3)
- ・伊豆の街が見えてきました
- ・虹の郷のバス停にたどり着くも時すでに遅し
- ・虹の郷に1台のタクシーが入る・・・大きな期待
- ・修善寺駅までのタクシー確保!!(ラッキー4)
- ・駐車場に到着
- ・駐車場から2分で温泉村(ラッキー5)
- ・温泉から2分で焼き肉屋(ラッキー6)
- ・しかも大変美味しかった(ラッキー7)
- ・来月の大会後も来る予感がした

一記・古賀一

【鬼ヶ牙】21.11.20(浅田)

【2021年11月20日】

【メンバー】遠山、白井、塩川、二橋、浅田

遠山がユーチューブで見て興味を持ったという鬼ヶ牙の岩場へ行って来た。

豊川を7時に出たが湾岸高速が工事中の為、30分程渋滞につかまり鈴鹿石水溪キャンプ場に10時少し前に着く。

身支度をして林道を15分程進み、赤テープを見て右に5分で取り付きに着く。既に4名2パーティーのクライマーが取り付いた。大きく左右の岩場に分かれていて、我々はまず右側の岩場に取り付く。

塩川、白井PTが先行し、浅田、遠山、二橋は2番手となる。

1P 目塩川トップで優しいスラブを 40mで終了点へ、フォローで白井が続く。

続いて浅田トップで 3 本ある真ん中のルートで 40m で終了点へ。遠山、二橋がフォローで続く。

塩川、白井 PT は 2P 目 20mに塩川がトップで登る。このルートの核心でハングを超えてスラブが続く。

塩川果敢にフリーでトライするが、厳しいムーブで古いリングボルトを使い A0 で乗越し上部スラブも慎重に登り終了点へ。続く白井もフリーでトライするがやはり A0 となり終了点へ。3P 目も順調に進み懸垂 2 回で取り付きへ戻る。



浅田PTは 1P 目の終了点から懸垂で問付きへ戻り、TP で遠山、二橋がスラブの練習で登る。その後ランチタイムとする。ランチ休憩後浅田トップで今度は左側のルートを終了点へ、



フォローで遠山、二橋が続く。2P 目浅田トップで右側のボルトが連打されているハングにトライするが、フリーでは無理で A0 となり強引に乗越し。続クスラブを緊張しながら終了点へ。

2 番手の遠山はアブミを使いハングを越え、テンションが入りながらも終了点へ。

3 番手の二橋もやはりアブミを使いハングを越えて終了点へ。二人とも初めてのアブミクライミングで登れて満足そうである。振り返ると紅葉の山と高速道路、霞んで伊勢湾が望まれた。満足しながら

懸垂 2P で取り付きへ戻る。



白井、塩川 PT は左側の岩場を 2P 登り降りてきた。

白井が下降の途中 1P 目を TP にしてくれたので、遠山、二橋、浅田はスラブの練習で登り終了とした。

久しぶりのスラブと初めての岩場で、新鮮さと緊張が交錯した楽しい岩登りでした。まだ多くのルートがあるようなので再訪したいと思いながら紅葉の綺麗な鬼ヶ牙を後にした。

—記・浅田—

(追記)

行ってみたいと思っていた鬼ヶ牙に行けました。右側岩場の 1 ピッチ目は緩いスラブで初心者の練習にも最適です。

2 ピッチ目の人工ルートでは初のアブミに挑戦。ヌンチャクを掴みながらも何とか終了点までたどり着けました。

実際の岩場に来ると自分のレベルでは難しい所ばかりでしたが、とても楽しいクライミングになりました。練習を重ねて全ピッチを登り、山頂まで抜けれるようにしたいと思います。

—記・遠山—

【瑞浪:恵那 笠置山】21.11.27(小野)

【年月日】2021 年 11 月 27 日～28 日

【メンバー】小野、塩川、Hさん(笠置山)

いつもお世話になっている岩場の清掃活動に参加してきました。

前は白井さんのチェーンソーが活躍したが、今回は器材がないので、シャベルを借りて排水路に堆積した土砂の撤去でした。

この作業は毎回あるようなので、次回はシャベルも持参ですね。

約 2 時間ほど作業して、清掃活動は終了。

現在は鳳来近くの民泊をされている、金沢時代

の知り合いと数年ぶりに再開し、話し込んでしまった。

その後も何人かと話したりしてると、いつの間にか昼を過ぎていた。

重い腰をあげてクライミング。最近できた新しいルートで、スラブ課題と凹角課題がある。自分はスラブは前回来て登ったので、今回はプアプロテクション気味な凹角のステミングルートに挑戦。



前回、隣のルートのボルトを使い登ってたので、大丈夫だろうと思い取り付いたが、リードになると緊張感が違う。墜落到耐えてくれるかあやしいカムに祈りながら半泣きで一步一步体をあげていき、なんとか完登。いい課題だ！と言えるのは登れたからである。

その後は塩川君とSさんとワイドクラックの「ナルトとサスケ」と「リバーズ」を登る。

塩川君も新しく覚えたワイドテクニックを使い、スムーズに登っていた。

帰りに初めて牛ひつまぶしの「みわ屋」に寄ったが、人気の店だけあってとても美味しゅうございました。

12月28日(日)

恵那、笠置山

2日目は豊橋のHさんと合流して恵那の笠置山でクライミング。

ボルダリングばかりしていた時は毎週のように来ていたが、トラッドにハマってからはあまり来なくなりました。とはいえ、クラックの課題も含めリードのルートもある。

まずは3人で笠置山レイバックに取り付いた。自分は以前登っていたが、OSTライより手間取ってしまった。

2人もテンションかけたりしながらトップアウト。フィンガーからワイド(レイバック)ない課題。

そして以前来た時に気になり、その後の梅雨時期に掃除しておいたルート。

いくつかあるリードのルートの中で、おそらく誰も見向きもしてないだろうワイドクラックだ。

まさかこんなところにルーフワイドがあったとは！と見た時は大喜びであった。

いざトライすると、案外あっさり終わってしまった。ルーフ部分がもっと大きかったら、さらに楽しめたかな。

とりあえず笠置には珍しいだろうスクイーズチムニーサイズのルートです。

塩川君もトップロープでトライの後、RP。

Hさんも無事トップロープでトップアウト。

最後に低いクラックルートとワイドボルダーをさわって終了した。

笠置山に来てワイドしか登らず帰るパーティーはなかなかいないだろうと思いつつ笠置山をあとにした。

—記・小野—

【寸又三山 沢口山】21.11.28(原田)

【2021年11月28日】

【メンバー】浅田、遠山、白井、日浦、原田

有名な夢の吊り橋のある寸又峡温泉から行ける寸又三山(沢口山、朝日岳、前黒法師岳)のひとつ、沢口山へ行ってきました。

猿並平登山口～沢口山～日向山登山口の周回コースでレッツゴー！

寸又峡温泉駐車場を7時10分スタート。

駐車場から約5分程温泉街を歩き猿並平コース登山口へ向かいます。

観光地ですがしっかり登山のコース説明や道標あり。猿並平登山口。

キレイに間伐された緩い登りや急な登りを登ります。紅葉はほぼ終わっており落ち葉でモフモフ&滑りやすい登山道でした。

展望台から雪化粧し始めた富士山がキレイに見えます。

9時45分に富士見平分岐に到着。ここで日向山登山コースと合流。

緩いアップダウンを繰り返し10時25分に沢口山山頂到着。展望が良く山頂は広くて数パーティーがのんびり思い思いに休憩してました。

富士山もキレイに見えます。



目の前には朝日岳も。

雪の南アルプスがちらりと見え、どこの山かみんな話合い中。

浅田さんがおしるこを用意してくれておしるこを飲みながら富士山を眺める贅沢なひととき。

20分程休憩し下山開始。

11時20分富士見平分岐到着。帰りは日向山登山口を目指して下山。

猿並平コースより急峻な登山道です。落ち葉で滑りやすく慎重に歩く。

途中でお昼休憩を挟み12時55分日向山登山口到着。

さて登山は終わり～

次は観光へレッツゴー！

荷物をデポし夢の吊り橋へ。紅葉も終わりかけで空いてるだろうと思ったら意外と観光客が多くて一方通行の順番待ち。

夢の吊り橋を渡る～♪

揺れる揺れる～でも楽しい～♪

ここでケータイ落としたら一貫の終わり…でも写真は撮りたい！

吊り橋を渡り終え周回して温泉街へ。

さて、夢の吊り橋のお次の楽しみは温泉！🔥

少し硫黄の香りがする&湯の花が舞うお風呂を満喫。

登山と観光と温泉を楽しむ贅沢な山行でした。

登山の後にのんびり観光と温泉を楽しむ山行もいいな～と思い帰路につきました。

—記・原田—

【鳳来 ハイカラ岩】21.12.12(中村さ)

【年月日】2021年12月12日

【メンバー】中村さ 他2名

鳳来でフリークライミングをしてきました。

久しぶりに成果があったのでブログを書きます。写真はありません。

【アクシデントウルフ 13b RP】

7日間程トライをしたと思います。よりよいホールディングを追求し、ムーブを練り上げ、少しずつ高度を上げ、ワンテン地獄に陥る恐怖を乗り越え今日RPしました。こんなにも通って悩んでRPした課題はありませんでした。

最後の核心を超え、残りの終了点までの3ピンはヴィクトリーロードで余韻に浸りながら今までの苦労を思い出しながら1手1手噛みしめて登る予定が、強烈なパンプでギリギリ過ぎて両脇が全開になりながら登りました…。

終了点にクリップして終わった達成感と終わっちゃった虚無感が時間差で襲ってくるような感じで不思議な感覚でした。

アクシデントウルフの一連のムーブは一生覚えていると思います…。

お付き合いくださった皆様ありがとうございました。



—記・中村—

【雪上訓練:千畳敷】21.12.12(上田)

【2021年12月12日】

【メンバー】浅田俊夫 河合芳尚 白井良岳 遠山泰広 梅田るみ 樋口洋平(入会予定) 上田歳彦

冬山シーズンのスタートにあたり、基本技術の確認と冬山の状況(寒さ、風、雪)への馴れを目的に、今年の雪上訓練は常連メンバーに加え初参加の梅田さん(旧姓原田さん)、今回お試し山行の樋口さんのフレッシュなメンバーの参加となった。

12月11日(土)

市役所に20時に集合し、河合君宅集合者3名を加えて、治部坂峠越えのいつものルートで、23

時に駒ヶ根の菅の台に到着。今回参加の樋口さんへのエールで、賑やかな一杯会となった。

12月12日(日)

7時に起床。いいお天気で例年並みの冷え込み。8:15 始発のしらび平雪のバスは、丁度1台分のお客さんで例年のような混雑ではなかった。

ロープウェーからは雲海に浮かぶ南アルプスも望めた。

左から、北岳、間ノ岳、農鳥岳、富士山、塩見岳
左から鋸、甲斐駒、仙丈

9時過ぎに千畳敷駅に到着。冬山装備一式、ハーネスなどを装着し、ロープウェー頂上駅前で白井リーダーの本日の行動説明。風もなく暖かい。

サギダルの頭の左の斜面から極楽平の稜線を目指すことになった。素晴らしい晴天で宝剣岳をはじめとした千畳敷カールを囲む山々が素晴らしいが、稜線には雪煙が舞い風が強いことを告げている。

先ずはトレースの無い場所で雪質のチェック。



スコップで垂直に雪を切り出して、軟らかい雪の層、堅い層をチェック雪の断面の弱層のチェックとブロックの切り出しから雪崩リスクの観察。東斜面の今回は吹き溜まりで積雪60cm程度。積雪深30~40cmの所に弱層を確認できた。脅威となるような不安定な弱層では無いことから予定通りの行動とした。

結構の力で円柱のブロックを引っ張るとスライドして平らできれいな雪面が現れるトレースが無い沢状の斜面を選び、ラッセルを交代しながら高度を上げる。まだ青空!



稜線にガスが近づいてきたなあ(*_*);
梅田さん、樋口君もラッセルに果敢にチャレンジ!

今回はひざ下までのラッセルで、足だけを使って踏み固めながらの登行だった。雪の深さや傾斜によってはピッケルを持った腕、膝で雪を足元に書き落としそれを踏み固めながらステップを作りながら前進。

チームで効率良い登行にトライすることになる。地形や直近の日射や風により雪質は大きく変化する。

何よりも降雪直後の雪崩リスクのある斜面に踏み込まないこと。自分達の技量に合わせ、なるべく踏みこまないルートどりをするのもスピードを上げるには大事だ。

稜線近くなると稜線にガスがかかり、天候の変化を告げている。

皆で島田娘の稜線に上がると既に展望は無く、12~15m/秒の強風が吹いており、耐風姿勢のトレーニング。みるみる視界が悪くなり風が強まったため、リーダーの判断でロープを出して、来た道を慎重に下降する。

1ピッチ目は稜線の鉄棒を支点に懸垂下降



2ピッチ目は河合君の確保でバックステップで下降する樋口君。他のメンバーもバックステップで慎重に下降する。

プチ冬山を味わえて楽しい(^_^)/

無事に急斜面を下降し、満足そうな樋口君(*^~*)完全にホワイトアウトとなり足元の雪面の状

態、トレースもわかりにくくなり、白井リーダー先頭でロープウェー頂上駅まで下降する。しばらく休憩していると駅周辺も強風の大荒れの天気となる。外での行動は無理と判断し喫茶でビーコンの使い方の解説。

強風によるロープウェー停止の恐れもあるため 13:55 の便で降りることにした。

滑落停止など予定したメニューは天候急変でまたの機会となりましたが、稜線からの強風とホワイトアウトの中での下降はいいトレーニングになりました。これからどんどん冬山に行く人もベテランも、山を甘く見ることなく安全に楽しく登りたいものです。

個人的にもコロナなどで会のメンバーとの山行が少ない 1 年でしたが、今回は楽しくトレーニングできて良かったです。

<お天気の状況>

◇登山前日の 12/11 は本州南の移動性高気圧に緩やかに覆われたため、中央アルプスでも安定した晴天がだった。

12/12 は日本海北部に発生した低気圧と寒気を伴う気圧の谷の影響で、中央アルプスでも昼前から影響が出始め、急激に稜線がガスに巻かれ、低気圧の接近で南寄りの強風が入ったことで、昼頃からは東側斜面の千畳敷でも強風となった。

天気図は、12/11 18 時、12/12 9 時、12 時、15 時、山行の翌日 12/13 9 時の北日本中心の冬型の地上天気図。

— 記・上田 —

【仙丈ヶ岳・地蔵尾根】21.12.28(白井)

【2021 年 12 月 28 日～30 日】

【メンバー】L.白井、樋口

今年の登り収めに仙丈ヶ岳へ登るルートの地蔵尾根へ行ってきました。

一度登ってみたいコースであり、ちょうど年末の雪上訓練より参加して入会してくれた樋口君と登る事となった。

彼はまだまだ雪山の経験も浅いが、若く体力もありそうで今後が楽しみな好青年？である。

28 日は仕事納めで、20 時に新城市の我が家に集合して出発する。

今年の年末は順調に寒波が訪れいて、昨年より積雪があると予想された。

また年越し寒波も予報されていて、できたら 30 日に登頂して下山するつもりで前夜泊の一泊二日で日程を組む。

29 日

柏木登山口 7:10—松峰山荘付近 12:50—2200m
テント場 14:00

前泊した道の駅より移動して柏木の登山口に 6 時半頃到着。

すでに車が 4 台止まっていて、ラッセルは無いと確信。天気は上場で晴れている、がその分寒い。-7 度ほどであった。

身支度をして出発。林道を何度か跨いでのぼる、とても歩きやすい。

途中の林道から中央アルプスが一望できる場所があり絶景を堪能できた。

その後も林道を歩くこともあるが、おおむね緩やかな登山道を登る。標識もしっかりしていて迷う事もない。

少し風が出てくると寒く、脱いでいたオーバージャケットを着て登る。

林道終点より傾斜がきつくなるが、すでにトレースは出来ているのでさほど苦労はしない。久しぶりのザックの重みをかみしめながら、一步一步進める。

途中には唐松林の間から甲斐駒岳や鋸岳の尾根、仙丈ヶ岳を望むことができた。やはり甲斐駒ヶ岳は壮言でカッコいいですね。

仙丈ヶ岳をゆったりとした落ち着きのある女帝と行ったところか。やはり静かな銀世界の雪山を登るのはいいですね。

柏木の駐車場

孝行猿

林道に合流(樋口君)

中央アルプスの絶景が見渡せた

唐松林に行く(白井)

お昼を過ぎ地蔵岳の急な登山道を登っていると、比較的若い男女が下ってきた。

聞くと「登頂は出来たが風が強く、初めてダウンを着て登りました。」と言った返事。

予想はしていたが相当風が強いらしい。

松峰山荘がる尾根付近は風が抜けるのか雪が飛ばされて凍り付いていた。

自分達は風が強まることを予想して、比較的風当たりが少ない地蔵岳手前の 2200m 付近にテントを張ることにした。

テントを張り、水作りなどをしていると、3 人 PT とソロの方が降りてきた。

どちらとも風が強く撤退してきたそう。外はいつの間にか雪が時折舞っていた。

鍋を作り酒飲んで気持ちよく 19 時ごろ就寝する。天気が良ければ 3 時ごろ起床してアタックしようと考えていた。

しかし、夜中にゴウゴウと強風が吹きすさぶ。幸

いそれを予想してテントを建てたので、テント場は問題ないが、こりゃ明日は駄目だなど思い眠りに再びついた。

テント場の整地

30日

テント場 8:00-丸山谷ノ頭過ぎ 9:30-テント場
10:30 撤収して下山 11:10-柏木登山口 15:15

昨夜の強風のせいですっかり寝坊してしまい 6時過ぎに目が覚める。

それでも、もう少し登る事にして準備して 8 時ごろ出発する。

天気はガズガスで視界は悪い、思ったより風が無い。

出発して樋口君が行動食をテントに忘れてきたことに気が付く。

昨日のトレースはどこどころ消えていた。1 時間半ほど歩き丸山谷ノ頭を過ぎた辺りで撤退とする。

その後、「たぶん無理でしょうけど行ってみますと。」中年 3 人組 PT が登って行った。

彼らは松峰山荘に泊まり本日登ってきたそうだ。

彼らを見送り下山する。テントを撤収して山を下りる。



急登を登る樋口

下山途中の林道、時折日差しが刺す

柏木集落に到着

時折雲間から光が刺すが、ほとんど小雪交じりの下山であった。

今回は女帝のおひざ元にも及ばなかったですが、また 3 月頃登りに来たいと思いました。

すっかりこの登りやすい尾根が気に入りました。帰りに高遠の「桜の湯」(JAF 割引で 450 円)により帰宅。

登頂は出来ませんでしたでしたが楽しい雪山を堪能できました。

—記・白井—

【薬師岳(鳳凰山)】21.12.29(河合)

【2021年12月29日~30日】

【メンバー】上田、遠山、河合、他2名

【概要】

昨年の冬は、遠山さんと二人で越百山へ 1 泊 2 日。今年は、上田さん、岩瀬さん(今年の春合宿も一緒に行くことができました。)、徳島山岳連盟会長の原さん(私が若い時に国体で一緒だった徳島県青年女子の監督)と一緒に山行することができ、5 名で冬合宿を楽しむことができた。

原さんは、年末の大雪が心配で、愛知入りしたのは 25 日の夜。翌日の 26 日は、岩瀬さんと愛知県の寧比曾岳に登られたとか。その後は、ゆっくり過ごされ、29 日朝、夜叉神峠で合流。

29 日は、夜叉神峠~南御室小屋まで。30 日は朝 7 時 30 分出発し、薬師岳に向かうも、樹林から稜線に出たとたんに強風で、砂や氷の粒が顔に当たり心が折れ「砂払」少し手前で記念写真を撮って帰った。

(タイムテーブル)

29日

夜叉神峠登山口 6:25~夜叉神峠 8:00~杖立峠 10:00~苺平 12:20~南御室小屋 12:50 度

30日

南御室小屋 7:30~砂払岳 9:15~南御室小屋 10:40~苺平 11:30~杖立峠 12:30~夜叉神峠 13:30~夜叉神峠登山口 14:00

(山行内容)

28日

仕事終わりで 20 時 30 分、河合家に集合し夜叉神峠へ向かう。岩瀬さんと原さんはすでに山梨県入りし、ビジネスホテルで宴会。私たちも新城 IC~白根 IC まで高速で行くため夜叉神峠まで約 3 時間程度で到着。夜は冷え込むが一酔して就寝。

29日

5 時起床し、朝食を食べ、ゆっくり身支度をしていると、岩瀬さんと原さんが見えて合流。警察の方が入山の状況を確認されていて登山届を提出。午後は風が強いとアドバイスをいただく。

暗闇の中夜叉神峠登山口から出発

段々明るくなってきた

朝の 1 ピッチ目は早めに小休止。体調を確認し夜叉神峠へ向かう

少しずつ雪もでてきた

天気も良く、南アルプスが一望できる。天気の良

い時は、ここでテントを張って宴会をするのも気持ちがよさそう

杖立峠に向かう途中に富士山もはっきり見えた。朝方、上空にはレンズ雲も見えたため上空は強風が吹いているようだ。気温は-9度。

段々、雪深くなってきた。途中でポーズ。

葎平で最後の休憩。

南御室小屋は閉鎖されていた。今回は、営業していたが、コロナの影響だろうか？

我が家のダンロップ V6 テント。雪がサラサラで中々固まらなかった。

今回の最大の目的の親睦会。久しぶりに昔の団体の話しやなんやら…。楽しいひと時でした。夜7時頃就寝。

30日

朝、5時起床。夜は強風で上空がうなっていたが、日の出頃はテント場は風が収まっていた。少しゆっくりして、明るくなるのを待ち、7時30分出発し薬師岳に向かう。

樹林帯の中は、風が少ない。単独の方がラッセルをしてくれた。その後を進む。

樹林の中は、雪は結構、積もっていた



砂払で記念撮影。眼鏡なしでは氷の粒(砂)が目に入り、痛くてまいました。

強風に心が折れ、本日の最高到達点とし、下山を決める。

テント場に戻ってきて一安心。帰りは、夜叉神峠駐車場まで下るのみである。

今年の冬合宿は、岩瀬さんと原さんが加わっていただき、久しぶりに会えた喜びも重なり、テント内

の宴会で目的を果たせた気がした。また一緒に行きましょう。

—記・河合一

【藤原岳】22.1. 8(浅田)

【2022年1月8日】

【メンバー】浅田、吉中、二橋、樋口、他1名

当初の予定は伊吹山であったが、数日前に雪崩事故があったので大事を取り藤原岳に変更してヒップソリを楽しんで来ました。

豊川を朝7時に出発し藤原岳の観光用の駐車場へ9時少し前に着く。既に駐車時用は満車状態であったが何とか駐車出来た。身支度をして大貝戸登山口へ向かう。先日降った雪が道路の両側に除雪されていた。何回も冬の藤原岳に来ているが、ここから雪があるのは初めてだ。

登山届を出して登り出す。3合目、4合目と登っていく雪道ではあるが、まだシャーベット状なのでアイゼンは着けず行く。6合目辺りから雪の状態が変わってきたが、8合目までツボ足で行き8合目でアイゼンを着ける。

ここから冬季ルートで9合目へと急登を進む。九合目の稜線からは四日市の街並みや伊勢湾まで眺められる。

風はほとんどなく汗ばむなか藤原山荘に着く。山荘の中へは入らず陽だまりで昼食とする。天気が良いので登山者も多い。昼食後山頂へと向かうが女性陣はザックをデポしヒップソリを持って山頂へ。

山頂からの展望は良く、竜ヶ岳、御在所岳、鎌ヶ岳へと続く鈴鹿の山々、振り返ると御岳、中央アルプス、薄っすらと北ア、八ヶ岳、南アが見える。



いよいよ下りはヒップソリにトライ。スピードが出るとコントロールが難しく、転びながら雪まみれになり子供のように楽しむ。

雪と戯れて山荘に戻りお汁粉を食べて往路を下山した。登山口にある足洗い場で靴とアイゼンを

洗い帰豊した。

—記・浅田—

【城山クライミング】21.12.30(山形)

【2021年12月30～31日,2022年1月8～9日】

【メンバー】山形、他1名

夏の沢の印象が強烈過ぎるので最近どうも冬山にガツガツ行こうという感じにならない。

ならばフリーに打ち込むシーズンにしようかと思いい年末年始は城山に行ってきました。

パートナーは最近よくご一緒させて頂く岐阜ケルンのHさんと同世代の沢屋です。

共に沢好きでこれまたお互い3歳の子供がいるという共通点もあっていかに家族円満で山に行くかという議論が絶えない。

さて、城山は冬でも登れる貴重な岩場です。豊橋からだとも2時間半程度で意外と近い。年末年始で行った計4日間のうち2日間は南壁エリア、2日間はチューブロックエリアに行ってきました。

12/30

東南壁の適当なルートでアップしてお目当ての「フレンチドレッシング」5.11cへ。既に何回か取り付いておりムーブは固まっていたので後は繋げるだけ。ハング越えのデットムーブとそこから先の数手が悪いが何とかその日の3便目でRP。相方も問題なくRP。むしろ2週間前に南壁最難の「おててつないで」5.12cをRPしてました。強い人とご一緒させて頂くと勉強になります。ありがたや。

後はブラウンシュガーを登って終了とする。



城山はご飯食べに行けるところも近く助かります。魚が本当に美味しいです。風呂がどこも高いのは難点ですが…。

翌日の12/31も冷え込みが予想されたので南壁へ。

同様に東南壁の適当なルートでアップしました。こちらはメインエリアと比較して落石の心配がありません。時折風が吹くと寒いですがそれ以外は問題ない。私の今日の狙いは「サティスファクション」5.11dである。昨日、強そうなおじさんが登っているのを横目で見て面白そうだなと思っていたルートです。

山形がヌン掛けを兼ねて初便を出す。核心を越えるのに時間が掛かり時折テンション混じりでトップアウトする。しかしムーブは作れた。私にとってはフレンチドレッシングより体感登りやすい。何とか今日中に落として良い年末を迎えたい。得意系な事もあって2便目でRP出来ました。パートナーも仲良く2便目で安定のRP、さすがです。

まだ時間があつたので見た目からして苦手な分類に入る被り&ボルダーチックな「ハンドバイス」11d/12aを触ることに。パートナーにヌン掛けして下さいと先に取り付けてもらおう。あれよあれよとMOSしてしまう。何でそんなに強いんですか。笑

私はやはり苦手課題でトップアウト出来ず。この日はこれで終了としました。結果が出て非常に満足な年末となりましたー。

1/8

3連休のうち最初の2日を利用してまたもや城山へ。お互いに家族との交渉便を前腕張りながらも何とかRPしてきた。

南壁はほぼやる課題が無くなってきたのでチューブロックへ。アプローチは南壁より時間かかりますが同じく暖かいエリアです。私の狙いのルートを5.12aのドロンパもしくは小春日和と決めてアップに入る。三連休初日で結構混んでおり相方が「レイマン」5.10bをMOS、私はフラッシュ。ちょうど隣がお目当ての「小春日和」5.12aだったためヌン掛けしながら降りる。

この日はその後ずっとこのルートを触りムーブ解析するが結局トップアウト出来ず。相方はトップアウト。夕飯食いながらYouTube先生にベストクリップポジションを教わる。これぞ現代クライミングです笑

1/9

2日目、相方は5.11aでアップとし私は5.8と5.9で入念に体を暖めた。その後、お互いに小春日和に取り付く。YouTube先生のおかげでムーブが固まった。相方も完成していたムーブを色々と微調整。

さあ本気トライとそれぞれ何便か出すが共にワンテン地獄から抜け出せない…。身体がフレッシュな

らいけそうな気がするがさすがにヨレて体がバキバキのボロボロでした。悔しい、悔し過ぎる…。お互いに宿題として城山を後にした。早くまた行きたいです。しばらく城山通いが続きそうだ。

—記・山形—

【竜ヶ岳】日時 22.1.16(記 S)

【2022年1月16日】

【メンバー】浅田、白井、小野、吉中、樋口、S、他1名

毎週のように寒波がはいり、週末は晴れ続き。昨年末から毎週のように雪山ハイクを楽しむ。今週も、前々日の金曜日は珍しく豊川・豊橋でも雪が積もり、週末の雪山に期待が膨らむ。

豊川7時集合で鈴鹿へ。途中、高速道路から見える鈴鹿の山々が真っ白！麓の町も雪景色。山頂のみ薄い雲がかかっているが、青空も広がっており、まずまずのお天気で期待が膨らむ。

9時10分登山開始、スタートからきれいな雪道。

10:30 ごろに稜線出るまで風もなくずっと青空。ここまで暖かく快適登山。

ただ一つ気がかりなのは、これから行く山頂だけがずっと雲の中、そして聞こえてくる強風の音。

山頂アタック手前の最後の風よけスポットで、風よけと対策と軽い腹ごしらえ。そうこうしていると、御池岳から転身してきた白井と小野が追いつき合流。御池の登山口までの道路が雪深く、竜ヶ岳に転身してきたとのこと。覚悟を決めて強風のなか山頂へ進む。

山頂目前に雲が全部流れて青空が広がる。何度来てもテンションあがる、いつもの綺麗な竜ヶ岳の稜線の景色が広がる。

ゆっくり360度景色が広がる山頂を堪能する。

下山途中の樹氷ゾーンで、山頂と稜線を見ながら、ポカポカの中でゆっくりお昼ご飯。最高のひと時。



下山はおのおのスノーシューを楽しんだりしつ

つ、遠足尾根を下る。

下山は15:30、ゆっくり沢山写真も撮れた、天気に味方された登山だった。

来週も鈴鹿 or どこかの雪山かな。今年は鈴鹿も雪が多くて登山が楽しい。

—記・S—

【善五郎の滝】22.1.23(夏目)

【2022年1月22日～23日】

【メンバー】L.夏目、白井、古賀、原田

22日の夜に長篠駅に集合し梅田さんの新車号で乗鞍へ向け出発。

23時過ぎに乗鞍スキー場駐車場に到着し、雪面にテントを張りしばし宴会の後就寝。夜中-16℃まで下がった事もあり着込んだつもりでも寒くて寝れなかったです。

翌朝は、善五郎の滝まで徒歩5分と言う事もあり6時30起床後8時前にスタート準備。

既に1パーティー取り付いてて、すぐ後から別のパーティーも到着賑やかなゲレンデとなる。

スキー場からの観光客も多く入れ替わる観衆の中、緊張のクライミングのスタート？

右岸は氷がスケスケで水量が見えてエロチックで官能的でした。

一番端にある左岸の小滝をアップで夏目がリードしトップロープを掛けて交代で登り楽しむ

梅田さんは、今回が初アイスと言う事で道具もないのでアイゼンは手持ちの平爪で古賀さんのクオークを借りて登るが足が震えていたが自慢の体力もあり無事に登りきりました。さすがです！

古賀さん・白井さんが登る中、まだ下手っぴな自分が梅田さんにアックスの打ち方やアドバイス後、再登してもらおうが明らかに成長できていて今後のアイス部員のリードできる人が増えそうで期待！

はもずし以来で2年ぶりのアイスとなる古賀さんも余裕で模擬リードでき次回は、リードデビューが楽しみとなりました。

毎シーズン凍らない右岸のスケスケのすぐ横を夏目がリードするが、落口が不安で簡単な左のラインに登りトップロープを掛け交代で楽しんだ後にロープを抜き白井リーダーが簡単そうに直登し実力の差を見せる。さすが永遠の兄貴であります！

古賀さん・梅田さんも何回かトライし確実に成長できた山行となり忘れていた集合写真を撮って頂き近くの乗鞍温泉に浸かり古賀さんイチオシのツルヤスーパーへ行って林檎かりんとうを4人して爆買い食べながらの帰宅となり大変満足できた1日となりました！



—記・夏目—

(追記)

夏に沢登りで落っこちて肘を痛めた事もあり、コロナ過で家で薪ストーブの前で愛犬のギンジ君を撫でながら一杯飲むのが幸せな日々を過ごして来たため。

「もう、あんな寒い所でわざわざオツかない凍った滝を登る酔狂なことしなくてもいいなあ。」なんて思っていたのですが、今までに行ったことのないゲレンデに夏目君が行くと言うので、アイゼンのさび落としに何となく自分も連れて行って貰いました。

行ってみればやっぱりアイスは面白い。

スキーと同じで一度覚えた感覚はすぐに劣化しないですね。シーズン初めで多少用心しましたが、すぐに感覚がもどりました。

夏目君も古賀さんも以前より安定して登れてると思いました。

るみちゃんも初めてにしては登れていて凄い！

アイスクライミングはある程度のグレイドまでは登った数だけ確実に上手くなっていきますね。

アイスクライミングは他のクライミングとは違った感覚で楽しいですね。

是非とも今シーズンはもう少しアイスクライミングを楽しもうかなと思います。

—記・白井—

【富士見台高原】22.1.23(遠山)

【2022年1月23日】

【メンバー】浅田、S、谷崎(会友)、遠山

浅田さん企画の雪山ハイク第3弾として富士見台高原へ行ってきました。

富士見台高原は恵那山の隣に位置する山で富士見台と名前がついているのですが富士山は見えません。名前の由来は富士山信仰のあった遙拝所があったことからつけられたそうです。

メンバーは浅田さん、Sくん、谷崎さん(会友)、遠山の4名。

コースは神坂神社から緩やかな登りの続くブナコースを通り萬岳荘経由で富士見台高原山頂へ。

下りはピストンで急勾配のカラマツコースを通る歩行約5時間半のコースとなっています。

天気予報では“午前中晴れ、昼過ぎから曇り”の予報でしたが山頂手前から雪がちらつく天気となりました。

市役所7時集合、国道153号を通り神坂神社に9:30頃到着。

ここで各務ヶ原から来た谷崎さんと合流、身支度を整え9時50分から登り始めます。神坂神社横を通り、ツボ足で緩やかな勾配の続くブナコースを進みます。

所々、雪で滑りやすい所はありますがアイゼンを履くほどではありません。

暫く樹林帯を歩いていくと右手には南アルプスの山々が見えます。

くもり空ですが高層雲なので展望はあります。

同じような景色の樹林帯歩きに飽きてきた頃、萬岳荘に到着。

冬季は閉鎖していて中には入れません。

浅田さんから“昼食は温かい鍋かうどんが食べたい”とのリクエストに応じて昼食は“具だくさんのうどん”です。山荘横のテーブル席を拝借して腹ごしらえ。

具だくさんでうどんが見えません。

腹ごしらえをして山行再開です。

山荘から山頂まで40分ほどですが雪も増えて稜線歩きになるので各々アイゼンやチェーンスパイクをつけます。

歩き始めて少しすると雪がちらつくようになりました。

稜線に出ると約7~8mほどの風が吹きつけていますが、広がる雪原をSくんや谷崎さんは楽しんでいるようです。

途中、かわいらしい避難小屋もあります。

雪もそこそこあるようで途中には大きな雪庇が張り出していました。

小さなピークを超えて山頂に到着。

天候が良ければ北・中央・南アルプスなど大パノラマが見えるはずですが、今回は、展望はありません。



撮影もそこそこにすぐに下山します。

下山開始が 14 時 17 分で予定より遅かったので山荘にも寄りません。

雪もパラパラと降り続いており、直線ルートのカラマツコースを選択して下山しました。

富士見台高原は天気良ければ、北・中央・南アルプスの展望も望め、手頃でおすすめの場所です。次は晴れた日に S くんおすすめの南沢山と富士見台高原の縦走コースを歩きたいと思います。

— 記・遠山 —

【鈴鹿、釈迦ヶ岳】22.1.29(梅田)

【2022 年 1 月 29 日】

【メンバー】L 高橋、上田、A さん、二橋、梅田(原田)

鈴鹿 7 マウンテンのひとつ、冬の釈迦ヶ岳に行ってきました。

今回のルートは朝明溪谷駐車場→南尾根登山道→釈迦ヶ岳→猫岳→羽鳥峰(ハト峰)→朝明溪谷駐車場の周回コースです。

朝明溪谷駐車場にはトイレがあり安心。すぐ近くの登山道からスタート。全ての登山道で道標がしっかりあります。

南尾根登山道は急峻な痩せ尾根と聞いてましたが最初から急峻です。

高橋リーダーは(たぶん？いや絶対？)女性陣のためにペースダウンで歩いてくれてると思いますが早い早い！

二橋さんと一生懸命ついていきます。

途中で幻想的な樹氷の世界～

雪とガレ場の道が登場！なんかカッコいい！

釈迦ヶ岳到着！



あいにくの曇り空ですが伊勢平野や伊勢湾が見え展望が良く山頂付近は開けているので数パーティーが昼休憩をしていました。

我々もここで昼休憩。

さて、次は猫岳目指してレッツゴー！！愛猫家

の私は猫岳の看板の写真を撮りたくてワクワクソワソワ(笑)

猫岳に向かう途中で開けた雪原に出ました。

高橋さんと私でアイゼンつけたまま走る！

そして人文字で大の字(高橋)影の役(梅田)で遊ぶ。

後から影になるには私の頭が逆だと指摘され…そこまで思いつかなんだ！！でも楽しい写真が撮れたからヨシとしましょう。

そして猫岳岳到着したものの何の看板も道標もなくテンションダウン。記念の撮影もせず次の羽鳥峰へ。

羽鳥峰に向かう途中にガレ場があり雰囲気抜群！羽鳥峰到着～

ここにはちゃんと看板があり記念撮影。

ハト峰にちなんで鳥のポーズ～(笑)



後でどんな鳥になったか聞くとみんなバラバラで笑える！

後は下るのみ～

羽鳥峰でアイゼンを外したため滑りながらの下山。林道を少し歩き駐車場に戻ってきました。

あいにくの曇り空でしたが、急峻な痩せ尾根、日本庭園みたいな岩の場所、樹氷の森、雪原、ガレ場と変化に富んだ登山道ですごく楽しい周回コースでした。

— 記・梅田 —

(追記)

残念ながら浅田さんは不参加になってしまいましたが、浅田さんの雪山山行第四弾として企画された山行に便乗して行って来ました。

朝明溪谷駐車場から中尾根登山道を登り釈迦ヶ岳を経て猫岳・ハト峰を周回するコース。中尾根は地形図を見る限り痩せ尾根で且つ急峻で厳しそう感じ。ちなみに樋口君のおすすめコースだそう

です。

朝明溪谷駐車場は結構車が停まっている。雪掻きもしてあるけれど大半は雪に埋もれている。ノーマルタイヤでは駐車箇所が限られてくるので注意が必要である。駐車場で身支度を済ませ中尾根・庵座谷登山道へ。

小尾根を乗越し庵座谷右岸に降りる。ここで登山道は二手に分かれる。我々は中尾根へ行くので庵座谷を渡渉し左岸へ渡る。暫くすると小屋がありその手前で中尾根の支尾根に取り付く。支尾根を登りきり中尾根に取り付く。

尾根は痩せてはいるがしっかりとした登山道が整備されており歩き易い。着雪はまばらである。アイゼン・ピッケルは暫くは出番がなさそうである。快適に高度をかせぐ。天気が良ければ眺めもいいんだらうけどあいにくの曇天。時折太陽は顔を見せるが…。

段々と積雪が深くなり、この先急登が待ち構えているのは分かっているので早めにアイゼンを装着する。

歩き始めてしばらくして高橋のアイゼンが外れる。おやっ、なんかおかしいな。って、バンドが切れてるじゃん。

樹脂製品って見た目は大丈夫でも突然パキッてなったりするから怖いね。もしもの時の為に補修道具は必要だね。

バンドの回し方を工夫して無事装着出来ました。

970m岩峰は直登出来ず左側を巻く。積雪が多い時はラッセルがきつそうです。今回はトレースが付いているので楽々。

残り 50m程の急登を登ると松尾尾根に合流する。松尾尾根も痩せ尾根で左側の庵座谷源頭部のガレが荒々しい。ここまですれば釈迦ヶ岳最高点は目の前である。

更に北進し登山道分岐を通り越して釈迦ヶ岳三角点を目指す。しばし展望を楽しんだあと風を避けて登山道分岐付近の樹林帯で昼食とする。



昼食を済ませ一路猫岳を目指す。しっかりとトレ

ースがありトレースを追う。

1080 小ピークを過ぎたところで沢筋に付けられたトレースに引っ張られてしまうが間違いに気付いて目的の尾根にトラバースする。

猫岳を過ぎたところで梅田が雪に大の字に寝転んで遊んでいると遠くから写真を撮っている二橋からいろいろ注文が。一体何がしたいんだ？後から聞いたがどうやら人文字で犬の字を造りたかったらしい。猫岳なのに…。

猫岳からハト峰までは樹林の下りとなる。トレースはしっかりついているからいいがくねくねと曲がりくねった尾根筋を外さないように注意深く進む。

ハト峰なのでハトのポーズで写真を撮る。でもハト峰って鳩峰じゃなくて羽鳥峰って書くんだよね。ハト峰峠から駐車場に下る。この先積雪は多いが軟雪なのでアイゼンを外してぐんぐん下る。登山靴のエッジを効かせれば滑らないのだが…。

一記・高橋一

【御池岳】22.1.30(白井)

【2022年1月29日～30日】

【メンバー】L.白井、樋口

2週間前に小野君と今回のT字尾根から御池岳を目指しましたが、寒波到来のすぐ後であった為予想外の積雪で登山を諦め、竜ヶ岳へ轉身しました。

今回は前回より積雪も落ち着いていると予想はしましたが、トレースがあるかどうか解らないのであるべく早く出発したいと思い麓近くまで行き前夜泊しました。

30日

車を君ヶ畑集落に停めて6時40分頃歩き出す。未だに日陰の家屋の屋根には1m近くの雪が乗っかっています。

三重県側からこちらの滋賀県側へ来るとグット積雪が多くなり雪国って感じです。

林道を歩き出し100mほど歩いてすぐにツボ足だと疲れるのでワカンを装着する。結局ここで付けたワカンは一日中着けっぱなしで、帰りにここに戻ってくるまで付けて歩いてました。

小俣谷への分岐。無雪期は駐車場があるらしい。

先日ぐらいにスノーシューで歩かれたトレースが付いてましたが、ワカン無だとツボ足になります。

御池川沿いに林道を歩き登山道取り付きまで2時間近くかかりました。

ここからTの字の左端目指して急登を登ります。最初はヒノキなどの植林帯ですが、尾根上部にな

ると広葉樹林帯となりいい雰囲気です。

T 字尾根にあがると気温が大分下がる。御池岳方面は綺麗な樹氷で覆われ真っ白だ。

天気は曇りだが時折陽が指す。気持ちのいい T 字尾根を歩き、テーブルランドへ突き上げる最後の尾根は急傾斜もあって大変だ。

テーブルランドでは幻想的な雰囲気を漂わせ美しかったです。

T 字尾根へ上がる。

お御池岳方面は真っ白だ

テーブルランドへ上がる最後のラッセル

ここまできると三重県側からの登山者がチラホラと見える。しかし、真っ白な雪原はほんとに綺麗でした。苦勞してこないと見れない御褒美ですね。

頂上ではほとんど風が無く、落ち着いてカップラーメンを食べれました。

帰りはボタンプチ経由で戻ります。ボタンプチからは琵琶湖が望めました。

同ルートを下降してげざんしました。最初は土倉岳経由での下山も考えました、時間も体力も余裕がありませんでした。

君ヶ畑の集落に戻ったのは 16 時をを回っていました。

久しぶりの雪山で 10 時間行動は疲れました。

31 日は自分の誕生日で 50 歳となります。全く年齢は意識してませんが、さすがに 30 代と同じ体力はありません。

トレーニングしないといけないなあ〜っと思いつながら毎日酒飲んで幸せな日々です。

テーブルランド到着。幻想的。



頂上にて

カップラーメンを食べて幸せな樋口
ボタンプチから琵琶湖が見えました
車を停めさせてもらった君ヶ畑集落

—記・白井—

【高嶺山】22.2.13(浅田)

【2022 年 2 月 12 日】

【メンバー】浅田、吉中、S 君

雪山ハイク第 4 弾として平谷にある高嶺山へ行

って来ました。高嶺山は春と秋合わせて 3 回登っているが雪の季節は初めてである。

先日雪が降ったので期待しながら豊川を 7 時に出発、ひまわりの湯駐車場へ 9 時少し過ぎに着き身支度をして出発する。

20 分程で登山口に着き、雪道となった樹林帯の中を登って行く。

薄雲が掛かっていたが青空に変わっていきテンションも上がる。

登山道の積雪は 50 cm 程から高度が増すごとに増えてきたが、初登者のラッセルのお陰でしっかりとトレースが出来ていた。

林道を 3 回横切り長者峰に着く。ここからの展望は抜群で南アルプス全山や、茶臼山から明神山の奥三河の山々、正面には大川入山が見える。

長者峰にあるガラス張りのドームの中で昼食を取り高嶺山へ向かう。吉中さんは持参したスノーシューを履き楽しんでいる。

S 君は意外と長いねと言いながら動画を撮影しながら登って来た。山頂で写真を撮り長者峰は引き返す。



ドームに戻りお汁粉で素晴らしい景色に乾杯し往路を下った。

—記・浅田—

【蛇峠山】22.2.20(河合)

【2022 年 2 月 20 日】

【メンバー】浅田、遠山、吉中、樋口、河合

当初、天気が悪い予報だったが、急遽天候の回復が見込まれたため、来週行く予定だった「蛇峠山」に行った。

朝 8 時、市役所集合、河合家でピックアップしてもらい、治部坂スキー場へ。

駐車場からのアスファルト道は、除雪され雪はないが、何故か「わかん」？進め。元気よく。

天気も良く、最初の登りは暑いぐらいの気温。

途中の斜面。トレースから外れると雪にハマる。

途中の林道に出た付近。雪がしっかりある
「馬の背」到着。小休憩をするが、天気も良く開放感が満載。

「馬の背」で大川入山方面を振り返る

馬の背を少し過ぎたところに、電子基準点(三角点の電子版)があった。全国に約 1300 か所設置されていて、三角点の代わりになっている。実物を見るのは、初めてだった。

稜線に出たところで風が強くなり服を一枚着て進む

鉄塔が見えてきた。あと少し。

頂上へ到着。



初めての「蛇峠山」で記念撮影。

山頂には展望台があり周辺を見渡すが、天気は雪模様で何も見えない。

暫くすると風も出てきたため、ツェルトを張る。やはり、寒い中でのカップ麺はおいしい。

下山開始。寒いので、ちゃっちゃと降りる。

そそくさ…。ちゃっちゃと…。寒ぶ。

頂上から鉄塔のところまで下ると、さっきまでの風がうそのようだった。展望広場へ行き見えないアルプスを偲ぶ。

下りは快適に下ったので、頂上から 1 時間半ぐらいで駐車場へ到着。

何十年ぶりかで、「わかん」をつけた。そうそう、こんな感じ？って楽しく歩けたが、吉中さんのスノーシューが輝いて見えたのは気のせいだろうか？

来週は、どこに行こう？

— 記・河合 —

【南沢山】2022.2. 27(遠山)

【2022 年 2 月 27 日】

【メンバー】浅田、河合、遠山

浅田さん提案の雪山ハイク第 6 弾として阿智セブンサミットの南沢山へ行ってきました。

ルートはふるさと村自然園の登山口から南沢山を往復する 7.3km の道のりです。朝 7 時に豊川市

役所集合、7 時 30 分河合さん宅へ合流。3 人で目的地となるふるさと村自然園へ向かいます。朝方は晴れ間が広がっていましたが目的地に近づくにつれ曇り空が・・・

ふるさと村自然園に着く頃にはパラパラと雪がチラついておりました。

駐車場にはすでに 10 台ほどの車で一杯、身支度を整えて出発します。

駐車場横の登山口から登り始めます。

自分は最初からチェーンスパイクを装着、お二人はツボ足です。

樹林帯の緩い上り斜面を歩きます。トレースはしっかりついていきます。

斜面が急になって来たので河合さんはアイゼンを装着、浅田さんはツボ足で頑張ります。

本人曰く、ツボ足で歩くトレーニングだそうです。

少しづつ天候は回復に向かうはずが雪と風が強くなってきました。

”おかしいな〜”と言いながら防寒対策をします。2 時間ほど歩き樹林帯を抜けました。山頂は雪とガスで覆われています。

快晴ならキレイに見えるであろう樹氷。

山頂で記念撮影、横川山方面を見てみますがトレースがはっきりしません。

展望もないので急ぎ下山を開始します。



下山の途中から晴れ間が見えてきました、ちょっとタイミングが遅いかな。

あいにくの天候でしたが南沢山は標高 1,564m の低山ながら雪山らしい山でした。

先週に引き続き阿智セブンサミット、自分は残すは「網掛山」「高鳥屋山」の 2 つです。

— 記・遠山 —

【南沢山】22.2.28(梅田(原田))

【2022 年 2 月 28 日】

【メンバー】梅田(原田)

阿智 7summits のひとつ、南沢山へ行って来ました。

今日は暖くなる予報。南沢尾根登山口に 8 時過ぎ到着。すでに 7 台程車があった。8 時半過ぎにスタート。

積雪は結構あるが土日に入った人達のおかげでしっかりトレースがあるので歩きやすい。チェーンスパイクで進む。

青空で気持ちがいい！青空と雪の白さのコントラストが素敵。

途中で抜かさせもらったご夫婦と少し会話。『お〇さん歩くの早いねえ』ん？お兄さん？お姉さん？どっちで言った？？疑問はさておき気持ちよく進む。

山頂到着！

追い越したご夫婦も到着し写真を撮ってもらう。

『あれ、お姉さんだっただね。ごめんね～』

疑問解決！！やっぱ男だと思われてました(笑) いいんです、ソフト坊主な髪型なので間違えてもしょうないです(笑)



皆は横川山へ向かったので山頂貸し切り～

今年は寅年なので愛猫家の私は猫だるまを作ってみました。30 分かけて作ったけれど不格好…

風もなく暖かかったので 1 時間程のんびりまったり昼休憩。

下山も同じルートで下ります。

圧雪されていて走れそうだなと登りの時に思っていたので帰りは走って下山。1 時間で登山口に戻ってきました。

256 号に向かう帰り道で、ノーマルタイヤの車が凍った道のためスタックして斜めに雪に突っ込んでました。下山帰りの人達で救出。

登山の装備も大切ですが、特に冬山は車の装備も大切だなと実感しました。

— 記・梅田 —

【銚子ヶ口】22.2.26 (A)

【2022.2.26】高橋(リーダー)、梅田、A 君(記)

朝 6 時に音羽を出発、8 時過ぎについた頃には駐車場はほぼ満車。というのもこの日は鮎・岩魚釣

りの解禁日ということもあり、沢山の釣り師が来られていました。今回は読図練習も兼ねて余り登山客も入らないルートで登るため、我々のような登山客は珍しいようでした。

勿論トレースは無く読図練習には嬉しいですが、想定以上雪が深く更にこの日は気温も上がり湿った雪が重たい。その結果、読図する余裕もなく、浸すらラッセルが続く大変な登山となる。

登山口までの長い林道から既にラッセルが始まり梅田と私 A はへトへト。

体力お化けの高橋リーダーが終始先頭でトレースつけてくれますが、それでもワカン履いた後者も何度も腰まで踏み抜きなかなか進まない。



3つのピークを踏む周回コース予定でしたが、最初のピーク手前で既にお昼の時間、当初の予定は諦め、せめてピークを眺望出来るところまでは行こうと重たい足を前に進める。

この辺から樹氷の森が現れ、夕陽気味のオレンジ色の太陽の日も差し込み、絶景を見ることができました。

そしてピークまで標高もう 100m のところで眺望と稜線の景色を確認し、あとは腰高さまで埋まる新雪の急斜面を一気に下り、16 時半頃には下山ができました。

— 記・A —

(追記)

今回、読図の練習を兼ねてバリエーションルートで銚子ヶ口を目指す予定でしたが予想以上の雪のため重要な所だけ教えていただきました。

登山前に地形図からルートファインディングし、イメージして望みましたが雪山になると目標物などますます見つけにくく苦戦しました。

深い雪に苦しみました。ワカンの歩き方、ラッセル、深雪の歩き方など勉強になり、キツくも楽しい

充実した山行でした。

最初から最後までラッセルしてくださったリーダーに尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。

—記・梅田—

【明神山】22.3.6(河合)

【2021年3月6日】

【メンバー】遠山、河合

蛇峠山、南沢山、今回の明神山と3週連続となる山行へ行ってきた。

コースは、砥沢～北西尾根(馬の背)～明神の肩～明神山～西尾根～砥沢の周回コース。今回で、このコースは2回目。前はブログを書かなかったのだから今回はこのコースを紹介。

8時、河合宅集合、砥沢を8時55分出発。

駐車スペースは2台+1台は無理やりOK?

林道から登山口へ(実は間違えて少し林道を歩いてしまった。2回目だとあまり地図を見ない・・・。

反省1)

元気な遠山さん

帰りは、この西尾根を下る(左奥が明神山)

西尾根下部

馬の背岩

馬の背岩(後ろは明神山)

山頂手前は雪模様、寒いのでさっさと登る。



風が冷たいので、さっさと記念撮影

頂上からの風景。冬型の気圧配置で、強風で上空の雪が落ちてきたのか、少し舞っていた。

展望台では、寒いので昼食を食べようという気にはならず、電波塔まで移動した。

電波塔の南側で風をよけて昼食。カップラーメンが寒い時の定番。とてもおいしかった。

明神の肩の分岐から西尾根(完全なバリエーシ

ョンルート)に入る。前は、地図を見ながら注意深く進むも今回は地図を見ず、いけいけで下る。途中で遠山さんから「道が違う」と教えてもらい、現在位置確認。「ぼちっ」(今回はヤママップ先生を頼ってみた。)

西尾根を忠実に辿ることができず、明神の肩の分岐から約150m下った所の尾根分岐を南側に下ってしまったらしい。一先ずすぐ下の林道に出てから、林道を歩き、軌道修正し事なきを得た。

(やっぱり、地図は見ないとダメだな。反省2)

西尾根は地図の崖マークがある尾根分岐を南西に歩く。ここからが、核心。道も悪く、赤テープを頼りに下る。途中、崖もあるため注意が必要。

林道まであと15分ぐらいの所に分かりづらい所があったのを覚えていたので、家からロープを持参し、今回は安全策+ルート表示の意味合いでロープを設置した。

ロープを設置。下は崖になっていて危険。

このコースは一般的な明神山ルートと比べると歩行時間も短く景観も楽しめます。但し、西尾根は激下りで足場も悪くルートも不明瞭です。

崖になっている危ない下りの場所には河合さんがロープを掛けてルート整備。

昨年の聖岳登山整備に行ってから悪路があると整備したくなるようです。

”これで少しは安心ですね!”と声を掛け合うも、いったい年間何人がこのコース使うんだろうと笑いながら帰路に付きました。

—記・遠山—

【赤岳鉱泉アイスクャンディー】22.3.9(梅田)

【2022年3月9日～10日】

【メンバー】夏目、梅田(原田)

今シーズン最後?のアイスクライミングに赤岳鉱泉のアイスクャンディーへ夏目師匠と行ってきました。

今週の暖かさでチェーンなしで赤岳山荘まで行く事ができました。駐車場にはチェーンつけてる車とつけてない車が半分ずつぐらいでした。備えあって憂いなし。

赤岳山荘で駐車料金を支払いスタート!

最初は林道歩きです。

登山道へ入ります。

鉱泉という名前通り沢の色が赤茶色でした。鉄分が多めの模様。

雪山テント泊とアイスクライミング用の装備なので久しぶりの重量に梅田は2時間の優しい道のりでへろへろに...そして両足にマメができてど痛い...

後から師匠に軽量化の工夫をいろいろ教えてもらいました。



12 時ぐらいに赤岳鉱泉の山小屋に到着。

今日は 2 パーティーが登っていました。土日は激混みですが平日のため空いていました。

アイスクャンディーの利用時間が 9 時(受付は 8 時半～)～16 時のためテント設営などすると時間的に短時間しか登れないので今日は登るのをやめ明日ガッツリ登る計画にしました。

アイスクャンディーの料金は 1 日 1000 円、シーズン券 3000 円です。アックスや縦爪アイゼン、靴のレンタルもあります。レンタル料は各 500 円。

夏目さんがすごく平らな整地をしてくれて快適なテント泊。雪山テント設営の仕方いろいろ教えてもらいます。夜は-15 度まで冷え込み寒かった～

翌日 8 時半に受付を済ませ、2 人とも初めての利用だったのでトップロープの終了点構築の仕方やアイスクャンディーのマナーの説明を受ける。

師匠に 1～10 までみっちり指導してもらい昼食もとらず 3 ルートをガッツリ登る。

頭の中の情報が大渋滞。

あっという間に 14 時になりクライミング終了。

途中でアックスを抜いた時に前歯に当たり歯が欠けた。

前回の善五郎の滝で違うパーティーの人がアックスが当たって歯が欠けていて、そんな事もあるんだ、気をつけようと思っていたが今回自分がやらかしました。

テントを撤収して 15 時半下山開始。16 時半に赤岳山荘の駐車場に戻ってきました。

充実したアイスクライミング山行でした。

頭の中の大渋滞な情報を整理整頓し、ロープワークなども復習して来シーズンにはもっと成長できるようにしていきたいと思います。

【総会】22.3.12(浅田)

【2021 年 3 月 12 日】

【メンバー】山本、遠山、河合、上田、白井、古賀、小野、中村、塩川、山形、坂本、吉中、二橋、梅田、日浦、浅田

山本顧問にも出席して頂き、2021 年度の総会を開催しました。

コロナ禍蔓延防止が出ている影響で、委任状での参加者もいる中 2021 年の活動総括が行われました。2022 年度については創立 60 周年の記念会報発行と親睦会の開催が可決されました。また今年もコロナ禍と言う事で会費の半額(400 円/月)も可決。



嬉しい議題ではリーダーの白井君が、豊川スポーツ協会から功労者として表彰されました。



— 記・浅田 —

【立岩】22.3.13(梅田)

【2022 年 3 月 13 日】

【メンバー】浅田、白井、樋口、梅田(原田)

浅田さん、白井さんの 2 大師匠と最近入会した樋口君と立岩で岩トレしました。

4 月並みの暖かさで風もなくクライミング日和でした。

白井師匠の鮮やかなリード。

アイゼントレをする樋口君。

浅田さんの写真が撮れなくてごめんなさい。

日本の沢登のレジェンド、成瀬さんが黄柳野高校の生徒さん達と来ていました。

浜松から来たというベテランクライマーさんが道具をなるべく使わないセカンドビレイを教えてくださいました。頭の中がまた情報渋滞を起こしています。



失敗もありましたが失敗からたくさん学び、経験する事ができました。まだまだ課題が山積みです。先輩の背中に近づけるように努力していきたいと思います。

— 記・梅田 —

【岩古谷山～鹿島山】22.3.21(河合)

【2022 年 3 月 21 日】

【メンバー】遠山、河合

当初の予定では、野伏ヶ岳に雪洞を掘って 1 泊する予定であったが、天候不順のため日帰り山行を企画。急な展開となり二人だけの山行となった。コースは、岩古谷山～平山明神山～大鈴山～鹿島山の反時計回りのコースで前回の山行の逆コースを辿ることにした。

「岩古谷山の登りはこんなに急だっけ？」

「平山明神山までの尾根はこんなにアップダウンがあったっけ？」とか新しい発見も楽しかった。

7 時 30 分、河合家で私をピックアップしてもらい和

市駐車場へ向かう。駐車場はすでに満車に近く、かろうじて駐車。名古屋、尾張方面からの登山者もあつた。

新しい白色の 4 角柱の看板があり、奥に見える屋根付きのポスト風の所にカウンターが設置されていて、登山者の数を把握していた。

岩古谷山の登り途中の男滝、女滝

岩古谷山山頂かたみた明神山(双耳峰の左側が山頂)



岩古谷山山頂でお約束のポーズ

山頂から少し進んだところで、奥三河パワートレイルのトレーニングの方とすれ違う。我が「豊川山岳トレラン部」のアピールもする。

話しをした方は、来週の「OSJ 新城トレイル 32K」に出場し、その後「奥三河パワートレイル」に出場するらしい。

「OSJ 新城トレイル 32K」は調整？とか言われていて、本番は「奥三河パワートレイル」らしい。うちの坂本キャプテンと同じメニューで、思わず話に熱が入った。

岩古谷山から平山明神山へのアップダウン(途中の鎖場)

岩古谷山から平山明神山へのアップダウン 2(急な登り)

平山明神山、西ののぞきからの展望

お約束のポーズ、風が冷たく日陰の霜柱は融けていなかった。

平山明神山でポーズ。風の当たらないところで昼食を取る。暖かいカップラーメンが今日も最高の気温だった。

馬の背岩帰りに撮影

主稜線の分岐～平山明神山の途中で道迷いを防ぐために木でルートを塞ぐ

主稜線の分岐～平山明神山の途中のお助けロープ

大鈴山でポーズ。写真を取ったらすぐに出発。山頂は風がなかったが、尾根上は風が冷たく吹いていた。

ここから鹿島山まで標高を約 100m 下げるが、風

が寒いのでついつい早歩きになる。

写真がいまいちだが、寒いので、取り直さずに即、下山。

途中の神社で休憩したが、風がないのでほっと一息。地元の方が、神社の階段を清掃されていた。立派な社殿で、御神木も樹齢何百年という立派なもので、鳳来寺山の傘杉にも引けを取らないと思えるくらいだった。

無事、駐車場に到着。ほとんどの車が残っていた。

本日の行程、ヤマレコの記録は、いつも遠山さん任せ。あっざーす。

—記・河合—

(追記)

3年ぶりとなる鹿島山ー岩古谷山周回ルート。

駐車場には車が16台ほどあり、前回の明神山とは大違い。コースは道標や赤テープなどが整備されていて以前より人が入っている感じです。7年前に地図を片手に最初に来た時は赤テープも少なく不明瞭で道迷いしやすいルートでした。この数年間の携帯地図アプリによる影響も大きいですね。

ここはキラキラ感はありませんが近場のお手軽アスレチックコースとしてはオススメです。

”河合さん、前回と同じでまた二人ですね。我々の山行プランは人気無いな〜”とボヤきながら帰路に着きました。

—記・遠山—

【蓼科山】22.3.16(梅田)

【2022年3月16日】

【メンバー】梅田(原田)

初めての雪山ハイクで北横岳に連れてってもらった時に見た、独立峰で岩の荒々しい姿がカッコ良くていつか登ってみたいと思っていた蓼科山へ行ってきました。

この週は暖かかったので雪が締まってるうちに登りたいと思い、女乃神茶屋登山口の駐車場に車中泊で前泊。キレイなトイレがあり安心です。

明るくなった6時半に女乃神茶屋バス停の横にある登山口からスタート。

平日だが人気の山なのでトレースがしっかりある。今年は雪が豊富で最初からアイゼンをつける。

朝陽が昇る前の森も素敵。

最初は優しい森の中。

だんだん急登になる。

やがて岩が出てきて蓼科山っぽくなる。

OSJ新城のトレランの大会のトレーニングも兼ねて2リットルだけ水の歩荷とストック、ピッケルなしで

登る。なかなかキツイ…が天気が良いので気分は最高！！

樹林帯を抜けると岩がゴロゴロの荒々しい景色に変わり、ザ・蓼科山って感じでテンションあがる。

今年は雪が多く小屋は埋もれていました。

9時前に山頂到着！強風で寒い〜



八ヶ岳方面は黄砂？春霞み？でぼんやりな景色でちょっと残念…

山頂で30分程休憩を取りながら八ヶ岳が見えるのを待ったが寒いので下山する事に。下山もトレーニングでピッケル、ストックなしで下半身強化！

下山途中の森で、トレースから少し外れて30分程ティータイム休憩。

青空と木と真っ白な雪の世界の誰もいない静寂に包まれた贅沢なひととき。心の充電〜をして11時半に駐車場に戻ってきました。

戻ってきた時には駐車場は満車でした。人気な山である理由が分かる雪山ハイクでした。

—記・梅田—

【OSJ新城 32k】22.3.27(梅田)

【2022年3月27日】

【メンバー】坂本、古賀、井澤、梅田(原田)Kさん(梅田友人)

愛知県の蔓延防止が解除された1週間後のコロナ渦の中、今年もOSJ新城トレイルランニングレースが開催されました。

坂本キャプテンはUTMFに向け約8キロの歩荷トレ、古賀さんと梅田は昨年の宿題のリベンジ、井澤さんは前日の11kで30代1位おめでとうございます。

今日の井澤さんは4月に開催される渥美半島ネイチャーランの体調確認。Kさんはトップレベルの

トライアスリートで本格的なトレラン大会初挑戦。
各々の目標、課題を持って挑みます。

スタート前、みんないい笑顔



さあ！いよいよ M&D 変態祭りスタート！
毎年恒例の登山道入り口の林道渋滞
急登のシングルトラック

岩場あり、鎖場あり、林道ありのテクニカルでなかなか走らせてもらえないコースです。日本一キツイ 32 キロと言われる由縁が分かります。

梅田は林道で下腹部の激痛と冷や汗で動けなくなり林道で大会 1 番目のリタイア者に。休憩した後みんなの応援に回ります。

エスケープルートの国体尾根から西尾根へ上がり、そこにいるスタッフさんと一緒に応援。

井澤さん、坂本キャプテン、Kさんの応援に間に合いました。

みんなナイスランガンバ

一番で下って来たのはKさん。さすがです。

次に井澤さん。あれ？古賀さんがいない。

下山後、熱中症でリタイアしたと聞きました。

昨夜の大雨から一転、今日は晴れて気温が上がり暑いです。スタッフの無線機から他の選手のリタイア情報が続々と聞こえてきます。暑いので脱水症状や足をつってる選手が多かったです。

下りてくる選手は楽しんで笑顔の選手、足がつって苦しそうな選手、自分の限界を越えてゴールを目指して挑み続ける選手の姿に心が熱くなりました。大人の青春！！

井澤さんの下りを応援した後、下石の滝沢ルートを一気に下山しゴールの応援に回ります。

井澤さんと奇跡的に最後のコーナーで合流でき、手を繋いで一緒にゴールさせて貰いました。リタイアした自分はゴールを跨ぐ事はできなと思ってたので感無量です。



Kさんゴール！

両足のつりがすごくて後半失速し、何度走るの辞めようかと思ったか…と。自分との闘いに見事打ち勝ちおめでとうございます！

坂本キャプテンゴール！

なんと！ザックに約 8 リットルの水を歩荷しての完走です！すごいです！

今回、走れなかったのは悔しいですが応援側に回って別の視点から大会を楽しみ学び経験できた事は大きな財産となりました。

大会のスタッフさん、ボランティアさんのありがたさを実感しました。

選手のみなさんお疲れさまでした！

そして大会が無事に開催され尽力してくださいました大会スタッフ、ボランティアの皆様ありがとうございました。地元新城市、東三河の自然に感謝です！

—記・梅田—

2022 年度 合宿の部 春合宿

【黒部 丸山東壁】22.5.2(中村さ)

【2022 年 5 月 2 日～4 日】

【メンバー】L.中村さ 他会 1 名

通称「黒部の巨人」と呼ばれる岸壁でクライミングしてきました。

「黒部丸山東壁 中央壁 緑ルート V級下」

ハイライトは大ハングを A2 で突破する豪快ルートでしたが、中央バンドから指をくわえながら大ハングを見上げて撤退しました。

およその行動

2 日 扇沢 16:00 発 → 黒部ダム 16:20 着 → 下ノ廊下への登山道を歩き内蔵助出合手前の岩小屋 18:00 頃着

3 日 岩小屋 5:30 発 → 内蔵助出合を経て取

付き 7:00 着 → クライミング 7:30~15:00 →
懸垂 4 回で 16:00 取付き → 岩小屋 17:30 着
4 日 岩小屋 5:00 発 → 黒部ダム 6:00 着 →
扇沢 7:30 着

5 月 2 日

扇沢から電気バスに乗り黒部ダムに着くと雪が降っていた。薄暗く、積雪も予想以上にあり、黒部ダムを観光して帰ろうかと思ったがアイゼンを付け、下ノ廊下方面へ向かう。

幕営予定地は、内蔵助の出合付近だったが雪に埋まっていると確信し、内蔵助出合手前にたまたま見つけた岩小屋下に幕営した。

テントを張り内蔵助出合の下見へ向かう。

5 月 3 日

とりあえず丸山東壁へ出発したが、登山道の崩壊が激しく、雪に埋まってる箇所があり歩きにくく時間がかかる。斜面をトラバースしたりと慣れない動きでストレスが溜まるし、帰りが心配だったが丸山東壁見えてきて気持ちが明るくなる。

急斜面を登り、取付きに到着。1 ピッチ目は雪の下で、2 ピッチ目からのスタートした。中央バンドに残っている雪が溶け出して、緑ルートを濡らしている。取付きから見上げると、ところどころ濡れた壁、規則的に並ぶ錆びたリングボルト、青空が広がっている。

気合いを入れて登攀開始。

ヌンチャク 24 本 → 間引いてぎりぎり足りた。
カム 1.5 セット → 中央バンドまでは無くても良さそう

タイオフ用スリング → 3 カ所位使った

60m ダブルロープ → 50m 以上なら良さそう。

1 ピッチ目は頼りないリングボルトにビビリ、そろりそろり慎重になる。2 ピッチ目、3 ピッチ目になると A1 に慣れて A1 が楽しくなってきた。しかし、リングが無くなっているリングボルト、お辞儀をしているリングボルト、動くハーケンを見るとシラフに戻り恐怖が襲ってくる。

気付けば中央バンドに到着。時間は 15:00。残るは核心部の大ハングのみ。進撃か撤退か…撤退することにした。



完登できなかったのは残念だったが、今回付き合ってくれたパートナーがいたから中央バンドまで行けることができた。満足である。パートナーにはほんとうに感謝である。

下ノ廊下をちょっと歩き、丸山東壁をちょっと登る山行でした。

— 記・中村 —

【毛勝三山】22.5.3(白井良岳)

【2022 年 5 月 3 日~5 日】

【メンバー】L.白井、河合、遠山、古賀、岩瀬、原、平井

初めはコロナ初年度で中止、去年は天気が悪くて中止、やっと今年に念願の毛勝三山を登る事が出来ました。

初年度から行く予定だった二橋さんが不参加となり残念でしたが、最終的には徳島県から原さんと平井さん、蒲郡から岩瀬さんが参加となり総勢 7 名と賑やかな PT となりました。

5 月 3 日

12:20 駐車場-13:40 片貝山荘-14:30 泊地

音羽に 6 時に集合し、河合号と古賀号の 2 台に乗り合わせ高速道路行く。

北陸道に乗ると段々剣岳が見えて来て気分が盛り上がります。

魚津 IC で降り、登山口へ。片貝第 4 発電所の手前の駐車場に車を停めて身支度をする。

南又谷への分岐周辺など、車を停めるところは多く困らなかった。

サックを背負い歩き始めるとすぐに河合さんの登山靴のソールが剥がれかけてきた事が発覚し、すぐにテーピングで応急処置。

20 年近く履いているそうで、十分働いた登山靴

ですね。

雪のない林道を歩くが、日差しが暑く辛い。

痛々しい河合さんの登山靴

出発してすぐの林道

阿部木谷へ入ると林道に雪が残っていた。

地形図の 994m 手前付近でいいテント場を発見し、そこを今日の泊地とする。

テントを立てるとお楽しみの宴会の始まり、始まり～。

ちょっと風が吹くと寒いが外で宴会となった。

すぐに原さんが 2L の日本酒をおもむろに出し、自分の大きなコッヘルにナミナミト注ぎ、更にイワナの燻製を入れ骨酒を作り出す。

これには今回初めて一緒に登った面々はビックリ！

自分も頂きましたが骨酒美味しかったです。

日本酒 2L もあつという間に無くなりました。

夕食は二橋さんが用意してくれたひき肉のカレー。食べやすく美味しく、大好評でした。

さすがに夜は寒いので、夕食後は早々と就寝。

雪のない宴会場がありました

さりげなく 2L パックが！

イワナの骨酒

4 日 (水)

4 時起床-5:30 出発-12:00 毛勝谷のコーラ-12:30 毛勝山へピストン-13:15 毛勝山南峰を越えた先のコーラで泊

泊地を出発してすぐに雪渓歩きとなった。

いくつもの堰堤を越える。天気も上々、黙々と雪渓を歩き、大明神沢の出合から左へと曲がり毛勝谷に行く。

遠くに急斜面と降りてくる登山者が見える。

この頃には谷筋にも陽が指し込み暑くなる。

最近、4 月 28 日と 30 日に 2 度天気が崩れているので、その時に積もった新雪のデブリが来ており、何とも落ち着かなくなる。

後から単独の登山者 2 名と二人組のペア登山者に追いつかれる。

最後の急傾斜帯に入ると、日差しを浴びて緩んだ右側の谷筋から雪崩が起きる。

まともに喰らったら埋まりそうな雪崩も一度あった。危ないので休憩を我慢してコーラ迄登り切る。

急傾斜帯はある程度踏み跡もあり、無事ロープを出すことなく登れる。

コーラへ上がると、そこに絶景が待っていた。



雪渓に行く。大明神沢出合。左が毛勝谷一服、後ろに日本海急登を登ります

剣岳をバックに記念撮影

近くに剣岳がお出迎え。右奥に立山が見え。剣の左奥には爺ヶ岳からずっと後立連峰の面々が連なっている。

休憩後、毛勝山の山頂へ向かう。ここで更にゆっくり景色を堪能する。この景色を観たくてここへ来たのである。感無量だ。頂上は平たく、風が強くなければ素晴らしいテント場である。

荷物をデポしたコーラへと戻り、自分達はもう少し歩を進めて、南峰を過ぎたコーラにテントを張ることにする。ここは風が当たらず、いい場所だ、外で宴会出来るから！

整地してテントを張り終わると、宴会が始まる。

天気が良すぎて日差しが暑い、最高に気持ちがいい。

原さんの日本酒は昨日で無くなってしまったので、河合さんの持ってきた焼酎を飲みだすとエンジンがかかる。原さんの俳句の”青き瞳のロシア人女性”の話なので盛り上がる。

今回自分もそうだが、ワインを持って来る人が多く、事前の打ち合わせ大事だと痛感。

雪を溶かして飲料水を作りながら宴会する。17 時ごろ陽が傾きだすと寒くなり、テントに撤収して食事を作る。

今日は自分担当の鶏肉のおじやだった。

夜中もそんなに冷え込まず全然寒くなく寝ることができた。

5 日 (木)

3 時起床-4:50 出発-5:30 釜谷山-6:20 猫又山 6:50-11:00 洞杉群-12:00 駐車場

3 時起床なのに、3 時前から隣の爺様達がゴソゴソしたのでしょがなく 3 時前に起きる。

朝食のマルちゃんそばを食べて身支度をする。

今日も快晴、まだ日は登っていない。

朝陽が登ってきました。

釜谷山への登り

自然に出来た雪洞

後立連峰が青白く、そこから暖かくも力強い太陽がまさに登らんとしてくる。

出発してすぐに日の出を迎える。こんなに山の上で綺麗な日の出を拝むのは久しぶりだ。

釜谷山から猫又山へアップダウンを繰り返す。

何で猫又なんだろうと、名前の由来が不思議だ。取り敢えず猫又山でニャンコのポーズで記念撮影。

ココより下った先から猫又谷を下ると、もう剣岳などとおさらばなので、十分猫又山で最後に展望を味わう。猫又山頂上付近では3人PTがテント泊していて、撤収していました。

最後の展望を満喫していざ猫又谷の雪渓へ。

ここも先人の踏み跡もあり、なんとかロープなしで下ることができました。

小一時間も下ると傾斜も緩み、休憩する。後はゆるい傾斜の雪渓をダラダラと下って行く。



皆ノリノリでニャンコのポーズ



緊張の降り、猫又谷雪渓下部

陽が登るにつれ雪面の照り返しと相まってもの凄く暑い。

林道に出ると木陰も多くそれなりに、歩くことができた。

途中フキがいっぱい生えていたので、河合さん

と平井さんが一生懸命に採っていた。

平井さん曰く、フキには抗がん成分があるそうだ。しかし自分は煙草を吸っているので肺がんになりそうだ。

アスファルトの林道歩きとなると、苦痛でしかないが、途中に洞杉群やカタクリの群生などが観られ退屈することなく歩けた。

カタクリの群生はちょっと時期が遅い感じだが、とにかく数が見事であった。

こまめに休憩を取りながら行く。しかしながらちょうどここらは新緑真っ盛りで一番季節のいい時期だと思う。

休憩の度に新緑が目にも染みる。ちょっと暑いのが気持ちいい。12時頃駐車場に着きお互いの労をねぎらう。

洞杉群。

道端の斜面にカタクリが咲いていた

荷物を車に詰め込み温泉へ向かう。調べると「北山鉱泉 子宝の湯宿 元祖仁右衛門家」と言う温泉が近くに見つかった。料金も600円とリーズナブル。

行ってみると小奇麗で好印象。お風呂も3Fにあり気持ちよく入浴出来ました。あとは食事して帰宅しました。

今回は徳島県から原さん平井さんも合流となり大人数で楽しく山行出来ました。

サブリーダーをしてもらった河合さんにいろいろと気を使ってもらって大変助かりました。

雪渓を登り、稜線を歩き、また雪渓を下る山行でしたが、思い出深い山行となりました。皆さん楽しい山行ありがとうございました。

遠山さん作成の素晴らしい動画です。

—記・白井—

2022年度 合宿の部 夏合宿

【湯俣川～弥助沢～鷲羽岳】22.8.10(白井)

【2022年8月10日～13日】

【メンバー】L.白井、河合、中村

北アルプスの裏銀座ルートに鎮座する鷲羽岳へと突きあがる湯俣川沿いに、今は廃道となった伊藤新道がかつてあった。

その伊藤新道を再生整備し、一般道として三俣山荘まで繋げるプロジェクトが立ち上がっています。

2年ほど前より湯俣川を知り、一般道と再生される前に原野の湯俣川を登っておきたいと思い今年中に行きたいと思っていました。

お盆休みを利用し、会の仲間の中村君、読図の
プロの河合さんを釣り上げ一緒に行くことにしまし
た。

当初は湯俣川の沢中で一泊し、翌日に鷲羽岳、
水晶岳を往復し野口五郎小屋まで、3 日目に烏帽
子小屋まで縦走してブナ立尾根を高瀬ダムまで下
山の予定でした。

結局台風 8 号が発生し大事をとって二日目は鷲
羽岳を越え竹村新道を下山。夜中の 20 時半に晴
嵐荘まで行動となりました。

10 日の晚新城市の河合宅へ 20 時集合し出発。
12 時半頃には七倉の駐車場に到着するがすでの
満車に近い状態。下の方に車を停めてテントを立
て寝る。

11 日(木)

5:00 起床-5:45 七倉-タクシー-6:00 高瀬ダム
-8:30 晴嵐荘-9:00 墳湯丘-9:45 第一吊り橋-
13:20 硫黄沢出合-16:00 縦沢泊地

起床しテントを撤収、6 時にタクシーを予約して
あったので 5:45 程にタクシー乗り場へ行くとタクシ
ー待ちの他山客の列が出来ていた。

幸いに自分達は予約してある旨を伝えると、す
ぐに待たず乗せてもらえました。タクシーに乗ると
あっという間に高瀬ダムに到着。

ポツポツと小雨が降るが、気分良く高瀬ダムの
湖畔の林道を歩く。林道はトンネル歩きもあるが 1
時間ほどで終わる。その後は登山道となるがよく整
備されていて歩きやすい。ほとんど高低差もなく気
持ちよくアルプス独特の濃い緑の中を歩く。

対岸に晴嵐荘が見えてくるが、自分達は湯俣川
を遡行するためや晴嵐荘には寄らず右岸沿いに行
く。水俣川にかかる吊り橋を渡る手前で沢登り装
備に着替え出発。

タクシー待ちの登山客
高瀬川沿いの林道
対岸に晴嵐荘が見える



沢装備に着替え準備万全

身支度が終わるころには天気も回復しやる気
満々である。すぐに墳湯丘となり、手で触ると火傷
しそうな熱いお湯が出ている。

対岸には球状石灰石の異様な姿が見える。まる
で SF 映画でできそうな未知の物体に見える。対岸
に渡って近くに行ってみたいが本流の流れが深く
て早く、たやすく渡れそうにないので諦める。

ほどなくして第一吊り橋が見えてきた。今年中に
吊り橋も設置し終える予定となっていたので、その
他の登山道も整備され歩きやすくなっているか
と思いましたが、湯俣川沿いは結局この吊り橋以外
ちゃんと整備されているところは無かったです。な
ので小さく高巻いたり、渡渉を繰り返して登って行
くのでまんま沢登りです。

ただ、河が大きいのでほとんど、どちらか対岸沿
いを歩く感じでいけます。

熱いお湯が出てます
球状石灰石
噴出丘を後にして登る

新しく架設された第一吊り橋。すごく揺れます。
つづいて通称”ガンダム岩”。どこがガンダムなの
か解らなかつたです。今回は水量が少なく岩の下
をくぐりスラブ登って簡単に通過できました。

その後も何度も渡渉を繰り返しながら青空のし
た、荒涼とした沢をひたすら登って行きます。

硫黄沢の出合は全く不思議と言うか、一見の価
値があります。

硫黄沢はさらに荒涼性が増して、乳白色の沢が
流れ落ちて来てます。

ガンダム岩

写真だと解りにくいですが、50mほど FIX ロープ
が水平に張られてます。自分達は使わず渡渉して
やり過ぎました。湯俣ブルーの登る

「引き返す勇気を！」と岩に書かれた難所。

難所を通り過ぎて渡渉したところ

頑張っってへツル河合さん

湯俣ブルー

異世界を登る

硫黄沢

硫黄沢を通り過ぎしばらく行くと弥助沢の出合
だ。

弥助沢に入ると溪相は一転して、兩岸には樹木
が生繁、よくある日本のいつもの沢の風景となる。
しかしながらこの沢はすごくヌメリが強く、ラバーソ
ールの中村君は苦勞する。しかも、巻いたり渡渉
するのが煩わしい感じでいまいち面白みに欠ける。

先を行っていた二人組 PT に追いつき先に行く。

15 時を過ぎてそろそろ幕営地を探す、なか
なかい所が見つからない。

天気は良さそうなので増水もしないので河原付

近でいいのだが、あっても岩がごろごろしていてイマイチな感じだ。

16時になり、もうここでいいとして、比較的大きな河原を幕営地とする。河合土木が整地工事を行い、中村釣り師が竿を出し釣りに行く。自分は焚火係だ。

焚火をして大自然の中でお酒を飲む、あとは食事してタープも張らずにごろ寝しました。至福のひとつでした。半分はこのために沢登りをすると言ってもいいくらいです。

因みに釣り師の中村君は坊主でした。登って行く間でも全く魚影を観なかったので予想はしてました。しかし翌日幕営地より30分も登ると魚影が出だし、尺近い魚影も見られました。

緑が濃い弥助沢

ご機嫌な河合さんと調理中の中村君

12日(金)

泊地6:00-9:00 脱溪(トラバース道)-11:00 鷲羽岳-13:00 水晶小屋-13:40 東沢乗越-15:25 真砂岳山頂手前分岐-16:30 南真砂岳-18:00 湯俣岳-20:30 晴嵐荘-21:00 ビバーク地

4:30 頃起床する。ちょっと雨がパラついたが問題なく朝食を済ませ6時頃出発。

30分ほど登ると魚影が出だす。その後もあまり擦れていない感じの尺近いイワナも見られた。しかし、ゆっくり竿を出しヒマも無いので先を急ぐ。

本日は台風8号が迫っているらしいので早く携帯の電波が入る稜線まで行き天気予報を確認したい。

その後弥助沢を辿り詰めあがるが、沢自体は平々凡々とした感じだ。雨が時折普通に降るのでカッパを着て遡行を続ける。

最後の詰めは鷲羽岳の麓を横切る伊藤新道へ出る。

地形図を見て確認中の河合さん。GPSでも確認そこで沢登り装備を仕舞い、身支度を整える。雨が時折降るので上下ともカッパを着る。自分は濡れた服の上にカッパを着ていて寒かった。歩いていけば何とかなる。

鷲羽岳の登りが長く感じる。さすがにお盆休みだけあって登山者は多い。

13時頃水晶小屋に到着。相変わらず天気はいまいちで、あまり展望が無い。本日中に竹村新道を下る事と決める。なので、水晶岳へは行くことは無かった。

東沢乗越近くまで来ると大分天気が持ち直し、たまに雲が取れて展望が良くなる。せっかくアルプスの稜線を歩くのだから素晴らしい展望を味わいたい。

河合さんのアプローチシューズのソールがはがれそうになって、テーピングでぐるぐる巻きにする。なんかGWにも同じ光景を見た気がするんですけど。

先頭を歩く自分の調子が今一つ。今までになく足が上がらず不安になる。弱気になって野口五郎小屋に泊まるかどうかを皆に確認するが、竹村新道を下る事と最終確認する。自分のトレーニング不足を痛感、反省。

そうと決まったので覚悟を決めて竹村新道を下る。燕岳や餓鬼岳方面は雲が無く、素晴らしい展望が望め、ひと時の休憩時の癒しとなる。

下山中に本日晴嵐荘を出発して高天原温泉に入って来た、と言うツワモノの兄ちゃんが追い抜いて行った。今日はテントを張りっぱなしの晴嵐荘迄戻る途中だそう。天狗の様な健脚だ。

竹村新道のくぐりは湯俣岳を越えついにヘッドランプをつけての下山となる。3人が3様とも膝が痛くなり、脂汗だか冷や汗だか鼻水だか解らない液体を流しつつ頑張る。沢の音が聞こえだし、硫黄の臭いがしだすともう少しで晴嵐荘だ。励まし合って敗戦兵のごとくうめき声をあげながら下る。

20時半頃晴嵐荘へたどり着いた。小屋はまだ明かりが付いていたが、会の汚名を知らしめはならぬと通り過ぎ、高瀬ダム方面へ下山し、途中セバ沢が流れ来る出合付近に砂地の優良物件を見つけそこにタープを張る。

タープを張ってしまえば住めば都、宴会して夕食を摂る。雨が降り出したのでタープの下へ潜り込み、疲れていたので22時半まえには就寝したと思う。

登って来た弥助沢を望む

鷲羽岳への登り、後ろに三俣山荘



ガスガスの鷲羽岳山頂、100名山ゲット

黒部湖へそそぐ東沢

雲が取れて水晶岳や赤牛岳が見えた

あちらこちらにテーピングする河合さん

真砂岳手前の分岐、右が湯俣へ下る竹村新道

13日(土)

今日も明るくなった4時半頃起きだし、ノンビリ朝食を摂り撤収する。

夜中に”シャン、シャン”と錫杖をつけて歩く人の音が通り過ぎて行った。修行僧の方だろうか？そんなのには昨晩下山中合わなくて良かった。

会ったらマジビビルと思う。

6時頃泊地を出発。思いのほか青空も見え天気がいい。

ノンビリ下り高瀬ダムへ。ちょうどタクシーを拾う事が出来ストレスなく8時半頃七倉へ到着。

七倉山荘の温泉に入り帰宅しました。

朝の一コマ

撤収後にパチリ

山行を終えて。初日は天気の良い中、日本離れた沢の風景でテンション上がりまくりの沢登り。

翌日は天気の悪い中の稜線歩きから、真っ暗の下山。

とても思い出深い山行となりました。楽しい、苦しい、つらい、痛いなどいろいろ仲間と共有して無事山行を終える事でき満足です。

またこんな仲間と良い山行が出来るといいです。

あと、50歳を過ぎさすがに日ごろからトレーニングしないとイケないと痛感しました。

—記・白井—

(追記)

焚火交じりの、のどかな沢登は、数十年ぶりだろうか？この、のどかな時間を楽しむために、沢を登っているといても過言ではない。

今年は、白井君と冴ちゃんと一緒に行くことができ、ラッキーでした。

久しぶりに、ヒザも痛くなり、テーピングで、ヒザをグルグル固め、声を出し、痛いと言っても誰も私を担いでくれないことは重々分かっているので、声を出さず、ごまかし、ごまかし…。歩き、歩き…。

また、久しぶりのヘッドライト山行で、虫と蛾と戦い、再度、「私は、蛾が嫌いだ！！」と認識できた山行でもあった。マジ「蛾」が嫌い。

1匹？1羽？1ヒラヒラ？は我慢できても、3匹？3羽？3ヒラヒラ？+虫+虫+虫+虫…、& 口の中に虫が…。ゲホ…ゲホ…。ぺっ…。これは、気が狂いそう…。

早く、下山しようと焦るも、下りの道に段差があると、「おヒサがああ。いつたあ。」となり、落ち着け…。と久しぶりの自問自答。

水場に着き、タープを張り、一飲した安堵感は、最近味わったことがない。う…ん。今日の、お酒は格別。(いつもか？)

鷲羽岳山頂で、握手をするのを忘れ、この場で3人握手を交わしたことは、忘れない。

来年も、沢登りに行きたい…。

—記・河合—

(追記)

今回も辛く×3も楽しく充実した山行ができました。

きれいな湯俣川、かっこいい硫黄尾根、河原で適当に雑魚寝、ガスってますが鷲羽岳、長すぎじゃないですか竹村新道…。

2日目の竹村新道下山時は白井さん、私、河合さんの順番で並んで歩いていました。

3人がそれぞれの痛みに耐えながら晴嵐荘を目指す。もう歩けないと思っても、後ろを歩く河合さんのやたら明るいヘッドランプの明かりに煽られ、止まると追突されそうで足が前に出る。先頭の白井さんも淡々と歩くので止まるわけにはいかない。

どれくらいか無心で歩くと晴嵐荘に着き竹村新道が終わった。

2泊3日の沢は超ハードモードになりがちだが、そうだから会の皆様と乗り越えた時の達成感は格別です。来年も行けるといいな

—記・中村さ—

2022年度 合宿の部 冬合宿

【越百山(長野県)】22.12.30(樋口)

【2022年12月28日～12月30日】

【メンバー】L河合、遠山、樋口、他3名

年末の中央アルプスを会の方3名と他会の方3名で山行してきました。伊奈川ダム手前駐車場7時スタートです。

事前にラッセル地獄と聞いていたので覚悟していましたが、まさかのトレースあり…！！

ちょっぴり残念、でも一安心(;’▽’) 越百避難小屋手前の急登はきつかったですが、17時前に無事小屋に到着。

幸運にも貸し切り状態で小屋を使わせてもらうことができました。

夕飯は遠山さん特性のカレー鍋、とっても美味しかったです！噂に聞いていましたが、とんでもないお酒の量でした(0;))

2日目は6時スタート

天気も良く、山頂景色への期待が膨らみます。

ラッセルしながらの雪山登山、年末アルプスでこ

れをするのが楽しみだったんです。



7時半、無事登頂。冬のアルプスには珍しく快晴無風。

山の神様に微笑んでもらい、素晴らしい景色を見ることができました。

～今回の登山を振り返って一句～

とりかえる ロシア娘の みどりの目

2021年度 個人山行の部

【前黒法師岳】22.4.2(梅田)

【2022年4月2日】

【メンバー】梅田(原田)

寸又三山(朝日岳、沢口山、前黒法師岳)のひとつ、前黒法師岳行ってきました。

これを登れば三山制覇。

距離が長く、標高差も結構あり行動時間が長めなので最後のひとつとなっていました。

朝5時半、明るくなると同時に寸又峡温泉からスタート。温泉地を抜け夢の吊り橋、飛竜橋の観光地を通って前黒法師岳登山口の分岐を左へ。

左折し林道を走ると右手に前黒法師岳登山口の道標あり。いきなり急登です。

湯山集落跡。こんなところに集落があったなんてすごすぎです。

ザレた道を登りきると広い場所に出て避難小屋？休憩小屋？がありました。

木や岩、小屋にスプレーで登山ルートが示されていてスプレーを見失わないように進みます。ん？どっち？という所にも○スプレーがありありがたいです。

標高が高くなるにつれて雪がでてきました。

昨日降った雪がコケに積もっててなんとなく神秘的。樹氷？も見られました。

山頂付近はすっかり雪山の様子。雪山にトレランの格好でチグハグ(笑)トレランシューズで雪の上を走るのもまた楽しいです。

三時間半で山頂到着。

寒過ぎるので記念撮影とエネルギー補給、チェーンスパイクを装着し下山開始。



チェーンスパイクがしっかり効いて雪の上を気持ちよく走れました。

11時半に寸又峡温泉まで戻ってきました。元々深南部は静かな登山が楽しめる場所ですが今回誰にも会いませんでした。

今年は雪が多かったため寸又三山の春はもう少し先のようなようです。

温泉で冷えた体を温め、癒して帰路につきました。登山と温泉の組み合わせ最高です。

—記・梅田—

【明神山】22.4.12(浅田)

【2022年4月10日】

【メンバー】遠山、河合、白井、浅田、二橋、日浦、Yさん、他3名

入会希望者 Yさんのお試し山行で明神山へ行って来ました。

コースは砥沢林道の馬の背沢登山口から 720m

のピークで北西尾根に合流し、馬の背を通過し小明神(西峰)を経由し山頂へ。下りは965のピークから西尾根を下る。あまり登山者が登らないプチバリエーションのコースです。

砥沢林道ゲート手前の駐車スペースに車を置いて林道を20分程進むと、馬の背沢登山口の指導票がありここから720mのピークへ急登を登る。



ピンクのツツジや白いタムシバ、淡いピンクのアカヤシオなどが疲れを癒してくれる。北西尾根に出ると境界線の杭が所々にあり、いよいよ馬の背の岩稜となる。右側は岩壁となって切れ落ちて登攀意欲を掻き立てる。

メンバーそれぞれに興奮気味である。山頂まではまだまだ遠く感じる。

北西尾根は林道で分断されており、林道を少し進んで又尾根へ戻る。

965mのピークまで急登は続きYさんの息使いが荒くなってくる。

一段とゆっくりのペースで進み小明神手前のコルで昼食とする。

電波塔のある小明神を越えてコルに下り、山頂への最後の登りをYさん先頭で山頂へ。

展望台から残雪の聖岳、兎岳が霞んではいるが遠望出来た。



小休止後965mのピークまで戻り西尾根を下る。この尾根も急な下りで気が抜けない。休憩時の綺麗な鳥の羽を見つけ、鳥博士の白井君に聞くと

カケスと即答で帰ってくる。グーグルレンズで検索するとカケスと出てきて全員驚きである。

途中大岩がゴロゴロした岩場の通過があり気が抜けない。傾斜が緩くなってきて林道へ出た。10分程で車へ着いた。

—記・浅田—

【霞沢岳西尾根】22. 4.16(白井)

【2022年4月16~17日】

【メンバー】L.白井、夏目

以前より登って見たかった霞沢岳西尾根に行ってきました。

ここ数年は人気ルートとなり良く見聞きするようになった気がします。

釜トンネルが冬期閉鎖期間でも日帰りでアルプスの頂上を踏めるのは、確かに魅力的ですね。

17日

坂巻温泉 5:40 出発—西尾根取り付き 6:40—頂上 11:30—西尾根取り付き 15:30—坂巻温泉 16:20

車を駐車した坂巻温泉

下部のクマザサの藪漕ぎ

急登をグイグイ登ります

核心のガレ場 Fix ロープありますが落ちれば大げがします。もうすぐ頂上です



天気よく最高です

下山途中で見下ろす上高地

尾根の下部はササの藪漕ぎで上部はハイマツの藪漕ぎがありました。

時期的にだいぶ雪が無くなっていて、やはり3月後半ごろに登るのが良さそうです。

ロープ出さずに済みましたが、そこらへんは積雪の状況とメンバー次第でしょう。

天気に恵まれて頂上からのパノラマは最高でした。結局誰にも会うことなく静かな登山を楽しめました。

坂巻温泉には1000円で車を止めさせてもらいました。帰りにも温泉に入り露天風呂は本当に気持ちよかったです。但し露天風呂には体を洗う水道

もなければ当然洗剤やシャンプーも無いです。

—記・白井—

【田原アルプス】22.5.8 (浅田)

【2022年5月8日】

【メンバー】西村、浅田

GWの最終日7年振りに豊川に転勤になった西村さんを誘って田原アルプスへ行って来ました。滝頭公園の車を停めて衣笠山登山口から登り出す。登り出しの頃は風が少し冷たく感じたが時間が経つにつれて心地よい風が変わってくる。40分程で衣笠山山頂に着き展望台から眺望を楽しむ。西村さんはこのコースは初めてで三河湾の景観を楽しんでいた。

滝頭山へ向けて進むと栈敷岩がありここから仁崎海岸が良く見える。

奇岩の中を縫うように進み仁崎峠へと急な下り進む。ここから滝頭山へと登って行く。途中から恐竜の背へ向かい登山道へ入り恐竜の背で小休止。ここから滝頭公園が眼下に見える。

心地よい風に吹かれながら滝頭山から中西山へ。久しぶりの西村さんも余裕である。今年の夏は南アルプスへ行こうと話しながら藤尾山へ向かう。

12時少し過ぎに藤尾山に着きランチタイム。最近購入したホットサンドグリルでホットサンドを作る。少し焼き過ぎた感があるが愛嬌である。太平洋を見ながらゆっくりランチを楽しむ。



帰路は途中から不動滝経由のルートを進む。

新緑の中の不動滝も良いねと話しながら駐車場へ着いた。7年振りの愛知の山登りに満足そうな西村さんでした。

—記・浅田—

【下石の滝】22.5.14(山形)

【2022年5月14日】

【メンバー】山形、鈴木(豊橋山岳会)

※過去の記録をご存知の方がもしいらっしゃいましたらお知らせ頂けると幸いです。

沢のシーズンインと同時に下石の滝を計3ピッチで登りました。情報収集の結果、恐らく初登ではないかと推察していますが誤りあればご指摘お願いします。

下石の滝は東三河の山屋にとっては地元の滝と言って良いだろう。落差は86mの段瀑だ。

下石の滝 遠景

私は近年、沢屋の交流会に参加させてもらい数々の素晴らしい記録を見聞きしていました。周囲にチャレンジングなことをしている身近な知り合いが増えたこともあり自分も何か名のある滝を初登出来たらなあと思っていていた。

下石の滝は昨年の夏に当時2歳半頃の息子を連れて偵察に行った。息子の歩きでも家から十分日帰り圏内である。さすがに取り付きまで自力歩行は無理なので抱っこして歩いたのを覚えている。散歩という名の偵察である。休日に息子の面倒を見る当番になった日でさえ何とかして次の熱いクライミングのチャンスを窺っている。ダメな父親だが息子も楽しんでいたのでよしとしよう。

下石の滝は平水時には水量が少なく正直迫力に欠ける。当時、取り付きから見上げた印象は1段目は右岸から「登れそう」だ。

2段目以降は屈曲しておりラインが取り付きからは見えなかったので「登って見ないと分からない」という印象であった。より強い沢屋なら登攀対象にできなかったのかもしれない。

1年たってようやく試登する機会がきた。昨年は沢シーズン後半にパートナーが怪我したこともあってチャンスを逃した。「山は逃げない」とは確かにその通りなのだが「チャンスは逃げる」と思って山をやっています。パートナーの都合ばかり、天候ばかり、自分だっていつまた転勤するかも分からない。せっかくのチャンス、掴みたい！

5/14は雨後であったこともあり取り付きから見上げると平水時の倍は水量があるように見られた。

なんと今日は撮影者が同行してくれた。大変ありがたい。改めて見上げると「登れないかも」と弱気になる。この緊張感が嫌いではない。ダメなら降りれば良いやと思い山形リードで 1 ピッチ目スタート。

取り付きで黙々と準備

いきなり取り付きから水をビシヤビシヤに浴びるが幸いなことに水温は低くなく寒さをあまり感じなかった。記録のない登攀であるため自分でラインを引くしかない。

1ピッチ目 取り付きから

予定通り右岸沿いに登る。というかここしかラインが見出せない。やはり登られていないのか岩がとて脆い。慎重に時間をかけて脆い岩を落として行く。足場も崩れかねないので体重をゆっくりかけながら慎重に登る。カムを決めるものの岩が脆弱なので強度は不明だ。落ちられない。

岩を落としながら登る

灌木でようやく強固なプロテクションが取れて一安心する。技術的な核心は越えた。後はヌメリをタワシで落としながら水線沿にロープを伸ばすことが出来た。

核心を越えて一安心

無事に1段目をリードしてパートナーに向けてガッツポーズ！パートナーを引き上げる。

1段目を突破し大満足の山形

パートナーを引き上げる

初めて2段目をお目にかかれた。幅が広くめっちゃくちゃ美しい。この光景は沢屋しか見れない。失敗したことにカメラを撮影者に全て渡したので取り付きから見上げた写真を撮ることは出来なかった…。2ピッチ目はツルベでパートナーが登る。コケを落としながら慎重にロープを伸ばしていく。出だしのリスでハーケンを打ったが効いているようには見えず精神安定剤の役割でしかない。

2ピッチ目を登るパートナー

途中、猛烈なランナウトとなるがうまいことラインが繋がっている。同様に立木では強固なプロテクションが取れた。今回、2ピッチ目は左岸沿いに登ったがもう少し色々なラインが引けそう。

撮影者が回り込んで上部より2ピッチ目を撮影

最後の3ピッチ目もロープの都合でパートナーが登る。このピッチは左岸沿いに登るがもう少し水線を攻めても良かったかもしれない。再訪のチャンスがあれば違うライン取りで登ってみたい。やはり岩は脆いため基本的には落ちることが許されない。

無事に抜けてくれた。登山道が走っているため下山は楽チンだ。無事に抜けてお互い笑顔でロープを束ねた。



総評としてはそれなりの経験者であれば十分登ることが可能であり、初登だとすれば完全にラッキーだと思う。我々にとっては痺れる楽しい登攀であったことには間違いないが…。

最近はフリークライミングばかりで挑戦的なことが出来ていなかったが、やっぱりこういうクライミングが自分が一番好きなんだなあと再認識出来ました。沢もシーズンインです。今年も息子を持って散歩という名の偵察に出かけようと思います。笑

—記・山形—

【湯谷富士】22.5.15(井澤)

【2022年5月15日】

【浅田、遠山、小寺、横山、Yさん、井澤】

Yさんのお試し山行ということで、先日、白井さんが行かれた湯谷富士に行きました。鳳来寺山は有名ですが、ここにこんな面白スポットがあったとは驚きです☆

湯谷温泉駐車場からスタート、温泉街を歩きます。ルートのはり口は養乙女踏切付近です。

はじめはそれなりに傾斜のある雑木林を進んでいきます。

さすが、もののけ姫の森の中のような景色です。シン神と話せる電話はどこだろう？山犬の牙は？？とと思っているうちに、まさかの湯谷富士に到着！荷物をデポし、来た道を引き返してよく見ると…、ありました！絶対に見たいスポットでしたので、よかったです。



「黙れ！小僧！」最高です。美輪さんの声が聞こえてきます。

湯谷富士に戻ると、こだまの石もありました。

ざっくり標高四百数十mくらいの地点を上がり下がり下がりしながら進んでいきます。

次のおもしろスポットがどこにあるかな？とわくわくしながら歩を進めていきました。

サイコロ岩。「1」の目が出れば、幸せに！

ジブリゾーンを過ぎると平氏と源氏ゾーンに！

「扇の的」が見つからなかったのが、次の機会にさすが、鳳来、ところどころ大きな岩(崖)があり、そこからの見晴らしがよく、すばらしい風景を見ることができました。浅田さんが、あれが明神山で、あそこの平らなところが棚山で、宇蓮山につながって、南尾根で…などたくさん教えてくださいました。新城トレイルのコースを遠くから見るとあぁなっているのか、と改めて知ることができました。面白いですね！

このコース、鷹打場付近の鳳来寺山のルートに合流するまで 3 人の方とすれ違っただけで、人が少ないので静かに山をじっくりと楽しむことができますのでおすすめです。しかし、ルートがわかりにくい場所やロープや木を利用して歩く、少し危険というか注意が必要な場所がありましたので、慣れた人と行った方がよいと思います。でも、個人的にはなだらかな道をずっと歩くよりもこのような岩場やロープや木を利用して…というルートの方が変化があって面白いので好きです

☆安全に気をつけて楽しみたいです。



鳳来寺に到着。甘酒やジュースでほっと一息。

下山は以前の奥三河パワートレイルの最後のコースを降りていきます。ここからは比較的なだらかな林道のような道を歩いて行きます。

浅田さんが小学生の頃、野外学習で鳳来寺山に泊まり雨の中下山されたそうで、ここを歩いたのかなあ、こっちの道があったのかなあと、思い出を話してくださいました。

そして最後は、奥三河パワートレイルの練習のときに見た、民家の白いわんちゃんが元気に出迎えてくれ、駐車場へと到着しました。

今回、自分は新型コロナが流行して初の山行への参加でした。浅田さんと一緒に山行させていただいたのは 2019 年の夏か秋以来だったということが改めて発覚、二年半以上三年近くぶりということでした。

今回、久しぶりのリハビリ山行で楽しすぎてテンション高く参加。いろいろなスポット、見られるものはすべて見たいぞ！というわくわくした気持ち&みなさんとご一緒できてとても楽しかったです！！みなさん、ありがとうございました！！そして、健康と平和に感謝です！！

—記・井澤—

【蕎麦粒山】22.5.29(梅田)

【2022年5月29日】

【メンバー】白井、梅田(原田)

以前から気になっていた深南部の蕎麦粒山へ行ってきました。

林道が通行止めのため三ツ星天文台からスタートし大札山経由、山犬段まで往復 22 キロのなかなかハードな行程です。

(行程)

三ツ星天文台→大札山南尾根登山口→大札山→大札山北尾根→林道→蕎麦粒山南尾根登山口→蕎麦粒山→山犬段→林道→三星天文台
三ツ星天文台

南尾根登山口から大札山へ。

林道をさらに進むと大札山肩登山口というトイレのある登山口もあります。いきなり急登で汗だく～

いろんな鳥の鳴き声が近くで聞こえ、鳥の名前を白井さんに教えてもらいました。花の名前同様、たくさんの種類、同じような名前があっかなかムズカシイ…

展望の良い場所が所々あります。

大札山山頂。

ギリギリ間に合ったアカヤシオとシロヤシオ。

毒々しいキノコ

大札山を一気に下り林道を少し歩くと左手に蕎麦粒山登山口。こちらも急登～

新緑が美しい森で癒されます。

蕎麦粒山は道標が少なくなりますがスプレーで木に○の案内があり、整備もされていて歩きやすかったです。

蕎麦粒山山頂。



展望が良い。富士山と指(笑)

何故か小ハエが大量。

休憩するも小ハエが気になって仕方がない山頂でした。

蕎麦粒山を 20 分程下り山犬段へ。

キレイな避難小屋とトイレ、広い広場、ベンチなどがありとても素敵な場所でした。

山犬段からは来た道を往復か林道を 10 キロ程歩くかのどちらかになります。

我々は展望が良い&水場がある林道で三ツ星天文台を目指します。

林道では治山工事が行われており、急斜面が何ヵ所も整備されていて壮大な景観でした。

林道をひたすら歩くと大札山肩登山口に出ます。トイレと広場があります。

通行止めのゲートまで戻ってきました。

22 キロ、約 7 時間半のなかなかタフな山行でした。新緑とアカヤシオ、シロヤシオ、鳥の鳴き声に癒されながら静かな山歩きでした。

帰りは川根温泉に寄って汗を流して露天風呂から機関車トーマスの機関車を眺めて帰宅しました。

—記・梅田—

【鳥取大山】22.5.25(上田)

【2022年5月20日～22日】

【メンバー】L 上田歳彦、鷺見哲司、鈴木幸子、梅田(原田)るみ、日浦裕子

【日程概要】

20日(金) 19:00 音羽—24:05 蒜山高原 SA

21日(土) 蒜山高原 SA—8:00 大山夏山登山口

—16:00 関金温泉—18:00 鷺見さん宅

22日(日) 9:00 鷺見さん宅—10:00～12:10 三徳山 投入堂—13:00 三朝温泉(昼食後 15:30 倉吉発)—21:00 音羽

【山行タイム】

8:20 夏山登山道—10:30 合目避難小屋—12:00

大山山頂—13:20 行者登山道—14:00 大堰堤—

14:35 大神山神社—15:00 駐車場

【山行データ】

山行距離:7.7km

山行時間:6時間40分

累積標高:+975m

鳥取県倉吉市在住の OB 鷺見さんのガイドで大山登山に行ってきました。

昨年の計画が流れて新緑が素晴らしい時期にようやく訪れることができ、合計 5 名で大山登山と温泉、鷺見さん宅での大宴会、名勝観光の超楽しい旅となりました。

20日

まずは、音羽から梅田さんの Forester で東名、新名神、中国縦貫、中国、米子道経由で途中蒜山高原SAで仮眠。吹田～池田間は工事通行止めで迂回でしたが、その他は順調に移動できました。

21日

21日朝、米子道の溝口インターを降りると西面からは富士山型の大山が正面にドーンと見えました。

北西面の裾野標高 750m付近の夏山登山口で、丁度大山ナショナルパークセンター駐車場で鷺見さんと合流できました。

ゆったりときれいな商店街とモンベルショップを抜け、橋を渡るといよいよ登山道、右側(西面)の穏やかな斜面と左側(北面)の荒々しい斜面の尾根道につけられた歩きやすい登山道をゆっくり上ります。

鷺見さんによると弥山(1709m)の近くまで木の階段や木道が続いており良く整備されているとのこと。

幸子さんお目当てのマンホール発見(大山&モンベル(´_`)/)

1, 2, 3 合目とゆっくりと高度を上げると素晴らしい新緑。春まで雪に覆われて今はブナやカエデなど照葉樹林に覆われてとても明るく豊かな森は素晴らしいです。

6合目には悪天時には安心な立派な避難小屋。

左側は荒々しい北面が間近に眺められ、後ろを振り返ると今日は花曇りながら日本海が 20km の距離に望めました。

8 合目までの登りは急登となりますが、鷺見さん節と高笑いが炸裂し、疲れを吹き飛ばしてくれます(^_^)/

8 合目、9 合目は素晴らしい大山キャラボクの群落が木道から快適に間近に眺められ、頂上小屋付近は伸びやかな草原となり眺めは最高です(^_^)/

頂上小屋から少し登ると弥山の頂上。登山道はここまでですが、この先崩壊が進行する尾根の向こうに最高点 剣ヶ峰や右下には面白い形の烏ヶ山ときれいな山並みが続きます。



頂上の気温は 9.8℃、風も少しあり冷たいので頂上小屋の 2 階に上がらせてもらい昼食を頂く。日本海と弓浜海岸、中海を眺めながら気分良く下ります。

きれいなお花たち

5 合目の上で、北面に下る行者谷コース。最初急坂ですが堰堤のある河原に着くと荒々しい大山北壁が広がり絶景ポイントです。

なだらかになった新緑が美しい森の中を下っていくと大神山神社奥宮。ここから入山しようとしていた外国人旅行者の方がみえて、鷺見さんが流暢な英語で交流。Enjoy!

神社の広い参道をのんびりと降りていくとスタート地点に合流。お疲れ様でした！

ここからは車で大山の山麓を左回りに周遊。西面から南面に回り込むと三ノ沢橋。こちらから剣ヶ峰に登るルート(エリアマップで表示なし)は涸沢を登るようだと鷺見さんのお勧め。またの機会に登ってみたい。

この後の鍵掛峠からは大山南壁の絶景！

鏡ヶ成キャンプ場からは烏ヶ山が少し異様な姿でそびえていて登行意欲をそそられます。]

鷺見さんの案内で倉吉方面に向かう途中の関金温泉へ立ち寄り、ゆっくりと疲れをいやすことができました。

鷺見さん宅の近所の大きなスーパーで買い出し、

日本海の新鮮なネタがたっぷりのお寿司や焼き鳥、サラダ野菜、デザートなどを買い込みます。さっそく 18 時から鷺見さん宅で大宴会の始まりです。

カンパ〜イ！ ビールに美味しい日本酒、スコッチウイスキーなど、手持ちのお酒を次から次へと頂く。鷺見さんありがとう！

こうして鷺見さん宅での宴会は夜半頃まで盛り上がりました(^_^)/



鷺見さん宅からの大山と蒜山

22 日

今日はゆっくりと楽しみましょうということで、当初予定の下蒜山の往復はパスして予定の三徳山(みとくさん)投入堂(なげいれどう)へ。

下の遥拝所からは一番上の投入堂が結構高い所に見えます。

受付では靴のチェック。パターンの少ないジョギングシューズだと却下されました(;▽;)

所々木の根をつかんだり鎖場が現れたり急な登山道。文殊堂や地藏堂では、手すりの無い縁側が歩いて、結構スリリング(^_^)/



鐘楼で鐘を突かせてもらおうといよいよ投入堂、よくこんな岩壁に張り付くように建てたものである。8 世紀初めに開山され、平安時代後期には建造されたというのは驚くばかり。

下山後は少し戻って名湯三朝温泉へ。有志で

鷺見さん行きつけの露天風呂へ。青空の下で河原の露天風呂は超気持ちよかったです(^)/

幸子さんのマンホール・ハントに同行しました！

お昼ご飯は回転寿司「北海道」で新鮮なネタのお寿司を頂き、解散です。

鷺見さん、2日間ありがとう！ またみんなで来るのでよろしく！

—記・上田—

【瑞牆山】22.5.28（小寺）

【2022年5月28日】

【メンバー】L浅田、坂本、二橋、山口(岳)、小寺

先週の廻り目平キャンプ山行が雨天の為延期となり、代わりに浅田さん以外は初めてという百名山の瑞牆山に日帰りで行って来ました。

(行程)

9:13 瑞牆山荘→9:56 富士見平小屋→11:57 瑞牆山山頂→12:35 下山開始→14:40 富士見平小屋→15:44 瑞牆山荘

豊川市役所を5時半に出発し、新東名(E1A)を經由、昨年8月全線開通した中部横断自動車道(E52)を使い中央道(E20)に入り須玉ICを降り瑞牆山荘駐車場に到着したもの予想以上の混雑で路肩に車を停めて身支度をする。

車を降りた時は肌寒く感じたが、歩き始めると快適で目に入る新緑が気持ちよく足が進む。瑞牆山の全景が見え気持ちも高ぶる。

沢を渡り桃太郎岩、紙地図で確認しながら前へ進む。

登山道は“トッキュウゾーン” いつも以上に浅田さんに手足をつく所「鎖を持って」とアドバイスを頂いて両手を使い緊張感を持って登っていたら、坂本さんが「うちの親父、浅田さんと同じ年なんだけど家のコードがまたげない・・・」って言われ、もう笑えて・笑えて・危なかったあ～坂本さんの浅田さんへのリスペクトとお父さんへの愛を感じました。

大ヤスリ岩を見上げ、クサリ場やハシゴを慎重に進み山頂に到着。「キャー絶景！！すごーい！」八ヶ岳に南アルプス・・・(今夏、行きたい行きたーい)真正面には富士山・・・(さすが！残雪の形がいいな)お隣は金峰山・・・(3年半ぶりです)遠景には北アルプス・・・(待っててね)っと心の中で叫んでいました。ゆっくり食事をしようと思っても景色が気になって

富士山の雲は動いているかな・アレお隣の岩峰でラーメン食べてる?なんて



下山はゆっくり慎重に。足下が見えなかったり足がすりそうになったり、シャクナゲのトンネルをくぐり草花にも目を向けながら下りました。

富士見平小屋の休憩時、お隣でかき氷を食べていた福岡からいらしていたソロ登山のご婦人、お歳を聞いたら71歳。「すごいなあ～ステキ！」私も71歳の時に瑞牆山に登りたい！！と新たな目標ができたと思ったら、二橋さんが71歳の時にも同行することに・私は何歳

富士見平小屋のテマ場までね。もちろん歩荷は坂本さん～楽しみにします～



道中の話しの中で山口さんと坂本さんはクライミングが気になって挑戦したい様子。ワクワクしてきます、他人事でも・新緑は鮮やかでそよ風は心地よく岩場も登り、山頂の景色は想像以上(近くにいた若い子はヤバイヤバイと連呼していました)お天気にも恵まれとっても楽しかったです。

みなさん、ありがとうございました。感謝です。またどこかの山をご一緒をお願いします。

—記・小寺—

【草津白根山、皇海山、那須連山】22.5.28(上田)

【年月日】2022年5月28日～30日

【メンバー】上田歳彦

前の週の伯耆大山に続き、梅雨入り前の晴れ間に北関東で未踏の3座を登りに出かけることとした。

5月27日(金)

20:30に自宅を出て、東海環状、中央道、長野道経由 須坂長野東ICで降りて、万座温泉手前の東屋付の駐車場に午前1時に到着。走行は344km。テントを張ってそそくさと寝袋に潜り込む。気温は3度と冷え込んだ。

5月28日(土)晴れ

6:00に起床。快晴の中でテントを撤収し、万座温泉からの入山口を探すが、源泉付近は硫化水素ガス警戒のため立ち入り禁止で南側に300m程離れた道から入山し(7:05)しばらく歩いて登山道に合流する。

入山口(万座温泉の湯元から南300m)

志賀・草津道路(R292)に上がる登山道の前半は木道、後半はしっかりした登山道で、所々残雪がある中を登ると白根山(2160m)や周りの山が見えてくる。

四阿山、妙高、火打、焼山

北アルプス雪渓を横断してR292にある小さな駐車場にはスキーヤーがいて、雪渓でスキーを楽しむ様子。数台駐車可能なスペースには火山ガスのため立ち入り禁止の看板がある。(8:00)

登って来た万座温泉の向こうに四阿山

浅間山(左遠景)

左遠景の浅間山と右遠景の四阿山

事前に入手した火山ガスの危険地帯の掲示ではこの登山道とR292から白根山頂上に至る経路では、現時点では火山ガスの噴出危険地帯からは外れている。浅間山や四阿山などの東信州の景色を楽しみながら、往路を下る。(9:35車に戻る)

レストハウスと弓池

万座ハイウェイから弦ヶ池

国道122号経由、群馬県北部、赤城山の南麓を回り込み、昼寝をしながら140km 3時間半走って、日光市足尾の銀山平キャンプ場に14時15分に到着。国民宿舎かじか荘で庚申山荘の素泊まりの手続き(2080円)をし、山荘に向けてスタート(14:50)。

林道上、天狗の投石

渡良瀬川支流の庚申川を左に見ながら新緑の中

を歩くと、続々と今日皇海山を登頂したらしい登山者と行き会う。

美しい森

行場らしい雰囲気

鏡岩

美しいブナ林

一の鳥居からは緩やかな登りで、石の門など信仰の山らしい場所を通って17:10に庚申山荘に到着。今日の宿泊者としては最後の方で、定員50名ほどの所、管理人さん(北山さん)のお部屋も融通してもらって、布団を確保できた。60名程で満杯とのこと。

デッキで夕飯と持参のビールでいっぱい。隣に来られた、今日登って来て後泊のカップルさんと情報交換。19時半には就寝。

5月29日(日)晴れ 尾根上は風強し

3:00起床 星がきれいだった。朝食を摂りヘッドランプで4:00に出発。皇海山という看板はなく、前日偵察したように庚申山をめざす。

ちょっとした岩場がある急登やトラバースで、庚申山頂に5:00に到着。尾根上を少し歩くと、皇海山が初見参。これからめざす鋸山までの険しそうな尾根とその右に朝日の中、立派なこぶのような皇海山がそびえる。15m/s程の強風の中、これからの登高を思い気合いが入る。

これからめざす鋸山に続く尾根

駒掛山、溪雲山、などの比較的穏やかなピークを過ぎると薬師岳に6:11に到着。鋸山の険路が望め、大休止とする。

長い鎖場が続く

いくつかの鎖場の登下降を繰り返して登り切るとようやく鋸山のピークで、群馬県沼田の標柱がある。7:07皇海山は近づいたが、130mの急な下りで帰りの登り返しを考えると少しうんざりだ。

鋸山を振り返る

少し起伏を越えるとようやく群馬県側不動沢からの合流点の最低鞍部(1870m)。いよいよ濃い樹林の中を皇海山に向けて登っていく。途中、10mm程の雹が溜まった場所を見かけた。5/27に日本海に停滞した寒冷低気圧により群馬県の各地で雹が降ったようだが、これもその時のものであろう。

朝一番に登った人たちともすれ違い、この日10番目位に無事に登頂できた。8:34登頂。頂上には何と桜が咲いていた。



少し下り不動沢のコルの手前で、「上田君」と声をかけられた。何と高校の同級生のN君と同行のもうお一人も同級生。先週、私に先行して登るというのをSNSで情報交換したところだが、天候が悪いことを見越して週末にずらしたとのこと。一瞬でよく見つけてくれてありがとう!! お互いねぎらい合い、無事に下山・帰宅することを願って別れた。

快晴の日光連山

上州武尊山と右の谷川連峰

鋸山への鎖場の登り返しでは降りてくる方もみえて、落石に気をつけながら登り返す。10:02 着。

鋸山から庚申山を振り返る

鋸山直下のシャクナゲ

頂上からは六林班(ろくりんぱん)峠への分岐を右に下る。鎖場などはなく、笹原の気持ちの良い下り。

冬季の積雪は多くなく、背の高い岳樺

1 時間ほどで六林班峠に着く(11:06)。似たようなペースの若者や、六林班峠経由で皇海山を往復したシニアの方と同行して歩く。皆さん、登頂した喜びと安堵感で話が弾む。

トラバース道はほとんどアップダウン無く、笹も良く刈り払われているため歩きやすい。何本も沢を横断するが、悪場はなく沢の冷たい水が楽しい休息を与えてくれた。

13:04 に庚申山荘について、皆さんほっと一息。山荘前の広場は素晴らしいくつろぎのスペース。小屋番の北山さんにお礼を言ってデポした荷物を詰め直す。皇海山登頂のための装備:水 2L、行動食(多め)、カップ、ヘッドランプ、ツェルト、レスキューシート、6mmx10m、スリングとカラビナ少々、その他応急手当などの小物類。

山荘を 13:30 に出発し、一の鳥居までの登山道、庚申川添いの林道をのんびりと下山する。銀山平

キャンプ場に 15:09 到着。やれやれ、久々の 11 時間行動となった。

身支度を調べ那須連山へ移動。途中、かつて足尾銅山のあった松木溪谷に寄ってみる。工事車両のみで立ち入り禁止で、溪谷の入り口にある掲示を確認。

かつて見た NHK ドラマ「足尾から来た女」(尾野真千子主演)

道中、「東照温泉」に立ち寄り、お風呂と夕ご飯をたっぷり頂き、疲れが癒やされました(´_`)/

更に北上し、那須高原の峠の茶屋駐車場へ 21 時に到着し、テント設営。満天の星空が美しかった。

南方、さそり座が昇る

東の空、夏の大三角

5 月 30 日(月)晴れ

5:30 に起床。今日も素晴らしい天気です身支度をして6:22に出発。駐車場のトイレや休憩所が新しく、登山口としてとても快適な場所だった。(標高 1470m)

まずは峠の茶屋跡のコルまでのなだらかで展望の良い登り。

峠の茶屋跡のコル

コルに 7:10 に到着し左側の茶臼岳(1915m)をめざす。那須連山は活火山で現在警戒レベル1ではあるが、右側に噴気孔があり樹木は無く火山らしい景観の中を、今日は楽しみながらゆっくりと歩く。

茶臼岳をめざす

コルを振り返る

茶臼岳の外輪山から白河、那須方面の平野部を望む

外輪山から朝日岳(右)と中央奥の最高点 三本槍岳(1917m)

左から回り込み左回りで小さな外輪山を回ると茶臼岳の最高点。(7:48 着)

那須連山で深田百名山も 94 座目。前後して登頂した方をお願いして人文字でパチリ。急なお願いにもかかわらず「4」をきれいに作って頂き感謝(´_`)/



コルまで戻り小休止して反対側の朝日岳に 9:23 着。先ほど登った茶臼岳の火山景観が素晴らしい。頂上は小さな虫が大量発生してお茶を飲むこともできないくらいで、そそくさと下山する。少しだけ最高点の三本槍岳をめざす人も結構いたが今回私はパス。

昨日や一昨日は非常な強風のためにコルまで行けずに登頂を断念したという声を複数聞いた。

気象庁の火山活動観測設備

イワカガミ途中道ばたの花々を愛でながら峠の茶屋駐車場着(10:52) 3つの百名山を無事に登り終えてほっと一息である。

東北自動車道に乗り、宇都宮の SA でお土産に「宇都宮ギョーザ」買って、19 時過ぎに帰宅することができた。

百名山もあと 6 座(北から、十勝岳 羊蹄山 八甲田山 八幡平 水晶岳 霧島山)、今年は秋までに東北の 2 座と霧島山は登れたらと思う。来年は北海道遠征と最後はクラブの皆さんと水晶岳に行ければと思っている。

<山行中の天気の状態>

・5 月 27 日(山行前日) 09 時の地上天気図と 500hPa 高層天気図

地上天気図では日本海に前線を伴わない低気圧、上空 5500m (500hPa)にはこの時期としては非常に強い寒気をともなった寒冷低気圧があり、その南東にあたる関東北部(群馬、栃木)では夜間に強い雨や雹が降った。

・5 月 28 日～30 日 09 時の地上天気図

断続的に移動性高気圧に覆われて概ね晴れの天候が続いた。有りがたかった。しかしながら 28 日、29 日の両日も、那須連山では歩けないほどの強風で、登山を断念したとか。

天気図では等圧線はさほど混んで無いのでコルが風衝地のため空気が収束して強風となった可能性があると思われます。

一記・上田一

【空木岳尾根】22.6.4(二橋)

【2022 年 6 月 4 日】

【メンバー】河合、遠山、夏目、二橋

前泊日帰りで、空木岳に行ってきました。池山尾根。距離 20km、累積標高 2,050m。健脚者の多いハードなコースでしたが、さすが百名山、梅雨前の晴天だからかかなり多くの登山者でにぎわっていました。登山道は整備されて、歩きやすく、稜線にでてからの景色は格別でした。

6 月 3 日(金)

20:30 新城集合。いつものとおり、駐車場へ向かう。到着後は、珍しく宴会することなく就寝。

6 月 4 日(金)

3:50 駒ヶ根高原スキー場駐車場

4:46 空木岳登山口駐車場

6:05 池山尾根水場

8:37 ヨナ沢ノ頭

9:45 空木平カール分岐点

10:29 駒石

11:49 空木岳

12:27 駒石

12:51 空木平カール分岐点

13:31 ヨナ沢ノ頭

15:18 池山尾根水場

16:27 空木岳登山口駐車場

16:58 駒ヶ根高原スキー場駐車場

まだ暗く冷たい空気の中、登山開始。

歩きやすいが、それなりに斜度がある山道。途中、樹林帯の中真っ赤な朝焼けがみえた。

林道終点、登山口駐車場へ。

ここが本当の登山口らしい。以前はここまで車を入れたそう。かなりの台数が止められそうなスペースとトイレがあり、視界も開けて下の街が望める。

ここからが本格的な登山道。葛折になっていたりいなかったり。両側にはイワカガミの群生が最盛期だった。薄暗い登山道の脇に、鮮やかな濃紅色の可愛い花が咲き、私たちの心を癒してくれる。ギンリョウソウ、ウメバチソウ、シャクヤク、ヤマツツジも。山も花の季節が始まっていた。

池山小屋の水場。

ポンプを使ってなさそうなのに、水道のように上に引き上げられている。昔の人？の、知恵と技術に驚いた。

大地獄小地獄という名の鎖場をこえる。楽しい。地獄とは程遠い。

不思議な木。

不思議な立ち姿をした木
幹が折れて、枝が幹に変化したらしい。強い生命力。

長い樹林帯の上部、登山道に明るい日差しが差し始めた。稜線に上がる手前から残雪がでてくる。

雪渓歩きになったり、ならなかったりを繰り返し、ヨナ沢の頭を過ぎると長い樹林歩きをおえ、森林限界を超えて稜線へ。一気に視界が開けた。



梅雨前の快晴。

湿度も低く、風が心地よく吹いてくる。

駒石がみえ、その向こうには山頂がみえ、気分も上がる。

気分は上がるが、道のりは遠い。

道のりは遠いが、気分はあがる。

気分が上がるが、道のりは遠い。

ようやくたどり着いた山頂では、

たくさんの登山者が景色を楽しんでいた。

前方に中央アルプスの山々、御嶽も見渡せる。

今年はどこに行こう、南駒ヶ岳、沢もいいね。上松からの木曾駒もいいな。テレビでやってた檜尾から空木周回紅葉ツアー見たいなとか。山頂で休憩しながら、登ってきた道のりを眺める、次の登山を妄想する。至福の時間。そして下山開始。

ピストンなので、ほぼきた道を下る。

避難小屋コースのシリセードも魅力的だが、今日の目的は体力づくり。マセナギ→池山小屋はきた道の反対側、タカウチ場からはショートカットコースを進んだ。葛折の道を直下降するので、だいぶ時短だった。急ではあったが、踏み跡もしっかりついているところが多かった。

下山も長い道のりではあったが、変わらず快晴の天気の中、景色を楽しみながら駐車場に到着。

最後に、今年トレーニングが出遅れて焦った私は、ピストンということで参加表明はしたものの 70%、途中の小屋で待機になるだろうと予想していましたが、先輩方に背中を押し続けてもらい、なんとか無事登頂。青天の初空木、とても楽しかったです。いつも本当にありがとうございます。

先輩方のザックの中で、けっこうなスペースを占める私の荷物。反省しかありません。

—記・二橋—

【黒姫山、飯綱山】22.6.11(梅田)

【2022年6月11日】

【メンバー】梅田(原田)

6月11日、奥信濃100というトレランの大会に出るために長野県木島平村まで行ってきました。が、前日受付の10日にコンディション不良に…棄権し、記念撮影だけしました。なので予定変更～

北信の山へトレラン登山する事にし、黒姫山、飯綱山へ行ってきました。

まずは朝一番で黒姫山へ。

朝5時に大橋林道登山口に到着。

美しい新緑の林道、登山道を進みます。

イワカガミの群落と黒姫山で出会った花達しらたま平到着。

雪山が見える

天気はいまいちですが下界が見渡せます。

少しだけ雪が残っていました。

山頂が見えた！

美しいビクトリーロード。山頂到着。

野尻湖、雲海がキレイ。



帰りは古池のルートで下山。大きな湿地のある池です。

途中でキレイな沢を渡る。

ちょっとだけドロドロのシューズを洗おうと思ったらドボンしてしまった(汗)

9時に下山でき、天気もまだもちそうなので飯綱山へ。

当初は大橋通林道登山口から近い、戸隠キャンプ場から登ろうと思っていましたが景色がいまいちなので戸隠神社の歴史が感じられる一の鳥居苑地から登る事にしました。

一の鳥居苑地登山口。

途中、別荘地の中を歩きます。いよいよ登山口登山道の所々に13の石仏あり歴史を感じます。

1は不動明王から。

山頂に近づくにつれて岩々しくなる。

飯綱神社

神社から 10 分程で山頂到着～

下山は同じ道をピストン。

飯綱山で出会った花達。

13 時過ぎに下山できたので斑尾山も登ろうと斑尾高原タングラムへ移動。

タングラムから登っていると、雷が鳴り始めたので山頂は諦めそそくさと下山しました。

信越五岳のうち 2 つに登れて良かったです。斑尾山、妙高山、戸隠山はこれからの楽しみです。

—記・梅田—

【新入会員歓迎会兼親睦会】22.6.12(浅田)

【2022 年 6 月 11 日】

【メンバー】山本顧問、白井、遠山、古賀、坂本、中村さ、西村、小寺、二橋、谷崎、日浦、樋口、横山、山口親子、浅田

まだコロナ禍ではあるが昨今の世間情勢を鑑みて、約 3 年振りに親睦会兼新入会員歓迎会を、門谷小学校跡で実施しました。

会員全員の参加は無理であったが山本顧問が参加くれて久々に山本節が開けました。

坂本君が郷里の広島焼と二橋さん地元の浜松餃子、野菜たっぷりの鍋を囲み、ビール、焼酎、ウイスキー、日本酒とアルコールも入り宴たけなわとなる。

新入会員の自己紹介に続いて現会員の自己紹介と進み、今年行きたい山の話から昔の思い出、よもやま話と 12 時過ぎまで園は続いた。

翌日は夜来の雨も上がり晴天となる中、鳳来寺山へ向かう。



仁王門を過ぎて馬の背展望台ルートに登り本堂へ合流する。



昨夜のアルコールの飲みすぎの会員や、山本顧問の膝の調子を考慮して、東照宮にお参りして石段を慎重に下った。

—記・浅田—

(追記)

親睦会の会話の中で浅田さんがさりげなく「みなさん、自分の百名山をつくって下さい」と言われ、その場では…えっ 100 以上の山に登らなくっちゃダメじゃん、ムリと思いましたが、なんだか わくわくしてきて…早速”私の 100 名山探し” というノートを作り、まずは”100 の山に登る” という目標もできました。

お隣に座らせてもらったご縁で山本顧問に南アルプス・仙丈ヶ岳の良さを教えて頂き益々楽しみになりました。(7/2.3 お天気になりますように) 久しぶりにたくさんの蛍も見ました。今秋は私も聖岳&光岳に行くよー。おいしい食事に楽しい会話…とっても大切な時間でした。みなさんありがとうございます～来年はメモリアルイヤー。わくわくが続きますね～

—記・小寺—

(追記)

新入会の皆さん、会員のみなさん、3 年ぶりの交流会、いい交流ができたようで何よりです。今回実家の田植えで参加できませんでしたが、今後山行などでご一緒できることを楽しみにします。

小寺さん、いい目標ができて良かったですね！「ちむ どんどん！」ですね！ご自身で行きたい山の下調べをして「この時期にこのルートを歩きたい」と呟いてください。もちろんトレーニングも怠らず。思いが強く態度で示せば同行サポートの手があがると思いますよ(´_`)/

何より自分がプランして自分で実践する、それが登山の魅力の 1 つですね。

仕事にしる、趣味にしるそれぞれの目標を持つことの大切さをこの歳になってなお、また浅田代表の後ろ姿を見ながら感じています。1982 年の入会

以来 40 年になりますが、入会以降の 30 年間は山谷はありながらも、会の先輩や仲間と日本アルプスの尾根歩きやバリエーションの雪稜、沢登りなど、目標を持って楽しい登山ができたこと、山の仲間に感謝です。

その当時は「この季節に〇日間休みができれば、この山のこのルートに登ろう」というプランが常に 5 つくらいは持っていたように思います。その内登れたルートもあるし、残ったままの場所もあります。

ここ数年は家族の健康や野暮用を言い訳(?)に、目標を持ってそのためにトレーニングをして登りに行くというサイクルがほとんどできていないですね。調べてみたら 15 年前 2007 年の時点で「深田」百名山の登頂はちょうど 50 座でした。同じ山に季節を変えルートを変えて何度も登っていたと思います。

その後、旅行や遠くにいた子ども達の顔を見に行くついでに(どちらがついでか?)積み上げていく内に 70 座台になり、「百座完登のタイムスケジュールは立たないけど完登しよう」と思うようになりました。

同じ百名山ハンターの西村さんがひたひたと近づいてくる中(笑)、コロナ禍で出かけられない中で、車で 2 日で行ける山は皆さんに声かけし、遠いところは休みを取って出かけるようになりました。

残り 6 座、八甲田山と八幡平(+白神山も)は今年の紅葉の時期、霧島山は今年中(か来年のミヤマキリシマの時期)に、十勝岳と羊蹄山(+暑寒別岳・雨竜湿原も)は来年 7 月末に、最後の水晶岳は来年 8 月~10 月初めにできれば雲ノ平~鷲羽~水晶~黒部五郎という 3~4 日のルートで希望される方と登りたいと思っています。

単にピークハントするだけでなく、その山やその山城の良さをできるだけ楽しむ登り方をしたいと思います。

「深田」百名山終わったら何やるかって? 幸い燃え尽き症候群になりそうにないし、200 名山 300 名山を目指す気も無いので、家庭の事情が許す限り、「(当面、)私の登りたい 10 ルート」でも作ってもう少し楽しみたいと思います。

夢である(あった?)ヨーロッパアルプスやヒマラヤ 6000m 峰まではどうかな、でも夢は持ち続けたいといけませんよね。安全登山が一番大事なので、私のできる登山気象でも少しでもお役に立てればと思っています。

— 記・上田 —

【湯谷富士】22.619(河合)

【2022 年 6 月 19 日】

【メンバー】遠山、二橋、樋口、河合

なまった体を動かそうと日帰り山行を考え、会では行ったことがあるが、私は行ったことのない湯谷富士に行くことにした。

朝、8 時 30 分、河合家集合。湯谷温泉駐車場へ向かう。

登山口からは、急な斜面で、道があるやら無いやら・・・。

噂の電話発見!

誰が設置したのかな? ポップの注釈も中々のもの・・・。

湯谷富士で記念撮影

途中の展望台

サイコロ岩の登りをちょっと登ってみる。後続のことを考えてもらい、右側から巻くことにする。

サイコロ岩の手前を登る。トラロープがあるが心細い。

サイコロ岩で・・・。

サイコロ岩から鳳来寺山方面を背にして・・・。

岩手県から譲ってもらった学校で使用されていた鐘。鳴らしてみた!



ポーズを取ってみました!

途中の道に「義経と瑠璃姫、もっと寄り添ってほしい」と書かれた看板?

途中の道の風景

弁慶の立ち往生の看板、近くに立ち往生されたと記された岩が・・・。

嘘か? 誠か? よりも、設置した方の楽しみ方に脱帽! 楽しくなります。

鳳来寺山まで下りてきて、頂きました。

東海自然歩道の行者越、樹林が伐採され、石塔があらちここに点在していることを初発見!

下った麓の林道わきに鮮やかな白色のアジサイ、きれいだった。純白!

行程は、10 キロ程度だが、大満足の旅であった。

— 記・河合 —

【大峰 川迫川水系 弥山川】22.6.19(山形)

【2022年6月19日～20日】

【メンバー】山形、鈴木(豊橋山岳会)

6月中旬ともなるとゴルジュシーズンに突入したと言ってもよい。その一方で梅雨入りしているため突撃タイミングは重要である。チャンスは逃さずに掴み切りたいと思い、ぎりぎりまで天気予報と睨めっこ。降る降る詐欺に騙されまいと目を血眼にして情報をゲットした。

結果、積算雨量や当日の天候を考えて弥山川ゴルジュを執行しても良さそうだと6/16(木)の夜に判断した。パートナーの都合もあり6/20(月)は有給を使って一泊二日で遡行することとなった。

すぐに用意を開始した。まだ沢中は寒いはずなのでお互いにダウン上とシュラフ(3シーズン用)、エアマットを持っていくこととした。久しぶりの泊まり山行であったため感覚が鈍っており銀マットを忘れてしまったのは反省点…。6/18(土)は観音峰の登山口で仮眠し翌日に熊渡に車を移動させる。

6/19(日)

たまに飲み過ぎて大寝坊する我々であるが今回は気合も入っており早めに起きた。6時前より行動開始する。弥山への破線登山道を順調に歩く。道は悪いが結構整備されている。足元が抜けそうな木梯子があったり渡渉があったり汗ダクで一の滝まで。奥に二の滝が見える。ここまで熊渡から1時間45分程度。

滝の登攀が続くため取付きでカップを着込み、クライミングシューズに履き替える。カップはすぐにボロボロになるためワークマンを愛用している。激しい沢に行くとはっきり言って使い捨てと言っても過言ではない。

私は上下4000円ほどのオールドスタイル、激ダサのカップだがパートナーは同じワークマンでもストレッチタイプの少しオシャレなやつで嫉妬した。一の滝は大知からスタート、いきなりチムニー登りをさせられるが楽しく登れる。

二の滝は山形、足早に右岸側を上部の岩を左に避けるように登る。クラックにカムが良く決まるが少しヌメヌメだ。ちなみに今回も二人でザック一つ作戦で一泊二日の沢には有効な作戦だ。二の滝は荷揚げせずに大知を引き上げる。

続いて三の滝、見た目は凄い迫力で登れんのかいと思う。順番的にここは大知が登ることに。釜を泳いで取付く必要がある。今回、60mロープを使用したのでビレイヤーの私は釜に入らずにビレイすることが出来て助かった。とはいえどうしても水しぶきや曝風でガタガタ震えながらビレイすることになる。ビレイ中に太陽が差してくれたので助かつ

た。このような時のお日様は心底神の恵みだと感じる。

途中、ハングのA1に行くのか迷っていたがワイドクライマーゆえに一番左のチムニーを選択していた。ヘルメットがあると通れないためヘルメット残置していた。無事に越え、私の番だ。既にビレイで体はかなり冷えていたため、最初の泳ぎがきつかった。足がつりそうになりながら泳ぎ、何とか上陸。

ここでザックを引き揚げてもらおう。水を吸ったザックさえ無くなってしまえば後は快適に登れる。しかし、この沢はマジでワイドムーブを多用させられる。なかなか無いタイプの沢なのでかなり面白い。ちなみにカムは6番まで1セット持ってきたが正解だったと思う。

三の滝を越えると遠目に大CS滝が見えるがしばらくかかるため一旦、ロープを束ねる。しかし、巨岩帯かつこの日は水量が多かったのでいちいち苦勞しながら巨岩を越えていく必要があった。そのような時はモンベルのフローティングロープ10mで対応した。相変わらず大活躍のアイテムだ。

巨岩帯に行く

大CS滝の手前で15m滝とぶつかる。ここはさすがにロープが必要なため左の垂壁を登る。順番で山形がリード。見た目は簡単そうなのだがヌメヌメで苦勞させられた。最後の乗越は必死で木に掴まり処理した。

ヌメヌメ垂壁クライミング

さて、問題のCS滝だ。遠目に見るとかなり絶望的に見える。が、とりあえずまずはダサイカップとともに記念撮影だ。



ワークマン大好きっ子

近くで見てもやっぱり絶望的に見える。威圧感も凄い。

ほんまにこんなとこ登れるんやろかとブツブツ言いながらダメ元で滝裏に入ってみると一筋の光

が！！人が抜けられそうな穴が上部まで繋がっている。「これはいけるんちゃうか！」と絶望ムードから一気にテンションが上がり、二人で騒いでいたら上がったテンションそのままに「僕行っていいですか！良いすよね！」と大知がリードした。なんか勢いでおいしいところを獲られた気がするがまあいいだろう。私は本日二回目のブルブル激寒ビレイとなった。

滝裏から外を撮影した様子だが写真だとよく分からない

滝裏は常に雨に打たれているような感じであった。カムは見事によく決まる。

なんとまあこんなにもキレイにラインが繋がっているものだ。上部の穴が何かの拍子に閉じてしまったらこの滝は登れないだろう。

フォローで穴から生まれてくる私↓

穴を抜け出してからはロープを出さずに越えることが出来たと思う。CS 滝自体がかなり巨大な滝であるためどこを登っているのか分からなくなる。

双門の滝直下でビバークとする。水しぶきで適地がことごとく濡れていたの寝にくい夜を過ごすことになってしまった。飯盒炊爨で上手い米が炊け、飯と共に双門の滝を見ながら飲んだ酒は美味かった。

6/20(月)

今日は双門の滝の登攀と三鉢の滝を越えれば予定の行程が終了となるのでダラダラと朝を過ごす。起床は6時前頃だったかと思う。双門の滝も実に美しく立派な大滝だ。真正面から見るとめっちゃカッコいいのだが真正面から撮影するのを失念してしまった…。

双門の滝の登り初めは8時頃、山形リードでスタートする。1ピッチ目はほぼアプローチで簡単、大知を確保し2ピッチ目のオフウイドゥスを彼に託す。

2ピッチ目は非常に恐ろしい水流横断から始まるが横断前にカムをバチ効きさせることが可能である。水量は間違いなく多かったが足場がしっかりしていることもあり無事に越える。

フォローでザック有のまま私は横断したが必死に堪えた。激シャワークライミングたまらないっす。横断後はすぐにワイド登りになる。6番を持ってきて正解だ。出だしは完全にアームロックをさせられ、まさかのヒールトゥまで。面白すぎる。水流に磨かれているためかヌルヌル要素は全くなく、超快適であった。

双門の滝

60mロープであったため2,3ピッチ目をほぼ繋げる形で登って行った。フローティングロープやスリングを延長し、荷揚げもスムーズに行うことが出来た。マイクロトラクションは必須アイテムだ。

双門の滝を越えたところでロープを片付ける。程なくして三鉢の滝をフリーで越え、終了となる。下山はなかなか悪い双門コースでダラダラと下山する。今回も良い山行が出来た！パートナーに感謝です。

やっぱり泊まりの厳しめの沢は最高に充実感がある。パートナーとあだこいだ言いながら装備計画や食料計画、登攀時の作戦がバッチリ決まった時は嬉しい。下山後の疲労感も嫌いではない。Mなのでしょうか。ゴルジュシーズンは開幕したばかりなので今年も色々行けたら良いなと思います。



【塩見岳】22.07.09(西村)

【日程】2022年7月9日(土)-10日(日)

【メンバー】浅田、西村

【タイムテーブル】

1日目

鳥倉林道ゲート6時→鳥倉登山口6時45分→豊口山のコル8時→仏の清水9時→三伏峠小屋10時15分→本谷山12時→塩見小屋14時

2日目

塩見小屋5時半→塩見岳西峰6時50分→塩見岳東峰6時55分→潮見岳西峰7時10分→潮見岳8時40分→本谷山10時40分→三伏峠小屋12時20分→仏の清水13時20分→鳥倉林道登山口15時15分→鳥倉林道ゲート16時20分

8日金晩発で大鹿の道の駅で車中泊し、明朝鳥倉駐車場に移動する。車はシーズンにしては少なくまばらに停車しているだけだった。男女分かれた常設トイレも完備。

そこから準備を整え登山口に向けて出発。天気は悪い方へ変わっておりあいにくの薄曇りとなったが暑いのが苦手な私にとっては涼しく快適な出発となった。浅田さんにとって夏の塩見岳は久しぶりで歩き始め闊歩しているようだった。

登山口からはつづら折りの樹林帯に入る。そんなにすごい急登もなく 30 分単位に休憩を取りながらゆっくり高度を上げていく。三伏峠小屋まで 10 分の 1 から看板が始まり、小屋までの距離がわかりやすい。途中私を悩ませたのは木でできた階段。行きはまだよかったが帰りは下りに時間を要した。

予定通りの時間で三伏峠小屋に到着。トイレ休憩と少し長めの休憩を取る。小屋の主人と少し話をして出発。

小屋から程なくして、三伏山到着。そこからほとんどアップダウンがないハイマツの道を進み本谷山へ行く途中で、少し空が明るくなり始め期待していなかった景色が見え始める。左に仙丈岳、甲斐駒、北岳、間ノ岳、農鳥岳。右に赤石、聖(あといろいろおっしやったが忘れてしまった。)

そして今回登る塩見岳も見え始める。途中浅田さんが冬に来たときの話を懐かしそうにされていた。枯れ木森を少し下りながら進み、いよいよ塩見小屋に向けて最後の登り。これが意外に急登でしかも長い。最後へトヘトヘになりながら小屋に到着。

受付を済ませ携帯トイレの使い方の説明を受ける。これが清潔でとても快適なものでトイレストレスが全く無かった。食事は 17 時からということでそれまで宴会時間。

小屋では越冬ビールと呼ばれる古いビールも格安(500ml500 円)で提供されており、それで明日登る塩見岳を見ながら乾杯する。浅田さんは少し呑んで昼寝をしに小屋へ。私は 2 本目の越冬ビールを買い、神奈川県から来たという女性と談笑する。

17 時から食事。登山道で会った人のほとんどが日帰り、宿泊人数は 7 人だった。外で先程の女性と浅田さんを加え少し話をして、寝る前にそれぞれストレッチ体操をして 19 時半ごろ就寝。

2 日目

4 時半起床。準備を済ませ朝食。霧雨でカップ出発だったがザックも軽く快適。少し歩いた所で岩場が始まり、私はストックをしまう。ちょっとした岩登りでとても楽しい。浅田さんが足の置き場を説明してくれるが 3 手以降は覚えられないので適当に登る。

お花がたくさん咲いているので写真を取りながらゆっくり歩を進める。まず西峰に登頂。続いて東峰に登頂。

山頂から少し下ったところで休憩し軽く食事をする。TJAR に出場する選手が練習でとおりに話をする。最初はそんなすごい選手と知らず話をしていたが、昨年大会が中止になったときに TOP だったときき、わーきゃー騒いで慌てて写真を一緒にとる。(土井陵選手)



ゆっくりお花の写真を撮りながら下山し、小屋へ到着。デポしていた荷物をまとめ小屋の方にご挨拶をして雨も上がってきたのでカップの下だけを置いて出発する。

行きとちがって随分ザックが軽くなった。下りも途中まで順調だったが、高山で発症する浮腫が両膝にまたもやでてきてしまい、後半は激痛と戦いながらの下山となった。そのせいで予定時間をオーバーしてしまったが、それを除けばお花もたくさん、景色もたくさん見ることができ小屋もきれいで豊川山岳会復活記念の南アルプス山行となった。

途中体力不足によって他の山に変更しようとしていたが、粘りづよく日程を変更して連れてきてくださった浅田さんに感謝です。ほんとうにありがとうございました。

— 記・西村 —

【清水谷左俣】2022.7.3(二橋)

【2022 年 7 月 3 日】

【メンバー】白井、高橋、浅田、遠山、Y さん、二橋

例年よりも早い梅雨明けを迎え、猛暑日が続いたある日、白井さんから沢登りのお知らせが届いた。

去年初めて沢登りに連れて行ってもらい、風景も歩き方、登り方もすべてが面白く、また今年も行きたいなあと思っていたのですぐ参加表明。行き先は、お天気の関係で最終的に「宇連山・清水谷左俣」となった。宇連ダムを奥に進んだ先に沢への登口はあった。

8:30 スタート

8:40 入溪

13:30 登山道へ

14:00 宇連山分岐

14:30 大幸田峠～林道～再び沢へ

16:00 ゴール

駐車場から林道を5分ほど歩いて入溪
一瞬で世界が変わる。雨のせい、苔の青さがひととき目立つ。

わりも装着完了。

ルートの始まりはなだらかな滑床。

そこをすぎるとすぐ最初のプールがあった。冷たそうに見えたが、思い切って泳いでみるとそうでもない。

私はザックの中の防水バックが浮き輪となり、進まない。ちゃんと空気を抜いたパッキング大事

泳いだり

巻いたり

しばらく進むと、左手にチムニー、シャワークライミングの岩に出る。浅田さんが迷いなく岩に向かう。「当然こっちでしょ！！」クライマーの血が騒いでいるよう。

チムニーとシャワークライミングをそれぞれ楽しんだ。

お釜のある岩にでる。

小ぶりだが、取り付くのが難しい。

お手本。右手を小さな割れ目に、左手は、右足…左足。

手足を置く位置は分かったが、その通りには出来ない。



高橋さんの膝と肩をお借りして、なんとか身体を持ち上げ、そこから必死のごぼう。

私の体重が、お二人にダメージを与えてないだろうか？

その後も、滝や小滝、岩場、プールを繰り返して登ったり巻いたり。それぞれが沢登りを楽しむ。途中大きな滝や、水の流れるスラブ。自分の技量も考えず、つい行ってしまい下降を勧められる。

右手に勢いのいいシャワークライミング、左手にこの脆そうな壁。シャワーの勢いが強いので、左を

選択。脆そうで苔がいっぱいの壁を、高橋さんがリードでスルスル登る。

どの岩も浮いているように見えるのに…。登ってみると、やはりどの岩も力をかけたら崩れそうなほど、浮いている。そして苔も滑る。

そして、ルートも終盤へ。

水も少なくなってきたので、沢を離れ、急斜面を藪漕ぎして登山道へ。

この急斜面が曲者だった。雨、地質、技術不足の悪条件が揃ってめっちゃめっちゃ滑る。後ろでフォローしてくれる浅田さんを巻き込み、ドリフのコントのように何度も滑り落ちた。「ロープお願いします」心の中で何度も叫んだ。

登山道に出た時は泥だらけなのに、先輩方は、きれいなものでした。転んでないらしい。

北尾根を下って大幸田峠から林道、そしてまた沢へ。泥で汚れた手足を洗いながら、最後まで沢歩きを楽しんだ。

沢には普段では見慣れない。面白いものがたくさんあった。いろいろな苔。水流で削られたであろう岩。地層のように見える。沢の底にできた穴。真ん中に石が座っているが、穴が先か、石が先か。全てが芸術品のようだった。

今日もワクワクドキドキの充実した山行だったが、これでもまだ入門コースらしい。これで入門なら、もっと楽しいものが沢山あると思うと楽しみで仕方がない。

ご一緒させていただいた皆様、今回もありがとうございました。

—記・二橋—

【白山】22.7.9(河合)

【2022年7月9日～10日】

【メンバー】遠山、二橋、河合

【タイムテーブル】

7月9日(土)

別当出会 10:05～中飯場 10:50～甚之助避難小屋 12:45～南龍山荘 12:35～南龍ヶ馬場野営場 13:50

7月10日(日)

南龍ヶ馬場野営場 5:25～トンビ岩 6:55～白山室堂 7:25～御前峰 8:15～室堂 9:05～黒ボコ岩 9:40～中飯場 11:40～別当出合 12:25

当初、新島々～徳本峠～上高地に行く予定をしていたが、最近の雨模様で沢を歩くリスクがあるため、急遽、加賀白山に行くことにした。

7月9日(土)

朝、5時30分音羽に集合し、石川県側の市ノ瀬ビジターセンターに向かう。

九頭竜湖道の駅のテラノサウルス市ノ瀬ビジターセンター駐車場

市ノ瀬ビジターセンターからシャトルバスで別当出合まで向かう。本日からシャトルバス運営で、昨日入山された方は自家用車で別当出合まで入れたらしい。

別当出合登山口。暑さに負けそうだがポーズ！

別当出合登山口からすぐに吊り橋が現れる。

中飯場上の登山口ここから本格的な登山道になる。写真のブラシは、靴に着いた下界の草の種等が高山に入らないためのもの。

外来種の草花やオオバコ等の下界の草が高山植物と混じって問題になっているとか…。しっかり靴底をブラシでゴシゴシ。

不動滝は標高が高い位置にあるが、水量が多いのはびっくり

甚之助避難小屋。トイレもあり、水も豊富で綺麗な建物。休憩するにはベンチもあり。

南竜分岐はオープンで景色もよい。

南竜道分岐を過ぎ、大屏風方面を望む

遠くに見えるのは、南龍山荘

テント場から南龍山荘を望む

南龍ヶ馬場野営場。この日は予約必要なし。広々としている。トイレは、水洗トイレでとてもきれい。気に入りました。

3人なのにV6ダンロップテントでボックトレしました。(宴会は広い方が楽しいし…。)

午後3時前から宴会。幸せ、、、。

晩御飯は、遠山シェフのアヒージョ！おいしいです。

7月10日(日)

朝3時半起床。朝から小雨。テンションは下がっているが、とりあえず、約30年ぶりの白山に向かうことにする。

ルートは、テント場から最短の「トンビ岩」のルートチョイス。これが誤算…。

夏道は、雪溪の下で雪溪を歩く羽目になるとは…。一部、緊張する場所もあり、初心者には難しいルートなのでお勧めしない。後から考えると、この季節は、一旦、南竜道分岐まで水平移動し、ここから白山までピストンすることをお勧め。

一部、滑りそうなところで、待機し、二橋さんを待つ。

雪溪は滑りそうなので、迂回。

上部は緩やかになりホッと一息。

室堂手前の雪溪。平なので危険ではないがガスってきた。

天気が悪いけど、雪溪の上で笑顔を出してみました。

室堂から白山(御前峰)に向かう途中。

この辺はクロユリが多くあった。

登山の無事を祈って…。



天気も良くなく、景色も見えず、誰もいないけど、お約束の山頂ポーズ。

山頂からそそくさと室堂に戻り、小腹がすいたので、カレーのカップラーメンを室堂センターで買い、おいしくいただく。休憩後下山。

弥陀ヶ原の木道。天気が良ければ、気持ちが良い原っぱ。高山植物の前でポーズ。

白山は、花がいっぱいあってとても好きな山でした。

—記・河合—

【富士山】22.7.9(中村さ)

【2022年7月9日】

【メンバー】小野、中村さ

7月9日(土)富士山の山開き？登山道がオープンすると聞き御殿場ルートで富士山へ行ってきました。

小野氏は寝不足のため、高山病にかかるも気合いの登頂。

私は、下山時の大砂走を爆走したあたりから頭痛が始まった。気合いで下山。

翌々日の11日に筋肉痛がきました…

6:50 登山口 1442m、すべてはここから始まった

宝永山と思っていたら富士山の山頂と教えてもらう。ひたすら世紀末な雰囲気

9:30 半蔵坊 2590m

今年オープンしたらしい小屋の前で



11:20 わらじ館 3090m
 12:17 赤岩八号館 3302m
 14:40 山頂 3776m
 18:00 登山口 1442m

1 日を通してほぼガスガスしていたため、割と涼しく登ることができました。

—記・中村—

【甲斐駒ヶ岳】22.7.2(梅田)

【2022年7月2日】

【メンバー】L 河合、小寺、日浦、山口、横山、梅田

テン泊チーム→1 日目甲斐駒ヶ岳、長栄小屋テント泊→2 日目仙丈ヶ岳(河合、小寺、日浦) 日帰りチーム→1 日目甲斐駒ヶ岳(山口、横山、梅田)で行ってきました。

金曜晚発、仙流荘駐車場で仮眠し朝 4 時過ぎにのんびりトイレに行くとなんともうチケット売り場とバス乗り場に行列が！！

みなさん気合が入っております。

行列に並びながら朝食を済ませ臨時始発便の 5 時 40 分発のバスに乗れました。

長栄小屋テント場に急いでテントを張り 7 時過ぎに甲斐駒ヶ岳を目指して登山開始。

朝の時点では青空が出ています。

最初は歩きやすい登山道。

しばらくするとゴツゴツ岩がたくさん出てきて、急登になる。

山口さん、横山さんのペースに先頭の河合リーダーが上手く合わせてゆっくり標高を稼いでいく。

徐々に曇り空になるがなんとか甲斐駒ヶ岳が見えました。いつ見てもカッコいい山です。

途中で新人さんの足がつったり息があがってペースダウンしたりでゆっくり登る。

途中でガスに包まれる。

摩利支天まで来たところで、帰りの 4 時のバスに間に合うように山頂は諦め下山する事に。

今回は残念ですがまたいつか甲斐駒ヶ岳の山頂へ行くぞー！！



下山開始直後、雷が鳴り始める。そして雨が降ったりやんだり。

下山中、横山さんの両膝が爆発。河合リーダーがザックオンザックで下山する事に。なんとも頼もしいリーダーです。

3 時過ぎに無事北沢峠バス停に到着。

日帰りチームはここでテン泊チームとお別れし、仙流荘横のお風呂で汗を流し帰路につきました。

—記・梅田—

【仙丈ヶ岳】22.7.3(小寺)

【2022年7月3日】

【メンバー】L 河合、日浦、小寺

念願の仙丈ヶ岳・自らリクエストをし、前日の甲斐駒ヶ岳に続きテント泊をして、初めての南アルプスを満喫した。

(行程)

4:28 テント場→4:43 北沢峠登山口→6:23 五合目(大滝頭)→7:31 小仙丈ヶ岳→8:51 仙丈ヶ岳山頂→9:13 下山開始→9:23 仙丈小屋→10:15 馬の背ヒュッテ→10:35 藪沢小屋→12:10 北沢峠登山口

昨日は、15:30 頃日帰りチームを見送り、テント場に戻り、早速待ちに待った宴…

気持ちよくテントの外で始めていたらポツポツ…急遽テントの中へお引越し。

不慣れな食当でしたがみなさんのお腹を温める

ことができ、ホッとしました。

たくさん話をして楽しいひとときでしたが、明日に備え定刻にお開しし就寝しました。

時折、大粒の雨が降っているのを感じながら再度眠りにつきました。

3:00 起床 黙々と身支度をし、朝食のラーメンは河合さんが手早く作ってくれました。

4:30 一番必要な装備“笑顔”を持って出発。北沢峠登山口より登り始める。二合目までは苔むした登山道。三合目を過ぎると急坂が続く。五合目を過ぎると展望が開け富士山・北岳・間ノ岳・甲斐駒ヶ岳・鋸岳・鳳凰三山…わあわあきれいに見える、カッコいい！

昨日は出会えなかったけど、そろそろライチョウさんの出番かなと思いきょろきょろしながら歩くも姿見えず…森林限界を超え小仙丈ヶ岳過ぎの尾根道歩きの強風に備えカッパを着ました。花もたくさん咲いていたが10時頃雨が降るといふ予報が頭にあり先を急ぎました。

いよいよ仙丈ヶ岳山頂…360度の絶景をビデオや写真に収め、大満喫しました。



下山しようとしていたら、ポツポツ…気のせいかなと思いたくても、仙丈小屋でトイレ休憩と食事の前にカッパの下も履くことになりました。仙丈小屋の前には新しい木製のテラスがありここからの展望もよかったです。

お花畑は真っ盛りにはまだ少し早いのかなと思いつつも可憐な花がたくさん咲いていました。馬の背辺りには防鹿柵もあり、柵のないところは花や草がほとんどありませんでした。

雪の上や沢をドキドキしながら何度も歩き、五合目の分岐まで戻り、ゆっくり慎重に下山しました。12:33 臨時便のバスに乗り、仙流荘で汗を流し食事もいただき、わいわいぺちゃくちゃ話をしながら豊川に戻りました。

ずっと登りたかった仙丈ヶ岳に加えて甲斐駒ヶ岳…初めての食事当番・久々の山でのテント泊・暑さ対策に雨対策などわくわくとドキドキがいつぱいの山行でしたが、みなさんの心遣いと笑顔に気

持ちがなごみました。

河合さんのうんちく・小ネタ・地図クイズ・体験談やアクシデントの対処法などいろいろと聞かせていただきました。日浦さんにはたくさん写真を撮っていただき助かりました。

私が、豊川山岳会に入会したのは、燕岳(3年前に登頂)と仙丈ヶ岳に登りたかったから…素直に感激しました。月日とともにあたらしい目標もでき“私の100名山探し”をのんびりとしていきたいです。

今回の山行は、この年齢になってまた部活動のような修学旅行のようでとっても楽しかったです。甲斐駒ヶ岳&仙丈ヶ岳は、何度も登りたい山になりました。

みなさん、ありがとうございました。感謝しています。

—記・小寺—

【石谷川沢登り】22.7.18(白井)

【2022年7月17日】

【メンバー】L.白井、中村、安井

戻り梅雨みたいな最近です。

海の日連休は当初は大台の「堂倉谷」の1泊2日を予定していましたが、天候不順で日帰り沢へ変更しました。

泳がないといけない所もありますが、それほど泳ぎの沢という事は無かったですね。

入渓地点 9:20-12:00 白雲の滝(お昼休憩)
13:00-13:30 遡行中止-14:30 駐車場(入渓地点)

自分が忘れ物をしたため、予定より遅れて現地に着。駐車場には先客の車が2台ほどあった。

入渓地点は水遊びやバーベキューをしているグループがいました。

最近雨の日が多かったので、水量が心配でしたがたぶん平水よりはちょっと多い感じで問題ありません。

水も澄んでいてキレイです。

装備を整え出発

すぐに泳ぐ場所が

右岸より試みるが水流に押し戻される

左岸より攻めるが2度フェールして諦める。

比較的初めの方に現れる7mの滝。

両側よりせめるがちょっと厳しい。

水量が少なければ水流のすぐ右側を登れるか？

諦めて左岸を巻きました。

ゴルジュ地形



チョックストーンは右側をカム 2 か所決めて登る。

ゴルジュを越えた先に現われるチョックストーンの滝。

右側を中間サイズのカムを 2 か所決めて中村君がリードしてくれました。

白雲の滝をリードする中村

地図よりちょっと表記がずれていたのので登ってからこれが白雲の滝だと解りました。

途中ハーケンが一か所あります。

滝の上でゆっくり昼食をとりました

ヌメヌメコーナーを登る

駐車場に戻りました

白雲の滝を越えて 30 分ほど遡行した後の出てくる滝が直登できず左岸を巻いたところで登山道に合流したので、ここで終了とする。

ヒルの襲撃を振り払いながら登山道を下山。

途中、広い林道となり快適に下山。

虫よけスプレーを靴や足元に噴出して下りましたが、多少聞いている感じ。

それでも駐車場ではヒルの除去作業。

中村君はお腹辺りまでヒルが取り付いていました。この沢は適度に面白く、なんとと言っても下山が快適。ヒルさえ居なければ最高なんだけどなあ。

—記・白井—

【富士見台高原】22.7.26(浅田)

【2022 年 7 月 24 日】

【メンバー】浅田、小寺、梅田、S さん

入会希望者の S さんのお試し山行で富士見台高原へ行って来ました。

坂本君ファミリーも参加したのですが、娘さんが車酔いで体調不良となり別行動としました。7 時半に豊川を出発し御坂神社登山口に 10 時半到着、すでに駐車場は満車でしたが運よく下山者がいて停めることが出来ました。

身支度をして登りブナ林コース、下り唐松コース

に決めて登り出す。林道を 30 分程進むとブナ林コースの登山口となる。小休止後ブナ林コースを進み 1 時間半ほどで唐松コースの分岐に着く。

ここから尾根の右側に着けられた登山道を進む。唐松林の間から南アルプスが見え隠れするがあいにく山頂は雲に隠れている。満岳荘手前 30 分ほどの木陰で昼食とする。

満岳荘でトイレ休憩して山頂へ向かう。林限界を抜けたようなクマザサの中に着けられた登山道を尾根に上がる。中津川の街並みが一望できるが、恵那山は雲の中である。それでも南アルプス方面は青空である。



山頂で集合写真を撮りそれぞれ思い思いに展望を楽しむ。S さんも感激そうである。

日本百名山 21 座が見えると書いてあるが、残念ながら今日はその殆どが雲の中である。

満岳荘で小休止後下りは唐松コースを野兎に導かれながら登山口へ降りた。

—記・浅田—

【立山三山】22.7.31(浅田)

【2022 年 7 月 29 日～31 日】

【メンバー】浅田、遠山、二橋

計画しては天候や体調不良等で行けなかった立山三山を縦走して来ました。

29 日

20 時過ぎに豊川を出て立山の駐車場に 1 時間前に着きテントを張り仮眠する。

30 日

朝 6 時 40 分のケーブルで美女平へ、ここからバスで室堂へ。快晴の室堂を 8 時に一の越山荘に向けて出発する。室堂周辺はチングルマの大群落である。

途中雪渓を 3 か所トラバースして 1 時間程一の越山荘へ着く。遠くに槍ヶ岳が望まれた。小休止を

して雄山へ向けて登り出す。

雄山への登山道は登りと下りが一方通行となっている。途中 1 回の休憩をした雄山へ着く。このころからガスが出てくる。山頂の祠の前で御祈祷が行われていたが、我々はパスして大汝山へ向かう。

20 分程で大汝山へ着くがガスで展望ゼロとなる。すぐ下にある大汝休憩所で小休止をする。映画「春を尾背負って」のロケが行われた所である。続いて富士の折立へガスのお陰で暑くはないがやはり展望が欲しい。雷鳥平へ下る大走りの分岐で小休憩し真砂岳へ登り出す。



別山南峰の登りにかかると雨が降り出す。「キルトヤーム、ヌグトフル」の法則でカッパを着て、脱いで、着るを繰り返す。別山南峰では風も出てきて剣御前小屋へ着いた時は本降りとなった。

小屋の土間は雨宿りの登山者で混雑していたが、予約してあったのでスムーズに部屋に入る事が出来た。8 人部屋を 6 人での相部屋でした。福島から来たという親子 3 人で、ほのぼのとする親子でした。カッパやザックカバー等濡れた物を乾燥室で乾かし、とりあえずビールで乾杯。夕食までの時間ゆっくりと過ごす。

夕食後雨が上がりガスも切れて剣本峰が見えてくる。夕日に輝く富山湾も見えてきた。消灯 8 時過ぎると一旦ガスに覆われたが、10 時起きて空を見ると満天の星空となっていた。



3 時半頃同室の親子が雄山へ向けて出発していった。5 時の朝食は登山者は 10 名程になっていた。

今日は下るだけだったのでゆっくりとモーニングコーヒーを飲む。

6 時少し過ぎに室堂へ下って行く。2 時間半ほどで室堂へ着く。既に立山三山は雲の中であった。下界は暑いと話しながら入浴、食事をして帰豊した。

—記・浅田—

【笠ヶ岳】22.7.30(梅田)

【2022 年 7 月 30 日～31 日】

【メンバー】夏目、西村、小寺、梅田(原田)

7 月 30～31 日、笠ヶ岳～鏡平小屋経由の周回コースに行ってきました。

〈コースタイム〉

29 日

20:20 豊川集合発

30 日

6:20 新穂高温泉駅駐車場発-7:30 笠新道登山口-杓子平手前(13:30 2P に分かれる。以降後行 P の行動時間)14:20 杓子平-16:25 笠新道分岐-17:45 抜戸岩-18:50 笠ヶ岳山荘

31 日

3:20 起床-4:00 笠ヶ岳山荘 4:15 山頂(ご来光)-6:00 テント場発-7:30 笠新道分岐-9:13 秩父平-10:30 大ノマ岳-11:30 大ノマ乗越-11:50 弓折岳(夏目先行、以降後行 P の行動時間)-12:45 鏡平山荘-15:50 秩父沢出合-17:00 小池新道入口 17:35 わさび平屋-17:50 笠新道登山口-19:10 双六.笠ヶ岳方面登山口

29日夜に豊川に集合して道の駅で仮眠し、5時半に新穂高温泉駅駐車場に到着。登山口に一番近い上の有料駐車場に車を停める予定でしたが、使用不可で駐車できず6時に解放される県営有料駐車場を待ちます。

駐車場待ちのクルマがかなり行列になったため5時50分に開放され駐車。待ち時間の間に支度を済ませてすぐ出発。

ゲートを抜け笠新道登山口までの林道歩き。朝一番はキレイな青空。

笠新道登山口に水場あり。

最初から急登を登りグングン標高を稼いでいく。

暑さ、急登、ザックの重さ、長距離長時間行動のため臨機応変に30分に1回もしくは1時間に1回休憩を入れる。



途中で西村さんが熱射病になりペースダウン。

このまま4人で行動するとテン場に到着が遅くなるため夏目小寺P(先行)、西村梅田P(後行)に別れ笠ヶ岳山荘を目指す。

稜線が見えてくるもまだまだ遠い。昼過ぎから雲が広がる。途中でニッコウキスゲやさまざまな高山植物に癒やされる。

稜線に出る手前で雨に降られてカッパを着る。

稜線に出たところでしっかり電波が入り到着時刻の予測ができたため山小屋に予想到着時間を電話。本当は15時までに連絡しなければですが、ごめんなさい。後でスタッフの方に謝りました。

稜線を歩いていると先行していた小寺さんが前から歩いてくる。テントを設営して戻って来てくれたのかと思ったら、時間が迫っていたため稜線で夏目さんがテン場確保のために走り、小寺さんは一人でテン場を目指していたが×方向に間違えて歩いてしまい笠ヶ岳方面に向かって歩いていたら後行Pに出会い逆走していた事に気づく。

夏目さんは稜線の一本道なので迷う事はないだろうと判断し分かれたが、何が起こるか分からないとみんなで後から反省しました。

走った夏目さんは17時にテン場に到着。すでにテン場はいっぱいで一人なのでテント設営に苦労

したそう。なんとか場所を確保し隣に先に設営していたパーティーの方達が整地、設営を手伝ってくださり山仲間の素晴らしさに感銘を受けると共に大変感謝しました。

ここから3人で笠ヶ岳山荘を目指す。しばらく歩くと雷鳥に出会い、テンションアップ！雷鳥のかわいさに癒やされました。

ここから3人で稜線を歩き6時半にテン場到着。テン場から小屋までまだ20分登らなければいけない事が判明し驚愕。7時前に笠ヶ岳山荘到着。

その頃、夕焼けに染まるキレイな槍ヶ岳が見えました。

西村-小屋泊 残り-テント泊のため、当初はみんな夕食をとる予定でしたが体調の優れない西村さんはテン場を往復する体力が残っていないため夕食は分かれてとる事に。

小屋泊の西村さんと別れ、テン場に戻り急いで夕食を作り9時就寝。

3時20分に起床し小屋泊の西村さんと合流。西村さんの体調復活！山頂からご来光を拝み太陽が昇る槍ヶ岳などの峰々に感動。



テントを撤収し6時スタートで鏡平山荘を目指す。

今日も朝一番は晴れて絶景の中の稜線歩き。夏山アルプスを堪能する

雷鳥2羽に出会いテンションアップ！おいしそうに葉っぱを食べていて癒やされました。

途中でまた雲が広がる中、笠新道分岐、大ノマ岳、大ノマ乗越を通過し11時50分弓折岳到着。

本日は約18キロを歩くロングコースでまだまだ先は長い。駐車場の閉鎖が16時のためここで夏目さんの荷物を軽量化し先行してもらおう。

夏目さんを軽量化したため梅田のザックは満員御礼。ここまで担いだのは初めてで良い経験ができました。

昼過ぎから西村さんの両膝に浮腫と痛みが出始めたためゆっくり下る。

夏目さんから、車は出しておくからかき氷を食べてきていいよと神の声がかかり13時前に鏡平山荘

に到着してありがたく念願のかき氷をいただく。

雲が出始めていたため逆槍は見られず。

秩父沢周辺で雨が降り出しカップを着る。

わさび平小屋を通過し長い林道を歩き 19 時過ぎにゲート通過、暗くなる前に駐車場まで戻ってきました。

先行した夏目さんは走ってかき氷も食べず 15 時半に駐車場から車を出したそうです。その後下山まで 4 時間程待ってもらい、感謝です。

いろいろアクシデントがありました。チームで相談し、協力し臨機応変に工夫したおかげで無事下山できたと思います。

一言では言い表せない程のたくさんのお話を勉強、経験させていただきました。ありがとうございました。

一記・梅田一

【富士山】22.8.20(梅田)

【2022 年 8 月 20 日】

【メンバー】古賀、古賀友人Mさん、梅田(原田)

富士山を走りに行こう！という事で会のトレラン部の古賀さん、古賀さんの友人Mさん、梅田の 3 人で富士山をトレランで行ってきました。

水ヶ塚公園から須山口登山道、富士宮口登山道を経て山頂を目指す 22 キロのコースです。目標は 22 キロ 10 時間でゴール。日本一の山、酸素の薄い山をはたして 10 時間でゴールできるのか！？未知なる世界へドキドキしながらレッツゴー！

(コースタイム)

5:00 豊川発_7:00 水ヶ塚公園着 8:00_水ヶ塚公園発 10:03 宝永山荘_10:36 新七合目御来光山荘_11:17 元祖七合目山口山荘_11:46 八合目池田館_12:28 九合目万年雪山荘_12:57 九合目五勺胸突山荘_13:36 富士宮口頂上_14:06 剣ヶ峰_14:27 富士宮口頂上_14:36 九合目五勺胸突山荘_14:56 九合目万年雪山荘_15:26 八合目池田館_15:42 元祖七合目山口山荘_15:56 新七合目御来光山荘_16:26 宝永山荘_18:00 水ヶ塚公園

5 時に豊川を出発し、7 時半に水ヶ塚公園に到着。ほとんどの人はここからシャトルバスに乗り、富士宮口五合目駐車場からスタートですが我々はバスには乗らずここから 8 時にスタート。

美しい森の中を進みます。

ゴミを拾いながら登る古賀さん。ありがとうございます！

森林限界を越え富士山がドーン！！ヤッー

車で移動中に富士山の笠雲を見た。天気が崩

れる前触れ…

今のところまだ青空が見えている。ガンバ！！

新七合目御来光山荘からは富士宮口駐車場から登ってくる登山客と合流するため一気に賑やかになる。登山道も、ザ富士山！って感じのゴツゴツ岩やザレザレ道になる。

この時点で標高約 2500m。水ヶ塚駐車場が約 1500m 程なのでだいぶ登ってきた。酸素が薄くなってきたのを感じる。

梅田はストックを忘れるという大失態を犯し、古賀さんにストックを借りる。古賀さんはストックなしでもハイペースで歩いていく。さすがです！

途中で雲が出始め富士山は隠れてしまった。

各山小屋ごとに小休憩を入れながら元祖七合目山口山荘、八合目池田館と順調に登る。

酸素も薄く急登が続くため、八合目の山小屋で棒を 2 本買い古賀さんにストックをお返す。魔法の棒を手に入れたが、当たり前だがストックより超重い…でもないより全然いい。

ここで雨が降り出す。上下カップを着て登る。強風と雨で寒い。手袋をしても手の感覚がなくなるのを感じながら登っていく。

九合目、九合目五勺の山小屋を経てやっと鳥居が見えたー！！

ガスガスの周りの景色が見えない悪天候の中、鳥居が見えた瞬間の感動は素晴らしいものがあり、ここまで来れた事に感謝する。

後は剣ヶ峰だ。休憩を挟んで剣ヶ峰へ。数メートル先が見えない中歩いていくと突然剣ヶ峰へ到着。

ついに日本一の山頂に到着！

強風と雨のためお鉢巡りは諦めて写真を撮って下山開始。

鳥居まで戻ってきて梅田は御朱印を貰う。



後は来た道をグングン下る。

雨で滑りやすいので気をつけて下る。

急登すぎて走れなかった登りとは違い走れるところ、人がいないところは走って下る。

日本一の山を走れるなんて気持ちいい〜と調子

こいて下っていた梅田は岩に躓き転んで変な手のつき方をして左薬指負傷。次の日に病院へ行き、3箇所軽いヒビと靭帯損傷でした。やってしまった…

順調に新七合目御来光山荘までくだり、賑やかだった登山道ともお別れ。

人がまばらな須山登山道を走る走る～ ヒャッハー

最後の2キロ程は森の中の気持ち良い走れる登山道を走ってゴール！！

目標のちょうど10時間。

駐車場に到着した時の達成感、充実感がハンパない。

みんなの笑顔にそれが映し出されている。



温泉で汗を流し、さわやかではないけどお肉でお腹を満ちし帰途につきました。

頂上からの景色は見れませんでした。悪天候の中富士山に登れた事、走れた事に大変充実した一日でした。

冗談を言いながらワイワイ歩いて走って楽しかったです。

3000mを超えたあたりからの酸素の薄さはキツイキツイ。でもゴールしたらそれもまた良き思い出です。

ありがとうございました。次はどこに走りにいこう！？

— 記・梅田 —

【御嶽山】22.8.19(山口義)

【2022年8月19日】

【メンバー】中村、横山、山口義

2014年9月27日に御嶽山は突然噴火し多くの犠牲者を出した。その御嶽山は2022年6月23日に噴火警戒レベルが「1」に引き下げられ、7月1日から黒沢口登山道の規制緩和で剣ヶ峰頂上まで登頂可能となった。

そこで噴火後の御嶽山に一度登ってみたいと思

い、今年山岳会と一緒に入会した横山さんを誘うと共に、参加希望を貰った中村さん加えて3人で登頂を目指すことになった。

当日の大凡のスケジュールは以下の通り。

4:00 豊川発 7:00 御岳ロープウェイ駐車場着
8:30 ロープウェイ発 8:45 山頂到着→登山開始
12:00 御嶽山頂上 13:00 下山開始 15:30 ロープウェイ到着

御岳ロープウェイ駐車場

夏休み中だが平日だったので駐車場は比較的空いていました。

ロープウェイ乗り場で時間待ち

この標高は1570mで、ここから標高2150mの山頂まで15分、標高差580mを一気に上がる。

ロープウェイから見る御嶽山

天気が最高で気分も盛り上がります。

8合目女人堂、標高は2470m

少し疲れたので休憩してエネルギー補給

思ったより急登が続く

8合目を過ぎた辺りから段々足が上がらなくなる。心拍数が上がり呼吸も荒くなる。途中ですれ違ったベテラン風の人が見るに見かねたのか声を掛けてきて、呼吸は「吐いて吐いて吸う」様にしたらいいよとアドバイスしてくれた。でも「そんな事は知ってます。それでも苦しいんです」と言いたいのを我慢して、ありがとうございますとお礼を言う。

9合目の石室山荘、標高は2820m

登山道が山荘の中を通っている

山頂直下に12時到着

ほぼ予定通りに頂上直下の広場に到着。防災シェルターが備えてあって、噴火の影響を感じた。

噴火災害慰霊碑と頂上への最後の階段

慰霊碑には「安らかに」の文字が刻まれている。

そしてこの階段を登った所が頂上、あと一息だ。

山頂の祭神像



御嶽山山頂(3067m)

やっぱり嬉しい。この喜びがあるから、苦しくてもまた山に来てしまうんだなあ。

噴火の火山灰で埋まった二ノ池。二ノ池山荘の人が噴火前はきれいな水を湛えた池だったと言っていた。

二ノ池山荘の横で昼食。その後下山。

—記・山口義—

【四阿山】22.8.20(河合)

【2022年8月20日】

【メンバー】河合、他1

昔、菅平でオリエンテーリング大会があったときに、近くに「四阿山」があることを知った。それからしばらくたってしまったが、日帰り登山を試みた。

19日、PM3時ごろ自宅を出発し、菅平牧場の駐車場へ向かう。菅平のコンビニには、さすがラグビーの聖地だけあって、ラグーマンが大勢いた。駐車場には午後8時過ぎに到着したが車は2台しかなかったので、広い駐車場が貸し切り状態。車で仮眠する。

20日

朝5時15分出発。薄暗い中、四阿山に向け出発。いつもより、ゆっくり、ゆっくり登る。高度を稼ごとに周りの景色が良くなる。1917.6m三角点から振り向くと菅平や遠くの浅間山方面が良く見える。高山植物もだんだん出てきて目を楽しませて隠れる。根子岳もよく見えるが、本日は、最短コースの往復である。

四阿山に9時過ぎに到着し、記念写真を撮り、コーヒーを飲んで360度の景色を見渡す。ゆっくりしたいところだが、雨が心配になり、そそくさと下山開始。

下りでは、ペースも落ち、休み休み下山。菅平牧場に下山し、ソフトクリームを食べ帰郷した。

一番左側が浅間山



頂上で記念撮影

頂上から北側方面を望む

四阿山は、景色もよく気に入った。次回は、ここから見えた浅間山が気になっている。

—記・河合—

【鍵掛沢】22.8.28(河合)

【年月日】2022年8月28日

【メンバー】白井、安井、河合

宇連山・棚山から川売地区へ流れている鍵掛沢に行ってきた。今年の夏に湯俣川で味をしめたので、白井君の案にあっさり便乗！

朝、8時10分私をピックアップ、安井君も途中なのでピックアップしてもらい現地へ。川売地区棚山方面へ行くのは何十年ぶりだろうか？

さて、車はゲートの手前の広場で駐車し、林道を下り沢の入渓まで移動。入渓地点。

入渓後、いきなりの関門。白井君が突撃するが、微妙な高さ。私のショルダーで何とか解決し、「鍵掛沢やるじゃないか！」と誰もが心の中でつぶやいた。

トライするも、ここは断念。

何とか白井兄貴、突破！もちろん、私たちはザイルを要求！安井君。突破！

突破後は、石の下をくぐって進む。

その後、全身ずぶ濡れの泳ぎ！

水量多くなかなか進めない。

水量もやや多めか？行け！行け！。ずん！ずん！。安全に！。ザイル！よし！。水量、多し！やっつつ！前進！

滝！左岸巻。滝！見るだけ。滝！

滝！ここは滑っていたが、白井兄貴、突破！

兄貴！ザイルお願いします。

ここまでの登りはシャワークライミングだった。



いえ・・・い。

滝！見るだけ

こんな、ところも途中には・・・

だいぶ、登ってきました。

最後の大島の滝。白井兄貴、右岸を登る。

最後の脱出する私

鍵かけ沢は、侮れなかった。しかし、泳ぎあり、シャワークライミングありで短い沢ながらも楽しい沢だった。来年も、沢登りしよっと・・・。

—記・河合—

【御嶽山】22.9.17(澤田石)

【2022年9月17日】

【メンバー】L 河合、SL 古賀、浅田、山口(岳)、梅田、小寺、日浦、谷崎、澤田石

5:00 音羽支所集合、出発 → 8:30 御岳ロープウェイ駅 → 8:51 飯森高原駅 → 10:02 → 八合目女人堂 → 11:30 九合目石室山荘 → 12:20 御嶽山(剣ヶ峰)山頂 → 12:57 下山開始 → 13:23 石室山荘 → 14:17 女人堂 → 15:37 飯森高原駅

8月に豊川山岳会へ入会し、今回初の3,000m越えとなる御嶽山へ登ってきました。

朝5:00集合し8:30御岳ロープウェイ駅へ到着し谷崎さんと合流。



ロープウェイ乗り口にて係員の方に声をかけられ、この日8年前の噴火以来初となる避難訓練が実施されるとのこと。GPS機能のついたビーコンが一人ひとつ渡され装着し、ロープウェイ乗車。

飯森高原駅で下車、各々ヤマレコやYAMAPを起動し登山開始。

ウッドチップの敷かれた歩きやすい道を少し歩き、歩きやすいなあなんて思ったのも束の間、濡れた木に足を滑らせ転倒。さあ今日の登山も気を引き締めていこう、とぶつけた左ウデをさすりながら行場山荘を通り、階段を登り、樹林帯や真っ赤に実った小さくて可愛らしいナナカマドの間を通り女人堂へ到着。

荷物を下ろし山頂方面を眺めながら軽食をとる。

そろそろ行きましようかの合図で再開。

ここから少しずつガスが出始め、雨具を着て、ヘルメットを被る。

初めてのヘルメットに手こずり、苦しくて首がしまりそうだと言うとメンバーのみなさんが寄ってきて下さる。

雨具のズボンの裾が広がっているのを気づいてくださり、さらにその裾のボタンを両足留めて下さる。

ザックカバーはかけなくて良いのかと気にかけていただき、手袋はないのかと聞かれ忘れたことを伝えると使ってないから、と手袋を貸して下さる。

テムレス(農業用手袋)最強説を唱えてくださったり、メリノウールも良いよと教えて頂く。

途中、「〇〇まであとどれくらい？」と聞かれ地図の読み方を教わる。地図に書いてある△のついた赤い数字、なんだろうとは思っていましたがコースタイムだったんですね・・・。

雨が強くなり足元はゴロゴロとした岩の多い道が続くため慎重に進み、石室山荘横で休憩し山頂へ向かう。

山頂の少し手前でサイレンが聴こえ避難訓練が始まる。近くに小屋がなかった為その場へしゃがみ頭を下げる。

帰宅後、噴火から生還した方の記事を読み、遭遇したらどのような行動をとるべきか、しっかりと考えるきっかけになりました。山は楽しいけど怖い…怖いと思う気持ちを忘れないようにしていきたい…
剣ヶ峰へ登頂し、メンバーで記念撮影。



浅田さんと握手。これ、すごく心にきました…

テレビ局が何社か来ていましたが特に声をかけられることもなく、シェルターの中で昼食。

お菓子を持ってきすぎていることがバレる。すいません、私、食べている時が一番幸せなんです..笑

ストックを出し、下山開始し帰りの女人堂での休憩中、行きの中中で「山小屋で金使いたい」と話していたのを思い出し、可愛い鳥の絵が入った手ぬぐいを購入。

下山中、浅田さんより「初めての 3,000m の山、記憶に残したいよね?・・・ブログ書いてみようか」とご指名を頂き、内心ヒューッと思いつつ、はい、やりますとお返事して、記載している次第です。

3,000m 級の山、高山病にもならず登頂できたのはみなさんに気にかけていただいたからに違いありません。

今回、助けてもらってばかりの山行でしたが、豊川山岳会で知識と技術を身につけ、みなさんのように周りのことまで見られるようになって、楽しく優しく、正しく登山を続けていきたいです。またご一緒させてください。ありがとうございました。

帰りの車内から撮影。おさるがいました。

一記・澤田石一

【岩倉川樽ヶ沢】22.917(白井)

【2022年9月17日】

【メンバー】L.白井、安井

9月の三連休は台風14号が近づいてきており、様子を伺っていました。

初日の17日は何とか天気が持ちそうなので、日

帰りで比較的近場の沢である南木曾町の沢をチョイス。

愛知県新城市の自宅を5時に出発。稲武町を越え恵那市から国道19号を北上する。

林道ゲート前にはすでに車が3台止まっており、やむなくもう少し手前の林道脇へ自家用車を寄せて停める。

8:00 出発-8:15 入渓-20m 大滝登攀終了 8:50- CS の滝 9:15-ワイドクラックの滝 10:35-遡行終了 林道 11:50-林道より下山 12:00-12:30 岩倉川本流-14:10 本流下降終了 林道へ-14:30 駐車場

出発した時は日差しもあったがまだ朝早かったのでそんなに暑くもなく入渓。

沢の水量は少し多めに感じた。

最初の大滝あたりで先行 PT は右岸より巻いたようなので自分達は大滝登攀を試みる。

一番左側の水際を登りました。クラックが多く、持ってきたカムが大活躍。緊張しながらも楽しく登れました。

30m ロープでギリギリ届きました。この滝を登攀しなかったらちょっと物足りない感じの沢登りになったと思うので登って良かったです。

概ね小滝は登れますが3回ほど大きめの滝は巻きました。

終盤のワイドクラックで登る滝前で先行 PT に追いつく。このワイドクラックは難しくありません。

その後はなだらかな溪相となり小さな小沢を右へ上がり、間伐した小尾根沿いにをあがると林道へ出ました。

その後カーブミラーがあるカーブから尾根伝いに踏み跡があるのでそれを辿り下山。途中より左へ小沢を30分ほど下ると岩倉川本流へ出ました。この小沢のくだりにある小さな滝付近には FIX ロープがありました。

本流のくだりは釜へ飛び込んだり楽しく下降。

2度ほど巻道を間違えて懸垂下降。安井君には沢の懸垂下降練習になったみたいで結果オーライ。

問題なく下降を終わり、無事駐車場へ戻りました。

後半は曇り空となったが雨にも降られず、それほど寒い思いも無く楽しめた沢登りとなりました。

入渓地点の林道より樽ヶ沢を望む

ガシガシ登れちゃいます

登攀した大滝。一番左の水際を登る

順番待ちしたワイドクラックの滝を登る先行 PT

水中より倒木を伝って登れます

この辺から下山。カーブミラーの脇を降りていきます。



本

流下降。流れに任せて泳げるので楽です

—記・白井—

【明神山】22.9.26(浅田)

【年月日】2022年9月25日

【メンバー】浅田、小寺、澤田石、Kさん

Kさんのお試し山行で明神山へ行って来ました。

9時少し過ぎに小滝駐車場に着いたが既に満車に近い状態でした。

半数以上がクライマーと思われる。

身支度をして林道を20分程で乳岩登山口に着く。クライマーのものと思われる自転車がたくさん置かれていた。

—昨日の多量の雨が降った影響で河原の岩が滑りやすく注意しながら登り出す。

一服岩手前の登山道は沢のように水が流れていた。一服岩で小休止後鬼岩乗越目指して進む。湿度が高く汗ばみながら登って行く。鬼岩やハイカラ岩を登るクライマーを見ながら鬼岩乗越へ。昔馴染みの定連クライマーに声を掛けて行く。

乗越から少し進むと胸突き八丁の急登となる。喘ぎながら進み6合目の三瀬からの分岐へ着く。

尾根を少し下り進むと最初の鎖場となる。岩が濡れていたの直登は止めて巻くように登る。

猿飛岩の鎖場は8m程の直登Kさんもスムーズに登ってくる。

右手に見えている南アルプスは残念ながら雲の中である。



馬の背のハシゴに登り暫し絶景を楽しむ。

12時を既に過ぎていたが山頂までがんばる。

山頂には数名の登山者がいて我々も展望台に上がり昼食とした。

下りも往路を下ったが、Kさんは梯子や鎖場を怖い怖いと言いながらもスムーズに降りてくる。

下りで思い掛けない事に遭遇する。なんとヒルに首筋をやられた。たぶん山頂でザックに着いてきたと思う。

それからメンバーの足元に数匹着いていた。

ヒルの恐怖におののきながら乳岩へ下った。

—記・浅田—

【御在所ヴァンフェラータ】22.9.11(遠山)

【2022年9月11日】

【メンバー】二橋、樋口、白井、安井、遠山

“ヴァンフェラータ”・・・何それ？

イタリア語で「鉄の道」という意味で鉄杭やワイヤーなどにカラビナなどを掛けて登る岩稜帯ルートの事を意味するらしい。御在所にもそのような場所があるらしいとの事で偵察を兼ねて行ってきました。

今回は天候悪化で行き先を転進した白井さん、安井さんも加わり5名での山行です。

早朝5時に音羽蒲郡に集合、5人で車に同乗して御在所へ移動。

6時に裏道登山口駐車場に着くとほぼ満車状態、ギリギリで入り口付近に車を駐車。

それにしても、まだこの暑い時期に6時で満車状態とは・・・

準備を終えて歩きはじめますが心配していた天候も持ち直して空には晴れ間も見えます。

汗ダクになりながら30分ほどで藤内小屋に到着。小休止後にヴァンフェラータを目指します。先ずは

目印となる兔の耳まで歩き、マップを頼りに左手の沢に入ります。

沢に入りすぐに左手の薄い踏み跡を頼りに登ります。

暫くするとホッチキスと呼ばれる鉄製の杭が現れ、ヴィアフェラータの入り口となります。

鉄杭の下でハーネスなど準備。

今回はバリエーション練習を兼ねて来ましたので積極的にロープを使用します。二橋、樋口、遠山と白井、安井の2組に分かれて登ります。

最初は自分がリード、中間に二橋さん、ビレーは樋口くん。

少し岩と鉄杭も濡れているので支点をかけながら慎重に登ります。

2ピッチ目は二橋さんがリード、カムで支点を取りながら登ります。

後続は白井さんリード、安井さんビレイ

細い岩の間を抜けてから岩場を上がります。

10mほどの懸垂下降点、練習を兼ねて懸垂します。



3ピッチ目は樋口くんリード

安井さんも白井さんを確保する為の支点構築の練習

4ピッチ目は自分がリード。

難しい岩場で四苦八苦でしたが、白井さんは余裕で登ってきます。

最終5ピッチ目は二橋さんが25mほどの距離をリード



ヴィアフェラータの岩場はここまでで終了。

藪を歩いて中道に合流します。

予定では富士見尾根に行く予定でしたが、予想よりも時間がかかったのでここで下山しました。

北アルプスのジャンダルムのようなアスレチックっぽいルートで楽しい山行でした。

しっかりと確保出来ればロープなしでも通過は可能です。但し、岩場慣れしていないメンバーがいる場合にはロープで確保をオススメします。

偵察は出来ましたので次は富士見尾根まで抜けるコースで行きたいと思います。

—記・遠山—

【塩見岳】2022.10.1(日浦)

【日程】2022年10月1日(土)～2日(日)

【メンバー】L 浅田、SL 樋口、梅田、日浦

【コースタイム】全行程:17時間 総距離 26.6 km
上り 2308m・下り 2310m(累積)

◆9/30 20:00 豊川出発—大鹿道の駅泊

◆10/1 6:20 第2駐車場—7:20 鳥倉登山口—10:20 三伏峠小屋(休憩)—10:40 三伏峠—10:50 三伏山—11:55 本谷山—14:00 塩見小屋

◆10/2 6:00 塩見小屋—7:00 塩見岳—7:10 塩見岳(東峰)—塩見小屋 9:00—10:40 本谷山—12:00 三伏峠小屋(休憩)—14:20 鳥倉登山口—15:25 第2駐車場

【1日目】

豊川を夜発で大鹿道の駅で前泊し、翌朝鳥倉登山口へ移動。

AM6時にはすでに第1駐車場が満車のため、その下の第2駐車場に車を止める。

鳥倉登山口まで約1時間かけて林道を地道に歩く。

鳥倉登山口には自転車が数台置かれていて、林道歩きの時間を自転車で短縮している登山者がみられた。

ここからが登山道。青空のもと涼しい樹林帯を少しづつ高度を上げながら歩く。

ほどなくすると三伏峠までの 10 分割された標識が現れる。私はカウントダウン式の標識は嫌ではない。時に長く感じることもあるが 1 つ見逃すととても得した気分になり、長丁場のメンタルを保つのに有効な遊びのように感じている。

休憩中に浅田さんが青色が美しいカケスの羽を発見。

「三伏峠まで約 2 キロ約 2 時間」の看板。眺望はないが歩きやすいので序盤は散策気分です。

途中、数か所に壊れかけた木製の階段があり濡れていると滑る危険あり。足元に注意して進む。単調な登りがひたすら続く。

「ほとけの清水」は命の水。るみさんは自宅から満タンにしてきた 2L の水を捨てて冷えた新鮮な南アルプスの天然水に入れ替える。自然の恵みが疲れを癒してくれます。

樋口君は休憩のたびに地図を広げ浅田さんにいろいろお聞きしている。山と向き合う熱意を感じる。

甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳。ついに塩見岳も現れた。「三伏峠小屋まであと 200 歩」の看板。浅田さん曰く大股で歩かないと 200 歩では到着しない。そうと聞くともちろん数え始める。確かにあと 30 歩くらい手前で 200 歩目がきた。

ここで長めの休憩を入れる。三伏小屋にはすでに 10 数名が休憩中。お隣に居合わせた男女の方に浅田さんがこれからの行程を聞くと、お二人とも一日目に塩見小屋に泊まり、男性は二日目に塩見小屋から蝙蝠岳を往復して鳥倉登山口へ下山。

女性は男性に同行して二日目に塩見小屋から蝙蝠岳を往復して塩見小屋泊。三日目に塩見小屋から熊の平小屋～三峰岳～仙塩尾根に入り、野呂川乗越より両俣小屋泊。四日目は両俣小屋から仙水峠～戸台へ下山というロングルート。行程がまったく頭に描けない私には初めて耳にする地名ばかりで覚えきれず、あとから何度も浅田さんに聞いてしまう。

樋口君は売店で南アルプスジオパーク手拭を購入し手早くかぶる。色柄ともにいい感じ。

カラフルなテント場を通り過ぎ三伏峠へは 2 分ほど。

いよいよ日本一高い峠 三伏峠を通過する。下山してくる軽装のトレイルランナーとすれ違うたびに、日帰り凄い！とその健脚ぶりに驚きました。

長かった樹林帯を抜けるとハイマツ帯が現れ快晴の空がひろがる尾根道に出る。

三伏山(2615m)先には塩見岳の全容が見える。奥には間ノ岳、北岳の姿も。

「のぞき岩」から正面に恵那山がみえた

本谷山(2658m)

休憩中、たびたび樋口君は地図を広げ熱心に浅田さんに質問する。彼の頭の中には雄大なパノラマが広がっていて先へ先へと稜線が繋がっていくよう。親視線で陰ながら応援するのであった。

少し樹林帯に入る。「小屋はじきかやあいんねあと 40 分だに」声に出して読むとくすくと笑え、和む。

紅葉の時期にはまだ早いのか、緑のあいだにチラホラと赤や黄色に染まった葉がみられた。

本谷山から若干のアップダウンのすえ、予定通り 14:00 塩見小屋に到着。浅田さん私はこの絶妙なペース配分に感服しております。

小屋のチェックイン時に簡易トイレの使用方法を説明される。新聞紙半分くらいの袋状で、上部 2cm あたりのミシン目を破るとそれが用を足した後に袋を縛る紐となる。袋を広げ丸い穴の開いた便座に広げてセットし、済んだら空気を抜いて紐で縛り回収ボックスへ。実際に使用してみてこれが意外と清潔でいい。

山小屋でのおトイレ事情は様々なので、コスト面等で妥当ならこの様式を各地の山小屋でも取り入れると小屋人の作業負担軽減に繋がるかと思った。これ程感動したのに写真を撮らなかったのが私らしい。

小屋の中は左右アクリル板で仕切られた 1 区画を二人で利用。枕と銀マットは無料貸出。上部には有料貸シラフ。2016 年夏にリニューアルした山小屋だそうで、築 6 年まだまだピカピカの木材に囲まれた居心地の良い空間でした。

塩見岳と天狗岩をバックに祝杯をあげる。冷えたビールが喉にしみて美味しい。因みに塩見小屋ではキャッシュレス決済が可能。私はつい二本目に手が伸びてしまった。



塩見岳を真っ赤に染める夕日を見た後 17:30 か

ら座った順で夕食をとる。その後星空観賞会がはじまった。

標高 2760mの眼下には、伊那路に沿うように無数の明かりがまるで光の川のように横たわっていた。よく目を凝らしてみると、麓では 4 か所で打ち上げ花火がぼんぼんと上がっていた。花火のあまりの小ささにまるで線香花火のよう、こんな光景初めてだねと話す。

また夜空には昨日よりすこし膨らんだ三日月(るみさんの素敵な表現)うっすら白く帯状の天の川、大きな北斗七星、カシオペア座、北極星、結ぶと星座だろうけど名前がわからない無数の星たち。

ダウンジャケットを羽織ったがさすがにここは高所。寒くなってきたので小屋へ入る。地図を広げる浅田さんと樋口君に混ぜてもらい山談義。周りが静かになってきたので 19 時半には就寝。

翌朝 5:00 起床。5:30 朝食を済ませ、身支度を整え必要ない荷物はデポし身軽で山頂を目指す。

森林限界を超えたハイマツ帯を少し歩くと、岩稜帯があらわれ急登となりこれまでとはまったく違う登山道に。天狗岩への登りは厳しい岩場。それでも今まさに山頂に向かっていと思うと気持ちが上向きになる。

ライチョウみれるといいなーでもこのお天気だと現れないかな…なんて話していると、突然目の前にまるまるしたライチョウが 2 羽。ハイマツの中にちょこんと座りなんとなくカメラ目線。とっても運がいい♪

数か所の鎖場やガレ場を超えるとよいよ山頂までの最後の登り。

小一時間ほどで塩見岳(3047m)山頂に到着。皆、浅田さんと固く握手を交わす。目の前にそびえ立つ富士山はとでも大きく、左右に角が生えたように見える。

何層にも見えるブルーのコントラストが絶妙。深田久弥が絶賛したという塩見岳から眺める富士山は実に美しく本当に感動しました。次のパーティが来たこともあり、豊川山岳会は山頂 10 分ルールに則りもう一つのピーク東峰へと進む。



塩見岳・東峰(3052m)

山頂から南北に続く稜線を見ていると、間ノ岳、北岳まで歩きたくなる。蝙蝠岳に続く稜線はこれもまたくっきりとわかり、時間があれば往復してみたい魅力を感じる山だった。皆思い思いにこの絶景をカメラに収め、名残惜しいが下山とする。

下山途中で再びライチョウに今度は 4 羽と出会う。本当に運がいい☆登山道を先に歩く姿は道案内してくれてるかのよう。

塩見小屋にもどり下山準備。デポした荷物をザックに詰め、あれ？来た時と重さが変わらないのは何故？などと雑談。すると私の背後で何やら動く物体あり。振り返り視線を落とすと小屋の入口の土間に、茶色いネズミのようなイタチのような動物が立ち上がってこっちを見ている。

それは山の妖精と呼ばれるオコジョ。皆で慌ててカメラを向けるもあまりのすばしっこさに追い付かず。小屋付近の石の隙間に住み着いているんだろうと浅田さん。初めてみたオコジョはクリクリした黒い目の可愛いやつだった。オコジョの姿は各自の心のアルバムに収め、いろんな余韻を残し下山開始。

本谷山までは小さなアップダウンを繰り返すため偽ピークに何度か騙される。

三伏山でここまで大きく見えた塩見岳とお別れし、三伏峠小屋で小休憩をいれ、樹林帯に入り鳥倉登山口に向けて徐々に高度を下げてゆく。

昨日の登りでは足元しか見ていなかったので高山植物を探すが、苔むした緑の中にはお花よりキノコが生えていた。

最後の給水

三伏峠小屋からは 2 時間ほどで鳥倉登山口へ。樹々の間に林道が見えてほっとする。

鳥倉登山口到着。また 1 時間ほどかけて林道を歩く。

浅田さん、るみさん、樋口君 大変お疲れさまでした。

—記・日浦—

(追記)

2 日も見事な晴天に恵まれ快適な山歩きでした。前から「南アルプスのへそ」と呼ばれる塩見岳を登ってみたいと思っていて、今回、今年 2 度目の塩見岳を登られる浅田さんに同行しないと次はいつ計画してもらえないかわからないかも…と思い参加しました。長丁場でしたが道中は飽きることなく楽しく歩いて怪我なく無事下山出来たこと。皆さんに感謝です。

—記・日浦—

(追記)

私が塩見岳へ初めて登ったのは 1971 年の春、南アルプス全山縦走の時である。

以来冬に 3 回春に 1 回夏に 2 回秋に 1 回と今回が通算 9 回である。

特に印象に残っている山行は 1976 年の冬に、転付峠を越えて二軒小屋から蝙蝠尾根をトレースした山行である。

当時蝙蝠尾根は一般登山道ではなくて、夏秋の 2 回の偵察山行を行い挑んだが、豪雪に苦勞して 6 日目にしてやっと山頂が踏めた。

何回登っても山頂は遠く感じる塩見岳である。

—記・浅田—

【三つ峠】22.10.8(白井)

【2022 年 10 月 8 日】

【メンバー】L. 白井、浅田、山形、遠山、樋口、中田

山岳会で久しぶりの三つ峠でクライミングを行った。

自分は 2 年前振りの三つ峠である。

今回は 72 歳代表の浅田さんと新しく入会し、外岩 2 回目の中田君も参加。

遠山さんも救助講習会に参加したりと堅実に岩登りに取り組んでいて頼もしい。

樋口君も初めの三つ峠。近年沢と岩と大活躍の山形君も参加してくれて賑やかな山行となった。

早朝 5 時に新都市に集合し新東名高速道路を使い 3 時間半ほどで三つ峠の裏道登山口へ到着。

3 連休の初日であったが三つ峠で登るクライマーは比較的少なかった。

前日の雨もありかなり染み出しが多い。本当は何度も訪れていながら、いちども登っていない巨人ルートを登りたかったが諦めて皆と右側の易しい岩場で楽しむ。

各自、思い思いルートを登り現状の力量を確認できたとおもう。

午前中の 2 時間ほどは晴れていて富士山も見えていたが、その後は雲の中。午後は岩場も時折濃い霧の中となり、夕方の 5 時ごろまで登っていた我々が最後となり、暗くなる前に撤収して下山した。

新人の中田君も何度か自然の岩場で懸垂下降を行いある程度には自信が付いたと思う。

自分は最後に思い出の「観音ルート左」をリード。面白いルートではあるが残置ハーケンしかなくカムで支点を補強しながら登ったが核心の抜けに大ガバが無く怖かった。

裏道登山口から林道を歩いて登る

朝はまだ見えていた富士山

登る浅田代表

5.8 のルートを登る中田

懸垂下降する遠山と樋口

頑張る白井



濃い霧に覆われる

—記・白井—

(追記)

入会して初めてのクライミング！天気が心配でしたが、雨に降られることなく登れて良かったです。高い所が苦手な、岩にへばりつきながらのクライミングでしたが…登りきったときの達成感は最高！！先輩方から多くを学び、安全第一でこれからもクライミング頑張ります！

—記・中田—

(追記)

8 年振りに三つ峠でのクライミングでした。前回にはスムーズに登れたルートが今回は登れなかった。トレーニング不足を痛感した三つ峠でした。

—記・名無しの権兵衛—

【北岳バットレス】22.9.30(中川)

【日時】2022 年 9 月 30 日～10 月 2 日

【メンバー】中川、T さん

【天気】登攀日:3 日間とも快晴

会社の同僚 T と自身 3 度目の北岳バットレスへ行ってきました。

(過去 2 度の記録は下記)

「呪い」と「初パイン」の北岳バットレス 2018/08/15

アツイ想いの「北岳バットレス」2019/08/14

私が豊川山岳会に入るきっかけは、岩場が怖くて安心して山登りが出来ないの岩稜帯を安全・安心に通過できるようにしたい。でした。

それと同時に、会社の同僚から「バットレス行きましようよ」のお誘いがありました。ただ、そんな彼はクライミング経験ゼロ。

経験も道具も無いのによく誘うなと思いましたが、迂闊にも「いいね」なんて約束をしてしまったクライミング経験ゼロの私。

2017年4月に豊川山岳会に入って丸5年が経過した2022年10月に約束を果たす日は訪れました。

彼と私はそれぞれ別の山岳会で山の知識やクライミングの経験を積み、仕事終わりにジムと一緒にトレーニングをしたりして、いざ本番です。

先週、先々週の台風で流れに流れた3度目のチャンスです。やっぱり北岳バットレスには「呪い」があります(笑)

9/30(金)アプローチ

Tの車で芦安駐車場まで行き、広河原行のバスが満席だったので、近くにいたバットレスクライマーに声を掛けて乗り合いタクシーで広河原へ。

広河原から白根御池テント場までは歩荷トレーニングです。1200 広河原-1430 白根御池。

白根御池テント場はそれほど混み合っておらず、行きつけの池の奥にある別荘地にテントを張りました。この別荘地からは池に映る「逆さ北岳」が見えるのが良いです。

過去2度行っているのでバットレス取付きへの偵察は見送りにして、くつろぎの時間を取り、早々に就寝。この慢心が明日の「やらかし」に繋がります(笑)

10/1(土)

0200 起床

0330 テント場発

0530 下部取付き

0600 五尾根支稜登攀開始

0850 四尾根取付登攀開始

1115 マッチ箱懸垂

1300 城塞ハング

1320 登攀終了

1340 北岳山頂

1600 白根御池テント場

さすがに10月ともなると深夜早朝は冷えます。暖かい食事を取って身支度。昼間は晴れて暑いという天気予報。楽しみでしかたない。

下部岸壁取付きに向けてアプローチ。先行パーティーのヘッドンが見えます。後続にもヘッドンが見えます。

今日の渋滞はどれほどだろうかと考えながら取付きに向けて進みます。

なんとなく記憶と違う雰囲気のアプローチルート・・・

まあ多少違っても何とかなると思って進んでいくと、やっぱり間違えてました。軽く「やらかし」のジョブを入れます。

一本手前の尾根筋を詰めていました。詰め上がったあたりでガレた潤れ沢を横断し、五尾根支稜取付きに到着し、ハーネスを着けて身支度をします。

ここで最大の「やらかし」が発覚しましたが、一旦スルーして話を進めます。

先行パーティーも後続パーティーも男女ペアでした。この日は全体でも5組プラスフリーソロクライマー一人でした。

私達と私達のすぐ前のパーティーは男性がオールリードをされており多少時間が掛かってくれたおかげで私達はゆったりと登れました。

最近何かと忙しくクライミングトレーニングが出来ておらず、というか山登り自体も久し振りという私は、正直ゆっくりで助かりました。

過去のバットレス登攀で主要ピッチのリードはやらせてもらっていたので、今回はTに、出だしのクラック、三角形の垂壁、城塞ハング、のオイシイピッチのリードをお譲りしました。(というか久し振りのクライミングで私がリード出来たか怪しい)

途中からは富士山を背に快晴の中気持ち良いクライミングでした。クライミングが終わればそのまま日本二位の標高を誇る北岳山頂で記念撮影。下山途中の北岳肩の小屋に寄ってコーラで乾杯。

「約束の」北岳バットレスは5年もの歳月が掛かりましたが、楽しく約束を果たすことが出来ました。

やっぱりマルチピッチは楽しいですね。パートナーあってこそこのマルチ。今回のパートナーTに感謝です。

北岳バットレスは富士山も見えるし、3000m超のピークも踏めるし、上にも小屋があるし、ベースの白根御池も綺麗だし、至れり尽くせりで最高です。

こんな経験が出来るのも、いろんな経験をさせて頂け、多くの知識を学ばせて頂ける豊川山岳会あってこそです。感謝しかありません。

楽しいクライミングでしたが、今回の最大の「やらかし」は過去最悪でした。

それは、ロープを間違えて持ってきたこと。50mのダブルロープを持ってきたはずが、下部岸壁でハーネスを着けてロープ袋を開けると、40mの赤いシングルロープ・・・

目がテンです。Tも開いた口が塞がりません。

阿吽の呼吸でダブルロープ一本で登ることに。私は40mのシングルを歩荷クライミングです。そりゃ「自分で持て」ですわ。

楽しいクライミングでしたが、道具の確認は目視確認が必要と反省しました。Tよ、スマン。

- ↑ 白根御池までのアプローチ歩荷
- ↑ 下部岸壁 五尾根支稜取付 先行パーティーと中川
- ↑ 下部岸壁 横断バンド (ここ嫌いです)
- ↑ 富士山ドーン
- ↑ 四尾根主稜 出だしのクラック をリードするT
- ↑ 両手離して楽しむ中川
- ↑ マッチ箱懸垂のT
- ↑ マッチ箱からの城塞ハング方面 グッドロケーション
- ↑ 城塞ハング前 高度感満載のトラバース をするT
- ↑ 城塞ハング前のビレイポイントから眺める富士山とT



↑ 四尾根主稜を登り終えて景色を楽しむ



- ↑ ピーク到着 たくさんの登山者がいました。
- ↑ 北岳肩の小屋を見下ろす T 景色ヨシ
- ↑ テントから眺める 池に映る「逆さ北岳」

10/2(日)

荷物をまとめて 0830 に白根御池を出て、1000 に広河原。1100 バスに乗って 1200 に芦安駐車場。

金山沢温泉で汗を流し、中華の勇福で腹を満たして帰路。満足の山行でした。

—記・中川—

【八ヶ岳:行者小屋】(上田)

【年月日】2022年9月17日~18日

【メンバー】上田歳彦 他7名

12回目の大学OB合宿を八ヶ岳に決めて、メンバーを募ったところ初参加の3名含めて8名の賑やかなパーティとなった。9/16時点で日本の南方を西に進み9/18には非常に強い勢力のまま西日本に接近・上陸する予想の台風14号の影響で、上田以外の愛知組はキャンセルで、入山メンバーも行動予定の変更含みでスタート。

初日集合前の八ヶ岳、稲穂も色づき秋本番が近い。

赤岳から硫黄岳の稜線
甲斐駒ヶ岳

9月17日 晴れのち曇り

行動時間:美濃戸口 10:27 = 赤岳山荘 11:27 = 行者小屋 15:29

上田は5時過ぎに車で出発、関東組は車二台と新宿から特急あづさ+茅野駅からのバスと、それぞれ登山口的美濃戸口をめざす。車組も何とか駐車でき(八ヶ岳山荘管理の駐車場 1日700円)、予定の10時過ぎには全員集合。再会を喜び合い、今日のお宿 行者小屋に向けてスタートする。初参加の3人もゆっくりペースで進む。

赤岳山荘で小休止し集合写真。みなさんうれしそう



赤岳山荘付近から阿弥陀岳

トリカブトをたくさん見かけた。

南沢コースに入り徐々に高度を上げていく。私も久しぶりの八ヶ岳で、針葉樹や苔の静かな森を楽しみながら登る。

山行久しぶりのI君がゆっくりペースになったため、ベテラン2人(W君とK君)と同行願うこととし、残り5名は行者小屋に先行し15:29に着く。

思い思いのプレートを持ってパチリ(#.^#)

小屋からは大同心、小同心、横岳が望めるもの

の赤岳、阿弥陀岳はガスの中だったが、小屋の前でいっぱいやり始める。後続も間もなく到着し、全員で4人部屋2つに入りくつろぐ。コロナ感染以降、個室対応が増えて安心である。

夕飯のハンバーグ、おいしかったあ(^_^)/ 食後は1君持参のコーヒー飲みながら旧交を暖めた。

9月18日 雨

行動時間:行者小屋 6:42=赤岳鉱泉 7:11=美濃戸山荘 9:40=美濃戸口 10:57

台風17号は北寄りに向きを変え、九州の西側に上陸する気配。台風からはるか東に離れた八ヶ岳でも南寄りの風に乗って湿った気流が流れ込み、朝から本降りになってきた。赤岳登頂は断念し、赤岳鉱泉から硫黄岳の往復も厳しい雨模様の中で、まずは赤岳鉱泉に向けて出発。

行者小屋から赤岳鉱泉に向け出発準備

中山乗越を越えて30分の緩やかな下降で赤岳鉱泉で一休み。ますます雨が強くなり、残念ながら硫黄岳往復を断念する。12回目のOB合宿では登頂を断念するのは初めてだが、この天気では無理は禁物。北沢コースをゆっくりと下る。ここでも八ヶ岳の深い森の木々やもこもこの苔に癒される。美濃戸山荘まで来るとほぼ雨が止み、美濃戸口まで下り、メンバーと再会を誓い解散とした。

9月17日の天気図 台風14号は猛烈な勢力に発達

9月18日の天気図 台風14号は北向きに進路を変え、九州に上陸。非常に強く大型の勢力で、遠く離れた八ヶ岳、南アルプスでも南からの湿った気流で雨模様。

—記・上田—

【八幡平・森吉山・八甲田山】(上田)

【年月日】2022年10月1日~3日

【メンバー】上田歳彦 他2名

上田の百名山登山も残り6座(十勝岳、羊蹄山、水晶岳、霧島山と今回の八幡平と八甲田山)となり、紅葉を楽しみに計画を立てたところ、大学OB合宿常連のK君とD君が秋田に集合して同行してくれることとなった。

大学のワンゲル時代は東北の中南部の山に行く位で仙台から遠い北東北は登れていなかった。

今回は当初、八幡平と八甲田に加え、白神山地(西端の白神岳登山)を考えていたが2022年8月の北東北、北海道の豪雨で登山道やアプローチが復旧していないことから断念し、大学の友人の

故郷の山、森吉山に登ることにした。

8月1日から6日の前線による大雨 : 気象庁

10月1日 快晴

行動時間:八幡平登山口(駐車場) 15:17=八幡沼畔の陵雲荘 16:00=八幡平頂上 16:17=登山口 16:41

上田は中部国際空港からのANA便で秋田空港へ。この便はプロペラ機で高度6000m付近を飛ぶとあって、途中の日本アルプスなどの景色が間近に見えてよかった。

プロペラ機のボンバルディアDHC-8に乗り込む富士山と南アルプスなど焼岳白馬三山、鳥海山 11:20に秋田空港に到着し、前夜新潟港から自車でフェリーのK君、仙台からの長距離バスのD君と無事合流できた。

角館駅前で早速秋田名物の稲庭うどん、たんぼ焼き、いぶりがっこを頂く

駅裏のスーパーワンダーモールで行動食などを買い物し、一路八幡平へ。

角館で昼食。稲庭うどん、たんぼ焼き、いぶりがっこ(沢庵) おいしかった(#.#)

八幡平が近づくと噴煙を上げる秋田焼山も望めた。

徐々に高度を上げて木々も色づき始めた快晴の八幡平に到着。

八幡平駐車場から岩手山

裏岩手縦走の起点、畚(もっこ)岳

風が少し冷たく陽も傾いたので一枚羽織って、沼と八幡平頂上巡りの左回りコースで散策。

裏岩手の山々(縦走コース)から岩手山が素晴らしい

八幡平の紅葉

八幡沼にて

八幡沼と岩手山

頂上らしくない八幡平頂上



鏡沼 メガネ沼も鏡沼もほぼ真っ黒でした(^_^) 眼鏡沼

下山後、近くの蒸ノ湯温泉を楽しむ。夕食が取れる場所ということで、鹿角花輪を教えてください。北上。何とか洋食店が開いておりいただく。

次の目的地、森吉山の南西面の登山口に向かう。県道 66 号、国道 285 号から大館能代空港の手前から国道 285 号、国道 105 号で南下し、道の駅あに・マタギの里(秋田内陸線 比立内駅近く)に 21 時前に到着。

道の駅で一杯やりながら、ご実家がすぐ近くと同級の M 君(他界されたお父さんが営林署勤務 & マタギだった)に電話をし、楽しい時間を過ごす。道の駅で快適にテント泊とする。

10 月 2 日 快晴

行動時間:道の駅あに 5:30 起床 森吉山阿仁スキー場経由ブナ帯登山口より歩き 7:58=(ゴンドラ山頂駅)8:52=阿仁避難小屋 9:40=森吉山 10:16~10:53=阿仁避難小屋 11:14=(ゴンドラ山頂駅)11:59=ブナ帯登山口 12:49 ==酸ヶ湯キャンプ場 17:10

距離 9.1km 累積上り 716m 下り 718m

道の駅から直接ブナ帯登山口への林道を走るが、徐々に荒れた未舗装路から深い溝が走る厳しいダートになり、遂に前進を阻まれる。U ターンを決断し、R105 に戻り阿仁スキー場経由でブナ帯登山口に回る。ここからは美しいブナ林の中を緩やかに登っていく。

ブナ林がきれい

1 時間ほどでゴンドラ頂上駅を左に見て、ブナ林も終了。

岳樺と灌木の見晴らしのいい登山道を歩くと一ノ越からの登山道との合流点 石森で森吉山の緩やかな三角錐の頂上が望める絶好のビューポイント。

北側に森吉避難小屋と森吉神社の祠も見える。

石森から一ノ越、前岳方面

石森付近から森吉山

まもなく阿仁避難小屋でトイレや宿泊スペースもしっかりしていて快適そう。

稚児平付近の紅葉

途中、稚児平の紅葉を楽しみながら頂上に着き大休止。ゴンドラ経由と思われる登山者や家族連れなどでにぎやかで、無風快晴の中展望を楽しむ。東から右回りに、八幡平、岩手山、秋田駒ヶ岳、太平山、遠くに鳥海山がうっすら見える

右手遠景は岩手山

北側の白神山地、八甲田山は遠方で霞んでいてはつきりとはしない。

東側からも 2 本の登山道(ヒバクラコース、黒石川コース)があり、頂上から見ると山人平という興味

深い名の気持ちよさそうな湿原帯も望まれる。地図で見ると独立峰の森吉山の範囲は標高こそ 1454 m と高くないが広大で秋田県の中央部をどんと占めている。

頂上から東側、山人平を望む

最高の天気、K 君もバンザイ 背景は秋田駒ヶ岳付近の山々

ゴンドラ頂上駅往路を戻りゴンドラ頂上駅で小休止の後、ブナ林を楽しみながら駐車場に着く。

トリカブトの花も終わり

今日の夕方の目的地は酸ヶ湯キャンプ場。鷹巣から秋田道。大館南インターで降りて外湯のぼかぼか湯で汗を流し、秋田のスーパーマーケットチェーン店「いとく」で今晚のキャンプの買い物をする。きりたんぼ鍋セット(きりたんぼ、比内地鶏など)と野菜、キノコを購入。秋田道と東北自動車道を黒石インターまで乗り継ぎ、移動途中に予約した酸ヶ湯キャンプ場に 17 時過ぎに到着。

芝生のフリースペースは日曜日の夜とあって比較的空いており、ゆったりと設営できた。炊事場できりたんぼ鍋で一杯、おいしかったです(^_^)周りでは焚火のキャンパー、夜空の星もきれいだった。登りくる冬の星座(下がオリオン)

10 月 3 日 薄曇り

行動時間:酸ヶ湯キャンプ場 5:30 起床 八甲田酸ヶ湯登山口:6:51 八甲田山(大岳)9:24 大岳鞍部避難小屋 10:01 井戸岳 10:39 赤倉岳 10:49 酸ヶ湯温泉 13:38

距離 11.4km 累積上り 898m 下り 908m

キャンプ場炊事場で朝食をとり、酸ヶ湯登山口から登り始める。尾根の右側から徐々に沢沿いの道となり、硫黄の強い匂いの中をさっさと通り抜け、大岳と硫黄岳の間に広がる仙人岱(せんになたい)で休止する。

仙人岱ヒュッテが南側に立っているの見える。岱の名のようにアオモリドマツ林の中の湿原ではあるが、今では干上がっている沼となっているようだ。

大岳を右側から回り込んで行くと、小岳と高田大岳への分岐を右に見て大岳への急な登りにかかる。

大岳の登りから硫黄岳を振り返る

大岳の登り高度を上げると灌木帯、ハイマツ帯となり 200m 程の外輪山の西側にある大岳頂上(1584m)に着く。

深田百名山 96 座目 (私の 6 の文字が裏返った(*_*)) 今回もお揃いのレインウェア



南東側には小岳を従えた高田大岳の三角錐がかっこいい。昨日までの快晴から高曇りで見通しも悪く風も強く冷たいが、南東から十和田湖の外輪山、遠くに岩手山、北西側には大きく岩木山が望めた。続いて鞍部の避難小屋に急降下する。井戸岳の登りから大岳 右の鞍部に大岳避難小屋が見える

小休止して腹ごしらえし井戸岳に向かう。井戸岳の外輪山は 1550m 程だが、カルデラの底は 1452m と深くえぐれている。井戸の名前は井戸のようにえぐれているためか？ 続く赤倉岳は東面が溶岩火口が生々しい。赤い倉(嶺)で赤い岩場というネーミングだろうか？

井戸岳ピーク付近から井戸岳の外輪山 後ろは大岳赤倉岳から遠景は南八甲田連山(高いピークが楯が峰)

ここからは下山する毛無岱の全景が望める。広大な湿原がいい感じで紅葉しているようだ。毛無岱の右側には田茂菴岳(たもやちだけ)とその向こうには八甲田ロープウェイの山頂公園駅が見える。

遠くには霞んだ岩木山と絶景のビューポイント。田茂菴岳の鞍部からは左に分岐でパラダイスラインに入るが、今は歩く人が少ないためか笹や灌木がかぶっている。30分ほどで大岳鞍部避難小屋から毛無岱に下るルートと出会う。上毛無岱に入り、団体さん含めにぎやかになる。

ナナカマドの赤い実

草紅葉もきれい

上毛無岱の池塘と南八甲田

次に下毛無岱に向かう急な下り坂(1100m 付近)は紅葉が見事で、下毛無岱の湿原群と草紅葉がとても美しい。

湿原帯の中の板敷きの休憩所で大岳方面などの景色を楽しみ、酸ヶ湯に向けて下っていく。

まだ早いので酸ヶ湯キャンプ場に隣接する東北大学植物園 八甲田山分園に立ち寄る。園内の半分位のエリアを周回し、山野の樹木や山野草を楽しむ。

ヤマウルシがきれい

まだ少し時間があるので 15km 20 分程の距離にある大町桂月ゆかりの蔦温泉まで車で下っていく。途中はブナ林がびっしりでとても美しい。蔦温泉で蔦沼まで散歩する。

いよいよ八甲田山中腹(標高 890m)に酸ヶ湯温泉旅館へ。玄関の見た目より大きな旅館で、昭和初期の建物とか。自炊場もありひなびた湯治場の雰囲気と大きな旅館のゆったり感を味わう。

まずは小さい方の男湯に入った後は、山中のお宿のお料理を頂く。カンパニー(*~*)派手さは無いが、つみれ汁のおかわりなどおいしかった。その後は混浴の大きな「千人風呂」へ。女性も少し入ってみえて、ひなびた温泉を満喫する。

酸ヶ湯温泉千人風呂(ホームページより)

酸ヶ湯を愛した版画家 棟方志功(右から 2 人目)と雪中行軍遭難の救助にあたったとされる酸ヶ湯の仙人 鹿内辰五郎(左端)

大学の寮の大先輩で私もお世話になった弘前在住の Oさんと話すK君 Oさんは知る人ぞ知る紙相撲協会の大御所(オーナー)(@_@)

土俵が電動で振動する紙相撲(OさんのFacebookより) 力士の数は数え切れず(数百?)

10月4日 雨一時強し

朝から雨。朝食を頂いていると突然のけたたましい音はJアラートだった。北朝鮮が日本列島方面にまたもミサイルを発射したとのこと。このようなことは即刻やめるべきと思う。この日は北海道、青森を通過して太平洋に落下したとのことだが、通過した後のアラームなど、こちらにも問題あり。

この雨では予定の白神山地西側の十二湖散策は難しいとのこと、東北道、秋田道経由で能代から秋田市をめざすこととする。途中、能代の手前の道の駅ふたついきみまちの里、八郎瀧、秋田市内の千秋公園などに立ち寄り、秋田駅と秋田空港で解散とした。

<感想>

また一つ東北の山と温泉の良さを堪能した山行でした。新潟・小千谷と仙台から集まってくれた同級生にも感謝。いい思い出になりました。また東北の山へ行きましょう。次は白神山地、和賀岳、栗駒山、秋田駒(ムーミン谷)、朝日連峰、飯豊連峰の縦走、楽しみにその機会を待とう。

<天気の状態>

各日の天気図を掲載します。

10月1日

東日本、北日本は広く高気圧に覆われ、北日本の山は晴れ~快晴

10月2日

日本列島全体が広く帯状の高気圧に覆われ晴れ～快晴 10月3日

朝鮮半島～沿海州から気圧の谷が近づき天気は下り坂で晴れのち曇り

10月4日

サハリンにある低気圧から延びる寒冷前線が北日本にかかり概ね雨

八甲田山に登った3日後の10月6日朝、八甲田山、岩木山は平年より10日以上早い初冠雪
2022年10月の酸ヶ湯の天気状況

—記・上田—

【親子ボルダリング教室】22.10.16(浅田)

【年月日】2022年10月16日

【メンバー】上田、河合、白井、遠山、古賀、坂本、中川、塩川、樋口、山口岳、中田、西村、二橋、小寺、澤田石、木村、浅田

参加者:子供43名、大人32名

今まで子供ボルダリング教室を開催してきたが、今年には親子ボルダリング教室と称してボルダリングジム「岩んちゅ」を午前中貸切って実施した。

親子和やかな雰囲気に登るファミリーや、低学年でも果敢に135度の前傾壁に挑む女子。

2階のキッズコーナーで疲れ知らずにトライする子。

子供に負けじと奮闘するパパさん、それを応援するママさん。

PR不足で参加者が少ないかと思ったが、予想に反して大勢の親子がボルダリングを楽しんでくれました。



—記・浅田—

【明星山 フリースピリッツ】22.11.20(中村)

【2022年11月20日～21日】

【メンバー】中村さ、他会1名

新潟の明星山でクライミングをしてきました。

ハプニングがあり色々考えさせられる山行になりました。

天気予報 21日7時まで雨 8時から18時晴れ 18時以降曇り雨

21日の行動

取付き 8:00

フリスピ終了 16:30

ヒスイ峡駐車場 20:00

予報通り7時には雨はあがった。岩壁はしっかり濡れていたが、他のパーティー1組2名が取付き始めたので我々も向かった。



梅干し岩の下まではヌルヌルで大変だった
陽が当たり急速に乾き始め快適になった
パノラマトラバース この時15:15頃…

16:30 登攀終了して急いで片付けて西面下降路を探しに出発した。とりあえず西へ向かうが、まったく踏み跡がわからない。あたりはどんどん暗くなる。1時間ほど彷徨いビバーク濃厚になり、会にビバークするかもとメッセージを送っていた。

しばらくし、懸垂ポイントを発見。これで帰れると安心し暗闇へダイブ。パートナーが先に懸垂して踏み跡っぽい所でピッチを切った。そこから西へ歩く。ルンルン気分ですり足取り軽く歩くが、また崖にぶつかってしまい万事休す。

心が折れてきていよいよビバークになりそうだった。しかし、まだ体力は残っていたし、時間もあった。たまたま懸垂するのに丁度いい木が生えていたので、懸垂の誘惑にかられ、木を支点に1次搜索隊として出動した。

60m以内で下降路と交われればと思いゆっくり下降した。とりあえず樹林帯が続いており、登り返

すにも苦労しなさそうだった。ふと落としてしまった石が同じリズムでコロコロと音をたてながら落ちていった。しばらくは同じ傾斜かなと考えながら、58m程懸垂した。たまたまあった懸垂するのに丁度いい木の所に着地した。

ふと前を見ると目の前に小さなピンクテープが枝に付いていた。こんなことがあるのかと思わず笑ってしまった。

近くにトラロープがあり谷へ続いていた。そこからは迷うことはなかった。

早く会の方に下山連絡をせねば、お酒を飲まずにもしもの時の為に備えているかもしれない、と急いで片付け電波が入る所へ行き下山連絡をすませー安心。

ビバークせずに済んだから正解なのか、明るくなるまで動かない方が賢明だったのか…

とりあえず無事に帰ってこれで良かったです。

アルパインは取付き、ルーファイ、下降が難しいなあ。

—記・中村—

【筑波山】22.10.20(河合)

【2022年10月20日】

【メンバー】河合

10月21日(金)～23日(日)まで、茨城県大子町袋田周辺で令和4年度安全登山指導者研修会「東部地区」が行われ、講師として参加するため茨城県に行くことになった。

前日に茨城県まで行っていないと開講式には間に合わないため、前日の朝一番で新城駅を出発。どうせいくなら100名山の筑波山に行こうと心ウキウキ。

電車とバスを乗り継ぎ、筑波山神社に11:30到着。何か着物を着た女性が多く「100人着物」イベントがあり、ネットで検索すると《万葉の時代から筑波山では、人々の間に「歌垣(うたがき)・嬬歌会(かがい)」という風習がありました。

これは、男女が集まって舞や歌の掛け合い、食事をするもので、そこは求婚の場でもありました。万葉集や常陸風土記にも残されています。》

とありました。そういえば、つつじヶ丘～筑波山神社までの間に石碑が多くあったと思い出しました。

筑波山神社

登りのコースは、筑波山ケーブルカーの隣を通る、御幸ヶ原コースで登ります。登山者が多いため、むっちゃいい道。

12:50 男体山頂に到着。

山頂には社

男体山から見た景色
遠足の子ども達
後ろの山は男体山



13:20 筑波山(女体山)山頂

山頂から見た景色

男体山方面を望む

下山途中の岩

13:50 つつじヶ丘駐車場

つつじヶ丘から迎場コースを歩き、筑波山神社へ向かう。

この迎場コースは緩やかな下りで、道も整備され静寂な中万葉集の石碑もあり情緒がある。

14:30 元の筑波山神社へ到着

地元の方には、「おらが山」。万葉時代からのわびさびも感じられた山行となった。

おまけ。茨城県と言えば水戸黄門。ホテル近くを朝散歩したときに借楽園の近くに水戸黄門様がおられました。

—記・河合—

【研修会「東部地区」】22.10.21(河合)

【2022年10月21日～23日】

【メンバー】河合

昨年の佐賀県に続き、今年も「安全登山指導者研修会」は読図を中心に開催されるということで、講師として参加させていただいた。昔は、これもあれも伝えなきゃ・・・と思っていたが、最近は読図のポイントは何か？特徴物を探す方法は何か？あれこれ模索している。

いつも北村さんと話をしているのは、「教えない講習会、気づいてもらう講習会」そんな講習会になればいいなあ・・・と自分の勉強で参加している。

研修会は下記の日程で行われ、開催県の茨木

県山岳連盟の中沢さん、中庭さんらと6月25日からメールのやりとりが始まり準備開始となった。

ここから読図講習会実技の地図作成があり、現地での下見(地元の関係者の皆様ありがとうございました)があり、当日を迎える。読図講習会はこの下見からの準備が大切で、この準備で成功の可否が決まるといっても過言ではない。

北村さんの講習風景

1日目は講義中心、「登山のプランニング」「登山のPDCA」は北村さん担当

「登山のPDCA」「ルートプランニングの指導」河合担当

「茨城県北ロングトレイルの取組み」地元の方担当で行われた。

2日目は、実技の地図

地図のポイントの解説

愛知の空の下、歩いてもない登山道のポイントを設定し、そのポイントを解説作成する。当然歩いていないので違っている所もあるがそれは、地元の方が疑問に思ったところは修正していただく。

4班に分かれ、各班長は地元の方が行ってくれたので、私と北村さんはフリーで各班の状況を確認する。

登山口へ向かう参加者

里山ということもあり、読図の地形は難しい分類に入るのだが、皆さんポイントを探すことができ私的には満足。参加者の皆さんは何らかの気づきがあったと思う。

2日目の夜は情報交換会が行われ、来年度担当県のため参加されていた福島県の須藤さんとの再会も楽しかった。



左から、須藤さん、北村さん、河合昔からの国体仲間です。

3日目は、「茨城の安全登山普及の取組み」中庭さん担当、「安全登山指導者を目指して」北村さん担当

昨日の情報交換で質問があり急遽、北村さんの時間に私が講習会地図資料のルートの書き方を

20分話した。

3日間を通して、自分自身もいろいろ考えることも感じたことあり、次回の講習会はもっとよいものにしたかった。

—記・河合—

【棚山きのご鍋山行】22.10.30(上田)

【年月日】2022年10月30日

【メンバー】

A パーティー 川売より一般登山道 浅田、山本、白井(&愛犬ギンジ君)、西村、井澤、鈴木幸、河野、小寺、吉本、横山、木村、廣田、上田:13名

B パーティー 棚山ジャンダルム経由 遠山、安井、中田:3名

C パーティー 鳳来寺山よりトレラン 古賀、坂本、小野:3名

浅田代表の提案で、キノコ鍋山行を奥三河の棚山高原で行いました。

3つのパーティに分かれて、お昼に棚山高原で19名でキノコ鍋を囲むという楽しい山行になりました。



参加者のみなさんのご協力で、おいしいキノコ鍋がてきばき、できあがりました。おかわり、完食ありがとうございました(^_^)/

(参考)キノコ鍋の材料(19人分)と備品

・シメジ x3 パック ・マイタケ x3 ・エノキ x4 ・エリンギ x2

・豚肉コマ切れ 1.4kg ・大根 中1本 ・にんじん 3本 ・ミニ白菜 3/4個

・薄口醤油 ・みりん ・酒 ・塩 ・濃口醤油 ・七味唐辛子

・大鍋、中鍋(会の装備) ・カセットコンロ 2 台

食事の後はみんなで瀬戸岩へ
ギンジ君、メチャ楽しんでました(´ω`)
もっと遊びたくて車から遠ざかるギンジ君(;´ω`)
3 つのルートから 1 つの山をめざす集中山行、
楽しかったです。

川売から棚山
鳳来寺山からトレラン



棚山ジャンダルムから往復



棚山ジャンダルム
下りは懸垂下降

一記・上田一

車場へ到着。

身支度やトイレを済ませ 9 時登山開始。

駐車場から広河原登山口までは林道を約 30 分。
川を渡り登山道へ。

河合リーダーは歩荷トレーニングとして大きな重たいザックを背負っておられました。登山前に少し持たせていただきましたが持ち上げるのが精一杯でした。

登山口から 1.2km 程はしばらく登りが続き、4 合目付近で一旦休憩。

再開後からは笹の覆い茂る道を通り抜け、笹で腕が赤くなってしまった日浦さんのお話を思い出して、笹に警戒しながら登りました。

この日は快晴で雲もなく、登山中振り返るたび南や中央アルプスが見え、写真を撮るが上手く撮れず、それでもこんなに晴れた恵那山はあんまりないよと聞くと撮らずにはいられない。

すれ違った方に「ここが一番よく見えるよ」と言われて振り返った先に、先日登った御嶽山。雪が積もっていました。

9 合目付近からは笹がなくなりゴロゴロと転がる石の上を渡り、山頂のような雰囲気のある場所を何箇所か通り 13 時頃山頂へ。

山頂へ着くとリーダーと握手。これ、毎回グッとくる。

阿智セブンサミットの看板の前でもしっかりと撮影。

展望台の上からの景色は。

ザックを下ろして避難小屋へ散策。

小屋の裏にある富士見岩から見えました、富士山。

恵那山の眺望は、なんて言われてますが、その事前情報があったので逆に、眺望ある！富士山見える！と嬉しくなりました。

恵那神社で参拝していると山岳会シャツを見て「60 周年！？すごいねー！」「豊川ってどのあたり？」といろいろと質問、声をかけていただきました。山岳会シャツを着て登ると声をかけてもらえることが多く嬉しい。そして身の引き締まる思い。

【恵那山】22.11.3(澤田石)

【年月日】2022 年 11 月 3 日

【メンバー】L 河合、小寺、澤田石

日本百名山の一つ、個人的には阿智セブンサミット 7 座コンプリートを目指しており、その一つでもある恵那山へ行ってきました。

6 時半に河合リーダーのお宅へ集合、出発。

田峯や津具を越え、赤や黄色のきれいな紅葉を眺め、治部坂のあたり真っ白で分厚い雲海を眺め、昼神温泉を通り抜け 2 時間かけて広河原登山口駐



再び山頂へ戻り昼食タイム。

コーヒーやおせんべいをご馳走になり、お弁当も食べ満腹。

一等三角点は6寸、重さは90kgと決まっており、設置された時期や時代、測定の技術等学ばせていただきました。そして一等三角点に腰掛けてしまった過去のお話までご披露いただきました。

身支度を済ませ下山開始。

「コーヒーやお菓子をいただいてお弁当もしっかり食べちゃったから、案外とお腹がつつないね～」と小寺さん。

つつない…？つつない……？

つつないってどういう意味ですか、から始まる方言トーク。

国語辞典に載ってるよー！と小寺さん。国語辞典に載ってたら土下座する！と河合さん。

方言にまつわるお話して面白いですね。笑
笹が多い箇所は水捌けが悪いのか水気の多い粘土質な泥の道にヌルヌルと足を取られ滑り苦戦しながら下る。

5合目付近まで降りてくるともみじのじゅうたんが広がり紅葉を楽しみました。

登山口まで降りてきて、川を渡る手前で休憩。

この日何度かすれ違いお話しをしたお姉さんたちがとっていたポーズでわたしたちもポーズ。

おふたりの掛け合いが面白く終始笑っていました。

快晴と紅葉、笑顔いっぱい、思い出話でお腹がつつない楽しい山行でした。(使い方合ってるかな)

—記・澤田石—

【立岩】22.11.5(浅田)

【年月日】2022年11月5日

【メンバー】遠山、樋口、浅田

秋晴れの中立岩でクライミングして来ました。

最初にチムニールートを通り途中で中間テラスへ。最近トップの重圧に悩んでいる樋口、今日はすんなりとテラスへ。浅田、遠山と続く。テラスから遠山トップで終了点へ。浅田、樋口と続く。下降は懸垂下降で降りる。



続いてノーベンバー左ルートを浅田トップで、遠山、樋口がフォローで登る。次にチムニー右ルートを樋口トップで遠山フォローで続く。樋口クラックにカムでピレーを取って行く。

西の壁が空いたので遠山トップで2ピッチ目を樋口トップで登る。

最後に2段ハングを浅田トップで登り、トツプロープで樋口が登り終了とした。

樋口は少しトップの重圧から抜けれたようだ。

—記・浅田—

【天狗石山】22.11.6(梅田)

【2022年11月6日】

【メンバー】L.遠山、西村、河野、小寺、樋口、梅田

登山と紅葉と湖上駅の観光と温泉が楽しめる観光登山を遠山さんが企画してくださり、寸又峡のお隣、接岨峡にある天狗石山に登ってきました。

5時豊川発、7時半に奥大井湖上駅の駐車場に到着。駐車場にトイレあり。島田金谷ICからの道が土砂崩れのため通行止めで一本奥の道へ迂回しました。途中の千頭駅に左からパーシー、ヒロ、ジェームスみつけ！

7時40分登山開始。

奥大井湖上駅を目指し車道を少し歩く。看板に従い下に下ると奥大井湖上駅へ。大井川鐵道の奥大井湖上駅は景色のいい秘境駅としてテレビで取り上げられ、最近の人気スポットです。

今日の湖はグレーと緑が混ざったような色。何色っていいのか私の語彙力では表現できない複雑な色。日によってすごくキレイなブルーになるらしい。

紅葉が始まっていて朝陽に当たって湖面と紅葉が輝いている。湖上駅に向かい赤い橋を渡る。

湖上駅の裏(上)にカフェがあり、カフェを通り過ぎるとハイキングコースとなる。

わいわいしながら歩く。

山頂近くになると深南部っぽい森の雰囲気となり、落ち葉のフカフカトレイルで楽しい。展望はないが森の雰囲気を存分に楽しみながら歩く。

全体的に緩やかな登りで木の根っこや岩などなく、整備されていて道標もしっかりあるので歩きやすい。

11時20分山頂に到着。ここまで誰にも会いませんでしたが後から2人登ってきました。



秋晴れの心地よい陽射しの下、昼食。

12時下山開始。歩いてきた道を下る。

14時20分湖上駅到着。

ここから大井川鐵道に1駅分乗り、接岨峡温泉駅へ向かいます。

ホームにいる駅員さんから手書きの切符を受け取ります。

14時41分の電車に乗るまで各々観光。鐘を鳴らす遠山さん。

ちゃっかり観光用の写真撮影用のハートの椅子に座る2人。夫婦で登山しに来た感じの遠山さんと西村さん(笑)

後からちゃんと椅子から立ち上がりました。

14時41分定刻通り電車来たー！レトロなアプト式トロッコにみんなテンションアップ！

観光客に紛れる登山6人組。

接岨峡温泉駅到着。

ここからトロッコで走り過ぎた奥大井湖上駅方面

に歩き駐車場へ。14時20分駐車場着。お疲れさまでした！

駐車場からすぐ近くにある接岨峡温泉会館で汗を流しました。寸又峡の温泉に似た、肌がスベスベになるいい温泉でした。

登山と紅葉と観光と温泉を満喫し楽しい観光登山でした。すごく静かな山歩きでした。

—記・梅田—

【研修会「西部地区」】22.11.18(河合)

【2022年11月18日～20日】

【メンバー】河合

11月18日(金)から開催される安全登山指導者研修会「西部地区」が島根県大田市三瓶山周辺で行われるため、前日から休みを取り鳥取の鷺見さんの所へ1泊ご厄介になる。

久しぶりの再会を祝い、三朝温泉の河原で無料の温泉を楽しむ。昔、タレントの友近さんが来て鷺見さんがテレビに映ったあの場所。その後、三徳山三佛寺投入堂を駐車場から見て感動する。

三徳山三佛寺投入堂 時間がないので登山は断念

夜は鷺見さんと久しぶりに旧友を深める。あれこれと昔話に花が咲く。

翌日は、7:33の電車に乗って島根県出雲市まで移動。車内からの大仙

出雲市駅からは、登山研修所の車に乗せていただき、国立三瓶青少年交流の家まで移動。

国立三瓶青少年交流の家、とても施設の整った素晴らしい施設だった。



研修風景

第1日目の北村さんの講義

「登山のPDCA」「実技研修の振り返り」「安全指導者を目指して」は北村さん担当

「読図とナビゲーション」「ルートプランニングの指導」は河合担当

「読図とナビゲーション」では、茨木県で感じたことがあったので、パワポ資料を少し修正して臨む

第2日目の実技の地図ポイント

実技の地図ポイント解説

実技講習は、茨木県同様のカリキュラムが進むが、2班と3班を私と北村さんとで班長を務め講習会を開始する。

途中の登山道から見た男三瓶山

女三瓶山から見た風景

太平山で昼食。ここからの三瓶山周辺の眺めは素晴らしく、この近くまでリフトが動いており、観光地になっている

男三瓶山

右側は男三瓶山、左側は子三瓶山

中央は子三瓶山、左は孫三瓶山

天気は、事前の予想とは違い好天気となり、充実した実技となった。

3日目は、北村さんの講義で終了した。私の仕事は、事前の地図作成、地元の方との下見の報告を受け事前調整を行うことでほぼ仕事は終わっている感じ。

2日目が終わった段階で北村さんに「私の仕事は95%終わりましたと」報告すると「まだまだ3日目がある」という会話をいつもして笑っている。

やはり、北村さんがいるので私も講師を引き受けている。安心感が違いますね。これからもよろしくお願いします。

—記・河合一

【雨乞岳】22.11.27(吉中)

【2022年11月27日】

【メンバー】浅田、樋口、鈴木幸、日浦、吉中

晩秋の雨乞岳へ行ってきました。8年前、お試し山行で参加した時は霧の雨乞岳、真っ白で何も見えず、今回は晴れ予報で期待も高まります。

《コースタイム》

8:50 武平登山口→9:44 クラ谷分岐→10:51 七人山のコル→11:21 東雨乞岳→11:35 雨乞岳→11:51 東雨乞岳→12:32 七人山コル→13:27 クラ谷分岐→14:25 武平登山口

7時に豊川集合、菰野インターで降り湯の山温泉駅で樋口さんをピックアップ。鈴鹿スカイラインを上り武平峠駐車場を目指す。

御在所裏道・中道・表道駐車場の満車を横目に通り過ぎる。雨乞岳は人も少ないだろうと思っていたらまさかの東西の駐車場は満車！路肩にスペースを見つけ駐車しました。

身支度を整え、8:50 武平登山口最初の杉林を登ったら、ゆるやかな登り下りを繰り返す。

斜面をトラバースする所もあり、左側が切れ落ちてるのでぬかるみに注意しながら歩く。

①～⑨の標識ポイントも参考に。時々道が分かりづらくピンクリボンを見逃すと迷いそうで注意です。

登り始めは杉が多かったが、広葉樹林が多くもう少し早ければ紅葉が綺麗だろうと思う。

夏はヒル地獄だが、今はフカフカの落ち葉

9:44 クラ谷分岐ここから谷沿いに渡渉を何回か繰り返す。

10:51 七人山のコル

ここから尾根沿いのルートになるので、小休憩。ゴーゴーと風の音が聞こえてくる。防寒対策でカッパを着込み出発。

斜面初めは樹林帯で風もそんなに感じず、暑いくらいである。だんだん熊笹が茂ってきて山頂少し手前では胸くらいの高さまである所も。

30分程で東雨乞岳に到着。

以前登った時は真っ白で眺望はなく浅田さんに見えるはずの景色を解説していただきましたが、今日は全て見え感動です！

振り返ると御在所と鎌ヶ岳、左手には釈迦ヶ岳

皆さん振り返って写真を撮っています。

東雨乞から雨乞岳へは少しのアップダウンを15分程で到着。皆んなで握手を交わした。

雨乞岳へ向かう稜線

山頂は強風



風も強いので写真を撮ったらそそくさと下山開始。東雨乞岳を下った尾根上の風の当たらない所で昼食。七人山はパスし武平峠へ 14:25 下山した。

今年は全然山に登れてなかったのですが、秋晴れの中楽しい稜線歩きができ、ありがとうございました。雨乞岳は笹原の縦走路がとても綺麗で縦走してみたい気持ちになりました。

—記・吉中—

【豊川山岳会創立60周年】22.12.3(遠山)

【2022年12月3日】

【メンバー】山本、浅田、梅沢、上田、河合、白井、西村、井澤、吉中、梅田、河野、鈴木(幸)、小寺、坂本、中村、古賀、二橋、日浦、樋口、山口(義)、澤田石、比嘉、鷺見、森ファミリー(3名)、M 夫妻(2名)、牧原、谷崎、菊池、鈴木恵、遠山(合計 33名)

“ 創立 60 周年記念をやりたい ” 代表の天の一声から始まった式典を旧門谷小学校で行いました。正会員の他に鷺見さん、森ファミリー、牧原さん、谷崎さん、鈴木恵さん、菊池さんなども駆けつけてくださいました。

会場設営

おもてなし隊の女性陣が中心となって料理を準備してくれました。

調理場は大忙し

手作りケーキも着々と準備が整います。

小寺さんが手配してくれた新鮮な刺し身のお造り。谷崎さんはジビエ肉など持ってきて調理してくれました。

式典準備完了。

西村さん手作りのウェルカムボードでお出迎え。



まずは上田さんの開会の挨拶
 続いて代表 浅田さんの挨拶
 山岳会沿革の後、60年間の山行記録をダイジェスト版で河合さんが説明。
 サプライズ企画として梅沢さんへ感謝状の贈呈
 浅田さんには記念品を贈呈。
 梅沢さんの閉会のことばで第一部式典は終了
 全員で記念撮影



第二部の懇親会の開始です。

山本顧問の乾杯の挨拶で楽しい宴会開始！

山行記録をプロジェクターで見ながら河合さんと古賀さんが楽しい掛け合い。

鈴木恵さんも駆けつけてくれました。



スライドの後には3人でケーキカット。ケーキ美味しかったです。



後ろのテーブルではたこ焼きも焼いています。
 鳥取から駆けつけてくれた鷺見さんと菊池さん
 牧原くん(マッキー)もノリノリです。



森さんはファミリーで参加
楽しい宴会は夜まで続きました。



翌日は宿泊したメンバーで小富士山～奥の院コースで鳳来寺山を登りました。



準備にはおもてなし隊も結成され、会員による

手作り感満載の飾り付けやおいしい料理など大変楽しく賑やかな式典と懇親会になりました。

60周年の思い出の山々

一記・遠山一

【城山クライミング】22.12.10(山形)

【2022年12月10日～11日】

【メンバー】山形、Hさん

10/30の熊野川清水谷を最後に沢シーズンが終わってしまった。今年は9月以降は天気が悪く後半戦は消化不良のシーズンになってしまった。

本当は海谷不動川、大畠谷、不動七重の滝などいっぱい行きたいところがあった。来年の楽しみとしよう。また知人が沢で亡くなったりとショッキングな出来事もあった…。自身も最大限の注意を払って取り組んでいきたい。

沢は行きたいところをいくらでも挙げられるのだが冬山は実は個人的にはあんまり無い。なので冬はフリーシーズンになりがちだ。ということで今年も城山へ。城山は暖かい、美味しい飯屋多い、買い出ししやすいと超便利エリアでお気に入りの場所だ。

シーズンが始まったばかりなので体がまだ全然出来ておらず二日間行きましたがバキバキになりました。

パートナーがワイルドボアのダスキン多摩 5.12c を触るといので私も便乗した。トップアウトは出来るが繋がらない。パートナーは通算3日目でRP、おめでとうございます。

私は今シーズン中に終わらせることを目標にボチボチ取り組んでいきたいと思います。一度触ってしまった以上終わらせるまでやめられない性格です笑

水遊びも大好きですがフリーもやっぱり楽しいですね。ただフリーばかりしていると山感が鈍ってしまうので今年は機会あれば冬期アルパインにも取り組もう。

ファンタジーランド 5.10b FL

ダスキン多摩 5.12c ×××××計6便



【名張 第一岩壁】22.12.11(小野)

【2022年12月11日】

【メンバー】小野、比嘉、中田

新たにクラックをしてくれる新人とともに名張、第一岩壁へ行ってきました。

中田さんは前回、第一岩壁でゴールデンジャムをトップロープトライ、ハンドサイズのものとは割とスムーズに登っていたので、今回は少しレベルアップして10aのルートにもトライしてもらおうということで、まずは空いていた「これなんですか」へ。

隣の高田屋のハンクに空き家っぽいスズメバチの巣があるのが気になるがとりあえずトップロープを張りに行く。久しぶりに登ったが以前登っていた時に比べると余裕をもって登れた。苦手なハンドクラックも少しは上達したようだ。

中田さんは上部のかぶった傾斜まではスムーズに登っていく。案外、そのままトップアウトするのではと思ったが、被りの中間部で力尽きる。何度か被りを挑戦するもギブアップ。

続いて比嘉さんのトライ。同じく核心の被りまではスルスルと登っていく。かぶりはどうかと思ったが上手にこなし、被りの強い部分を抜けたと思ったが最後の乗っこしでフォール。惜しい。何度かムーブを試してクリア。

その後、中田さんはもう一度トライして同じ核心のきつい傾斜で空腹のためギブアップ……。比嘉さんはトップロープでギアをセットしながらトライ。

核心部はギアを入れ忘れるものの危なげなくトップアウト。リードでも登れそう。二人ともクラックを始めた時の自分とは大違いでスムーズに登るもんだ。

飯を挟んで、「直登」を登る。二人にはフォロー

登ってもらい、上から4番サイズのワイドでもがく二人の顔を眺める。ガンバツ(笑)



そのまま「サブマリン」もトップロープで登ってもらおう。こちらは二人ともスムーズにトップアウト。中田さんはチムニーになると生き生きとします。そのままオフウィズも頑張ってもらいたいものです。

もう一本くらいできるかと思ったがいい時間だったので終了。これからも名張にかよってくれるとうれしいけれど・・・

一記・小野一

【竜ヶ岳(山梨県)】22.12.11(小寺)

【2022年12月11日】

【メンバー】L 浅田, 河野, 遠山, 二橋, 日浦, 山口(岳), 廣田, 他1名, 小寺

富士山がキレイに見える山行がしたいというリクエストに竜ヶ岳に登りました。

豊川を7時に出発し、東名・新東名・R139 経由し本栖湖キャンプ場の駐車場に向かったが、3月まで閉鎖しており本栖湖駐車場に車を止め身支度をする。

道中、富士山がキレイに見えたが山頂にある笠雲が気になり、取れて欲しいと願いながら防寒対策をしていたが、暖かくなりそうなので上着を脱ぎキャンプ場の中の登山道を歩く。道標に沿って時折急登もあるが整備された歩きやすい道を進む。ほどなくベンチのある休憩ポイントに着く。

真正面に雄大な富士山がキレイに見え、みな声をあげるが、山頂にある笠雲が気になる。反対側は本栖湖がキレイに見える。富士五湖の中で最も深く透明度が高い湖ということもあり神秘的である。

左手に富士山を見ながらクマ笹の中を登って行

く。登山開始から1時間20分程で見晴らし台に着き小休憩を取る。

霜が凍っていたところもありぬかるむ足元に注意しながら山頂を目指す。竜ヶ岳山頂に着いた時は、15名程の登山者がいたが下山され、ほぼ貸し切り状態になってしまった。



南アルプス・駿河湾・伊豆半島までキレイに見えたが、山頂はまだ笠雲がかかって見えない。

浅田さんの天気予報によると午後には雲が取れそうとのことなので期待が膨らみ、昼食も富士山を気にしながら取る。

雲が湧いている様子で名残惜しいが山頂をあとにする。下山開始40分後に待ちに待った笠雲がとれ、山頂もくっきりと見ることができた。富士山はずっと見ていられるが滑りやすくなっている足元に気をつけ前に進む。

見晴らし台での休憩時は、遠山さんの歩荷トレザックをメンバーが背負い冬山の過酷さを体感していた。お天気に恵まれよかった・ダイヤモンド富士や日の出も見たいねと話しを弾ませながら下山した。

富士山って…見る山？登る山？とよく友達と話していましたが、どこの山に登ってもついつい富士山を探してしまい見つけると Lucky なんて思います。

いろいろな山からいろいろな表情の富士山を見たいです。まだ12月も上旬だったので雪は少ししかかぶっていませんでしたが、裾野までくっきり見え、迫力満点・清々しくとても癒やされました。2022年の締めくくりとなる和やかな山行となりました。みなさん、ありがとうございました。

一記・小寺一

【鳳来 鬼岩】22.12.11(中村さ)

【2022年12月10日～11日】

【メンバー】中村さ

2022年の振返りです。

私には狙っているルートがあります。鳳来鬼岩

の「がんじゃ」というルートです。

12月3日に核心のアンダークリップに少し余裕ができて可能性が見えてきました。

来週はもしかしたら RP あるかも…

12月10日



沖縄最高

沖縄キャンプを終え愛知に戻ると鳳来のシーズンは終わってました。来年頑張ろう。悩んで、登って、落ちて、悩んで、の繰り返しだけど楽しかった。Thank you and good-by

—記・中村—

【雪上訓練】22.12.18(浅田)

【2022年12月17日～18日】

【メンバー】白井、河合、遠山、夏目、樋口、比嘉、中田、武野、澤田石、浅田

毎年この時期に行われる雪上訓練を千畳敷で実施しました。今年は若い会員の参加あり新鮮でした。

先発隊でサギタル尾根を登るパーティーは天候が悪いので中止にして18日の雪上訓練のみとなった。菅の台の駐車場集合でそれぞれ17日雨の中豊川を出発する。

途中、津具の辺りから雪道となり慎重に治部坂峠を越えて、菅の台へ23時頃着く。一面の雪の中テントを張り軽く飲んで就寝。

18日

朝一のバスでシラビ平へ、ロープウェーを乗り継いで千畳敷へ、外は時々地吹雪となっていた。

リーダーの判断でまず弱層テスト続いてラッセル訓練とした。滑落停止は新雪が深く出来そうにない。

極楽平へ続く斜面で弱層テストを行う。時々地吹雪となり冬山の厳しさを体感する。

続いて極楽平へ向けて斜面をラッセルしながら登る。先頭を変わりながらラッセルを楽しむ。

若い会員は体力が余っているようで早い。天候は一向に良くならないので一旦駅へ下り行動食を食べる。



ラッセルは深かった。



視界もあまりよくない。

次に埋没体験を実施する。初めての会員が多く良い経験が出来たのでは。

少し早いロープウェーが停まる前に下り。菅の台でビーコン操作の訓練を行い終了とした。

—記・浅田—

(追記)

皆さん雪上訓練お疲れ様でした。悪天候で積雪モリモリの雪上訓練でしたが今年も無事終わる事が出来ました。

特に今年行った新人さんには辛い訓練だったかもしれませんが、これが冬山の現実です。

正月山行も皆さんが無事に下山できるように、慎重に楽しんで来てください。

—記・白井—

雪上訓練参加させていただきありがとうございます。わからないことだらけでいろんな方の足を引っ張ってしまいましたが、体力上げてまた雪に触れに山へ行きたいです。ありがとうございました😊

—記・澤田石—

【クリスマスの本宮山】22.12.25(浅田)

【2022年12月25日】

【メンバー】上田、坂本、山口岳、木村、浅田

冬山の安全祈願とトレーニングを兼ねてクリスマスの本宮山へ行って来た。前日降った雪が下からでも見えた。

8時登山口集合で登り出す。30丁を過ぎたところから登山道に雪が出だした。途中にある水場は氷柱となっていた。

砥賀神社奥の院で安全祈願をして山頂へ向かう。途中から積雪の富士山がくっきりと見えた。



山頂下の広場で小休止をしたお汁粉を食べる。

下りはアイゼンを初めて着ける山口君、木村さん、5年振りと言う坂本君がアイゼントレで装着。私も昨日購入したチェンスパイクを付けて下り出す。

岩とのミックスした場所ではガリガリ言わせながら歩きにくそうだ。上の水場でアイゼンを外しスリップに注意しながら下山した。

アイゼントレの3人には短かったが良いトレーニングが出来たと思う。

—記・浅田—

【瑞浪】22.12.25(二橋)

【2022年12月25日】

【メンバー】小野、中田、Sさん、Wさん、二橋

名古屋に8年ぶりの大雪が降ったクリスマスに瑞浪へ出かけました。一般道を北へ進むと山を越えるたびに、雪が深くなっていき、瑞浪に入ると平地も一面の雪景色。

岩場はまだ雪が残り濡れた状態でしたが、お師

匠さんたちが乾いた南向きの岩場を探してくれ、この課題からスタート。

アイキャッチャー、ロンパールーム

小野さんが2つの課題にリードでトップロープを張ってくれました。本人が言うには、スラブは苦手だそうで、慎重に登っているが、足の裏は柔らかく動き、吸盤のように岩に吸いついているように見える。

ご一緒させていただいたお師匠さんがたもアイキャッチャーからロンパールームと次々と登っていきます。中田君は初めてのルートということで、1本目こそ核心のクラックと格闘するものの、すぐにクリア。

私はロンパールームに挑戦。離陸すらどこに足をかけていいのかすら分からないが、先輩方に、丁寧にポイントである結晶への乗り込み方を教えてもらい、何度も何度も取り付く。クリアするまでに、だいぶ苦戦はしたが、結晶に乗り込む感覚がとても面白かった。

大事なこと、諦めて、結晶にのりこむ…という勇氣。

私たちがランチをとっている間、小野さんと中田君は新人クラックに挑んでいた。

小野さんのリード、上部は溶けた雪が沢のように流れていたらしく、「ズブ濡れです」と爽やかに笑っていた。この時点でも体感氷点下程の気温。技術はもちろんだが、身体と心が強い。そして、クライミングを始めてまだ3ヶ月の中田君、新人クラックに何度も果敢に挑み、クリア。黙々と・・・。

ランチの後は原住民とアストロドーム左へ。原住民。

小野さんやお師匠さんたちの登攀をお手本に挑戦しても思うようには登れません。早々に諦めた私と違って、ここでも中田君は何度も課題に向き合っていた。アストロドーム左。

小野さんが相変わらずサクサク登っていきました。



最後にカンテの登り方をご指導いただきました。天候のせい、当日お会いしたグループは一組だけでした。眼下に広がる雪景色を見ながらのクライミングは、不思議な感じでしたが、とても面白かったです。

皆様、ご一緒させていただき、丁寧なご指導までありがとうございました。すぐには登れるようにはなりません、素晴らしいお手本の数々しっかりと目に焼き付けました。

— 記・二橋 —

【中千丈沢のアイスクライミング】22.12.29(白井)

【2022年12月29日～30日】

【メンバー】L.白井、中田

会へ入会したばかりの新人の中田君を誘って年末に上高地周辺の中千丈沢の氷瀑群へアイスクライミングへ行ってきました。

中田君は、アイスクライミングは初めてであったが、やる気満々で、すでにアイスクライミングのバイルもアイゼンもすでに揃えていた。

中千丈沢の氷瀑をネットで記録を見てみるとすべて3月に入ってから記録ばかりでした。

やはりアプローチが積雪でたいへんなんだろうなあと予想はしていましたが、行ってみないと解らないと思い行ってみる事とする。

29日

本日は上高地の小梨平までに行けばいいので新城市を7時頃出発。

いつもの足湯のある沢渡駐車場へ車を止めタクシーで釜トンネルまで行く。時折小雪が舞い強い風が吹き、雪山らしい天候。

タクシーを待たせ沢渡の駐車場でパッキングす

るが、ちょっと慌てていた為ワカンを自家用車に忘れて来てしまった。

釜トンネルの詰め所で山岳警備隊の人に入山状況を聞く。どうやら自分達が31日に登る予定の霞沢岳西尾根は27日に単独で入山した人以外にまだ誰も登られていないようだ。

釜トンネルをトコトコと快適に歩く。トンネルの中は風雪に煩わされないから快適だ。トンネルの中にテントを張りたい。

トンネルを抜けると雪山の上高地。大正池ホテルを過ぎると間もなくお目当ての中千丈沢の出合に着く。時間もあるので明日の為にトレースをつけておくとする。

予想どおり誰も入っていないらしくトレースは皆無。左岸より堰堤を越えながら沢沿いに進む。ワカンをちゃんと忘れずに持ってきた中田君にラッセルしてもらって進むが、ツボ足の自分は膝近くまで潜ってしまう。

先頭の中田君に置いてかれなないように頑張る。空身なのが救いだ。

大岩手前まで行くが、15時ぐらいになってしまったので本日はここまでとして戻る。また思いザックを背負い小梨平まで目指すが遠く感じた。

釜トンネルの抜け口 天気が悪い

30日

本日は中千丈沢の氷瀑を目指し、昨日つけておいたトレースを辿り、沢を詰めてゆく。

大岩の難所に小さく氷瀑がかかっていたので登れると思いきり取り付く。しかし、登って雪を落とすと最後の上部で氷が無くなっており、抜け口も下から見ると岩が露出している。

ココを登る事を諦め、ついでにここでアイスクライミングが初めての中田君に練習してもらおう。

沢どうしに行くのを諦めて右岸を巻く。しかしこの巻も傾斜が強くなるように進まない。

どうにか中田君の頑張りで巻いて沢に戻る。そんなこんなで進むと左岸に「ミルキーウェイ」らしき氷瀑を発見。シャンデリア状で上部が黒くまだ登れそうもない。

さらに進むと「Z」の滝がいい具合に氷結しているが見えた。この時点で12時だったので「Z」を登る事にする。

自分がリードで登る。誰も登られていないV級の氷瀑はなかなか手強い。アックステーションを掛けながらなんとか登りきる。

その時に不慣れな左手でスクリュウを決めようしていたら落としてしまった。このスクリュウは残念ながら発見できず、「z」の滝に上納することになった。涙

上部の滝は大きな氷柱が2本が重なった感じで

細く難しそうなので割愛する。

下部の滝でトップロープを掛け、中田君にも登って貰う。さすがに初めてのアイスクライミングでV級を厳しく苦勞している。まあそりゃそうだよねーと思う。

15時前に撤収してテント場へ帰る。

とりあえずラッセルだけの偵察に終わらず登れたのでよしとする。もう少し行けば「一角獣」とか見えそうだったが、もうラッセルにうんざりだったので足が向きませんでした。

上高地は携帯電話の電波がバッチリ入るのでテントの中でも音楽やラヂコのアプリでラヂオが聴こえて嬉しい。

ラッセルご苦勞中田君

大岩の関所を越えようとトライ

「Z」の滝を登る



上部の様子

氷柱を使って支点を作成

頑張っ登る中田君

31日

ラッセルはもう嫌だったので(じゃあ雪山なんか来るなよ！って言われそう)霞沢岳西尾根は諦めて下山する。

しかし、雪山あるあるで本日はばっちり晴れている。大正池では穂高連峰や焼岳のモルゲンロートを拝む。

ゴメンナサイこんな軟弱なおじさんでゴメンナサイ。と心の中で誰かに謝りながら下山。

勿体ないのでダメもとで乗鞍の善五郎の滝でアイスクライミング出来るかなと思って寄ってみる。

まったく氷結状態は進んでないが右端のルートが登れそう。

滝下まで行くと登られた後もあり、しかもウイマーは皆無だったので、ここで思う存分貸し切りで登り満足できました。

焼岳が綺麗。穂高連峰も美しい



大正池ホテル前で

氷結が甘かった善五郎の滝

右隅に登る白井

スクリューを打つ練習の中田君

今回の山行は中田君のラッセルの頑張りが無かったらたどり着けなかったと思う。若いっていいなあ実感。

結果「Z」の滝も「善五郎の滝」も貸し切りで登れたし、アイスクライミング初心者の中田君はいい経験になったと思う。今シーズンはまだ始まったばかりなので次の山行につなげて行けたらと思います。

—記・白井—

【東海自然歩道】23.1.1(中田)

【2023年1月1日～4日】

【メンバー】中田

入会前、東海自然歩道愛知県区間を6泊7日かけてスルーハイクしてから、ロングトレイルの面白さに気づいたトレイル初心者です。

1月1日までアイスクライミングの予定でしたが1日早く下山することになり、計画だけ作っていた東海自然歩道静岡・山梨区間を歩くことに！

富士宮市にある県境バス停から新城市の鳶の巣山山麓まで静岡・山梨区間をスルーハイクしたかったです…

時間がないので、県境バス停から静岡市油山温泉を過ぎた栗島バス停をゴールとして行って来ました。

自販機やコンビニなど東海自然歩道を歩く方の参考になりそうな情報を書ければと思います！

1月1日(日) 1日目

豊橋駅から在来線で浜松駅へ、新幹線で新富士駅へ向かいます！車窓から初日の出と富士山が！新年早々いいものが見れました。

新富士駅からバスに乗り、県境バス停へ

少し山の中へ進むと本線に合流できます。8:50

県境スタート

静岡県は管理に力を入れているのか、標識が綺麗なものに更新され、とても分かりやすいです。

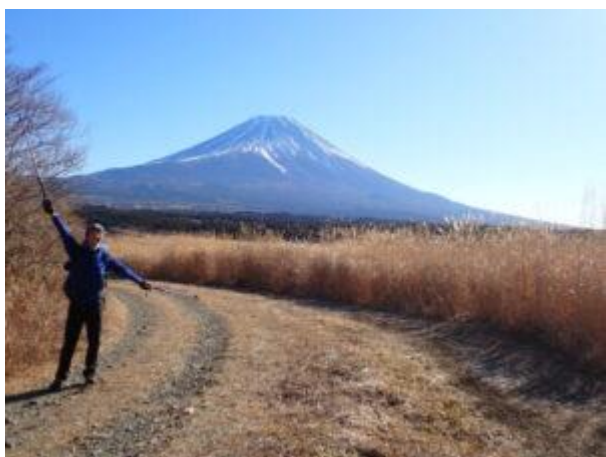
アップダウンの少ない山道を歩くと、目指すA沢貯水池が見えます。

竜ヶ岳の登山口がルート上にあるためか、意外と歩いている人は多いです。

A沢貯水池には綺麗なトイレがありますが… 冬季閉鎖中。簡易トイレが使えるようです。次はふもとつばらキャンプ場を目指します。

途中、土砂崩れで通行止めに、迂回路が設定されているのでそちらへ

低木の道を抜けると、ススキの原っぱが広がり奥には富士山が！うわお！ 思わず歓声を上げてしまふほどの絶景でした！ とりあえず記念撮影



絶景の道は荒天時の迂回路だったようで…。本線に戻ります。土地所有者さんすみません。

牧場のそばを通るのどかな道を進みます。かわいいなー

11時15分 ふもとつばらキャンプ場に到着。何かのフェスかな？と思うぐらいのテントの数！こんなに人がたくさんいる場所でキャンプは嫌だなーと思いつつ、さっさと通り抜けます。

キャンプ場の近くには、トイレがありました。(キャンプ場のトイレは有料施設のため使用できなさそうです)

次は田貫湖へ！ 途中、本線から外れ10分ほど歩くとファミマがあるので、食料と水を補給します。道中の見どころの一つ陣場の滝。滝の近くには湧水地が多く、水の補給はこのあたりでもできそうです。

田貫湖の近くに、湿原があったので寄ってみました。生き物の姿は見れず…

13時40分 田貫湖に到着。田貫湖が1日目の終了予定地でしたが、早く着いたのでもう少し歩き、長者ヶ岳山頂を目指します。

なだらかな登りが続く登山道を登ります。道は整備されており、とても登りやすいです。15時05分山頂に到着。この時間から登ってくる人はいない

だろうと山頂にツェルトを設営。

ツェルトの中でダラダラしていると、日没近い時間に登山者が1名登ってきました。

話してみると、松本から夕日に染まる富士山を撮りに来たのだそう。インスタ映えする山の写真の撮り方を教えてもらい、自分も撮ってみました

うん…お手本通りの写真のように綺麗に撮れず残念！

下山を見送ったら、ツェルトに戻り、年末山行の時に教えてもらったラジコを聴きながら眠り、1日目は終了です。

1月2日(月) 2日目

朝の気温は意外と高く-3℃。6時55分、日の出を見てから2日目スタート！稜線を下り、山梨県へ山梨県に入ると、ボロボロの標識… 崩壊した道…

県が変わるだけで、これまでとは道の状況が異なりとても面白い！単調な坂を下り続け、8時55分に上佐野に到着。集落内の標識が見つからずウロウロしていると面白そうなものが！覗いてみましたが、マムシは見つけることができませんでした。

30分ほど集落内を迷い、本線に無事合流できました。上佐野の集落に自販機や商店はありません。佐野峠まで登り、思親山を目指します。

佐野峠までの登山道は渡渉があり、そこで水の補給もできそう。(安全な水か謎です)

佐野峠から富士山が綺麗に見え、トイレもあるので宿泊地に良さげです。10時40分に思親山到着。

長者ヶ岳と比べると木が多く、展望はいまいちです。富士川を目指してすぐに出発します。

ひたすら下り続け、JR身延線の踏切を渡り富士川沿いを歩き続けます。対岸には食料補給予定のローソンが！コンビニで何を食べようか考えると足取りも軽くなります。

13時50分富沢のローソンに到着。

食料と水分を補給し、本線から外れて富沢の街をぶらぶら。年始特有ののんびりした時間が流れる街を歩くの好きです。

ディスカウントストアもあり、意外と充実している街でした。富士川沿いの道を歩き、本線を少しショートカット…

自分で計画・ルートを決めて歩ける自由さがロングトレイルの魅力だと勝手に思っています！本線に合流し、少し進むと宿があります。日が少しづつ傾き始めますが、山道へ突入します。

早速、橋が落ちている道。水量は少ないので渡渉して進みます。

爪痕のついた大きな足跡が！クマ？かな…。結構新しい足跡で緊張します。クマ避けのため、森

のくまさんを歌いながら歩きます。

軽快なリズムとポップな歌詞でクマが出てもし一緒に踊ってくれそうです。道はどんどん荒れていき…。管理されていない荒れた山を歩き…。日没がだんだん近づいてきます。

夜の山を歩くのに慣れていますが「道は荒れている。標識は少ないし、日が落ちると迷うかも…」焦りと不安が出てきます。

木々の間から、富士山と富士の町がチラリと！

町が見える安心感と富士山に応援されているような…。元気を取り戻し、歩くことができました。ありがとう富士山！徳間の集落に到着。

薪が燃える匂いと軒先に干された鹿肉。山の恵みを活かした生活が感じられる素敵な集落です。集落には商店・自販機はありませんでした。

集落を抜け、17時良さげな空き地にツェルトを設営させてもらい、2日目は終了です。

最終日の楽しみだった油山温泉が休業中であることが判明…。今回のゴールを安倍川の曙橋に変更することにしました。油山温泉…(・▽・)

1月3日(火) 3日目

6時10分に徳間を出発し、舗装路を歩くとセツ釜滝の入り口があります。立ち入り禁止でした。

沢登りに楽しそう！調べるとこの辺りは富士川溪谷というゴルジュが楽しい沢みたいです。

奥山温泉は冬季休業中。建物内に自販機らしきものがあります。山梨と静岡県境の田代峠を目指し、林道を進みます。

工事の看板がなかったら、迷ってしまいそうな分岐があります。8時55分、県境の田代峠に到着。

次は温泉欲を満たすため、入る予定ではなかったやませみの湯を目指します。温泉が近くなると俄然やる気が湧いてきます。静岡県に入ると標識が多く設置されていて、安心して歩けます。土石流の跡には、ボルダーに良さそうな岩がゴロゴロ

地元のおばちゃんたちの話では、昨年の大雨でこの辺りは大変だったそうです。興津川沿いの舗装された道を歩き、12時15分やませみの湯に到着。のんびり過ごし、14時05分に出発しました。温泉には食堂や自販機があります。

温泉から少し歩くとジェラート屋がありますが年末年始はお休みでした。食べ歩きしたかった…

黒川キャンプ場の近くには、自販機があります。この先の竜爪山の中腹にある神社に自販機があるらしいですが、冬なので動いていない可能性が…。ここで補給をします。

川沿いの林道を歩くと、大雨の爪痕が至る所に見られます。なにやら動くものが…。カモシカでした。逃げていかないので、距離をとって通り抜けます。

林道から登山道に変わります。

大雨の影響か、橋が3本ほど流されていましたが、渡渉できる水量なので渡っちゃいます。

15時45分穂積神社に到着。予想通り自販機は動いてませんでした。境内の隅にツェルトを張らせてもらい3日目は終了です。

夜、トレランや参拝に来る人がちらほら、邪魔にならない場所を選ぶと良いと思います。

1月4日(水) 4日目

7時10分に神社を出発。朝から階段が続き結構しんどい。8時00分文殊岳に到着。

南側の展望が開けていて、静岡と清水のまちが良く見えます。無風で日差しが暖かくしばらくのんびり。

清水の港にフェリーが入港したら出発することに1時間近くだらだらしてしまい8時55分に出発。

頂上で会ったおばちゃん曰くこの山は道迷い遭難が多いそうです。10時50分ゴールの曙橋に到着！



足の調子が良いので、もう少し歩きたいですがここで今回の山行は終了。続きは、また今度歩きたいと思います！ロングトレイルもっと歩きたいけど…。長期休みが欲しい！

—記・中田—

【渡名喜島・南岸岩壁】23.1.3(比嘉)

【2023年1月3～5日】

【メンバー】比嘉正岳、比嘉正之(親父)



【概要】

15 年ほど前から親父が惚れこんだ巨大な未踏壁があった。その未踏壁を、親子で登攀し、ナチュプロのみで 5.10C のルートを開拓した記録。

【登攀エリアと渡名喜島の紹介】

沖縄県島尻郡に位置する、渡名喜村。人口は 400 人ほどで、村の面積は日本で 2 番目に小さい。写真は渡名喜島の全容。登攀したエリアは赤マルのエリア。地図上では「ヲモ」という地名がついている。

【1 日目の記録】

沖縄県那覇市にある港からフェリーで 3 時間かけて渡名喜島に向かう。小さな島なのでフェリーのみ運行している。

下記の 2 枚の写真は船からの渡名喜島の景色。この地形に、体が引き寄せられる。登攀した岩壁。「トナキャピタン」

高さ 200 メートル程の岩壁が 2 キロにわたって続く。渡名喜島の港についてから、すぐに目標の岩壁に向かう。島の集落の様子。貴重な沖縄の原風景が残されている。

車だと渡名喜港から 10 分ほどで岩場の駐車場に着く。そこから軽く木道の遊歩道を歩き、目標の岩壁に向けて藪漕ぎが始まる。

整備された観光用の木道。この道が目標の岩壁まで続いたら最高だ。藪漕ぎをしなくてすむ。

1 日目なので、クライミングエリアを見渡せるピークに登り偵察を行う。途中から雨が降り始め、体が冷えるが、猛烈な藪漕ぎにはちょうどいい。

正月太りの比嘉。かなりキツそうだ。遊歩道から、先頭は藪漕ぎに慣れた親父が行く。とても 64 歳とは思えないスピードで僕は置いてけぼりに。正月太りも遅れの原因のひとつだ。母の飯が食べたくなくなる。

1 時間ほど藪漕ぎをしてピークに到着。テンション高めな親父と、左下に見えるのが島尻崎。ピークに着いたところで、雨風が強くなったので撤退す

る。

傾斜がキツイ中での藪漕ぎ下山はかなり怖い。

比嘉は道中、2 メートル滑落し、フカフカの藪にダイブ。危なかった、、遊歩道に合流したところで、時刻は 14 時。体はずぶ濡れで寒い。やることがないので、海岸に降りてまた偵察を行う。

海岸までのアプローチは、釣り人用のロープがフィックスしてあるが、滑って歩きづらい。



親父とハングした 100m の岩壁

海岸には、数え切れないほどのボルダーがあり、異様な光景だった。雨もかなり強くなり、時間も遅くなってきたので、1 日目はこれにて終了。

【2 日目の記録】

海岸からのアプローチは、道が陰しくてキツイので、懸垂下降でのアプローチを行う。午前 8 時に遊歩道を出て藪漕ぎを開始。2 時間ほど藪漕ぎをして、懸垂下降ができそうなポイントに到着する。

懸垂 1 ピッチ目の支点。島には大きな木が生えていないので、岩にスリングを掛ける+藪の根っこを使って懸垂下降の支点をつくる。懸垂下降開始。

途中、浮石が多いので開拓クライミングの醍醐味、お掃除クライミングだ。1 ピッチ目ラペルの様子。

ダブルロープを 2 本束ねて 40 メートルほど懸垂下降すると、ガジュマルの根っこが岩に張り付いているポイントに着く。その根っこにスリングを巻いて支点構築し、ピッチをきる。



1 ピッチ目まで懸垂下降し、ロープを抜く比嘉と左に見える支点がガジュマル。ガジュマルの木は細く、グラグラに動く支点だ。不安だが、2 ピッチ目の懸垂下降する。

2 ピッチ目の懸垂下降は高度感があり面白かった。「アルパインやってる感」を感じる。2 ピッチ目懸垂下降の様子。圧巻の景色だ。2 ピッチ目懸垂下降の様子「アルパインやってる感」

2 ピッチ目の懸垂下降は 50 メートルロープいっぱい出たところでピッチを切る。ちょうどいい場所に直径 10 センチほどの木が生えている。そこで 3 ピッチ目の支点を作る。

3ピッチ目の懸垂下降様子。3ピッチ目の懸垂下降は、スラブからスタートなので降りやすい。海面からの距離も近くなるので海風を感じる。アルミ製のギヤ類が悲鳴をあげている。

4ピッチ目はロープ無し。歩きで降りられる。ただ、ロープをフィックスしておいた方がよかったと後から後悔した。ボルダーサイズの岩がゴロゴロしたエリアを歩かないといけない。

中央上部のトンガリが懸垂スタート地点。海岸に着くと、真っ先に海に触れて海拔 0 メートルを感じる。振り返ると大岩壁が僕に覆い被さってくる。かなりのスケール感だ。高さ約 200 メートルの大岩壁。人類が歩いたことのない海岸かもしれないと思い、30 分ほど海岸を散策した。海岸にはボルダーサイズの岩がゴロゴロと転がっており、見た事もないような地形が広がっていた。漂着物もかなりあり直径 2 メートル程の浮きは見応えがあった。海岸の散策が終わって、時刻は 13 時。登攀を開始する。

1ピッチ目(グレード 5.9)

1ピッチ目は、比較的簡単なので自己ビレイシステムで登る。

1ピッチ目を登る親父

2ピッチ目(グレード 5.10C)

2ピッチ目は、このルートのコアでハングしている。

僕はリードでいける自信がないので親父にリードしてもらおう。

2ピッチ目をリードする親父。

父がリードするが、ロープが 20 メートル出た核心手前でフォール。掴んだ浮石が外れた事により体勢を崩して滑落したようだ。(ナッツが効いていたので無傷)

墜落距離が長かったので、僕はしばらく動揺したが、父は冷静で核心もスルスルと登っていく。ロープが 50 メートルいっぱい出たところでピッチを切る。「ビレイ解除」というコールが聞こえた時はかなり安堵した。

続いて僕がフォローで登る。親父が滑落したポイントは浮石が多く、かなりスリリング。核心はハングしており、ザックの重みで体が岩から剥がされる。後半はクラックとフェースのミックスルートで、高度感もあって面白い。岩が脆くかなり危ないピッチだった。



2ピッチ目(核心)を終えて合流する

3ピッチ目(グレード 5.10A)

3ピッチ目は僕がリードする。余裕に登れるだろうと思ったが、ハング超えて高度感がありすぎて落ち着いて登れない。支点は取りやすい地形だったが、浮石が多く「この浮石よ、頼むから動かないでくれ」と、ホールドとして使う事も多くあった。なんとか、トップアウトしセカンドのビレイをする。

3ピッチ目をフォローする親父(中央)。太陽が沈み、父が最終ピッチを登り終える頃には 18 時。あたりは真っ暗だった。

早朝から行動を開始し、落石の恐怖感やクライミングの緊張感によりヘトヘトの 2 人は、「生還した」という感覚に浸っていた。2 日目終了。

【3 日目の記録】

朝焼けと島尻崎。前日の疲れがだいぶ残ってい

るが、7 時に行動開始。沖縄の日の出は遅いので、比較的遅い時間に起きられる。この日の目標は、昨日とは違うエリアの崖から懸垂下降し、登攀をすることだ。

【左が目標登坂エリア、右が前日の登坂エリア】

アプローチの藪漕ぎも 3 日目だからか、だいぶペースが上ががるが、ハイマツにトゲを生やしたような植物がカラダ中に刺さり、レインウェアはズタボロに。おまけに、ナイフのように鋭い石灰岩が藪を踏んだ先に待っている。まるで畏だ。

慎重に藪漕ぎをしていたが、靴底に鋭い石灰岩が貫通し足に激痛が走る。ワークマンの安全靴はアプローチシューズに向いていると思っていたが、流石に負けてしまった。

石灰岩によりズタボロになったアプローチシューズ。藪漕ぎが、思うように進まず 2 人とも叫びながら藪を漕ぐ。「これが、藪漕ぎレベル MAX ってやつか」なんとか、懸垂下降ポイントに到着するが、時刻は 11 時。登攀を始めるには、グレーな時間帯だ。

優しそうなラインなら登れるかもしれないと思ったが、昨日より悪そうなラインばかり。父も、圧巻の景色を見てお腹いっぱいに見えたので、撤退する。130メートルの大岸壁。グレードは 5.14 以上か?? 景色に別れを告げる。帰路の藪漕ぎも、かなりハードだがなんとかスタート地点に到着する。

「生還したんだ。これ以上に登攀する事は無いんだ」と思うと、なんだか急に普通の人に戻った気がする。親父とこの未踏壁に登れて本当によかった。今度はどんな冒険を一緒にしようか?

—記・比嘉—

【醤油樽の滝】23.1.7(中田)

【2023 年 1 月 7 日】

【メンバー】白井、中田、他 1 名

白井さんと入会予定の B さん、自分の 3 人で、北八ヶ岳の醤油樽の滝へアイスクライミングに行ってきました。

桜平駐車場に車を停めてスタート! 遊歩道を歩き、滝を目指します。

年末山行で行った中千丈沢と比べ、踏み跡がしっかりとしており、30 分ほどで滝に到着。アプローチが短いって最高ですね!!!

途中綺麗なアイスボルダー? があり、雪景色を楽しみながらのスノーハイクでした!

滝は 30m ほどの高さで、想像を上回る大きさに圧倒されます。大きさの割に、近づくとも傾斜も緩く、段々になっているので意外と登りやすそう…

まず、簡単そうな滝の左側からトライ



見た目の通り登りやすく、アイス 2 回目の自分も久しぶりに登る B さんもテンションかけることなく登れました!

左側を何度か登ったら、少し難しそうな右側に挑戦…

アックスの打ち込みや足の置く位置を意識して登ります。なんとか形になっているかな?

B さんも体の柔らかさを活かしてスイスイ登ります。余裕ができて来たら、トップロープでアイススクリーを打ちこみながら登る練習。途中で氷が割れてしまったり、スムーズに入らなかつたり…

氷を見極める力、経験が大切だと気づき、アイスクライミングの難しさを痛感します。

14 時ごろには切り上げ下山しました。

今回、12 時に 1 パーティー来ただけで、ほぼ貸切状態で楽しむことができました!

アイスのシーズンは始まったばかり! 次の山行が楽しみです(^)。気温よ! もっと低くなってくれ!

—記・中田—

【硫黄岳(長野県)】23.1.7(山口岳)

【2023 年 1 月 7~8 日】

【メンバー】L 浅田, 二橋, 牧, 山口(岳)

1/7.8 で硫黄岳に行ってきました。

朝 6 時に豊川市役所に集合し、治部坂峠から中央道を通って八ヶ岳山荘駐車場へ。

そこで元会員だった牧さんと合流し、いざ硫黄岳へ出発。初めての雪山歩きにワクワクし、気持ちも昂ります。ぎゅっぎゅっと雪を踏む感触を楽しみながら登りました。

牧さんとは初対面でしたが、歩きながらいろいろ話すことができ、とても親しみやすかったです。アイゼンは使用することなく順調に赤岳鉱泉に到着。

赤岳鉱泉名物のアイスキャンディーでアイスクライミングの練習をしていました。

部屋は個室で真ん中にこたつがあり、暖かったです。逆に寝る時は暑くなってしまう程でした。山小屋到着後、売店にてそれぞれ飲み物を買って、乾杯。牧さんは持参したワインをがばがば飲んでいてすごかった。

翌日は朝 6 時起床、6 時半朝食。7 時半に小屋発。二橋さんは体調不良により小屋待機となった為、3 人で山頂を目指しました。



この日も快晴で順調に赤岩ノ頭に到着。道中は初日に比べ傾斜がありましたが、アイゼンがよく効き、トレースもしっかりあったので歩きやすかったです。

山頂は風があるかもとのことで、休憩しながらもう一度ハードシェルを着込みます。

ここでハプニング発生。赤岩ノ頭からいざ山頂へと一歩踏み出した瞬間にアイゼンが外れてしまいました。

平坦な場所だったので良かったのですが、もっと傾斜のある場所だったらとゾッとしました。浅田さんに注意を受けます。

山頂までは、幅が 30 センチくらいで左側が切れている箇所や岩と岩を跨ぐところなど、高度感もありなかなか緊張しました。

そして、無事山頂到着。景色が良くとても静かでもとても寒かったです。風速は浅田さんによると 5 メートルもないくらいで、雪山としては無風だよとのこと。握手をし、写真を撮り山頂を後にしました。



赤岳鉱泉までの下山中、カモシカを見ることができました。

今回雪山に初めて登ることができましたが、いろいろと反省点もありましたので、それを忘れず安全に次の山行に生かしていきたいと思います。

—記・山口岳—

【伊吹山】23.1.21(遠山)

【2023 年 1 月 21 日】

【メンバー】L 河合, SL 高橋, 古賀, 二橋, 吉中, 坂本, 樋口, 遠山

河合さんから山行計画が出た伊吹山に 8 名のメンバーで行ってきました。

早朝 6 時に音羽集合、音羽蒲郡 IC から関ヶ原 IC を経由して約 2 時間で伊吹山登山口に到着。一般駐車場に駐車して身支度を整えて 8 時 30 分に歩き始めます。

強烈な寒波が近づいているとの予報で心配していた天候でしたが、思ったほど寒くもなく空には晴れ間が広がっています。初めは林道歩きから始まりますが雪は全くありません。

30 分ほど林道を歩き 1 合目に到着。3 合目からは伊吹山のピークが望めます。

少し雪が多くなってきたので 4 合目付近でアイゼンを付けて歩き出します。5 合目からはピークまでの道のりが一望できます。

それにしても 1 月のこの時期にしては雪が少ない。時折、風が吹き付けますが日差しのせいあまり寒さを感じません。ここから最後の登りに差し掛かります。



山頂手前の急登、雪も少なく歩きやすい。
山頂手前は樹々が樹氷で覆われてキレイ。
山頂に到着



山頂からは伊勢湾、霊仙山、琵琶湖、御嶽山などが見えます。小屋横で風を避けながら昼食。

下山は途中から雪が溶け出してグズグズ状態。雪も少なく古賀さんと吉中さんのヒップソリは出番がありませんでした。

天候には恵まれましたが雪がドッサリ積もった時期に再訪したい伊吹山でした。

—記・遠山—

(追記)

車の中にせっかく買った行動食を忘れてしまったが、古賀さんが定価 3,000 円のチョコチップスティックパンを分けて頂き美味しく食べました。ありがとうございました。

今度、古賀さんと山に行くときは、お礼に、山頂で 10,000 万円のカレーパンを渡そうと思っています。

—記・河合—

【藤原岳】23.1.22(木村)

【2023年1月22日】

【メンバー】L浅田、横山、日浦、木村

1/22 に 4 名で藤原岳に行ってきました。

朝 7 時に音羽に集合し、音羽蒲郡 IC から伊勢湾岸道経由で鈴鹿へ。8 時半頃藤原岳駐車場に到着。身支度をして登山口へ。登山届けを提出して登山開始です。

4 合目辺りまでは全然雪がなく、暑くて半袖でもいーくらい。5 合目くらいから登山道にも少し雪が出てきました。

浅田さんがすれ違う下山者の方に雪の状況を聞いて下さると、8 合目辺りから雪があるという情報が。

7 合目までくると雪と凍結で滑りながら歩く。強く踏み込んで歩くと滑りにくいと教えていただき、滑らないように慎重に登る。8 合目にきたので、アイゼン、チェーンスパイクを装着。

ここで少し休憩を取り、ここからいよいよ雪道です。私にとって初めてのアイゼン。ほんとに滑らずに登れるのか不安でしたが、「ギュ！ギュ！」というアイゼンの刃が刺さる音がして楽しい。

急登を登っていくと、2階建ての山小屋が見えてきました。山小屋の中のテーブルが空いていたので、ここでお昼休憩にしました。

休憩した後、いよいよ山頂へ。そり遊びをしている方を見ながら、雪道を登っていきます。振り返ると綺麗な景色が見えました。山頂へ到着。



この日は風がなく、写真を撮ったり景色を見たり満喫できました。

雪の斜面の下山は不安でしたが、アイゼンが効いてくれるので全然滑らずに歩けました。

7 合目辺りで各々アイゼン、チェーンスパイクを脱着し、無事に下山できました。

—記・木村—

【厳冬期竜ヶ岳蛇谷】23.1.29(比嘉)

【2023年1月29日】

【メンバー】比嘉、その他 1



比嘉正岳(右)、その他 1

【概要】

厳冬期の沢は一体どんな姿になるのだろうか。アイスクライミングとは違った形の冬の沢へ。未知を既知にしていく過程としてはまだまだ序の口。今日をきっかけに冬の沢の全貌に近づきたいと思う。

【コース】

登山道→魚止滝
 →二股(左は燕滝、右は名称不明)の右を行くと蛇谷なのでそちらに行く。
 →勝手に命名、バエル滝(由来は後述)
 →五階滝
 →引き返して登山道から下山

【蛇谷の冬の姿をみて】

まず第一に「蛇谷って簡単じゃん。」とは言えなくなった。打ちのめされた。これは単に難しかったとかそういう話ではない。イメージと実際に登攀して学んで体験したこととの乖離の大きさである。

1 番簡単だと思っていた壁にはボルトが設置されており、ナチュプロをとらずとも登れる。足もたくさんおける。

全くもって、松尾も比嘉もこの壁は軽視していた。滝の左岸に位置するこの壁は水が流れていないため、大して凍らないと予測し、無雪期と難しさはそこまで変わらないと予測していた。しかし取り付いてびっくり。こんなにも水が流れない壁が凍り雪がつくのかといった印象。

特に強いて言うならココが核心か？と思っていたところは、ホールドを氷が覆い、どこを頼りにすればいいかわからない姿に変貌していた。このような予測の甘さ、山への無知。これを痛感すると同時に、山はまだまだとんでもない面白さが待っている。そう感じさせる内容だった。

当然、今回相当に冷たく寒かったが、これに懲り

ずまた行きたいと思う。

【魚止滝】

(凍った右岸を松尾が登る↑)

(猛烈にシャワーを浴びる↓)

左岸は水を浴びないが、上部で滝の落口までトラバースする必要があり、これがかなり悪そう。比嘉はここから突破。実際かなり悪かった。

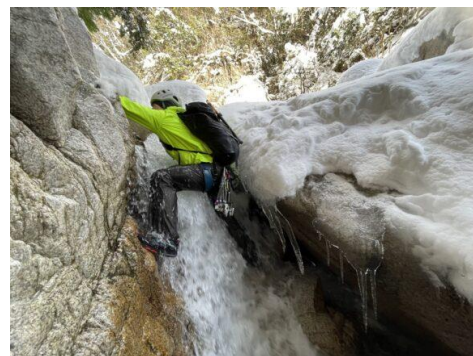
右岸は水流の最もきつい部分。しかしガバが多くクライミングは容易。ただし、岩が脆いのでホールドの崩落に注意。

松尾はこちらからシャワークライミング。上部では雪に隠れたホールドを探す必要があったり、たとえガバでも少しでも傾斜があり凍っていると掴めなかったり、非常にスリリング。しかしホールドは豊富なので、使えるものを探して突破。

フリーで抜けたが、本来は冷たさを我慢してでもロープ使うのが正解だろう…。

【燕滝との出会いまで】

ゴーロは雪で平坦化し、歩きやすくもあるが、時々薄い部分で落とし穴となり踏み抜いて足を痛めることも。見えないので厄介だ。



森の養分が岩にこびりついたのか？無雪期の蛇谷よりも、滑るように感じた

【燕滝との出会い、右側の蛇谷方面の名称不明の滝】

大岩が積み重なった滝で細かく流れの筋が分散するため、ここは凍るのでは？と予測していたが、やはり凍っていた。いや想像以上に凍っていた。

アイスとシャワーのミックスクライミング。蹴り込む、あるいはハンマーで殴ればアイスは砕けそうなので足場は作れるだろう。沢靴のまま突破を試みる。(松尾がリードでいく↑)

滝の上部の大岩の左側を水が流れており、こちら側は悪く夏でも突破したことがないので、やはり凍ったとしても左岸から突破だろう。夏と同じルートで攻略する。

使えるホールドがかなり減っていて難しかった。しかし更に難しいのはフォローの比嘉をビレイする

ための支点探し。

雪に埋もれている良好なクラックを探す。ショベルはないが、掘る掘る。掘るしかない。「遅いぞ」と滝の下部で比嘉の声が聞こえ、後ろめたくなりながらも、安全な支点を見つけるのが第一。待たせてしまったが安心できる支点を2ヶ所見つけた。

比嘉はこの時かなり体を冷やす。

【バエル滝(勝手に命名)】

バエル滝とはご覧の写真の通りかなりインスタ映えしている。だからバエル滝。ちなみに無雪期はこんな感じ↓無雪期の話をするバエル滝には3つの突破方法がある。

パターン1 右岸のルンゼから巻く方法。

パターン2 滝を中央突破。ガバは意外と多いが、核心は上部のヌメッタガバ。しかも崩落しやすい。そして猛烈なシャワーを浴びる。

パターン3 左岸の流れのない壁を登る。ボルトが打ってあり開拓されている。簡単である。今回は簡単なパターン3からいく。ルンゼは凍りつき逆に危なそうで巻くのは難しそうだからだ。

さて、簡単だと言ったパターン3だが、今回1番難しかった。松尾がまずはリード。松尾は登れなかった。3ピン目をかけた後、やや左にトラバースした後、トップアウトへの細い隙間に体を擦り込み乗り上げていきたい。そこがとんでもなく難しく、フォール。無雪期に使用するホールドが凍りつき、全く使えないのだ。

松尾が登れないので、クライマー交代。比嘉が行く。ビレイしていた比嘉は、無雪期のノリでいけるように下部からは見えてしまい、ピッケルはザックにくくりつけたままリードでいく。(リードする比嘉↑)

2ピン目以降、比嘉も松尾と同じところで苦戦するが、松尾が信用しなかった。引っ張ると動く木の根を頼りに体を上げる。アルパインっぽさを感じる。

4ピン目以降、ホールドも全くなく以前あったボルトも外されていてかなり怖い。ステップが無いので、スリングをセットしてエイドである。

その後、凍ったチムニー状の地形に体をねじ込みなんとか登る。ここがかなり怖かった。トップアウトし、以前あった贅沢な終了点を探す。積雪により、雪の下に隠れていた。フォローで上がってくる松尾をビレイする。やはりクライミングが苦手なのか、またフォールする。

下部からは、松尾の弱音がたくさん聞こえてくる。比嘉は「ガンバっ」と叫んでなんとか登らせる。



写真は、フォローでまるで荷物のごとく核心を引き上げられる松尾。かっこ悪い先輩もたまにはいいね。松尾と比嘉は合流して語り合う。

これがあだとか、冬の沢はこんなにもあだとか語り合う。バエル滝に登攀後、積雪量が増える。腕は相当よれていたが、やはりクライミングはすごい。こんなにも寒いのに、腕と手だけはすごく温かかった。立ち止まるとすぐに冷えるが。

五階滝を手前にして、時刻は13時。山頂を目指せる時間ではないので、今日はこの辺で撤退する。一般登山道に合流して下山開始。

帰り道、一般登山客にスターのような目で見られる、冬に沢登りをするバカ2人組。少し気分が良い。

下山後の駐車場での着替えが核心だった。今回のような山行は学びこそ多いが、怪我のリスクも相当に高いと感じた。だが、決して後悔や自責の念はない。これは僕たちが挑戦したからこそ学んだこと。そして運も含めて、今日までの経験が僕たちを下山に導いたのだから、そこは挑戦したこと自信を持ちたい。

—記・比嘉—

【北横岳】23.1.29(横山)

【2023年1月29日】

【メンバー】L 浅田、樋口、山口(岳)、横山

1/29北横岳に行きました。朝6時に豊川市役所に集合し、飯田山本ICから中央道に入り中央・南アルプスを眺め、これから訪れる未体験ゾーンにワクワクしながら諏訪ICを下りて北八ヶ岳ロープウェイ駐車場に10時半に到着。

ロープウェイで一気に2237mへ、ロープウェイを降りた瞬間から白銀の世界のお出迎え、そこから樹氷の森を歩き北横岳へ。北横岳ヒュッテで昼

食。

12時30分南峰に到着し途端に経験のない寒さ、とにかく強い風が顔に当たり寒いと言うより痛い！

浅田さん曰く、雪山ならこの位当たり前だよ！
(え〜)北峰で何とか落ち着いて全員で記念撮影
背後に蓼科山、左右に北アルプス



続いて縞枯山へ。時間の関係もあり、若い樋口君、山口君が先に行き、浅田さんと横山は後ろから行き2人が下りて来たら合流し帰ろうという事を出発！

浅田さんの後ろを歩いている安心感と見知らぬお姉様の頑張るっての声でいつの間にか登頂！頂上で浅田さんと交わした握手。忘れられません！

色々な初体験最高の1日でした。最後に浅田さん樋口君道中運転お疲れ様でした。後3人には山の事を色々教えて頂きありがとうございました。二橋さん、ブログの書き方教えて頂きありがとうございました。

一記・横山一

【南沢山、横川山】23.2.4(二橋)

【2023年2月4日】

【メンバー】浅田、横山、山口(岳)、二橋

樹氷で有名な南沢山へ。天気予報はあまり良くなかったが、登山口へ着くと見事な快晴。

ふるさと公園登山口の駐車場には30台程の車、マイクロバスも停まっています。人気の高さにびっくりした。車は登山口から一番離れた駐車場に停めた。

10:00 登山開始。登山口でアイゼンをつける。

なだらかな樹林帯を歩き始めると、あっという間に暑くなり、ジャケットを脱いだ。登山者が多いお陰で、踏み跡はしっかりしているが、両脇にはだいぶ積雪がある。ここ一週間街はだいぶ暖かな日が続いていたが、山は積雪があったようだ。

動物の足跡が何種類もあり、何の動物か想像して楽しむ。動物が見られなくて残念。南沢山の山頂到着。樹木が少なくなり、風が強い。

快晴だった空も、雲に覆われているがガスはなく周りの山々を見渡すことができた。昼食をとり、せっかくなのでもう一座と稜線を横川山へ向かうこと

になった。

樹氷が溶ける途中で凍ったのか、微妙に海老の尻尾ができています。この辺りが有名な樹氷エリア？見られなくて残念。片道30分程で頂上に着いた。隣の富士見台高原へ進むこともできるそう。

風が強いので、止まると寒い。



記念撮影を終え、きた道を再び南沢山、登山口へと戻った。

一記・二橋一

【银杏峰】23.2.9(澤田石)

【2023年2月9日】

【メンバー】澤田石、他

友人に誘われ、福井県にある银杏峰へ行ってきました。银杏峰と書いて”げなんぼう”と読みます。

朝4時半瀬戸に集合し、東名高速へ乗り郡上方面へ向かいます。白鳥ICで降り、国道156号/中部縦貫自動車道を進みます。道の駅九頭竜で休憩をし大野市街へ入っていきます。

朝日に照らされた荒島岳を眺めながら登山口である宝慶寺キャンプ場に到着。

夏場はおそらくここでお手洗いが借りられると思うのですが、今回はキャンプ場もお手洗いも見つけられなかったため、冬場は大野市街や道の駅でお手洗いを済ませることをおすすめします。

昨年末の雪上訓練以来2度目の雪山。

アイゼンを履いて少し緊張しながら歩き出す。

一見ふわふわに見えましたが前日に降った様子はなく適度にかたくなった雪をしっかりと一歩ずつアイゼンで踏み締めながら進む。

なかなかの急登に息を切らしながら、アイゼンの前爪をガシガシと引っ掛けながら上がり、2時間程かけて银杏峰の手前にある前山へ到着。周りを遮るものがなく、白山や荒島岳がきれいに見えました。20分程小休止をし银杏峰へ向けて出発。

ここから少し木が増えだしたのですが、前日の

暴風のおかげか、辺り一面、樹氷、樹氷、樹氷。樹氷のトンネル。

それまで息を切らして体がしんどかったのが嘘のように疲れが飛ぶ美しい樹氷。一緒に行った友人も、ここまできれいな樹氷を見るのは初めてらしく、夢中になって撮影。

高度を上げれば上がるほど大きくなる樹氷に、花見みたいだね、とよくわからないけどなんとなくわかるような表現に頷き、花見しながら、振り返れば白山や荒島岳等真っ白になった山々を眺め、どこを見ても絶景、感嘆の声が上がり続けました。

樹氷のトンネルを越えると木がなくなり風が出てきました。前山から 1 時間半程かけて銀杏峰へ登頂。

山頂には小屋のようなものがありました。雪がいっぱいでは入れませんでした。



お天気とはいえ山頂は何も風が強く遮るものがないので記念撮影だけして下山。寒くて寒さでガチガチに固まった笑顔。笑。

再度樹氷のあたりまで降りてきてから 12 時半頃昼食を摂る。雪の上で食べるカップヌードル、美味しかったなあ。

風はなく、暖かい日差しの元ゆっくり過ごす。

昼食後下山開始した頃から風がまた出始める。登りの時よりしっかりめに着込み、アイゼンを再度締め直す。登りより下山の方がアイゼン難しい、

足を入れる角度や向きに苦戦しながらも大きく転ぶこともなく無事下山しました。

お天気に恵まれた素晴らし登山でした。こんな絶景を見にまた雪山へ行きたい。次はどんな雪山に行こうかと、雪山の魅力にすっかりはまった充実した登山でした。

—記・澤田石—

【大川入山】23.2.11(廣田)

【2023 年 2 月 11 日】

【メンバー】浅田・二橋・廣田

大川入山に行ってきました。長野県下伊那郡阿智村。阿智セブンマウンテンの一角で標高 1908m。

豊川市役所 7:00 出発 片道 100km。前日の南岸低気圧で中央道の多くが雪で通行止めでしたが 153 号の雪はありませんでした。

登山ルート 大川入山登山口 標高 1175m peak は 1908m 標高差 733m



出発時の気温 2° 駐車場から積雪でアイゼンを装着。上り始めてすぐに南アルプスが見えてきました。第一の peak 横岳。気温上昇で春山の様でした。暑いのでウインドは脱いでちょうどよい気候

シラビソの原生林のなかサルスベリが自生してました。空がキレイ 遠くに伊勢湾が見えます。

中央アルプス。山頂まであと少し。1908m到着。

阿智セブンの看板 カッコ良いですね。落葉期で南アルプス・中央アルプス・八ヶ岳・御岳・乗鞍岳が一望できました。快晴でホント良い登山になりました。

浅田さんからレクチャー。八ヶ岳、阿弥陀岳の裏に赤岳。南アルプス、一番左が仙丈 なので甲斐駒は見えない。その横に北岳

仙丈から南に行っていないので覚えられない・・・なので山行宜しくお願い致します！ (笑)

だいぶ陽が長くなりました、春近いです。芽吹きに力を感じます。木々も春を待っていますね

—記・廣田—

【千両山～富士見台】23.2.11(日浦)

【2023 年 2 月 11 日】

【メンバー】日浦

◇スノーシューハイクを楽しむため、富士見台高原ロープウェイ山麓駅からゴンドラとリフトを乗り継ぎ、阿智セブンサミットのひとつ富士見台へとたどる。

ヘブンスそのはらのリフト。リフトを降りると小高い場所に南アルプス展望台がある。南アルプスの主峰が一望できる。ここでスノーシューを装着。まずは、尾根歩きが楽しめるパノラマコースで千両山を目指す。

しばらくは林道を歩く。雲ひとつない青空。季節外れの暖かさに汗をかきそうなので、アウターとニット帽を脱いでフリースと手袋でスタートするも、じきにフリースも暑くなり腰に巻く。恵那山はいつみても存在感抜群。

標識が雪で埋もれているが、千両山への分岐点ここから少しだけ頑張っ、尾根道まで直登する。踏み抜いてもひざ丈くらいなので、スノーシューなら余裕で登れる。

無雪期はこの斜面に笹が広がっていて藪漕ぎ気味になるが、この時期はしっかり雪を踏みしめてズンズン登れるから、面白い。広めの尾根道は歩きやすい。

前日に降ったとみられる雪は若干ガリガリした面になっていて、想像した柔らかい雪ではなかった。全体的に雪が少ないように感じる。遠くまで広がる青空と冷たく澄んだ空気を味わえるのが、冬山ならではの魅力。自然の造形美。波模様が滑らか。

枝には溶けかけの氷がかろうじてぶら下がっている。誰も足を踏み入っていない真新な雪のうえに自分の足跡をつけるのって、小動物になった気分が楽しい。でもよく見るとスノーシューの足跡はゾウの足のように大きい！と笑う。向かう先に御嶽山がみえてきた。千両山(1662m)。山頂からの 360 度景色

ぐるっと見回すと恵那山をはじめ、遠くになだらかに横たわる白山、目の前には雄大な御嶽山、乗鞍岳、日本アルプスの峰々、私はまだ訪れたことのない八ヶ岳連峰が一望できて爽快だった。



千両山からの景色をしばらく堪能し、富士見台へと向かう。神坂峠の分岐点。萬岳荘方面ではなく、西側に回り込んだルートを選択したがスノーシューではルートミス。

神坂小屋手前の分岐までは道幅が狭くて、ところどころにむき出しの石が出てきたので、スノーシューでは歩行不可能と判断し、チェーンスパイクに履き替える。

以前、夏道で歩いた時もこのとおりに幅狭だったことを思い出して反省。こんなこともあるからチェーンスパイクかアイゼンは持参したほうが良い。分岐点。神坂小屋。

富士見台(1739m)360度のパノラマ展望千両山からの眺望もいいけど、富士見台はより大きく視界が広がる。

御嶽山、乗鞍岳、北アルプス方面。南アルプス方面。恵那山。ここからまたスノーシューに履き替えて、下山開始。萬岳荘まではだだっ広い雪原となり、色んな方向にスキーやスノーシューの足跡が何本も引かれていた。こんな場面でスノーシューが本領発揮する。萬岳荘 ログハウス調の木造小屋。

この日は写真を撮り忘れたため、これは先回1/28に訪れた時に撮影したもの。冬季は閉鎖しているがトイレは使用可能だった。帰りは踏み固められた林道を歩くため、再びチェーンスパイクに履き替える。足元が軽快になった。

へブンスそのはらに向けてひたすら林道を歩く。行きに登った千両山への分岐点。もう一度、見上げてみる。この後、南アルプス展望台よりリフト、ゴンドラを乗り継ぎ、帰路についた。

スノーシューを簡単に説明しますと、浮力により新雪のうえを沈まずに歩ける道具です。もちろん限界はありますが、膝丈くらいの積雪であれば普通に歩くような感覚で雪を踏みしめて歩けます。広い雪原をトレッキングするにはおすすめのアイテムだと思います。

踵にリフターがあると傾斜のついた登りは比較的楽に、底面にクランポンがあれば下りは滑らず歩けます。ワカンと比べると縦横にサイズが長く重量があります。幅の狭い雪道は苦手とするかも知れません。どんなルートを歩くか事前に確認して、アイゼンとのふたつ持ちが必要だと思います。

私はスノーシューを知り、特に傾斜のついた場所では身体への負担が軽減したのと、ツボ足にならずに歩けるから、雪山の自由度が広がり楽しさが増えたと感じます。

スキー場などでレンタル可能なので、雪山未経験の方でも手軽に始められるアイテムかと思います。以上、個人的な感想でした。

一記・日浦一

【銚子ヶ口】23.2.12(樋口)

【2023年2月4日】

【メンバー】L高橋、樋口

鈴鹿の深部の銚子ヶ口を会の高橋さんと歩いてきました。以前、無雪期に歩いたことはありました

が、雪の銚子ヶ口は初めて。無雪期も含め人が少なく秘境感のある鈴鹿の深部は好きなコースなので楽しみです。

先々週の寒波で登山口から雪はばっちりあり雪が少ないという心配はなさそうです。

歩き始めて感じたのが「やべえ！高橋さん早い(‘◇’)」ということでした。連日の夜更かしで疲れていたのか、ランニングの回数が日に日に減っているからか、加齢のせいかな、結論は全てという事で、後で納得しましたが、とにかくついていくので精一杯でした。時々「ラッセル、後で変わります！」と言いながら終日後ろにいました。ラッセルありがとうございました。

単独では不安や心配で絶対迷いそうな木の根を掴み腕力で進んだり

四苦八苦しましたが、銚子ヶ口に無事到着。山頂は無人で賑やかであろう鈴鹿セブンマウンテンを静かに堪能できました。



なかなか一人では訪れることが難しい鈴鹿の深部を楽しむことができました。今回形すら拝めなかった「イブネ・クラシ」。雪の季節に機会があればいつか……

—記・樋口—

【読図講習会①雨山ダム】23.2.12(木村)

【2023年2月12日】

【メンバー】講師:河合、上田、坂本、高橋、中川、中田、樋口、安井、小寺、木村

河合講師による読図講習会1回目が雨山ダムにて行われました。8時にぎよぎよランド駐車場に集合し、まずは駐車場でコンパスの使い方を教わります。

三角形、四角形を描けるようになり、雨山ダムへ移動。



現地に着いてスマホを使って現在位置の確認方法の説明、地図上でのコンパスの使い方の説明を受けます。

今日の講習会は雨山ダム周辺を1周する約8Km、35のポイントを回るコースです。先頭がリーダーとなり次のポイントへと交代で進んでいきます。先頭の順番を決めて、地図とコンパスを頼りにスタートです。

歩き出してからすぐに狩猟の方たちと出会い、河合講師がその方たちに確認すると後半のルートが狩猟の方たちが山に入る箇所と重なっている事が分かり、なるべくみんながまとまって移動するように指導を受けます。

NO3から5までは登山道は無く稜線へ向かって斜面を登ります。木の枝をかき分けて倒木をまたいでポイントへと進みます。いざ自分の順番がきて「次のポイントの特徴物は？」という河合講師の問いかけに、地形図が理解できてない「???」な私。

河合講師に「今日はコンパスの使い方をマスターして帰ろう」と言っただき、そこからはコンパスに集中。ポイントを過ぎてしまわないか恐る恐る進み、いざ特徴物を見つけると足取りが一気に軽くなりました。

途中稜線から外れて林道へ出てしまい、斜面を登って修正する箇所もありました。午前中はみっちりコンパスの使い方を教わり、お昼休憩後は朝よりも早くコンパスを使えてる事が実感できました。

講習会終盤。前回の講習会ではここからは1人ずつ地図とコンパスを頼りにゴールへ向かったのですが、今日は狩猟の方たちも山の中にいたのでみんなでまとまってゴールへ。

地図を読むのは難しく理解できないまま講習は終わってしまいましたが、今度山に行く時は実際コンパスを持って行って使ってみようと思います。

【追記】

参加された皆さんお疲れ様でした。読図講習会

いかがでしたでしょうか？今回のプログラムは、2019年に行ったプログラムと同じものでした。

尾根を歩くという基本的な内容で、ピーク、コルの確認をして歩き、コンパスを使えるようにするものでした。コンパスは、思ったよりも使い方は難しくないので、午前中の3時間もすれば、使えるようになります。午後からは使うスピードも格段に速くなりました。

今週も読図講習会を行います。多くの会員の方が地図に興味を持っていただければ幸いです。

—記・河合—

【感想：上田】

河合君の読図講習会に久々に参加させていただきました。これだけのフルコースの参加は初めてだと思います。

これまでの自分の山行(沢登りや30周年記念山行の時の南アルプス深南部の藪山山行など)ではコンパス123は使わずに地図を正置するためだけにコンパスを使っていました。オリエンテーリングの基本技術を登山に適用したのはすごいと思います。(村越先生提唱のやりかたでしょうか?)

今回は改めて次の目標地点を決めて「コンパスセット」し、その地点までの経路上の地形をイメージしながら歩くという方法はより確実だなと感じました。基本に立ち返って行くことで、視界不良や強風などの天候悪化や疲労時など条件の悪い時のミスを防げると思いました。(過去、結構痛い目に遭っています(#. #))

それから講習の進め方、さすがだなと思いました。最初1/3は基本技術をゆっくりと時間をかけて身につけてもらう。歩行中は解説を先回りせずに、行動してみて自分で気づいてもらう(間違いや見逃し含めて)。場合によってはナビゲーションツールを活用したり、ルート計画の変更(それが無理のない変更かの吟味は大切)など、柔軟な対応もいいなと思いました。

今回、コンパスの使い方の練習までで地形図と実際の地形との対照はこれからという方もおられたと思います。

地図読み楽しいという気持ちや、この際使えるようになるという気持ちがあれば、必ず身につけられると思います。今後の自分の山行や次回の読図講習会参加ではステップアップのトレーニングができますように！

—記・上田—

【八ヶ岳縦走】23.2.15(廣田)

【2023年2月15日】

【メンバー】廣田 他1名

新雪の南八ヶ岳の縦走。厳冬期の八ヶ岳を1日で3座縦走するタフな計画でしたが前日からの降雪からの快晴で素晴らしい景色となりました。

美濃戸口のJ&Nで前泊。ここは綺麗で御飯も美味しく温泉付(帰りの温泉も無料)。お気に入りの宿。素泊まり、信州割使えて実質2800円。帰りにGWの予約も入れてきました。

朝4時 出発時マイナス15度。アイゼン踏みしめる雪の音が心地良い。先が長いので一気に標高上げる。



稜線に出ると富士山出現。今日イチの感動景色二人で涙。阿弥陀岳山頂へ向かう。幸せロード。

阿弥陀岳登頂 2805m。広いピーク。阿弥陀岳からの赤岳。この角度の赤岳が好き。南陵ルートを降下します。

一番の難所、緊張。慣れないクライムダウンで降りる。阿弥陀岳を降下して次は中岳の登り返し。中岳PEAKで休憩。

バナナが凍っている・・・ザックの外ポケットに入れてはダメだ。

デカイカモシカが近くにいて最初クマかと思った(笑)。阿弥陀岳カッコいいなあ。さあ主峰赤岳へ。絶景だが登り返しがキツイ。こんな景色に疲れは感じない。権現岳・キレット分岐。八ヶ岳ブルーこんなに空って青いの



赤岳PEAK

赤岳頂上庁舎から横岳へ。気温マイナス20度。ダイヤモンドダスト。赤岳真上に太陽。幻想的で涙

出てきた。このあと寒さで一眼レフ・携帯の電源が落ちた…。素手になれないので撮影は諦め登山に集中。電源は赤岳鉱泉で予備バッテリーで回復。

赤岳山頂、気温マイナス 20 度、楽しいので寒くはないが流石に指先が痛い。横岳登頂後、硫黄岳は時間的に無理せず諦めて地蔵尾根まで戻り赤岳鉱泉経由で下山。

美濃戸口 J&N 到着 16:30 下山完了。温泉と早めの夕御飯。登山完了と同時に温泉・御飯が食べられるのは下山中のモチベーション上がります。

八ヶ岳、何回も行っているが今回最高の条件で登れたことに感謝。

—記・廣田—

【読図講習会②額堂山周回】23.2.18(二橋)

【2023 年 2 月 18 日(土)】

【メンバー】講師:河合、井澤、鈴木幸、中川、日浦、山口義、横山、廣田、比嘉、堀岡、他 1 名、二橋(計 12 名)

河合講師による、読図講習会。コロナ禍で 3 年振りの開催となりました。

当初予定していた 19 日(日)が雨予報のため 18 日(土)に変更となり、数名参加できませんでしたが計 12 名での講習になりました。

講習ルートはホテルで有名な岡崎市鳥川町にある「鳥川ホテルの里」「鳥川アルプス」と言われるご当地アルプスの一部で水晶山、額堂山をメインとした 10 キロ程の周回コースです。

鳥川町にあるホテルの学校に集合。まず駐車場でコンパスの使い方と実技の説明。ただしい方向へ進む練習、コンパスとテキストを使って三角形、四角形、五角形、六角形の通りに進み、元の位置にもどる練習をしました。みんな真剣ですがはたから見たら怪しい集団です。その後、少し移動して登山口へ。ここから読図実技開始

- ①地図上にある次の目的地の特徴を読み取る。
- ②現在地から目的地に向かいコンパスをセットして方向確認。
- ③進む
- ④①で読み取った目的地の特徴と合っているところで、止まる。
- ⑤登山アプリを使って現在地確認

いきなりのバリエーションルート並みの急登に息があがりましたが、つぎのポイントに無事到着。登山アプリをだして、緊張の答え合わせ。



そして、地図と実物の確認です。また次のポイントの特徴をよみとり、コンパスセット。これを地図上にある 37 ポイント、参加者全員で先頭を交代し繰り返しました。

道を間違えていると、コンパスのノースマークが進行方向の矢印からズレます。またチェックポイント。

生徒の真剣な眼差しに、熱量 MAX で丁寧に答えてくれます。地図愛が半端ないので、一つ質問すると 10 答えてくれます。

熱い。熱くなっております。ついに座り込みました。河合講師、終始このように熱量 MAX で講習頂き、最後は出発地点に戻って終了しました。笑あり笑ありの内容盛りだくさんの講習ありがとうございました。



3 年ぶりに読図講習に参加できて、コンパス+地図を読んで地形の特徴に気づく技術を高めることも大切だなと実感しました。頭の中で立体地図を想像しながら、実際の山の形や特徴物から現在自分がどのあたりにいるのか読み取る…難しいですが、できたらきっと楽しいだろうと思いました。

ホテルで有名な岡崎市鳥川にある「鳥川アルプス」、近くにあるのに初めて歩きました。登山道や案内板もとても整備されていて、起伏や地形にも富んでいる楽しいコースでした。今度は、ロングコースも歩いてみたいです。

#いつも頭に立体地図
#地図とコンパスの声に耳を傾ける
#昔の国土地理院地図は手書き
#尾根と尾根が出会うところは、もりあがる性質がある
#隠れピークはくびれをチェック
#等高線のトラップ。10m で区切られる為、その中でアップダウンがあることもある
#進行方向が変わる時は、都度コンパス
#読図講習会マネージャー募集に希望者殺到
#ハイマツの地図記号は鉄塔に似ている
#ブログジャンケン…11人もいるのになぜ負ける
—記・二橋—

【ナビゲーション講習・検定】23.2.25(河合)
【2023年2月25日～26日】
【メンバー】河合

猿投山周辺で日本オリエンテーリング協会のナビゲーション(ゴールド)の講習・検定が行われた。詳細は[こちら](#)。

私は、ナビゲーション・マイスターを昨年いただいたので、今回初の講習・検定を講師・検定員として行った。

参加者は、25日(土)20名、26日(日)18名。定員一杯で締め切られた。運営側の人数は、25日(土)7名、26日(日)5名。

講習の内容は、25日(土)は登山道だけでなく、道のないところもナビゲーションできるように地図と地形を確認したり、コンパスの使い方を確認した。

26日(日)はナビゲーション・ゴールドレベルの検定試験。ゴールドレベルの内容は、登山道がないところでも現在位置確認をしながら進むことができる能力を兼ね備えているかどうかを確認する。

私は、質問者(検定者)なので間違えわけにはいかず、ガチ真剣。初見で歩く現在位置のポイントも多数あるため、久しぶりに緊張した。

受講生の方は、みんな真剣に地図と向き合い、コンパスを多用して現在位置確認を行っていた。地図については今後のゲレンデ使用もあるためこの場では公開しない。



講習中の風景

初日の講習が終わり、一日の振り返り。1日目の講習をしている。講習中の山の中からの風景。

地図読みの楽しさは、国土地理院のおっちゃんが等高線を曲げているこの曲がりぐわいを現地で見ると読み解き、地図から聞こえる声を聴き、コンパスの指し示す方向を信じて進む。

この等高線の曲がりぐわいがあるようになるためめちゃ楽しい。

—記・河合—

【御在所岳】23.2.26(浅田)
【2023年2月26日】
【メンバー】上田、遠山、二橋、樋口、廣田、木村、浅田

当初前夜発で武奈ヶ岳へ行く予定出したが、天候が悪い情報があり急遽日帰りで御在所岳へ転進し、国見尾根を登り中道を下降のルートで行って来た。

6時半音羽に集合して一路青滝駐車場へ。前夜に降ったと思われる新雪が所々に積もっていた。身支度をして裏道登山口へ向かう。

一の渡し橋が新しくなっていた。30分程で藤内小屋へ着き小休止をしてチェンスパイクを付ける。藤内沢を渡り国見尾根へ取り付く。

積雪は日陰はあるが日向は解けて落ち葉を踏みながら進む。赤テープに導かれながら急登を進み稜線へ出る。予想をしていたが時々風速10mを超える風が吹く。

稜線を進むと左手に藤内壁(バットレス)前尾根が木立の間から見えてくる。奥又や中尾根付近に氷瀑が見える。遠見ではコンディションは良さそうである。

揺るぎ岩で小休止をするが寒い。国見峠が近くなると積雪が増えてくる。今回も国見岳はパスして御在所岳へ向かう。

途中の陽だまりでランチタイム。ガスったら迷い

そんなルートを裏道の分岐へ下り、ロープウェイの駅へ登って行く。

家族連れで賑合うスキー場の横の道路を山頂へ向かう。



山頂からは鈴鹿の山々が望まれたが空は黒い雲に覆われていた。

下りは中道を下る。途中鎖場があり木村さんは少し苦労していた。

相変わらず強風が吹く中、キレットを越えて地蔵岩、おぼれ岩を通り登山口へ降りた。

一記・浅田一

【小秀山】23.3.4(河合)

【2023年3月4日】

【メンバー】遠山、河合

遠山、河合、両名の企画だとなぜか参加人数が少なくなってしまう。サブタイトルを「御嶽山が見える！」と銘打ったが、会員の中からもダメ出しがあり、その方は「私だったら『餅つき山行、小秀山でつきたて餅いかが？もちろん杵と臼はボッカします』とラインがきた。

なるほど、と一念発起し、『小秀山の山頂でサウナはいかが？もちろんサウナ室はボッカします』と銘打って、山岳会のグループラインに流す。すると、「50人は集まります」と返信いただき、ウキウキで参加者を待っていたが、返信がない！おかしい？丁寧な「予定が入ってます」ラインがあるも……。参加者が増えず……。きっとあとの48人は現地集合に違いないと2人で愛知を出発することになった。今回の山行はこのくんだりからスタートするのであった。(よく考えると、豊川山岳会は50人もいなかった。)

3月3日(金)

河合宅9時集合で、乙女溪谷キャンプ場の駐車場へ12時到着。駐車場は誰もいない？あとの48名は明日の朝集合か？一酔して就寝。

3月4日(土)

【コースタイム】

乙女溪谷キャンプ場 6:30～和合の滝 6:50～夫婦滝 8:10～カモシカ渡り 9:05～兜岩 10:00～11:05 第三高原～小秀山 11:40～兜岩 12:50～山の神 14:30～乙女溪谷キャンプ場 15:05

5時30分起床。48名は朝現れず、きっと頂上でサプライズ！と心に決め、6時30分駐車場を出発。乙女溪谷キャンプ場 駐車場。

朝は、肌寒いが天候もよいので気分が上がる。乙女淵、遊歩道の整備が行き届いている。ところどころに残雪が残っているが、問題なし。和合の滝。

夫婦滝の少し手前から雪が出てきたので、アイゼンを装着。夫婦滝。しっかり凍っているが、上部の水の落ち口は水しぶきが上がっていた。

夫婦滝からの登りはとても急で、アイゼンを利かせて登っていく。凍てつく氷。孫滝周辺。登りで、熱くなり、半そででも十分。サウナ室いらないじゃん。カモシカ渡へ。カモシカ渡り。三ノ谷分岐を過ぎ、1910mピーク(兜岩？)手前から御嶽山が初めて見えた。

1910mピーク(兜岩？)から小秀山までは途中、雪を踏み抜くこともあったので、ワカンを持って行った方がよかったと反省。足を取られながら進む。眺望の良いところでポーズ。

スカイライン中央やや左に小屋が見える。まだ、まだ遠い。



小秀山(1,981m)山頂でポーズ。

どーん！と御嶽山が見える。素晴らしい眺望。360度視界が見える。

御嶽山の左側に笠ヶ岳が見えた。ここからの形はまさに「笠」そのものに見える。

色々な山の名前が書かれた看板。結構、見えるんだと感心。看板と御嶽山。中央アルプスを望む。

下りの上部は雪が多く足を取られながら進む

雪のある季節は、カモシカ渡りを登りで使用し、三ノ谷登山口(山の神)に下山するコースが一般

的だろう。夫婦滝まで下る場合、道が氷っているので足元が心配になり時間もかかるためお勧めしない。

久しぶりに小秀山に来た。前は小屋で一泊したが今回は日帰り。思い出に残る山行となった。

—記・河合—

【三峰川岳沢アイスクライミング】23.3.4(山形)

【2023年3月4～6日】

【メンバー】山形、他1名

年末の12/28-12/30で敗退した三峰川岳沢のアルパインアイスに再チャレンジしてきました。その際は丸山谷の出合を見落として林道を延々と歩き続け足が棒になってしまうという大失態を犯しました。

予備日を使って突っ込んで良かったのですが敗退の判断となりました…。自分も久しくアルパインやってなかったので山感が鈍っており凡ミスを反省。

雪が安定しかつ行動時間も長く取れる3月を狙って再チャレンジを計画していました。パートナーと休みがあったので3/4-3/6で行きました。

金晩発で初日は林道ゲートからまずは営林署を目指す。ここまでは前回の到達地点なので楽に進む。問題はここからだが幸いテープやトラロープなどがちょこちょこあり迷うことなく進むことが出来た。氷瀑が出たところは左側の斜面を上がりここから急傾斜となる。特に岳沢越えから三峰川に降りる際にテープが豊富にあり助かった。

林道を歩く。年末の敗退地点の営林署。テープを頼りつつ進む。岳沢越えは倒木が多くて歩きづらい

三峰川に降りてからようやく遠くに目指すべき山が見える。三峰川沿いは雪の吹き溜まりが多く歩きづらかった。平日を絡めたためルート上には我々だけで他のトレースは期待出来ない。頑張って歩くしかない。岳沢との出合いはめっちゃくちゃ快適な幕営適地で水も取りたい放題なのだがまだ時間があったので行けるところまで伸ばすこととする。

三峰川沿い。天気もよく歩いていて気持ちが良い。春山は最高だ！やがてF1前衛の滝に到着する。ここらへんはまだ標高が低く足元に水が流れる音が聞こえる。注意しながら進む。前衛の滝は大きく釜が開いておりピンチとなるが何とか石をつたい通り過ぎる。

パートナーは片足ポチャンして靴を乾かすことに専念する夜となった。最近かなり暖かかったこともありF1の氷結が甘くロープを出して越えた。時期的にはラストチャンスだったかもしれない。良い

タイミングで来れた。初日はF1上で幕営とする。

翌日は4時過ぎに起きて暗いうちに出発した。明るいうちにF3に到着。右端の簡単なラインが繋がっていたのでそこから登ることとする。

荷物を背負ったまましんどいアイスクライミングとなる。まして山形は最近まともにアイスをやっていたのでふくらはぎパンパンでした。腕のパンプはフリーの強化で何とか耐えたがむしろふくらはぎが痛かったです。

F8を越えてへろへろになりながら大仙丈ヶ岳まで。天気が悪化していたので仙丈小屋まで頑張りました。こんなへろへろは久しぶりです。山に入っていないとダメですね。日々のトレーニングにランニングを付け加えることを誓います！！

F6フリーで。F8ソーマン流しの滝1ピッチ目。

F9を越えたあたりから天気が悪化。



やっと着いた大仙丈ヶ岳！

仙丈小屋では快適な宴会タイムとなりました。山で食べるカレー飯が美味すぎて2人で発狂！お湯で作れるのでジフィーズ持って行くくらいなら絶対こっちだ。後軽量化のためにモンベルのアルファ米の容器をコッヘルがわりに使える。自分で色々経験しながら軽量化装備を考えるのは楽しい。

何でもそうですが計画、戦略を練る段階がワクワクして楽しいですね。お酒は今回98度のウォッカを500ml持っていきましたが2人で2泊3日には十分な量でした。スクリュは12本持って行ったがまあまあ適正な量だったかと思う。

荷揚げを考慮して60mダブルの2本で行ったが結局荷揚げの場面は無かった。最近寒がりなので冬シュアで行きましたが今回の気候だと3シーズンでも良かったかなあと思いました。

やっぱり冬山アルパインの充実感は帰ってから残像がありますね。またビッグルートに行きたいと思いました。仙丈小屋と甲斐駒。

—記・山形—

【2022年度 豊川山岳会総会】23.3.12(河合)

【2023年3月12日】

【メンバー】浅田、上田、河合、白井、古賀、高橋、山形、小野、中村、梅田、鈴木幸、吉中、小寺、木村、澤田石、安井、樋口、坂本、二橋、中田、比嘉、山口義、廣田、西村、堀岡、武野

2022年度の豊川山岳会総会が16時から行われ、26名の参加者があった。

10年間代表を務められた浅田さんが顧問になられ、上田さんが代表、私が副代表という新しい体制で次年度から臨むことになった。浅田さん長きにわたり代表ありがとうございました。

前浅田代表のあいさつの中で、『困難は克服し、危険は回避する』この言葉を肝に銘じて運営していかないといけないと改めて感じた。

また、昔、顧問の彦坂さんが言っていた言葉で『豊川山岳会からは、けが人はそりゃ出たけど、一人の死者も出していない。』と言っていた言葉を強く感じ、会員全員が常に色々な場面を想定し、安全登山を心がけていきたい。

—記・河合—



記念撮影(撮影:二橋)

【御在所岳前尾根】23.3.25(中田)

【2023年3月25日】

【メンバー】武野、樋口、比嘉、中田

シーズン最後のアイスクライミングで南沢大滝へ行く予定でしたが天気が悪く中止に…

「御在所ならまだ天気が良さそう」ということで前尾根に計画を変更して行ってきました。

朝起きるとしっかり雨が降っていて「絶対登れんわ」と思いながら裏道登山口へ。時間の経過とともに、雨の勢いは弱くなり取り付きにつく頃には上がりました。

樋口さん、中田は初めての前尾根&マルチピッチなので、クライミングの先輩方からレクチャーを

受けスタート!



1ピッチ目 P7 リード 武野さん 雨で濡れているため、慎重に確実に登ります。



1ピッチ目を越える。まだまだクライミングが続く! 楽しい! 2ピッチ目 リード 武野さん。

出だしのフェイスへの立ち込みが難しいが全員クリア。ここから展望が開けて高度感が出てきます。

3ピッチ目 P6 リード 比嘉さん。クラックルートが濡れているためリッジルートから取り付き、途中からトラバースしチムニーへ。チムニーは濡れておらず快適でした。みんな大好きチムニー! 楽しそうにズリズリ登ります。

4ピッチ目 P4 リード 比嘉さん。小雨がパラパラ降ったり止んだりの天気。簡単ですが岩が濡れているためスメアが怖くジャムを効かせながら登ります。

5ピッチ目 P3 リード 中田。マルチ初リード! 右側がハンドサイズ、左側がワイドサイズのクラック

どちらかを選ぶことに…ワイドを選択。下部は3番のカムが決まりましたが、真ん中から上は5～6番？サイズに、カムが無いのでそのまま登ってしまおう。落ちたらグランドフォールだったなーと反省…

P3のトップまで登るが終了点が見つからず、カムで終了点を作ることに。

5ピッチ目途中のハンガーボルトから巻道があることに気づき、セカンドにビレイ交代。

ヤグラに挑戦したかったのですが、雨が降り出しそうなので今回は見送り下山しました。

一部濡れていましたが、他のパーティーのいない前尾根をのびのびと楽しむことができました。また、次への課題も見つかり充実した良い山行となりました。リードをしていただいた先輩方！ありがとうございました！

私たちと同じように会の先輩方も前尾根を経験してきたそうです。多くのクライマーを育てた前尾根。先輩方のように私もここから高みを目指していきたいと思いました。

－記・中田－

2022 年度山行一覧

PH ピークハント FC フリークライミング
RC ロッククライミング BS バックカントリースキー

3月14日	RC	立岩	白井、浅田、梅田、樋口
3月16日	PH	蓼科山	梅田
3月17日	PH	開聞岳	夏目
3月20日	縦走	奥三河・岩古谷～大鈴山	河合、遠山
3月20日	トレラン	八ヶ岳・本沢温泉	梅田
3月20日	RC	立岩	浅田、塩川、樋口、他
3月20～21日	FC	城山・チューブロックエリア	山形、他
3月21日	PH	本宮山	小寺
3月27日	PH	県民の森	梅田
4月2日	PH	前黒法師山	梅田
4月9日	トレラン	富幕山	梅田
4月10日	FC	鳳来・治山水エリア	山形、他
4月10日	PH	明神山(三瀬コース)	河野、他
4月10日	PH	明神山(北西尾根～南西尾根)	河合、浅田、白井、遠山、二橋、日浦、他
4月16日	FC	立岩クライミング	浅田、二橋
4月17日	PH	北ア・霞沢岳西尾根	白井、夏目
4月22日	FC	鳳来・治山水エリア	山形、他
4月30日	PH	本宮山	鈴木
5月2～4日	RC	丸山東壁「緑ルート」	中村、他
5月3～5日	縦走	毛勝三山	白井、河合、遠山、古賀、他
5月4日	FC	立須の岩場	浅田、塩川
5月4日	PH	本宮山	上田
5月4日	PH	本宮山	鈴木
5月7日	PH	本宮山	上田
5月7日	PH	奥三河・湯谷富士	白井、他

5月7日	FC	立須の岩場	浅田、塩川、樋口
5月8日	縦走	田原アルプス	浅田、西村
5月14日	沢登り	愛知県民の森・下石の滝	山形、他
5月15日	縦走	湯谷富士	浅田、遠山、井澤、小寺、横山、山口
5月15日	PH	本宮山	鈴木
5月21日	PH	伯耆大山	上田、鷲見、鈴木、梅田、日浦
5月28日	PH	草津白根山	上田
5月28日	FC	鳳来・パラダイスエリア	山形、他
5月28日	PH	瑞牆山	浅田、坂本、二橋、小寺、山口(岳)
5月29日	PH	皇海山	上田
5月29日	沢登り	笛吹川・東沢・東ノ滑沢	山形、他
5月29日	PH	深南部・蕎麦粒山	白井、梅田
5月30日	PH	那須岳	上田
6月4～5日	FC	小川山クライミング	山形、他
6月4日	PH	空木岳	河合、遠山、二橋、夏目
6月4日	FC	立岩クライミング	浅田、白井、樋口、山口(岳)
6月18日	PH	愛知県民の森	浅田、西村、小寺、山口(岳)
6月19～20日	沢登り	大峰 川迫川水系 弥山川	山形、他1
6月19日	PH	湯谷富士	遠山、河合、二橋、樋、
6月19日	PH	本宮山	小寺
6月22日	ハイク	湖西連峰	遠山、二橋、小寺
7月1～3日	PH	甲斐駒ヶ岳	河合、鈴木、小寺、梅田、日浦、横山、山口(義)、山口(岳)
7月2日	PH	北ア・蝶ヶ岳	夏目、他1
7月3日	沢登り	奥三河・清水谷左俣右	白井、浅田、高橋、遠山、二橋
7月2～3日	縦走	尾瀬・燧ヶ岳～至仏山	樋口
7月3日	PH	本宮山	上田
7月9～10日	PH	南ア・塩見岳	浅田、西村
7月9～10日	PH	白山	河合、遠山、二橋
7月9日	PH	富士山	中村、小野
7月9日	PH	甲斐駒ヶ岳(黒戸尾根)	夏目
7月9日	PH	本宮山	小寺
7月9日	PH	本宮山	鈴木
7月13日	PH	伊那前岳	鈴木
7月17日	PH	本宮山	山口(親子)
7月16日	沢登り	鈴鹿・石谷川	白井、中村、安井
7月18日	PH	本宮山	上田
7月18日	PH	本宮山	小寺、他
7月22日	PH	本宮山	山口(義)
7月23日	PH	空木岳	夏目、他
7月23～25日	縦走	南ア・荒川三山	樋口
7月24日	沢登り	福土川	山形、他
7月24日	PH	富士見台高原	浅田、小寺、梅田、他
7月30～31日	縦走	立山三山	浅田、遠山、二橋
7月30～31日	PH	笠ヶ岳	夏目、西村、小寺、梅田
7月30～1日	沢登り	深南部・栗代川遡行	山形、他
8月6～7日	ハイク	北ア・涸沢	山口、他
8月7日	PH	本宮山	小寺
8月10～13日	沢登り	北海道・クワウンナイ川	山形、他
8月11～13日	沢登り	北ア・湯俣川～鷲羽岳	白井、河合、中村
8月14日	PH	御在所岳	上田、澤田石、他

8月15日	ハイク	北海道・茶屋川の滝	山形、他
8月19日	PH	御嶽山	山口、横山、中村
8月20日	トレラン	富士山	古賀、梅田、他
8月20日	PH	四阿山	河合夫妻
8月26日	FC	鈴鹿・藤内壁	山形、他
8月27日	ハイク	葦毛湿原	山口(義)
8月28日	沢登り	奥三河・鍵掛沢	白井、河合、安井
8月28日	PH	蛇峠山	浅田、小寺、澤田石
9月4日	PH	本宮山	小寺
9月10日	PH	本宮山	上田、他
9月11日	PH	御在所岳(ヴィアフェラータ)	遠山、二橋、樋口、白井、安井
9月11日	FC	立岩クライミング	中川、坂本
9月11日	PH	恵那山	浅田、河合、日浦、澤田石
9月11日	トレラン	北ア・燕岳	梅田
9月14日	PH	本宮山	小寺、澤田石
9月17～18日	FC	小川山クライミング	小野、他
9月17～18日	PH	八ヶ岳・赤岳	上田、他
9月17日	沢登り	岩倉川樽ヶ沢～岩倉川下降	白井、安井
9月17日	FC	立岩クライミング	中川
9月17日	PH	御嶽山	河合、古賀、浅田、西村、山口、小寺、日浦、澤田石、谷崎
9月21日	PH	本宮山	澤田石
9月24日	PH	四国・剣山	夏目、他
9月25日	FC	鈴鹿・鬼ヶ牙	遠山、二橋、樋口
9月25日	沢登り	鈴鹿・滝洞谷	山形、他
9月25日	PH	奥三河・明神山	浅田、小寺、澤田石、木村
9月30～2日	RC	北岳バットレス「四尾根」	中川、他
9月30～2日	PH	塩見岳	浅田、梅田、日浦、樋口
10月1～3日	PH	秋田・青森山行「八幡平・森吉山・八甲田山」	上田、他
10月1日	FC	鳳来・パラダイスエリア	山形、他
10月2日	沢登り	北設楽・タコウズ川	白井、夏目、中田、他
10月7日	FC	三ヶ峠クライミング	白井、浅田、山形、遠山、樋口、中田
10月8～9日	トレラン	伊豆・松崎～修善寺	中川
10月8日	PH	本宮山	日浦、小寺
10月13日	PH	伊吹山	澤田石
10月14日	PH	宇連山	小寺、澤田石、木村
10月18日	FC	名張クライミング	小野
10月20日	PH	筑波山	河合
10月22日	PH	高尾山	浅田、他
10月22日	PH	鈴鹿・御在所岳	日浦、他
10月22日	PH	北ア・蝶ヶ岳	夏目、他
10月22日	PH	本宮山	鈴木
10月23日	PH	鈴鹿・竜ヶ岳	木村、他

10月23日	FC	名張クライミング	小野、白井、坂本、中田
10月23日	PH	本宮山	小寺
10月23日	PH	本宮山	鈴木
10月27日	PH	本宮山	澤田石
10月28日	FC	名張クライミング	小野
10月29日	FC	瑞浪クライミング	小野、中田
10月30日	沢登り	熊野川 清水谷(遡行)・蛇輪の谷(下降)	山形、他
10月30日	イベント 山行	キノコ鍋山行・棚山	浅田、山本、上田、白井、小野、西村、井澤、河野、鈴木、坂本、遠山、古賀、小寺、吉本、横山、木村廣田、安井、中田
10月31日	PH	本宮山	澤田石
10月3日	PH	恵那山(広河原ルート)	河合、鈴木、澤田石、
10月4～5日	FC	名張クライミング	小野
10月5日	PH	本宮山	山口(義)
11月5～6日	PH	恵那山(前宮ルート)	白井、安井
11月5日	PH	深南部・天狗石山	遠山、西村、河野、梅田、小寺、樋口
11月6日	PH	鈴鹿・入道ヶ岳	木村、他
11月12日	PH	鈴鹿・入道ヶ岳	上田、他
11月12日	PH	鳳来寺山(奥の院直登コース)	遠山、二橋
11月15日	FC	名張クライミング	小野
11月17日	PH	鳳来寺山	山口、他1
11月18日	PH	鈴鹿・竜ヶ岳	澤田石
11月19日	PH	寸又峡・沢口山	遠山上田、小寺、二橋、山口(岳)
11月19日	RC	立岩クライミング	白井、樋口、中田
11月21日	FC	明星山「フリースピリッツ」	中村、他1
11月21日	FC	名張クライミング	小野
11月25日	PH	田原アルプス	山口、他1
11月25日	PH	本宮山	澤田石
11月26日	FC	瑞浪クライミング	小野、二橋、中田
11月27日	PH	鈴鹿・御池岳	木村、澤田石
11月27日	PH	鈴鹿・雨乞岳	浅田、吉中、鈴木、日浦、樋口
11月27日	FC	鳳来・治山水エリア	山形、他1
12月3日	イベント	山岳会 60周年記念・門谷小学校	山本、浅田、梅沢、上田、河合、白井、西村、井澤、吉中、梅田、河野、鈴木(幸)、小寺、坂本、中村、古賀、二橋、日浦、樋口、山口(義)、澤田石、比嘉、鷺見、森ファミリー(3名)、M夫妻(2名)、牧原、谷崎、菊池、鈴木恵、遠山
12月4日	PH	鳳来寺山・小富士山～奥の院	遠山、浅田、河合、白井、小寺、山口(義)、澤田石、木村
12月4日	FC	瑞浪クライミング	二橋、他
12月8日	PH	本宮山	澤田石
12月10～11日	FC	城山クライミング	山形、他

12月10日	RC	立岩クライミング	白井、中田、比嘉
12月11日	トレラン	伊豆トレイルジャーニー	中川
12月11日	PH	静岡県・竜ヶ岳	浅田、遠山、二橋、小寺、日浦、廣田、山口(岳)、河野、他1
12月12日	FC	名張クライミング・第一岩壁	小野、中田、比嘉
12月12日	PH	岡崎市・音羽富士	小寺、澤田石
12月17日	PH	本宮山	上田
12月18日	PH	田原市・雨乞山・物見山	山口(義)、他3
12月18日	訓練	雪上訓練・千畳敷カール周辺	浅田、河合、白井、遠山、夏目、樋口、澤田石、中田、比嘉、他1
12月19日	FC	名張クライミング	小野
12月21日	FC	名張クライミング	小野
12月24日	PH	本宮山	浅田、上田、坂本、山口(岳)、木村
12月25日	FC	瑞浪クライミング	小野、中田、二橋
12月29～31日	アイス	北ア・中千丈沢の善五郎の滝	白井、中田
12月29～30日	PH	中ア・越百山	河合、遠山、樋口、他
12月29～30日	アイス	南ア・岳沢	山形、他
1月4日	FC	立岩クライミング	浅田、二橋、樋口
1月1～4日	縦走	東海自然歩道・田貫湖～安部川	中田
1月7～8日	PH	八ヶ岳・硫黄岳	浅田、二橋、山口、牧
1月7日	アイス	八ヶ岳・醤油樽の滝	白井、中田、武野
1月7日	PH	長者峰	高橋、他
1月18日	FC	瑞浪クライミング	小野、比嘉
1月20日	PH	八ヶ岳・硫黄岳	比嘉
1月21日	アイス	八ヶ岳・アイスギャラリー	夏目、中田、比嘉
1月22日	アイス	八ヶ岳・醤油樽の滝	中田、比嘉
1月21日	PH	伊吹山	河合、高橋、古賀、二橋、吉中、坂本、樋口、遠山
1月21日	PH	本宮山	小寺
1月22日	PH	藤原岳	浅田、横山、日浦、木村
1月22日	PH	金山～雨生山	河野
1月24日	PH	本宮山	上田
1月24日	PH	本宮山	澤田石
1月24日	PH	五井山	鈴木
1月28日	アイス	御在所・2ルンゼ	白井、山形、中田、比嘉
1月28日	PH	鈴鹿・竜ヶ岳	木村、他
1月28日	PH	富士見台高原	日浦、他
1月29日	PH	八ヶ岳・北横岳	浅田、樋口、横山、山口(岳)
1月29日	FC	瑞浪クライミング	小野
1月29日	PH	鈴鹿・入道ヶ岳	高橋、他
1月29日	沢登り	鈴鹿・蛇谷	比嘉、他
2月3日	PH	鈴鹿・銚子ヶ口	高橋、樋口
2月4日	ハイク	八ヶ岳・白駒池	中田
2月4日	PH	鈴鹿・御在所岳	日浦、他
2月4日	PH	山梨県・竜ヶ岳	夏目、他
2月4日	PH	南沢山	浅田、横山、山口(岳)、二橋
2月4～5日	FC	城ヶ崎海岸・フナムシロックエリア	小野、他
2月5日	RC	立岩クライミング	浅田、中田、比嘉、堀岡
2月8日	PH	本宮山	澤田石
2月8日	PH	三影山弘法大師	梅田
2月9日	PH	福井県・銀杏峰～部子山	澤田石、他

2月11日	PH	伊吹山	木村、他
2月11日	PH	富士見台高原	日浦、他
2月11日	PH	大川入山	浅田、廣田、二橋
2月12日	講習	読図講習会	河合、小寺、中田、坂本、木村、日浦、上田、安井、樋口、高橋、中川
2月12日	ハイク	京都トレイル東山コース	廣田、他
2月12日	FC	瑞浪クライミング	小野
2月15日	ハイク	いもう湿原	澤田石
2月18日	FC	立岩クライミング	浅田、樋口、中田
2月23日	FC	瑞浪クライミング	山形、中田
2月23日	PH	五井山	廣田、他
2月25日	PH	富幕山	山口(義)
2月25日	FC	瑞浪クライミング	小野
2月25日	講習会	岳連雪山講習会	中田、比嘉
2月26日	PH	鈴鹿・御在所岳	上田、木村、遠山、浅田、樋口、廣田、二橋
2月26日	PH	本宮山	小寺
2月26日	ホルダー	中津川市・星が見公園	小野
2月27日	PH	鈴鹿・雨乞山	河野、他
3月4～6日	アイス	南ア・岳沢	山形、他
3月4日	PH	鈴鹿・御在所岳	日浦、他
3月4日	FC	瑞浪クライミング	小野
3月5日	RC	南山クライミング	比嘉、他
3月5日	PH	八ヶ岳・天狗岳	木村、他
3月6日	PH	小秀山	河合、遠山
3月4～6日	RC	三峰川アイスクライミング	山形、他1
3月25日	RC	御在所岳前尾根	武野、樋口、比嘉、中田

役員一覧

役職名	2021年度	2022年度
代 表	浅田 俊夫	浅田 俊夫
副 代 表	梅沢 守	梅沢 守
相 談 役	山本進介、彦坂侃白	山本進介、彦坂侃白
チーフリーダー	白井 良岳	白井 良岳
岳連理事	河合 芳尚	河合 芳尚
リ ー ダ ー	河合 芳尚	河合 芳尚
リ ー ダ ー	高橋 博幸	高橋 博幸
リ ー ダ ー	古賀 康男	古賀 康男
事 務 局	上田 歳彦	上田 歳彦
会 計	遠山 泰広	遠山 泰広
市スポーツ協会理事	浅田 俊夫	浅田 俊夫
市スポーツ協会評議員	古賀 康男	古賀 康男
東三遭対協役員	上田 歳彦	上田 歳彦
会報編集委員	河合 芳尚	河合 芳尚
(事務局補佐:ホームページ、 広報担当)	河合 芳尚	河合 芳尚

【編集後記】

令和5年4月21日、彦坂顧問の葬儀が行われた。私が18歳で豊川山岳会に入会し、豊川市民登山教室の彦坂さんはいつも明るく、市民の方にも会員にも気を使われる方だった。「河合～！もの言うには

10年早い！」と言われたが、入会以来38年が過ぎようとしている。

50周年の記念アルバムを作っていたときに、彦坂さんと山本さんの20代の写真を見て、「やんちゃそうな顔をしとるなあ・・・。」とか「昔の山行は、なんかあくせくしてなくて情緒あるなあ・・・。」とか思ったことが浮かんできました。また、50周年記念アルバムを何とか仕上げたときには、彦坂さんから「河合～！ご苦労だったな！」と言われ、苦労も吹っ飛び、暖かい気持ちになったことを今でも思い出します。

また、まったくお酒が飲めないのに、酔っぱらっているのではないかと思うくらいに明るく楽しい雰囲気のある方でした。この豊川山岳会の風土は彦坂さんと山本さんのおかげだと思っています。

2023年度から副代表となり、今までなかった責任も感じています。彦坂さんから「うちの会は、けが人は出したことがあるが、死人はだしたことはない！」と言われた言葉が重く受け止めるようになりました。

まだまだ、新年会等でご一緒したかった彦坂さん。ご冥福をお祈りいたします。

会社名： 有限会社 伊藤印刷

所在地： 〒440-0004 愛知県豊橋市忠興3丁目3番7

TEL 0532-63-6385

FAX 0532-39-3985

ホームページ <http://www.ito-insatsu.co.jp>